

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

No.8
2022.4-2024.3

静岡大学
防災総合センター
第 8 号 年報

2024年9月

静岡大学防災総合センター年報

第 8 号

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

No.8
2022.4 - 2024.3

2024 年 9 月

静岡大学防災総合センター

巻 頭 言

本「年報」第8号は、2022(令和4)年4月から2024(令和6)年3月の2年間における防災総合センターの教育研究活動の成果等についてまとめたものです。

主な内容は、当センターに所属する本学教員及び客員教員の教育活動、研究成果・業績及び社会的活動等のほか、自治体と連携したプロジェクト事業や防災関連行事などとなっております。

さて、2020(令和2)年度初めから新型コロナウイルスのパンデミックにより、教育研究活動にも制約が伴いましたが、2023(令和5)年5月に感染法上の位置づけが5類に移行され、様々な活動制限が緩和されました。自然災害被災地等への学術調査や、研究者交流も以前のように行われるようになり、2023(令和5)年8月には、数年ぶりに当センター主催のシンポジウムを開催し、多くの市民の方にご来場いただきました。

一方、この2年間も国内外で多くの自然災害に見舞われました。国内では、特に石川県能登半島で、近年、群発地震や大地震も頻発(2022年6月、2023年5月、2024年1月)し、令和6年元日の地震では、甚大な被害が生じました。また、全国各地で記録的な大雨が観測され、県内では、2022年9月23日～24日に台風15号の影響により、県西部・中部を中心に豪雨に見舞われ、河川の越水など、大きな被害が出ました。

当センター教員は、県内の洪水被災地をはじめ、能登半島地震や2021年7月に発生した熱海土砂災害の被災地に赴いて学術的調査を行い、収集したデータ解析の結果等は、学会誌や静岡大学地球科学研究報告(JST運営の電子ジャーナル公開システムJ-Stageで公開)に論文掲載するなど、研究成果の公表に努めております。

また、「防災気象情報に関する検討会(気象庁・国交省)」など、国や自治体の委員会等に参画しているほか、報道番組への出演や新聞への寄稿などにより、数々の提言を行っております。さらに、防災人材育成を目的として静岡県と連携して行っている、防災フェロー・防災マイスターの教育プログラムや行政職員防災講座は、国や自治体等の防災対策・体制の強化に役立てることとなり、社会的インパクトの創出につながるものと言えます。

最後に、令和5年度末に定年退職され、現在当センター客員教授の小山真人教授(火山学)が、令和5年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)、防災功労者内閣総理大臣表彰、日本火山学会賞を受賞されました。このうち、防災功労者内閣総理大臣表彰は、当センターとしては岩田孝仁特任教授(令和2年度受賞;日本災害情報学会会長)に次ぐ2人目の受賞で、誠に喜ばしく思います。客員教員の片田敏孝先生(平24)、廣井 悠先生(令5)、土屋 智先生(令4)も同賞を受賞されております。

当センターは、専任・副担当教員合わせて約30名の本学教員と、50名を超える客員教員を擁し、防災教育・防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することを目的としております。

本年報をご一読いただき、今後の当センターの教育研究活動について、忌憚のないご意見・ご提案をお寄せいただくとともに、さらなるご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及び構成員	3
1.2.1 組織	3
1.2.2 構成員	3
2 研究成果	8
2.1 個人研究成果	8
2.2 研究業績リスト	63
2.2.1 著書	63
2.2.2 学術論文	66
2.2.3 学会口頭発表	87
2.2.4 その他の著作物	122
2.2.5 受賞	132
2.2.6 特許等	134
3 学内教育活動	135
3.1 新入生セミナー	135
3.2 全学教育科目「地震防災」	136
3.3 全学教育科目「地域社会と災害」	137
3.4 全学教育科目「地球科学」	138
3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」	139
3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」	140
3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」	141
3.8 全学教育科目「災害のリスクマネジメント」(静岡キャンパス)	142
3.9 全学教育科目「災害のリスクマネジメント」(浜松キャンパス)	142
3.10 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」	143
3.11 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」	144
3.12 静岡大学防災マイスター称号制度	145
4 プロジェクト・関連行事	149
4.1 ふじのくに防災フェロー養成事業	149

4.1.1	事業の概要	149
4.1.2	シンポジウム	154
4.1.3	受講生の活動報告	156
4.1.4	受講生の研究成果・社会的活動	166
(1)	著書	166
(2)	学術論文	166
(3)	学会口頭発表	166
(4)	その他の著作物	167
(5)	受賞	168
(6)	特許等	168
(7)	外部・公開講演会等	168
(8)	マスメディア・新聞等への掲載	169
(9)	公的な委員会等	171
(10)	学会活動	171
4.2	静岡県行政職員防災講座	172
4.2.1	静岡県行政職員防災講座	172
4.2.2	フォローアップ研修	174
4.3	自然災害科学中部地区研究集会	176
4.4	しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座	177
4.5	しずおか防災コンソーシアム・勉強会	179
4.6	防災総合センター主催・共催シンポジウム	180
4.6.1	令和4年9月24日台風被害に関するシンポジウム	180
4.6.2	小山真人教授退職記念シンポジウム	181
4.6.3	他頁で報告した主催行事の再掲	181
4.7	防災総合センター研究会	182
4.8	東海圏減災研究コンソーシアム	183
4.9	防災・減災ワークショップ	184
5	社会的活動	185
5.1	外部・公開講演会等	185
5.2	マスメディア・新聞等への掲載	210
5.3	公的な委員会等	239
5.4	学会活動	246

1. センターの概要

1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして 2008 年 7 月に設置され、学内共同教育研究施設のひとつとして位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980 年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004 年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1 年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008 年度から 4 年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008 年 11 月に 1 名、2009 年に 1 名の計 2 名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んでいる。2010 年には文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、静岡県と協働し「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開講した。2011 年 4 月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。2015 年 4 月からは、浜松地区における防災教育の拡充および東海圏国立大学の防災関係センター等の連携強化を目的として、総合科学技術研究科工学専攻が主担当の特任教員 1 名を採用した。また同月からは地域創造学環を主担当で当センターの専任となる教員 1 名を採用している。

その後、浜松キャンパス勤務の特任教員は、2022 年 4 月に工学領域の専任教員として採用され、本センター副担当教員となり、引き続き同キャンパスの防災マイスター担当教員を務めるなど、運営に参画している。また、地域創造学環を主担当とした専任教員は、定年退職に伴い、2021 年 4 月から本センター特任教授として採用され、本センターの運営に関わるとともに、全学教育科目等の授業を担当している。

近年、新任教員の採用はないが、学内併任教員については退任・異動に伴う交替とともに、随時拡充を図っており、基本的に学内の全ての学部にも併任教員が所在している。また、客員教員についても随時充実を図っている。

他方、本センターの運営経費については、セグメント予算のほか、2010 年の文科省補助金採択以降、次の文科省予算に継承される形で配分されている。このほか、静岡県から連携事業に係る経費が受託事業収入として措置されている。

2008（平 20）年度～2011（平 23）年度：特別教育研究経費

2010（平 22）年度～2014（平 26）年度：科学技術戦略推進費（振興調整費）

2015（平 27）年度：教育研究推進特別経費

2016（平 28）年度～2021（令 3）年度：機能強化経費

2022（令 4）年度～：ミッション実現加速化経費

加えて、本センターは静岡県と連携して、「ふじのくに防災フェロー養成講座」や「行政職員防災講座」を実施しており、それぞれ協定書を締結していたが、これらを包括する形で、2022（令 4）に新たに「静岡県と静岡大学との連携講座事業に関する協定書」を締結し、事業計画の立案など、一体的な運営が図られることとなった。

1.2 組織及び構成員

1.2.1 組織

防災総合センターは、静岡大学学内共同教育研究施設である。

当センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、防災総合センター運営委員会が置かれ、センター構成員や各学部等から選出された委員、計15名で構成されている。

また、当センターは、未来社会デザイン機構*の構成組織でもある。

日常的な業務は、当センター事務室で行うが、委員会に係る業務等、運営に係る事務は、学務部地域連携推進課が担当課となっている。

＊未来社会デザイン機構：

未来社会デザイン機構は、静岡大学における持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、地域に住む人々のウェルビーイング及び持続可能な社会構築並びに分野横断的な教育研究の発展を、新たな社会的価値の創造及び未来社会のデザインに基づき、大学の有する学術的資産の集約的投資及び産官学民の共創により実現することを目的としている。

機構は、企画推進本部並びに防災総合センター、地域創造教育センター及びサステナビリティセンターにより構成されている。

1.2.2 構成員

2024（令和6）年7月現在の当センター構成員は次のとおりである。

なお、本年報の対象としている2022（令和4）～2023（令和5）年度に在籍していたが、現在は在籍されていない者については、各区分の後段に記載している。

※（ ）は、所属／研究分野、＊は再掲

■センター長

北村晃寿（理学領域教授・副担当教員／津波・土石流堆積物、古地震の研究）

■副センター長

・教育部門長

村越 真（教育学領域教授・副担当教員／統計法、リスク認知、防災教育）

・研究部門長

牛山素行（融合・グローバル領域教授・専任教員／自然災害科学、災害情報学、豪雨災害）

・地域連携部門長

今泉文寿（農学領域教授・副担当教員／砂防工学）

・浜松キャンパス担当

前田恭伸（工学領域教授・副担当教員／リスクアナリシス）

〔2022.4～2024.3に副センター長であったが、現在は任命されていない教員〕

小山真人（教育学領域教授、副センター長（地域連携部門長））〈～2024.3, 2024.4～客員教員〉

■専任教員

* 牛山素行（融合・グローバル領域教授、副センター長（研究部門長））〈再掲〉

原田賢治（融合・グローバル領域准教授／津波工学、津波防災、海岸工学、水工学）

■特任教員

岩田孝仁（前防災総合センター長／防災学、地方行政学（防災））

■副担当教員（学内他組織を主担当とし、当センターを副担当として運営に協力している教員）

川瀬憲子（人文社会科学領域教授／地域研究）

小林朋子（教育学領域教授／学校心理学、被災者の心のケア）

* 村越 真（教育学領域教授、副センター長（教育部門長））〈再掲〉

藤井基貴（教育学領域准教授／教育哲学、道德教育）

佐治 斉（情報学領域教授／画像処理、交通情報解析）

秋元菜摘（情報学領域准教授／地理学）

木谷友哉（情報学領域准教授／ITS（高度交通システム、衛星測位応用） 〈2024. 4〜〉

望月美希（情報学領域講師／社会科学） 〈2022. 7〜〉

* 北村晃寿（理学領域教授、センター長）〈再掲〉

木村浩之（理学領域教授／地球微生物学、分散型インフラ生産システム開発）

生田領野（理学領域准教授／測地学、地震学）

石橋秀巳（理学領域准教授／火山岩石学、実験マグマ学）

田阪美樹（理学領域准教授／岩石鉱物物理、実験岩石学）

三井雄太（理学領域准教授／地震学、測地学）

矢永誠人（理学領域准教授／核化学、放射化学、放射線安全管理学）〈2024. 6〜〉

* 前田恭伸（工学領域教授、副センター長（浜松キャンパス担当））〈再掲〉

橋本 岳（工学領域教授／画像計測工学、災害予兆検知）

二川雅登（工学領域教授／電子デバイス、電子機器）

小杉素子（工学領域准教授／社会心理学）〈〜2022. 3 特任准教授で副担当，2022. 7〜〉

* 今泉文寿（農学領域教授、副センター長（地域連携部門長））〈再掲〉

小林研治（農学領域准教授／木質科学、建築構造・材料）

山本裕之（融合・グローバル領域教授、保健センター医師／内分泌・代謝学、応用健康科学）

森 俊明（融合・グローバル領域教授、保健センター医師／内科系臨床医学）〈2024. 4〜〉

池田恵子（グローバル共創科学領域教授／社会地理学）

石川宏之（グローバル共創科学領域准教授／都市計画・建築計画）

満下健太（グローバル共創科学領域助教／リスク認知、リスク学）〈2024. 4〜〉

〔2022. 4〜2024. 3 に副担当教員であったが、現在は発令されていない教員〕

古橋裕子（融合・グローバル領域教授、保健センター医師／精神科医）〈〜2022. 8〉

水谷洋一（人文社会科学領域教授／財政・公共政策）〈〜2023. 3〉

* 小山真人（教育学領域教授／火山学、地質学、地震・火山防災他）〈〜2024. 3，2024. 4〜客員教員〉〈再掲〉

■客員教員（他大学や研究機関等に所属し、当センターの運営に協力いただいている教員）

▼客員教授

- 池原 研（産業技術総合研究所地質情報研究部門主席研究員／堆積学、海洋地質学）
〈2024. 4～〉
- 石井輝秋（元東京大学海洋研究所助教授／海洋底地質、火山学）
- 石川有三（元産業技術総合研究所活断層・地震調査研究センター招聘研究員／固体地球内部物理学、地震学）
- 石田瑞穂（元防災科学技術研究所研究主幹／地震学）
- 伊藤 潔（元京都大学防災研究所教授／地震学、固体地球物理学）
- 伊藤谷生（元千葉大学教授、地震予知総合研究振興会・副首席主任研究員／構造地質学、変動地形学、地震探査学）
- 岩崎一孝（静岡大学名誉教授（元情報学部教授）／気候学、自然地理学、地理情報システム）
- 鶴川元雄（日本大学文理学部上席研究員、元防災科学技術研究所火山防災研究部門長／火山学、地球物理学、地震学）
- 大谷栄治（東北大学大学院理学研究科客員研究者・名誉教授／高圧地球科学、鉱物物理学）
- 笠原順三（東京大学名誉教授（元地震研究所教授）、元静岡大学理学部教授／地震学、地震探査、地球物理学、物理探査学他）
- 風間 聡（東北大学大学院工学研究科教授／水文学、河川工学、水資源学）
- 片田敏孝（東京大学大学院情報学環特任教授／災害社会工学）
- 狩野謙一（静岡大学名誉教授（元理学部教授）／地質学、地質図学、地質調査法）
- 唐戸俊一郎（米国イエール大学教授／地球科学、地球内部構造）
- 吉川肇子（慶應義塾大学商学部教授／組織心理学、社会心理学）
- 木村圭司（奈良大学文学部教授／気候学、地理学）
- 小林 淳（静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授／火山地質学）
- 小山真人（静岡大学名誉教授（元教育学部教授）、静岡大学非常勤講師／火山学、地質学、地震・火山防災他）〈～2024. 3 副センター長（教育部門長）、2024. 4～〉
- 近藤昭彦（元千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授／地理学、水文学、環境学）
- 佐藤興平（気象大学校非常勤講師／固体地球科学）
- 佐藤 健（東北大学災害科学国際研究所教授／建築構造工学、地震工学、自然災害科学、安全教育学）
- 佐藤比呂志（東京大学名誉教授（元地震研究所教授）／地質学）
- 鈴木清史（元日本赤十字九州国際看護大学教授、元静岡大人文社会科学部教授／文化人類学）
- 鈴木 款（元静岡大学創造科学技術大学院特任教授、三菱商事株式会社サンゴ礁保全プロジェクトリーダー／生物地球化学、環境科学）〈2024. 6～〉
- 関谷直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授／社会心理学）
- 高木朗充（気象庁気象研究所火山研究部長／火山学）〈2024. 4～〉

武村雅之（名古屋大学減災連携研究センター特任教授／地震学）
 千木良雅弘（（公財）深田地質研究所理事長、元京都大学防災研究所教授／地すべり）
 土屋 智（静岡大学名誉教授（元農学部教授）、国土防災技術（株）顧問／山地水文学、土砂移動学）
 中川和之（（株）時事通信社客員解説委員／災害報道、市民防災、災害救援）
 楠城一嘉（静岡県立大学グローバル地域センター特任教授／地球科学、地震学、リスク共生学）
 秦 康範（日本大学危機管理学部教授、～2024.3 山梨大学准教授／災害軽減工学）
 林 拙郎（三重大学名誉教授（元生物資源研究科教授）／ライフサイエンス、森林科学、砂防学）
 林 能成（関西大学社会安全学部教授／地震学、地震防災）
 廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科教授／都市防災、都市工学）
 藤井直之（名古屋大学名誉教授（元理学研究科教授）、元静岡大理学部教授／固体地球惑星物理学、火山物理学）
 藤岡換太郎（元海洋開発研究機構上席研究員／地質学）
 増澤武弘（静岡大学名誉教授（元理学部教授）／植物生態学、植生学、環境科学）
 増田俊明（静岡大学名誉教授（元理学部教授）／構造岩石学、地球進化学）
 三ヶ田均（京都大学名誉教授（元工学研究科教授）／応用地球物理学）〈2023.4～〉
 森下祐一（元静岡大学理学部教授／岩石・鉱物・鉱床学）
 山崎 登（国士舘大学名誉教授（元防災・救急救助総合研究所教授）、元NHK解説委員／災害情報学）
 山田和芳（早稲田大学人間科学学術院教授／湖沼堆積学）
 矢守克也（京都大学防災研究所副所長、巨大災害研究センター教授／社会心理学、社会基盤（土木・建築・防災）、防災工学）
 吉田明夫（元神奈川温泉地学研究所所長／地球科学）
 吉野篤人（浜松医科大学医学部教授／救急医学、災害医療）
 渡辺俊樹（名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター教授／物理探査学、地震学）

▼客員准教授

井ノ口宗成（富山大学都市デザイン学部准教授／社会・安全システム科学）
 菅原大助（東北大学災害科学国際研究所准教授／地質学、堆積学、津波工学）
 中西利典（ふじのくに地球環境史ミュージアム教授／地質学）
 紅谷昇平（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授／自治体・企業の危機管理）
 本間基寛（（一財）日本気象協会社会防災事業部長／災害情報学）

〔2022.4～2024.3に客員教員であったが、現在は発令されていない教員〕

栗田 敬（東京大学名誉教授（元地震研究所教授）／個体地球物理学）〈～2023.3 客員教授〉
 松井 務（元浜松医科大学医学部地域医療学講座客員准教授／地域医療学）〈～2023.3 客員准教授〉

■プロジェクト客員研究員・プロジェクト教育研究支援員

2022（令和4）年度に静岡大学プロジェクト研究所「未来の社会インフラデザイン研究所（研究代表者：原田賢治准教授）」が設置され、静岡県庁はじめ県内の大学や企業の方々10名に、プロジェクト客員研究員等として参画いただいている。※所属・氏名等は割愛
〔設置期間：2022（令和4）年4月～2025（令和7）年3月〕

■教育研究支援員

元当センター学術研究員やふじのくに防災フェロー養成講座修了生12名を教育研究支援員として受入れ、同養成講座受講生へのアドバイス、受入れ教員の研究・教育・社会活動へのサポートを依頼している。所属は気象庁、自治体、大学、民間企業等。

※所属・氏名等は割愛

■事務職員

西山卓男（再雇用職員）

池ヶ谷英代（パート事務職員）

五条寿久（派遣職員）

〔2022.4～2024.3に事務職員であったが、現在は所属していない者〕

市野知美（派遣職員）〈2023.1～2024.3〉

注：所属機関については、他の機関にも在籍されている場合がある。

専門分野については、主要分野を優先して記載。

2 研究成果

2.1 個人研究成果

防災総合センターには 2024 年 4 月時点で 2 名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を 2 名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、副担当教員、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2024 年 7 月現在で、特任教員、副担当教員、客員教員の総数は 79 名を数え、学内の全領域に少なくとも 1 名の副担当教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2 節を参照されたい。

教員名：北村晃寿

所 属：防災総合センター長・副担当・学術院理学領域教授

2022~2023 年度

熱海土砂災害

2021 年 7 月 3 日に、静岡県熱海市逢初川源頭部にあった盛土が崩壊して発生した土石流は、死者 28 人、全・半壊家屋 64 棟の被害を出した。この災害を踏まえて、2022 年 5 月 27 日に公布され、2023 年 5 月 26 日から施行された通称「盛土規制法」の第四条には、「(略)、宅地造成、特定盛土等又は土石の堆積に伴う崖崩れ又は土砂の流出のおそれがある土地に関する地形、地質の状況その他主務省令で定める事項に関する調査を行うものとする。」とある。しかし、地形・地質の状況を評価する具体的基準は示されていない。伊豆周辺では、2021 年 7 月 1 日から大雨となっていたが、土砂災害は伊豆山地区の土石流だけである。これは、災害危険性としては、逢初川源頭部の盛土が最大であったことを示す。よって、その崩壊の原因究明で得られる知見は、既存の盛土の災害危険性の評価基準の策定と「盛土規制法」の実効性の確保に必須の情報を提供する。そこで、私は共同研究者とともに、静岡県と熱海市の協力の下で、源頭部において地球科学的調査を行い、次の知見を得た。

(1) 盛土には褐色土砂と黒色土砂があり、前者は熱海周辺の岩体に由来すると考えられ、後者は現世と中期完新世の沿岸性貝類(北村, 2022)、古生代末期—中生代の放散虫化石を含むチャート岩片(北村ほか, 2022b)、鮮新世末期—前期更新世の海成層由来の軟質泥岩礫(北村ほか, 2022a)を産す。これらは、供給源の一部が、沿岸堆積物、中部完新統の海成層、鮮新統最上部—下部更新統の海成層で、また後背地にはチャート層が分布することを示す。

(2) 放射性セシウム濃度から、盛土と土石流堆積物は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs が検出限界未満の試料(タイプ I)、 ^{137}Cs は検出されるが ^{134}Cs は検出限界未満の試料(タイプ II)、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を含む試料(タイプ III)に区分できる(北村ほか, 2023)。各タイプの土砂の採取場所における堆積時期は、タイプ I は 1950 年代以前の可能性が高く、タイプ II は 1950 年代から 2011 年 3 月初旬まで、タイプ III は 2011 年 3 月中旬以降となる。土石流堆積物のほぼすべてがタイプ II なので、崩壊した黒色盛土層の大部分はタイプ II の土砂となる(北村ほか, 2023)。

(3) 盛土最下端の基底部の露頭の岩体・堆積物の調査により黒色盛土層の基底部には成層構造が存在することが確認された(千木良ほか, 2022; 北村ほか, 2022c)。

(4) 盛土最下端から約 350 m 下流の砂防堰堤において、静岡県が 2021 年 8 月に掘削したボーリングコア試料を調査した結果、初期の土石流の運んだ堆積物の主体は黒色盛土層を構成する土砂だったことが分かった(北村ほか, 2022d)。

(5) 静岡県が未崩落の盛土の 5 地点で掘削したボーリングコアを調査した結果、黒色盛土には、淘汰の良い砂からなる厚さ 4–19 cm の層を 4 層確認した(北村・山下, 2023)。これらの砂層に斜面地中水が集中し、部分的にパイプなどの大間隙が形成された可能性がある。実際に、静岡県が報告した 2019 年の盛土末端部の小崩落は、大間隙の証拠であり、高透水

性を有する砂層の存在が盛土崩壊の発生の原因の一つになった可能性がある。したがって、小崩落の有無は既存の盛土の安全性の評価指標になる(北村, 2023)。

文献 千木良・北村ほか, 2022, 静大地研報, 49, 45-59; 北村, 2022, 第四紀研究, 61, 109-117; 北村, 2023, 環境と測定技術, 50, 33-42; 北村ほか, 2022a, 第四紀研究, 61, 143-155; 北村ほか, 2022b, 静大地研報, 49, 73-86; 北村ほか, 2022c, 静大地研報, 49, 61-72; 北村ほか, 2022d, 静大地研報, 49, 87-95; 北村ほか, 2023, 静大地研報, 50, 39-63; 北村・山下, 2023, 静大地研報, 50, 1-6.

YouTube 動画

北村, 2023, <https://www.youtube.com/watch?v=n109fUvVpfg>

北村, 2022, https://www.youtube.com/watch?v=KXTEln_2cxY

北村, 2022, <https://www.youtube.com/watch?v=A0AYnx5mlFY>

北村, 2022, <https://www.youtube.com/watch?v=64kSHysIKL4>

台風 15 号による巴川流域での大規模洪水

2020 年台風 15 号により 9 月 24 日に静岡市巴川流域で大規模な洪水が発生した。巴川流域で緊急調査を行い、以下の知見を得た。

(1) 86 地点で浸水深を測定した(北村, 2022)。これらのデータを、牛山・北村(2023)と金井ほか(2023)に提供した。また、静岡県からデータの提出の要請があり、提出した。

(2) 巴川は、1974 年 7 月の七夕豪雨では、床上・床下浸水 26,156 棟、浸水面積 2,584ha の被害を出した。静岡県静岡土木事務所に、紙媒体で、保管されていた七夕豪雨の洪水痕跡の表示板の位置と浸水深のデータを電子化した(北村・三井, 2023)。

(3) 1974 年 7 月洪水と 2022 年 9 月洪水との自然的条件を比較し、1974 年 7 月洪水と 2022 年 9 月洪水までの 50 年間で、温暖化に伴う海面上昇とフィリピン海プレート沈み込みに伴う地盤沈下の重複によって、清水低地の沿岸は海面に対して 34.1cm 沈下していたことが判明した。また、潮位に関しては、1974 年 7 月洪水では、降雨時が引き潮時であったのに対して、2022 年 9 月洪水では降雨時と満ち潮が重なったことが分かった(北村・三井, 2023)。

(4) 1974 年 7 月洪水と 2022 年 9 月洪水の浸水深の比較から、長崎新田から巴町にかけては、後者のほうが 64-82 cm 低い。一方、鳥坂と大内地区に関しては、浸水深の差が 7-20 cm しかなかったことが判明した(北村・三井, 2023)。

文献 金井ほか, 2023, 河川技術論文集, 29, 581-586; 北村・三井, 2023, 静大地研報, 50, 143-153; 北村, 2023, 静大地研報, 50, 7-37; 牛山・北村, 2023, 自然災害科学, 42, 1, 1-25. https://www.jsnds.org/ssk/ssk_42_1.html.

YouTube 動画

北村, 2022, <https://www.youtube.com/watch?v=DM3QKgeqHAg>

北村, 2023, https://www.youtube.com/watch?v=NkF36ut_oZQ

教員名：村越 真

所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域教授

ハードな防災の限界が、東日本大震災以来指摘されています。学校教育の中でも臨機応変に行動でき、安全文化の構築に寄与できる次世代の育成が期待されていますが、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。こうした力の育成は、「主体的で対話的な深い学び」を目指す新学習指導要領の方向性とも合致しています。防災教育を付加的な教育内容とみなすのではなく、主体的で（自らの命に関わる）、対話的な（リスクに対する異なる考え方があり得る）場面を通しての深い学び（本質的な理解に基づく実践場面に応用が利く学び）が可能な領域例として積極的に活用する姿勢が必要です。そのためには、個人がどのようにリスクを捉え、対応しているかという基礎研究も欠かせません。

上記の問題意識の元に、認知心理学的をベースとして、実践に活用できる科学的な根拠を持った「主体的で対話的な深い学び」を可能にする安全教育やリスクマネジメントの授業や教材開発を行い、防災マイスターの授業である「災害のリスクマネジメント」や「学校におけるリスク管理」といった授業を通して社会への浸透を図っています。

他方、自然体験活動や登山の中でのリスク認知およびそこでのリスクマネジメントの研究も継続しています。社会全体がリスクに対してセンシティブになっている一方で、個人が遭遇するリスクに対するマネジメントの方法は十分に確立されているとは言えません。しかし、自然災害の激甚化やそれにもとない自分の命を守る行動の重要性が指摘されたり、本来安全であった空間が倫理観の低下等によってリスクが高まっていることが感じられる現代、個人のリスクマネジメント方略の基礎研究は、日常生活においても人々が安全に生活することに貢献します。高所クライマーおよび南極観測の安全管理隊員を対象とした質的研究（村越・中村・河合、2014；村越・満下、2020）で、リスクと業績達成のジレンマのある活動におけるリスクマネジメントの方略を明らかにしました。また、三相因子分析という特殊な因子分析手法により、自然の中にリスクに関する認知次元として「急襲性」「遍在性」があることを明らかにしました（満下・村越、2019）。第 59 次南極観測隊に同行（平成 29 年）後、南極観測隊員を対象とした研究を、2020～2021 年度にかけて、科学研究費補助金（基盤 B）および国立極地研究所の萌芽研究観測として継続しました。

同様にリスクと活動意義のジレンマのある領域として幼稚園での遊び活動があります。新規なリスクを持った遊具を教員および園児がどのように捉え、活動を適応させていくのかを研究しており（科学研究費補助金挑戦的萌芽）、その成果の一部は大学の公開講座として一般にも還元しています。

教員名：牛山素行

所 属：副センター長・専任教授（学術院融合・グローバル領域）

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

●風水害等による人的被害の研究

風水害などによる犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。一般的なイメージと実態が異なっていることを明らかにしつつあります。

【主な成果】

牛山素行,風水害時の避難に伴う犠牲者について,自然災害科学,41/3,189-202,2022/11

牛山素行・北村晃寿,2022 年 9 月 23 日～24 日の静岡県における豪雨災害の特徴,自然災害科学,42/1,5-29,2023/05

牛山素行,2023 年台風 2 号と梅雨前線による大雨に伴う人的被害発生場所の特徴,日本自然災害学会第 42 回学術講演会講演概要集,2023/09/18

牛山素行・杉村晃一・横幕早季,令和 6 年能登半島地震における人的被害(速報),日本災害情報学会第 28 回学会大会,2024/03/17

●災害情報の利活用・被害との関係に関する基礎的調査

災害情報と実際の被害の関係、災害情報の防災面への活用手法などに関する基礎的調査を進めています。

【主な成果】

本間基寛・牛山素行,令和 3 年 8 月の大雨での降水量と犠牲者発生の関係性の検証,自然災害科学,41/特別号,1-18,2022/09

牛山素行・佐藤史弥・秦康範,水害リスク情報に対する情報利用者の認識,東北地域災害科学研究,60/131-136,2024/03

桑原暢子・牛山素行,熊本県における大雨警報等と被害の関係,日本災害情報学会第 27 回研究発表大会予稿集,2023/10

●防災実務者の人材育成への取り組み

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹として、静岡県危機管理部と連携し、同講座の運営に当たっているほか、静岡県の行政職員防災研修の企画運営も行っています。また、内閣府防災研修コーディネーターとして同府による「防災スペシャリスト養成研修」の推進、気象庁「気象防災専門家育成」カリキュラム構築、気象庁「地方公共団体防災担当職員向け気象防災ワークショッププログラム開発」などの人材育成に取り組んでいます。

教員名：今泉文寿

所 属：副センター長・副担当・学術院農学領域教授、山岳流域研究院長

山岳流域における土石流の発生・発達過程の解明を行っている。世界で初となる、自然河川を流下する土石流の三次元モデルの計測に成功した。また、ドローンやビデオカメラなど様々な機器を用いた土石流観測を行っている。イラン、スイス、フランスなどの海外の研究者とも連携をすることで、気候、地質が異なる環境での土石流発生特性の違いに関する研究をすすめている。

森林が山地の土砂移動に及ぼす影響についての研究もすすめている。森林の伐採が斜面崩壊や土石流の発生に及ぼす影響の評価や、防災機能を高めるための森林管理手法の検討、人工林の高齢化が土砂移動に及ぼす影響の解明に関する研究を行っている。

教員名：前田恭伸

所 属：副センター長・副担当・学術院工学領域教授

主にリスクアナリシス、特にリスク対応への ICT の活用について研究を進めています。最近の成果としては、以下のようなものがあります。

一つ目は、企業、市町村の防災対応に関する研究です。これは防災フェロー養成講座の神崎沙緒莉氏、鈴木和生氏、金瀬栄義氏、渡邊善明氏らとの共同研究です。以下の 4 つのトピックについて研究を行いました。

- 治体における防災人員の配置と課題
- 企業防災における安否確認訓練の有効性の考察
- 中小企業の事業継続力強化計画の認定状況についての研究
- 津波防災に係る市町村の職員の安全対策に関する研究

これらの成果は 2022 年度と 2023 年度自然災害科学中部地区研究集会、それに 2022 年度の第 35 回リスク学会年次大会で発表しました。

二つ目は、環境マネジメントのためのボランティア活動へのコロナ禍の影響に関する研究です。地域の環境保全活動にはボランティアの参加が欠かせません。しかし、2020 年以降コロナ禍のためボランティアを集めること自体が難しい状況となりました。そこで、コロナ禍が市民活動・ボランティア活動に与えた影響について全国調査を行いました。その結果、多くの NGO・NPO の活動がコロナ禍によって大きな打撃を受けたこと、一方で多くの団体がオンライン会議等 ICT を駆使することによってこの状況に対応したこと、ただその対応は一様ではなくうまく対策できたところとそうでないところに分かれた、などの事が明らかになりました。それら結果を論文にまとめ、リスク学研究誌に発表しました。

三つ目は、プラスチックごみリサイクルに関するリスクの分析です。プラスチックごみによる海洋汚染は、世界的な問題になっていますが、一方でプラスチックは、強靱、軽量で、かつ耐久性のあるすぐれた素材です。そこで、容器としてのプラスチック製品に関する LCA（ライフサイクルアセスメント）研究を行いました。その結果、プラスチックは他の代替案（紙、布、ガラス、アルミ等）に比べて環境負荷が少ない素材であることが示された。この成果は Risk Analysis 誌に発表しました。

教員名：原田賢治

所 属：専任准教授（学術院融合・グローバル領域）

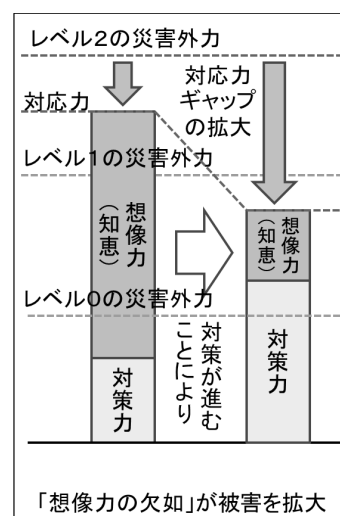
津波数値シミュレーション，現地調査，水理模型実験，社会実験等により，津波による災害現象の理解，防災対策効果の評価手法の検討，防災対策の社会実装手法の検討等について総合的に研究を進めています．沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めていくための計画作りに関する検討も継続的に行っています．

所属：防災総合センター特任教授

研究分野としては、これまで深くかかわってきた防災行政や地域防災に関して、減災に甘えてしまう世の中の風潮を改め、災害犠牲者をゼロにすることを目標に「減災から防災社会の構築」をテーマに研究や教育・啓発を続けています。災害に備えるため一人一人の想像力をいかに引き上げることができるか、さらに関係する組織としての想像力をいかに高めることができるかが大きな課題と考えています。

私たちの暮らしを取り巻く自然環境は、日本が近代化のため進めてきた産業の拡大、人口の増大に符合して大きく変化してきました。昭和の時代だけでも、都市近郊の土地利用の状況は大きく変わってきました。河川・海岸堤防の整備や下水道・排水設備の整備などにより、従来は住まなかった（住めなかった）軟弱な低地にも都市インフラの整備に伴い、宅地や産業施設が進出するようになりました。こうした市街地の拡大などの急速な環境変化によって、私たち自身が、その土地本来が持つ固有の災害脆弱性を認識し難くしてしまっています。

このことが災害など日常と異なった環境に遭遇した時に、どのような事態が進みつつあるのかなどを考える力、すなわち「想像力」を欠如させる大きな要因でもあります。専門家の想像力が働かないのは論外として、市民レベルでも災害や事故に対して身の回りでどのようなことが起きようとしているのかを考える力がどんどん低下してきていることを危惧しています。こうした環境の中、想定していた外力を超えた力が襲うと対応の余力の無さから一気に過酷な被害につながってしまう可能性があります。どのようにして克服するかが私の研究活動の大きなテーマです。



教員名：川瀬憲子

所 属：副担当・学術院人文社会科学領域教授・山岳流域研究院教授

国と地方の財政関係について研究しています。拙著『市町村合併と自治体財政―住民自治の視点から』（自治体研究社、2001年）、同『「分権改革」と地方財政―住民自治と福祉社会の展望』（自治体研究社、2011年）、同『アメリカの補助金と州・地方財政―ジョンソン政権からオバマ政権へ』（勁草書房、2012年）の単著書に加えて、2022年に、同『集権型システムと自治体財政―「分権改革」から「地方創生」へ』（自治体研究社、2022年）を上梓させていただきました。そのなかで、東日本大震災復興の検証や熱海土石流災害と市財政に関する章をそれぞれ設けて、詳しく執筆しています。

東日本大震災に関しては、平成の大合併時に広域的な合併を経験した宮城県石巻市の事例検証を主に担当しました。南海トラフ巨大地震が想定されるなかで、三陸海岸沿岸自治体の現状と課題を提示することは重要であると思われたためです。特に、広域的な合併を経験した自治体では、域内の復興格差が拡大し、防災力空洞化への対応が課題となっています。しかも「人間の復興」（大震災によって破壊された生存機会の復興）という観点からみると、課題が山積していることも明らかになりました。2021年11月に宮城県と岩手県の調査を実施しましたが、宮城県には石巻市、岩手県には陸前高田市に、立派な津波伝承施設が建てられ、被災を経験した方々が語り部となって後世に伝える役割をされています。一方、熱海市は平成大合併期に合併せず、単独自治体として存続しました。熱海市は有名な温泉観光都市であり、被災者にはいち早くホテルに滞在できるような措置を講じるなど、「熱海モデル」とでもいうべき対応が行われました。2021年7月3日に発生した熱海市土石流災害は人災的要素の強いともいわれており、盛り土などに関する一層の規制強化と被災者のくらしの復興が望まれます。

2023年には、共編著『入門 地方財政―地域から考える自治と共同社会』（自治体研究社）を出版しました。公共サービスと地方経費（第2章）、国と地方の財政関係（第4章）、まちづくりと地方財政（第11章）、地方自治をめぐる動向と地方財政、（第21章）、地方財政改革（第22章）の執筆を担当しました。

その他「コロナ禍における交付金事業と自治体財政―静岡県熱海市の事例検証」『経済研究』静岡大学、「鉄道高架事業による巨大開発と自治体財政―静岡県沼津市の事例検証」『経済研究』静岡大学、「集約型国土再編とコンパクトシティ政策を問う―静岡県内自治体の事例を中心に」『現代総有』第5号、「地域コモンズと環境保全による内発的発展―クラフトビールと維持可能なまちづくりに焦点を当てて」『経済研究』静岡大学、「世界文化遺産『富士山』と景観・環境保全型まちづくりの課題」『住宅会議』120号等の論文も発表しています。

教員名：木村浩之

所 属：副担当・学術院理学領域教授

静岡県中西部、山梨県南部、宮崎県東部、沖縄本島の付加体（四万十帯）の深部帯水層から湧出する地下水（非火山性温泉）および付随ガス（温泉メタン）を採取し、微生物生態学及び地球化学を融合させた研究手法を用いて、四万十帯の深部帯水層に生息する微生物群集の生態学的研究および四万十帯の深部帯水層でのメタン生成メカニズムを明らかにする研究を進めた。また、地元自治体、発電機メーカー、設計設備会社、ガス会社と連携して、四万十帯の深部帯水層に由来する温泉メタンを活用した温泉メタンガス発電施設及び温泉メタン都市ガス化施設を社会実装した。そして、地産地消エネルギーの生産、温室効果ガス排出削減、温暖化防止、災害時ライフライン自家供給施設の構築、広域防災拠点の創出、持続可能な社会の実現を目的としたプロジェクトを推進した。また、四万十帯の深部帯水層に由来する温泉水とそこに含まれる微生物群集を活用したメタン生成バイオリアクターおよび水素ガス生成バイオリアクターの開発も進めた。

その他、静岡県環境審議会、静岡市環境審議会、島田市環境審議会、牧之原市環境審議会、静岡市水素エネルギー利活用促進委員会、掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会、西伊豆町再エネ導入戦略策定委員会にて委員を務めた。

教員名：橋本 岳

所 属：副担当・学術院工学領域教授

私は画像計測を防災へ応用するという工学的アプローチに関する研究を行っています。これまでに「屋外遠距離において高精度な計測が可能」というユニークな計測技術を開発しており、具体的には計測距離約 100m にて誤差 10mm 以下という計測を実現しました。この高精度という特長を生かして様々な実用的な研究を進めています。さらに近年は、画像計測に関連した最新の機械学習を活用しています。

研究の一例として、土砂災害の予兆検知を目的とした法面の微小動きの計測に取り組んできました。また、動画像を使った橋梁のたわみ計測から橋梁の健全性評価の汎用化を目指した研究も行っています（下図）。さらに、コンクリートのひび割れ検出についても共同研究を行い、静岡県の新技術新工法として登録されました。



橋梁のたわみ計測の例

教員名：二川雅登

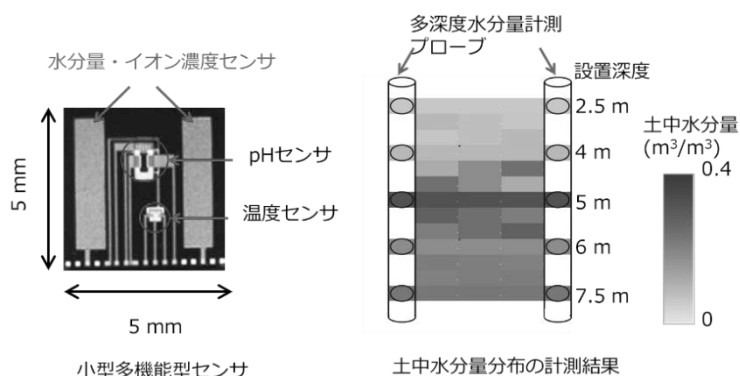
所 属：副担当・学術院工学領域教授

世界各地で発生している豪雨などによる土砂崩れ（斜面崩壊）は、家屋だけでなく人の命も危険にさらし大きな被害をもたらします。一般的に崩壊が予想される危険斜面へは変位センサや転倒センサなどが使われており、崩壊直前の避難に役立っています。しかし、崩壊の兆しが見える前に現在の危険度を知ることができれば、道路の封鎖や余裕を持った避難が可能となります。そのため、斜面崩壊の予知ができる技術の確立が強く望まれています。

雨などにより土に含まれる水分量が増加し、土の摩擦力が低下するとともに水を含む土の重量が増加することにより、斜面崩壊が発生します。そのため、土中の水分量を直接計測し斜面崩壊の予知ができれば、防災・減災へとつながっていくと考えられます。

これまで、半導体集積回路技術を活用した小型土中水分量センサ（下左の図）を研究しており、降雨による土砂災害を事前に予知できるシステムの開発を目指しています。これまでの研究成果で、土中水分量センサのトモグラフィー計測を可能にし、土中 2 次元水分量分布の計測をおこないました（下中央の図）。市販センサでは点での水分量計測しかできなかったものが、検出不可領域の無い広範囲の土中水分量分布の観察ができるようになっています。また、ソーラーパネルによる独立した電源確保と無線によるデータ送信を可能としており、電源の取れない山奥や幹線道路沿線など様々な設置場所に用いることができる点も大きな特徴と言えます。

2023 年度では、高イオン濃度下でも精度よく土中水分量を計測できるよう、これまでより 2 桁高い周波数で計測できる計測回路の設計に着手し、プロトタイプ機の製作に成功しました。今後、現場計測に適用できるようにリモート計測システムを構築していく予定です。



教員名：池田恵子

所 属：副担当・学術院グローバル共創科学領域教授

ジェンダー・多様性と災害

地域防災の体制に女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要だという考えは、防災基本計画や地域防災計画にも反映され、徐々に浸透していますが、具体的な施策と地域の自主防災活動における実践はまだこれからです。とりわけ、女性の参画は、災害時避難行動要支援者、避難生活要配慮者の支援と強く関係しています。自主防災活動、防災訓練や防災知識の普及、避難所運営などの実践に、男女共同参画・多様性配慮の視点が組み込まれるよう、調査や研修を行っています。

1) ジェンダー・多様性に配慮した地域防災体制の基礎自治体への導入過程の研究

- ① 2020 年度から開始した「ジェンダー・多様性の視点による防災・災害対応政策：自治体への導入過程の研究」を継続しました。佐賀県を対象に実施した、人口規模別（3 区分）に政策導入が進んでいる自治体とそうではない自治体への聞き取り調査から、特に小規模な自治体が同施策を導入しようとする際の課題を検討しました。
- ② 静岡県において 2021 年に実施した「静岡県における『災害発生に備える女性』の意識・実態調査」の結果を用いて、2022 年 5 月にシンポジウム「このままでいいの？地域防災の未来」を静岡県と共催して実施しました。女性や若手が参加しやすい自主防災組織のあり方を検討し、県に提言を行いました。2023 年には、提言内容に沿う形で自主防災組織への女性の参画が進んでいるかについて、6 市町へフォローアップ調査を実施しました。

2) 大規模災害からの復興の地域的最適解に関する研究

「東日本大震災の復興に関する意識調査」（標本調査、2021 年 10 月実施、「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」（基盤研究 A、研究代表者：浦野正樹）のジェンダー視点からの考察を 2022 年度に行いました。①生活環境の変化、生活の課題、②復興に関する協議や活動への関与、③震災復興事業の評価、復興感、④満足度、住み続けた意向などに男女で差がみられることを明らかにしました。

3) 令和 6 年能登半島地震の女性の経験と意思に関するヒアリング調査

被災しながら支援活動を行った女性たちの経験を聞き取り、能登の復興政策・事業に女性の経験・視点を反映させることを目的に、ヒアリング調査を実施しました。

所属：副担当・学院教育学领域准教授／国際連携推進機構副機構長

2022年に創設した静大発ベンチャー「BOSAI Edulab」（一般社団法人）では「ユース災害ボランティア基金」を立ち上げ、他大学との新たな共同事業にも着手しています。今後も防災総合センターによるご支援および連携のもとで、静大生の教育・研究活動を後押しし、防災・減災の人材育成及びネットワークづくりに貢献していきたいと考えています。



教員名：秋元菜摘

所 属：副担当・学術院情報学領域准教授／静岡大学土木情報学研究所

本研究室では、2019 年度より防災教育や観光防災について研究室プロジェクトを継続的に実施してきた。その成果は、授業等で静岡大学の学生に還元するとともに、防災総合センターの発表会などでも共有してきた。また、静岡大学情報学部で開催される情報学シンポジウムやテクノフェスタなどで地域住民等へも毎年還元してきた。これらの研究・教育活動に基づき、防災教育や観光防災に関する査読付き論文を投稿するなど学術的側面でも活動を進めている。

防災教育や地域防災については、静岡大学が南海トラフ地震をはじめとして災害のリスクが高い地域にありながら、防災訓練や災害時の避難計画、学生の準備、地域との連携などに課題があると考えられたため取り組み始めた研究課題である。実際に授業等でアンケートを実施すると、学生は自分ではほとんど災害対策を行っていない実態も明らかになった。大学全体での取り組みを改善するにはコストや時間も必要であることから、まずは学生が防災を自分のこととして捉え、各自で準備したり大学に働きかけたりできるように情報提供することを目的とした防災教材の開発を進めた。現段階では、防災を学びながらアンケートに回答する教材を作成しているほか、地理情報システム（GIS）により自分の居住地周辺のオリジナル防災マップを作る展示を行うなどしている。学生や住民が各自の防災意識を高め、地域防災についてもより考えて行動できるようになることを目指している。

このような活動の中で、情報学部長や大学の総務係等へヒアリング等も行ったが、その翌年 2020 年度から防災訓練時に「地域防災」という言葉が講演で用いられるようになるなど、大学側の意識改革にも繋がっていると考えられる。指摘されれば当然であろうが、最近まで大学の教育や活動には含まれていなかったことは事実である。本取り組みの要点としては、教員と学生が共同して研究することで多様なアクターに伝わりやすいという側面が挙げられる。一教員がデータを基に指摘しても組織は動かないであろうが、学生や地域から疑問視されるようになると現況や深刻さをより理解することができると考えられる。

2023 年度より、舞阪町観光協会主催の「はまなこ夏フェスタ」において、地域や観光地での防災の啓発に資する展示を行っており、特に浜松市舞阪町弁天島の地理的特性を説明したり、研究室で作成した「弁天島まち歩きマップ」（観光防災 WebGIS）を使う機会を提供したりした。参加者は子供から高齢者までであり、データを共に確認することで、今いる場所が非常に危険であることを認識できていることも判明した。

その他、関連する研究・教育や地域貢献に関わりながら、引きつづき防災研究に貢献できるよう努めている。

教員名：石橋秀巳

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私は、天然の火山噴出物の組織解析・化学分析に基づき、マグマの形成・噴火プロセスについて研究しています。2022-2023 年では、富士山、伊豆東部火山群・伊豆大島に加えて、福徳岡ノ場・西之島などの海底火山などを対象に、マグマ供給系の構造や噴火準備過程、マグマ噴火の火道浅部プロセスに関する研究を行いました。

富士山については、1707 年宝永噴火の安山岩質噴出物 (Ho-II) について、石基の微細組織解析を行いました (石橋他, 2023 火山学会)。その結果、安山岩質の石基の中に引きのばされた流紋岩質ガラスを発見しました。この流紋岩ガラスは、同噴火の斑レイ岩捕獲岩中の粒間ガラスや縞状軽石の白色部と化学組成が一致することから、宝永噴火マグマの珪長質混合端成分と考えられます。この結果は、宝永噴火の際に流紋岩質マグマが関与していたことを意味し、富士山の地下に珪長質マグマだまりが発達しつつある可能性を示唆します。

伊豆大島については、Oida et al. (2022) で確立した H_2O 飽和斜長石リキダスの計算法を用いて、伊豆大島の主要なマグマの噴火前貯蔵深度を見積もりました (石橋・安田, 2023)。その結果、従来考えられていた深さ~10 km よりも浅い <6km に主要なマグマが蓄積されていることが明らかになり、更に深さ~10 km のマグマだまりには蓄積されているマグマは、 Al_2O_3 に富む玄武岩質組成であると推定されました。また、1986 年噴火の噴出物に含まれる深成岩捕獲丸について調査し、地下 4 km よりも浅部に石英を含む珪長質マグマだまりが存在していたことを明らかにしました (吉田他, 2023 火山学会)。これらの結果は、伊豆大島のマグマ供給系の従来モデルに大きい修正を迫るものです。

伊豆東部火山群については、大室山の玄武岩質安山岩中の斜長石斑晶とこれに含まれるメルト包有物の微量元素分析を行いました (野澤他, 2023 火山学会)。この結果、流紋岩質のメルト包有物とそのホスト斜長石が化学的に平衡であり、更に約 3100 年前にプリニー式噴火を発生したカワゴ平火山の流紋岩とメルトの化学組成が類似していることがわかりました。更に、大室山周辺の単成火山噴出物中の斜長石について調べたところ、大室山と同様の流紋岩質メルトと共存する結晶であることがわかりました。この結果は、伊豆高原の地下に 10 万年にわたって断続的に、斜長石を含む流紋岩質マグマが存在したことを示唆します。

福徳岡ノ場については、2021 年に発生した大規模な爆発的噴火の軽石に含まれる鉱物・ガラスの化学分析を行い、噴火前の貯蔵条件を検討しました (野々山他, 2023 JpGU)。その結果、マグマだまりの深さは~3 km と見積もられ、これは先行研究の地球物理学的観測結果とも整合的です。また、この軽石についてガラスの Fe の価数を定量し、噴火直前におこったマグマの酸化が噴火のトリガーになったことを明らかにしました (Yoshida et al., 2023)。

その他、伊豆大島・西之島を対象として苦鉄質マグマの噴火ダイナミクスに強い影響を及ぼす火道浅部プロセスについても、噴出物の石基組織解析から解明することを目指した研究を進めています。

教員名：田阪美樹

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

マントルにおける物質移動のメカニズムを明らかにするために、実験・天然の手法を組み合わせてかんらん岩の変形特性にかかわる研究を進めています。昨年度行った通電焼結実験と通電変形実験について、成果をまとめます。

背景：近年、材料科学の分野でセラミックス試料に電場をかけて加熱し変形実験を行うと、電場をかけない場合に比べて、低温度・低応力で塑性変形が起きることが発見された。これは試料に電場を加えることで、物質拡散が加速するためと考えられています。地球内部には太陽活動などの地球外部起源の磁場と電場の変動により、地球内部に電場が誘導されるために、微弱な電場が加わっています。しかしこれまでの地球科学における研究では、精確な力学データと電気物性を同時に測定することが実験的に難しかったために、電場と粘性率の関係を求めた研究例はありません。そこで本研究は、地球科学と材料科学の知見を駆使し電場下におけるマントルかんらん岩の粒成長・粘性変化を求め「地球内部に加わる電場で物質拡散が加速され、岩石が柔らかくなるのか？」という問いに対し実験研究を進めました。

実験試料：マントルかんらん岩の模擬物質である鉄を含まないかんらん石＋単斜輝石 (forsterite+diopside) 80:20 体積%の鉱物多結晶体を使い実験を行いました。

焼結実験：箱型電気炉（常圧、高温）の中で試料をプラチナ線でするし加熱しながら無電場、500, 1000, 2000V/cm の電場を加えた焼結実験を行いました。焼結中の試料の形状変化は電気炉の石英窓を通し CCD カメラで撮影・測定しました。同じ熱履歴を持つ試料で加える電場が大きいほど試料の相対密度が高くなることが分かりました。2000V/cm の電場を加えた焼結試料は他の低電場の試料よりも粒径が大きいことが分かりました。これは電場を加えることにより物質拡散が加速したためと考えられます。

変形実験：高温炉付設のオートグラフ変形試験機を用いて変形実験を行いました。プラチナペーストを使って試料にプラチナ線を巻き付け、直流電場を加えました。この間 SiC ピストンを通して試料に荷重をかけ変形させることで直流電場下の粘性率を測定しました。電場を 1000V/cm 加えた場合と無電場の場合で温度 1200°C、ひずみ速度 10^{-4} s^{-1} で圧縮変形実験を行いました。先行研究の電場無しの通常の変形実験で得られた力学データと本研究で得られた実験結果の比較から、試料は拡散クリープで変形したことが分かりました。電場を加えた場合と無電場の場合の変形実験の結果から、応力一定の条件下で、電場を加えた場合は加えない場合に比べてひずみ速度で 1 桁速く変形することが分かりました。これは地球科学の物質で初めて電場により物質拡散が加速し変形が促進されることを示した実験結果と考えます。詳しい実験結果は Tasaka et al. (2023) にまとめられています。

Tasaka, M., K. Maeda, K. Nambu, H. Motomura, H. Yoshida (2023), Sintering and deformation properties of forsterite + diopside aggregates in an electrical field, **Physics of the Earth and Planetary Interiors**, <https://doi.org/10.1016/j.pepi.2023.107051>.

教員名：三井雄太

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

地殻変動・地震活動データなどの統計的解析と固体力学の知見に基づいて、グローバルからローカルまでの幅広い時空間スケールにおける固体地球変動現象の発生・準備過程を研究している。伝統的な手法の高度化・精緻化に留まることなく、機械学習やスパースモデリングなどデータ科学的潮流を取り入れた解析手法の開発に取り組んでいる。それを基盤として、直接観察できない地下で起こっている様々な現象の実体を、少しでも定量的に理解したい。

教員名：小杉素子

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

人々の生活の中の様々なリスクについて、社会心理学的な視点から研究をしています。特に、リスク問題について異なる利害や認知を持つ人々が、そのリスクの影響や被害の程度や範囲をどのように考え、社会全体やコミュニティとしてどのように対応・管理することが望ましいと考えるのかについて、意見を交換したり意思決定を行ったりするプロセスに着目しています。

2022～2023年度は、2020年度からの3カ年をかけて環境省の研究調査事業のひとつとして採択されたプロジェクトで、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線リスクについて福島県民を対象とした情報提供方策についての調査研究を行いました。インタビュー調査から作成した放射線リスクについての専門家と福島県民のメンタルモデルを比較し、情報の受け手の視点から重要な情報や理解しやすい提示順を明らかにし、情報提供し良案を試作しました。研究成果は国内外の学会での口頭発表と、書籍を出版しました。

地球温暖化（気候変動）のリスクについて、一般市民を対象としたオンライン調査を行い、緩和策および適応策の実行について分析を行い、夏の高温や風水害被害の実感の強さや、対策の有効性、一般的な政治的関心が高いことが、実施する対策数を増やす効果を持つことを明らかにしました。これまでに気候変動や感染症、自然災害などをテーマに実施してきた調査データから、リスク管理行動と認知の関わりについて研究を進めていきます。

教員名：石川宏之

所 属：副担当・学術院グローバル共創科学領域准教授

1. 最近の研究活動

地震災害後の観光地における公学民の役割と復興まちづくりのあり方

—阿蘇ユネスコ世界ジオパークと熊本地震震災ミュージアムを事例として—

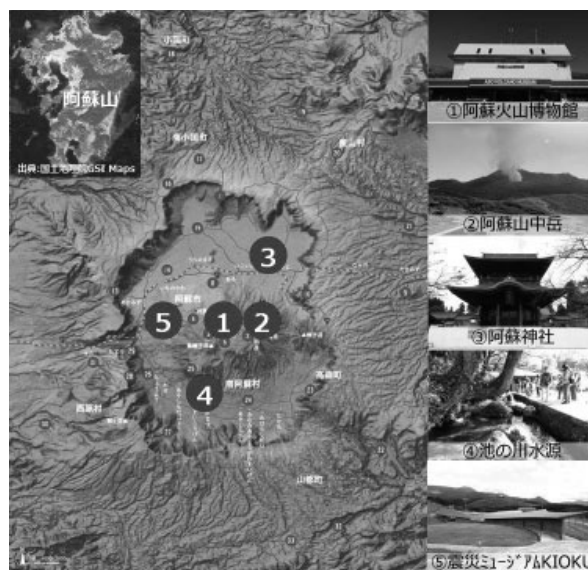
近年、地震災害が全国各地で多発しています。この様な自然災害を低減するためには、減災教育を通して地域住民へ過去の被災体験をいかに継承できるかが課題となっています。本研究では、子どもたちや観光客へ地震災害の体験や復興過程で得られた教訓を伝承するためにジオパークの観光地で震災遺構や博物館を活かす復興まちづくりのあり方について明らかにしました。

調査対象は、熊本県阿蘇地域を地理的領域とする阿蘇ユネスコ世界ジオパークと熊本地震震災ミュージアムです。現地調査では、2023 年 9 月にジオパーク活動に携わる阿蘇ジオパーク推進協議会関係者、熊本地震震災ミュージアムに携わる熊本県・みなみあそ観光局の職員に聴き取りを実施しました。

その結果、被災地で博物館活動を展開するために県は、熊本地震復興基金等を運用して震災ミュージアムの専任学芸員を雇用すること。また、県立博物館等から学芸員を出向させて震災ミュージアム職員へ技術支援しつつ、共同で震災遺物や復興に向けた住民活動の写真・動画の収集・保存、小中高生向けの減災教育副読本やビデオ教材の作成、巡回展を開催すること。一方、推進協議会は、大学・博物館関係者と協力して災害語り部の研修会を開講し、震災遺構や博物館で語れる教育プログラムを作ること。また、ジオガイド協会と協働で震災遺構や博物館と再建した阿蘇神社を巡る教育旅行ツアーを造成すべきと考えました。

2. 刊行物など

- (1) 石川宏之：土砂災害後の空地・空き家を活かす復興まちづくりのあり方—伊豆大島ジオパークにおけるメモリアル公園と災害語り部を事例として—, 2023 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1155-1158, 2023
- (2) 石川宏之：地震災害後の観光地における公学民の役割と復興まちづくりのあり方—阿蘇ユネスコ世界ジオパークと熊本地震震災ミュージアムを事例として—, 2024 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 181-184, 2024



阿蘇ジオパークの拠点施設とジオサイトの位置
(出典：阿蘇ジオパーク推進協議会 HP を基に加筆作成)

教員名：望月美希

所 属：副担当・学院情報学領域講師

東日本大震災からの復興、福島第一原発事故による長期・広域避難と支援を主なテーマとして実証的な研究を行っています。2022-2023 年度は、静岡県における原発事故避難と支援、福島県浪江町の伝統産業「大堀相馬焼」の復興と葛藤、震災後の人と土地の関係についてフィールドワークを行ってきました。これらの成果は、望月美希「東日本大震災後の長期・広域避難と支援の課題：静岡県における避難者支援活動に着目して」（『情報学研究』、vol28、2023 年）、関礼子・原口弥生編著『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』（新泉社、2023 年）として発表しています。また、静岡大学情報学部望月研究室有志の活動として、2022 年 9 月に発災した台風 15 号災害被害からの復興と支援活動に関する社会学的調査、支援活動を行いました（2023 年 2 月～2024 年 3 月末、清水区災害支援拠点「みんなの居場所 ふらっと」（静岡県ボランティア協会運営）への活動ボランティア）。

東北の復興、そして静岡県内における防災と災害対応・支援について、今後も「現場」を軸とした研究活動を行っていきたいと考えています（「災害復興における『移動』と『ふるさと』に関する社会学的研究」、日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2024 年 4 月 - 2028 年 3 月等）。また、2024 年度は、「伊豆半島沿岸域における津波対策に関する研究―地域社会学・民俗学の視点から―」（一般社団法人美しい伊豆創造センター 伊豆半島ジオパーク学術研究助成、2024 年 7 月～2025 年 3 月、望月美希、辻本侑生）を獲得しました。これまでの研究に加え、西伊豆町での調査・実践活動を進める計画です。

教員名：石井輝秋

所 属：客員教授

2022 年度及び 2023 年度は、コロナ禍のため研究船への乗船が不可となり、既採取試資料の陸上での解析・研究・考察を行うこととなった。

地球深部探査船「ちきゅう」によるプチスポットパイプのライザーレス&ケーシングレス掘削で海洋マントル採取に挑む可能性を考察している。

本格的海洋科学掘削は海洋マントル採取を目的に、1961 年に米国のモホール計画として開始された。その後 1968 年に米国の掘削船グローマー・チャレンジャー号、1985 年に米国の掘削船ジョイデス・レゾリューションへと引き継がれ、2005 年に地球深部探査船「ちきゅう」の運用が開始された。上記 3 船を主とする海洋科学掘削は、地球科学・自然科学発展の上で大きな貢献を果たしてきた。

マントル掘削の観点では、米国船によるライザーレス掘削で海底下約 2km が最深である。2000m 級ライザーパイプを備えた D/V「ちきゅう」は、日本周辺海域での堆積岩のライザーおよびライザーレス海洋科学掘削により大きな成果を上げているが、未だハードロックの掘削は行っていない。現在のマントル掘削候補地 3 点はいずれも水深が約 4000m であり、現在 4000m 級ライザーパイプ入手の目途は立っていないため、その対応に苦慮している。更に航海日数は約 250~300 日、経費は 300 億円以上と見積もられている（石井他,2023）。D/V「ちきゅう」は運用開始から約 20 年が経過し、残された寿命はあと 10 年（または長くても 20 年）である。この間に通常のライザー&ケーシング掘削により、モホ面直下のマントルを採取するという“マントル掘削”は資金面と技術面とから達成が懸念されている。米国の国際深海掘削計画からの退出もマイナス要因となる。

一方、ドリルパイプは約 12000m の運用がほぼ達成された。そこでマントル掘削を目標として“D/V「ちきゅう」によるプチスポットパイプのライザーレス&ケーシングレス掘削で海洋マントル採取に挑む”ことを検討したい。三陸沖に沈み込む太平洋プレート年代は 130-135Ma そして周辺の大型海山の年代は 120-80Ma である、同海域の詳細な海底地形調査により、超小型海山の分布が示され、山体からは新鮮な 10Ma 以下の若いアルカリ質火山岩（1.8-8.5Ma）が採取され、プチスポット火山と名付けられた（Hirano et al., 2006）。プチスポット火山はプレート直下（海底下約 60 km）で発生したアセノスフェア由来のマグマが、プレート沈み込みに伴う応力場の変化によって、プレート内に生じた割れ目に沿って上昇し、モホ面（海底下約 6 km）を通過、上昇し、深海底に発泡著しいシル・溶岩・火山角礫岩（比重約 1.5）として噴出したものである（Hirano et al., 2006）。

プチスポット火山の中には、水深約 5500m で超深海底のマール（Maar Crater：爆裂火口）状山様を呈し、キンバーライトパイプに類似する深部構造であるプチスポットパイプの存在を予測させる山体がある。プチスポットパイプ内部は、キンバーライトパイプ同様に、火山

角礫岩で満たされていると予想される（石井他,2019）。

火道であるプチスポットパイプ近傍では、マグマ上昇により、それまでに蓄積されていた広域応力が解消されると共に、マグマの貫入により補強された、堅牢な孔壁を獲得したと予測できる。その結果、火道はマントルに至る天然のケーシング（＝孔壁）を有する、ほぼ垂直なトンネルを形成している可能性が考えられる。地球深部探査船「ちきゅう」の 12000m ドリルパイプによる、掘削が容易な火山角礫岩から成るプチスポットパイプ内のライザーレス&ケーシングレスマントル採取掘削が可能になると考えられる。そしてライザーレス&ケーシングレスマントル採取掘削に際しては、筆者が提案済みの上方掘削可能コアバレル（石井他,2023）の R/V「ちきゅう」仕様の開発が不可欠であろう。モホ面下のマントル採取を最優先とし、ひたすらモホ面を目指しコア試料採取無しの掘削を行ない、モホ面より上位の試料採取は、検層データに基づき、後日横掘りや枝掘りで行うことが望ましいと思う。

こうして得られた、日本海溝沖のマントル掘削孔は、常設のオンライン観測点、そして自然災害時の防災・減災に寄与する観測基地として活躍が期待される。更に近年東北沖プチスポット火山類似の火山体が、世界各地の深海底から報告されつつある。東北沖プチスポットパイプ掘削で海洋マントル採取が比較的安価・短期で達成できれば、他海域のプチスポットパイプ掘削による、マントル採取が試みられるであろう。将来プチスポット掘削科学という新たな科学分野が開かれることを期待したい。本提案が D/V「ちきゅう」によるマントル掘削の起死回生策になりうると言っても過言ではないと考えられる。

文献

Hirano, N., Kaneoka, I., Ishii, T., Ogawa, Y., Machida, S. and Suyehiro, K., et al., (2006): Volcanism in response to plate flexure. *Science*, 313, 1426–1428

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・他（2019）：「新青丸」KS・18・9 航海，プチスポット火山ドレッジ研究速報と展望 ― 歴史的発見：東北沖太平洋超深海底の爆裂火口（マール）―。深田地質研究所年報，20，105 -128.

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克（2023）：プチスポットパイプのライザーレス掘削で海洋マントル採取に挑む― 地球深部探査船「ちきゅう」による新モホール計画 ―。深田地質研究所年報，24，119-138.

教員名：石川有三

所 属：客員教授

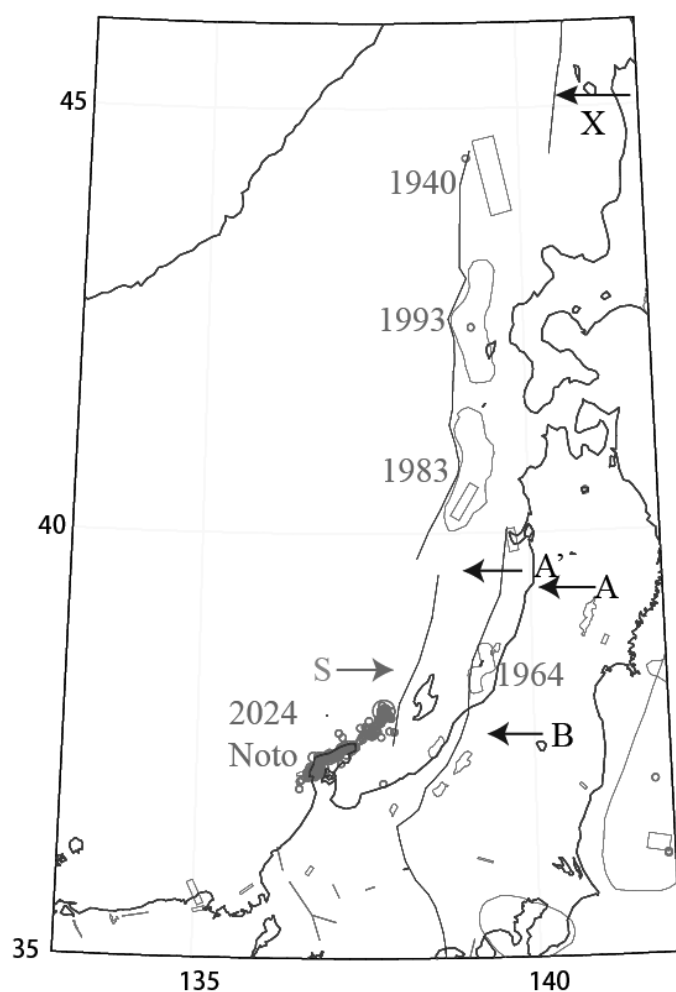
一つは、世界でマグニチュード7以上の地震が起きたら、直ちにその地域の過去の地震活動を調べ、震央分布図、時空間図、断面図などを作成し、資料ホームページを作成し、関係者の理解促進の助けにしている。そのページは下記の URL.

<http://catfish.the-ninja.jp/event/zisin-ninja.html>

また、能登群発地震については、主に松代群発地震との対比の研究を進めている中で、2024年1月1日にM7.6という大地震が起きてしまった。群発地震隣接域で大地震が起きた例としては非常に珍しく、その原因は能登地方の応力場が逆断層場であったため、下方から流入してきた流体が、松代地域のようにスムーズに地表面へ抜けることが出来ず、水平方向に広がったため、広域に応力蓄積が起こったためと考えられる。

今後については、日本海東縁新生プレート境界の地震未破壊域（地震空白域）と過去の大地震の震源域を一緒に下図に示した。この図に示したように未破壊域として将来地震発生が危惧される場所は、これまで

指摘していた X, A, A', B のほかに新たに「S」地域も考えられるので、さらに注意が必要である。



教員名：伊藤谷生

所 属：客員教授・千葉大学名誉教授

2011年度～2016年度に行われた富士川河口断層帯統合的地震探査の結果を2編の論文としてまとめ、『地学雑誌』に投稿した。両論文とも 2023 年度中に受理されている。

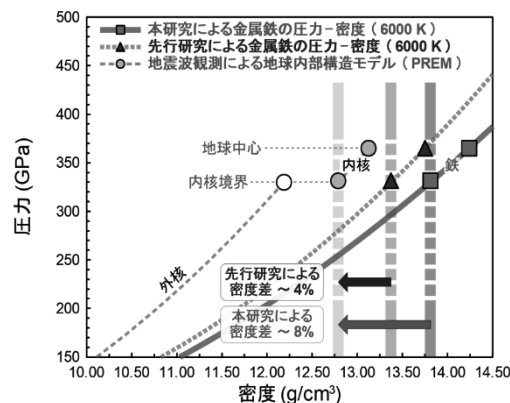
教員名：大谷栄治

所 属：客員教授・東北大学名誉教授（元東北大学理科学研究科・教授）

今期の主な研究成果は、以下のようである。

地球の内核境界の圧力で金属鉄の音速測定に成功：地球の内核境界に相当する 300 万気圧を超える極限圧力下での金属鉄の音速測定に初めて成功しました。X 線非弾性散乱測定法と超高压発生法を開発し、先行研究の倍に相当する 300 万気圧を超える圧力下での音速測定が可能になった。地震学的研究による内核の音速は、その条件下での金属鉄の音速よりも非常に遅いことを示し、その音速を説明する内核の化学組成を提案した。この研究結果は、科学雑誌「Nature Communications」に掲載された。

新しい Re の圧力スケールの確立と核の軽元素量の見積もり：放射光 X 線と超高压発生法を用いて、金属レニウムの超高压下での音速を測定することによって、圧力とレニウムの密度の関係を表す新しい絶対スケールを決定した。この絶対圧力スケールは、従来の 2 倍となる世界最高の圧力範囲で、地球の核内部の圧力まで外挿（既知の測定値から未知の値を推定・推測）することなく適用できる。今回提案した圧力スケールによると、従来のスケールは地球の核内部の圧力領域において、20%以上も圧力を過大評価していたことが分かった。地球の核は、固体鉄を主成分として、ケイ素、硫黄のような軽い物質が含まれている。今回の絶対圧力スケールを用いると、内核の条件では、固体鉄の密度が地震学的に観測された密度より 8%大きく、従来の圧力スケールで見積もられていた密度との差の約 2 倍に当たる。この結果から、核に含まれる軽い物質は、地球の表層部（地殻）の質量の 5 倍以上にも相当することが分かった。本研究はオンライン科学雑誌「Science Advances」に掲載された。



レニウムを用いた新圧力スケールによる核の密度欠損は、従来の見積もりの 2 倍になる（赤線）。

外部委員会および学会活動：

今期は以下のような活動を行った。

- ・JAXA のキュレーション専門委員会；はやぶさ試料の配分に貢献した。

- ・JpGU（日本地球惑星科学連合）の理事会において、RDM-TF（研究データマネジメント・タスクフォース）の副査として貢献した。

- ・IMA の第一副会長、日本学術会議の連携会員および同国際連携分科会 IMA 小委員会メンバーとして、IMA の活動に貢献した。2022-2023 IYBSSD の一環として Year of Mineralogy のアウトリーチの活動を行った。



世界鉱物年
2022

教員名：笠原順三

所 属：客員教授・東京大学名誉教授（元地震研究所 教授）元東京海洋大学客員教授、元
特任教授

2018 以降 NEDO 研究開発費により光ファイバーを用いた DAS（分布型音響センサー）と DTS（分布型温度センサー）によって、高温の地熱井戸内での温度と地震動の計測を行い、地熱地域の地熱構造、地震波速度構造、反射構造を明らかにしてきた。2022 年には大分県滝上地熱発電所、秋田県木地山地熱発電所建設用地、2023 年には大分県八丁原・大岳地熱発電所の周辺において、DTS,DAS を用いた調査を実施した。その結果、地下の地震波反射構造が明らかになってきた。

2024 年度は秋田県木地山地熱地域、北海道森地域でのより詳細な地震探査を実施しつつある。同時に水平加振器をもちいた横波の生成による地下 S 波速度構造も調べつつある。

教員名：風間 聡
所 属：客員教授・東北大学大学院工学研究科土木工学専攻 教授

防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に川に関するものです。

1. 気候変動に伴う水災害リスクの推定

環境研究総合推進費 S-18 の活動において、気候変動による日本の水災害被害額を推定し、その適応策を評価しています。複数の気候モデル (GCM) と社会経済温暖化シナリオ (SSP) から得られた気象データ、土地利用データを、外水と内水の洪水氾濫モデルに入力して、再現確率に応じた各被害額を治水経済マニュアル (案) に従って計算します。堤防建設や土地利用規制などの適応策の効果をモデルによって評価します (下表)。

2. 河道植生の影響調査

河道樹林は洪水時には氾濫を生じる障害物になりますが、水辺環境を豊かにする場所でもあります。河川によって植生の繁茂速度や伐採の洪水被害軽減の効果は異なるので、日本全国を対象に数値計算と調査に基づいて分析を進めています (下図)。

3. 海外の水災害研究

スリランカの洪水と斜面災害について気候変動と都市化の影響を見るとともに、数値計算によるリスク評価を行っています。国内で開発された物理モデルと深層学習を用いた推定方法の技術移転を進めています。異なる条件下の災害を研究することによって、様々な条件に対応できるモデルや評価手法を開発することができます。

4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。特に融雪出水の研究を進めています。森吉山において積雪観測を実施し、山岳域の積雪分布の推定精度の向上に努めています。多くの融雪出水モデルはピーク流量の推定に問題がありますが、降雨パターンの解析やモデルの性質などをモデル定数に反映させることによってモデルの改善を目指しています。

表 21 世紀末 RCP8.5 適応無に対する
洪水氾濫と内水氾濫の被害軽減効果

政策 Policy option	被害額軽減率 Reduction Ratio	
	Present condition	SSP scenario
緩和策 Mitigation	22%↓	30%↓
治水安全度向上 Levee Improvement	14%↓	17%↓
排水能力向上 Pump	26%↓	26%↓
土地利用規制 Landuse Control	24%↓	19%↓
ピロティ建築 Piloti buildings	68%↓	68%↓
田んぼダム Rice field dam	7%↓	5%↓

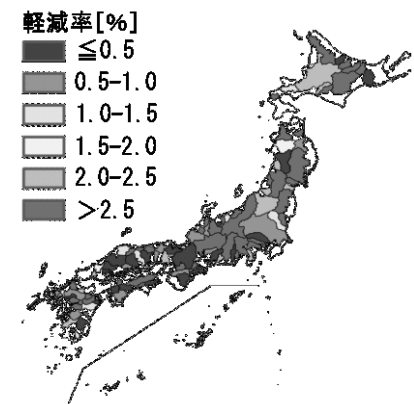


図 一級水系別河道植生伐採に
年期待被害額軽減率

教員名：狩野謙一

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授（理学部）

富士川河口断層帯

日本列島では第一級の活動度を持つとされる富士川河口断層帯(FKFZ)内の安居山低地に分布する富士山起源の新时期溶岩流の流路が、断層帯北東側の安居山・大宮断層野の活動による羽鮒・星山丘陵の最近 1 万年程度の期間の隆起過程に規制されていることが明らかになった(山本ほか, 2022).

また、FKFZ 周辺で 2012 年の[統合的地震探査 FIST], さらに 2015 年に FKFZ 東縁の大宮断層・入山瀬断層に焦点を絞った「多測線統合的地震探査」を実施し、それらの結果を 2 論文に分けて地学雑誌に公表することができた. このうち藤原ほか(2024)では、FKFZ から糸魚川・静岡構造線(ISTL)を越えて安倍川上流域までの地下浅部域からフィリピン海プレートの上面までの地殻構造を論じている. これにより、同プレート上面が富士川低地帯の浅部まで追跡することが明らかになった. また、ISTL が高角度に地下 10km 以上まで達していることが明らかになった. 伊藤ほか(2024)では、複数の測線を用いた星山丘陵の表層部から地下 1000m 程度の 3 次元浅部構造を解析した. その結果、FKFZ のうち、大宮断層は傾斜方向が異なる複数の逆断層が交錯した複雑な構造を有し、これらの活動が星山丘陵の後期更新世以降の急速隆起を促した可能性が示された.

富士宮市史・自然編

この市史中の「1-1-3 最後の海と最初の陸地」および「1-1-5 活断層が作った富士宮の地形」の 2 章の執筆を担当した. 前者では富士宮周辺が古駿河湾の海洋環境から陸上環境に移行するまでのおよそ 100 万年前から数 10 万年前に至るまでの、古環境と地殻変動を解説した. 後者では富士宮東部域と西部域の羽鮒・大宮丘陵との地形的対立をもたらした FKFZ の活動について解説した.

北部フォッサマグナ中～南部

静岡県内を含む南部フォッサマグナ、糸魚川・静岡構造線(糸静線)、赤石山地の形成に密接に関係する長野県内の北部フォッサマグナ中～南部域の地質・地形の成り立ちについて、本学理学部地球科学科 1980 年卒業の宮坂 晃氏と協力して、最近 10 年間にわたって調査を行っている. この間の調査で、諏訪盆地周辺の糸静線及び更新統の塩嶺火山岩類、さらに小諸盆地の小諸層群の調査に基づく周辺の第四紀の地殻変動についての成果を報告した. その後、調査をより北側の中央隆起帯の新第三紀層に移行し、従来無褶曲地帯とみなされてきた中央隆起帯が複雑に褶曲していることを明らかにした(宮坂・狩野, 2022). この地域については、さらに調査を継続中である.

静岡県地学会，「静岡地学」へのGEODATA提供

静岡県地学会が刊行する雑誌「静岡地学」に県内の地学的な見所(ジオサイト)を紹介するカラーグラビア，解説付き，各 1 ページの GEODATA に投稿している．現在までに西部地区で 3 ヶ所，南アルプスの高山地域を含む大井川流域で 17 ヶ所，瀬戸川流域で 2 ヶ所，安倍川流域で 2 ヶ所が公表されている．今後，東部・伊豆地区を中心として，順次紹介していく予定である．

大井川流域 のジオサイトガイド

上記の GEODATA とは別に，大井川流域の自然環境の理解を進めるために，県庁くらし環境部環境局の諸橋 良氏(防災フェロー)が作成している「大井川流域のジオガイド」について，一部共同して現地調査を行うと共に，全体を監修した，これは県庁ホームページに掲載され，印刷出版も検討中である．

NHK TV，「ブラタモリ・大井川編」

この番組内で，牧ノ原丘陵の隆起と茶畑との関係について現場で説明した．また大井川流域四万十帯の最南部に見られる「神尾の横臥褶曲」が，中新世頃以降のプレートの沈み込みを反映して形成されたものであることを説明した．これらをあわせて大井川流域の地形・地質の特異性を解説した．

教員名：吉川肇子

所 属：客員教授・慶應義塾大学商学部教授

1. 最近の研究活動

国際誌 *Simulation & Gaming* の共同エディターとして、オランダアムステルダム大学の Marlies P. Schijven 教授とともに、雑誌の刊行の一端を担っている。

また、研究課題としては、ゲームによる教育訓練手法の開発とその評価を行っている。特に近年レジリエンスを高める訓練に着目している。ことに、2022 年に航空会社と共同で開発した緊急避難時のシミュレーション訓練は、高い評価を得たことから、当該会社の定期訓練として採用され、内容も更新されながら、使用されているところである。この訓練の当初の成果の評価については、2023 年の国際シミュレーション&ゲーミング学会で発表を行った。

感染症の研究者と共に、リスク・コミュニケーション手法についても連続して研究を続けており、積極的に英文誌に投稿しているところである。

2. 今後の研究展望

上記の研究活動については、さらに発展させるべく、未解明の点について、研究を継続していく予定である。

3. 刊行物

ゲーミング手法に関しては、編者の 1 人として、「Gaming as a Cultural Commons.」を Springer 社から 2022 年に出版したところだが、2024 年には、続けて 2 冊の英文書籍を編者として出版の予定である。

教員名：小林 淳

所 属：客員教授・静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授

火山地質学・火山学、第四紀地形地質学を専門としています。

火山の地形や噴火による噴出物とその積み重なり等を詳細に観察することによって、火山の噴火史とその生い立ちを年表として明らかにすることを目指しています。特に広域テフラを年代基軸に利用した調査を行っています。派手な研究ではありませんが、現地で取得した地質データの一つ一つ積み上げることによって、個々の噴火の推移やメカニズムの復元につながると信じています。この成果は、火山の長い寿命の中での今の火山のクセを把握することにつながり、来るべき将来の噴火への備えの一つとして、ハザードマップや噴火シナリオの構築等に資する貴重な研究と考えています。

私が現在進めている研究は以下になります。

1. 富士山の噴火履歴、主要噴火の噴火推移の解明
2. 広域テフラを用いた噴火史層序の構築
3. 活動期転換期の噴火特性とその時空間分布の解明
4. 伊豆弧北端部の活動的火山（富士山・箱根山・伊豆半島～伊豆諸島北部）の噴火

一方で、爆発的噴火によって生成される火山碎屑物は、火山体を構成する一つの地形を作り上げるほか、上空高く巻き上げられた火砕物は、日本列島全体を広く覆うことによって地形地質の形成過程を明らかにするための時間軸になります。私の噴火史研究は、地形や地質の形成・進化過程を明らかにする研究とも深くつながっており、この研究を通じて、私たちが生活の場としている土地の成り立ちを理解し、地域のことを深く知るきっかけ作りに役立つものにしたいと思います。

教員名：小山真人

所 属：未来社会デザイン機構副機構長（主担当）、防災総合センター教授（副担当）、地域創造学環教授（副担当）、教育学部教授（副担当）（現 客員教授）

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達と教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。とくに最近では富士山、伊豆東部火山群、箱根火山、伊豆大島火山の噴火史・噴火メカニズム・ハザードマップ・防災対応などの作成・見直しと効果検証、UAV（無人航空機）や高密度点群標高データを用いた火山地形・噴火史研究（図1）や河川地形・氾濫の研究（図2）、宇宙線ミュオン粒子を用いた透視技術（ミュオグラフィ）による火山内部構造の研究などに取り組んでいます。

こうした研究活動の一方で、静岡県防災・原子力学会議地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、富士山火山広域避難計画検討委員（副委員長）、伊豆東部火山群防災協議会委員などを努め、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んできました。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの顧問（2022年度からは美しい伊豆創造センター理事、同センタージオパーク委員会顧問）をつとめ、伊豆半島ジオパーク推進協議会の設立（2011年）、国内ジオパーク認定（2012年）、ユネスコ世界ジオパーク認定（2018年）と再認定（2023年）などに貢献しています。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。また、NHKの人気番組「ブラタモリ」の案内人を6回（富士山3回、日本平・三保松原1回、浜松1回、伊東1回）務めました。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

http://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/

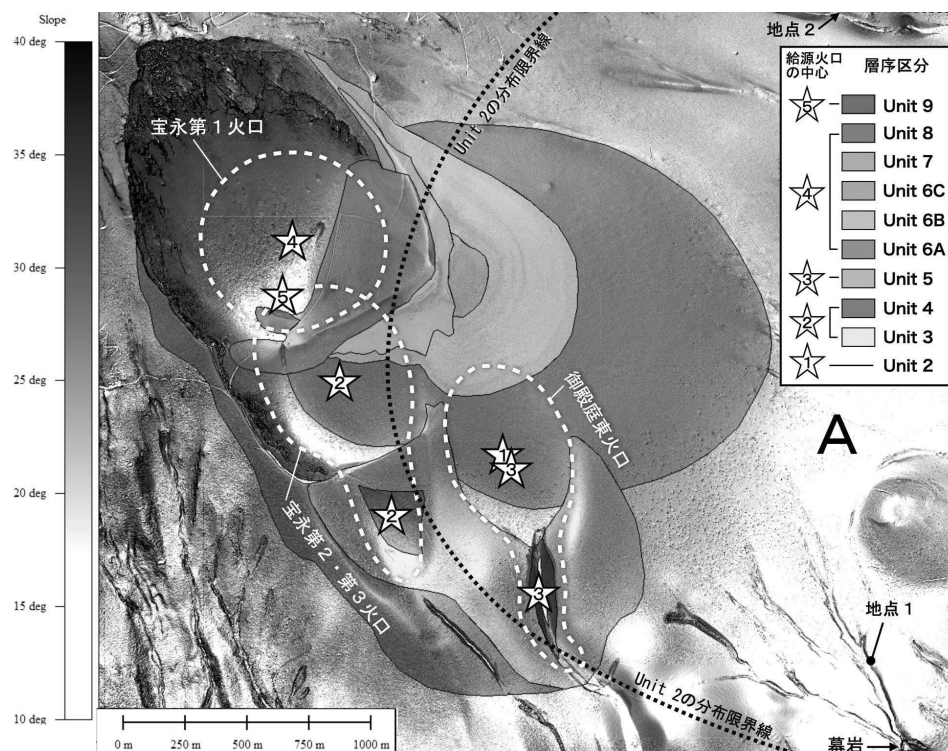


図1 1707年富士山宝永噴火の火口近傍堆積物の層序ならびに火口位置の変遷（小山，2023a）



図2 2022年台風15号豪雨によって氾濫した巴川流域の浸水深分布を示す3Dマップの例（小山，2023b）

教員名：佐藤興平

所 属：客員教授

フォッサマグナは本州弧を東西に分かつ地質帯として 20~15 Ma 頃の「日本海拡大」に連動して形成されたとみられ、南端部は伊豆小笠原弧との接合部にあたり複雑な地質構造をもつ。この地帯は中新世以降の火山噴出物や砕屑物に広く被われ、関東山地以外では先中新世の基盤を観察することは極めて難しい。そこで、フォッサマグナの基盤に関する手掛かりを得るため、年代の判明している火成岩体の Sr 同位体比を測定し、第四紀火山に関する既存のデータと合わせて、同位体比の時空分布をまとめた (図 1)。フォッサマグナ地域の中新世以降の火成岩類は、時代とは関係なく、0.7035~0.7045 付近の低い $^{87}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$ 初生値で特徴づけられ、一部に 0.706 を超える高い値が現れる。

フォッサマグナ地域でも特に活動的で常時監視の対象になっている活火山のひとつに浅間山がある。その活動初期の黒斑火山が約 2.7 万年前に山体崩壊を起こし (図 2)、群馬・長野両県に大量の崩壊堆積物をもたらしたことが、崩壊物の Sr 同位体比と埋没木片の ^{14}C 年代から判明したが (防災総合センター年報 第 7 号, p.40)、崩壊の原因や崩壊以前の火山活動史は未解明である。そこで昨年度からは、浅間山北麓に分布する湖成層・火山泥流・火砕流などの堆積物の調査を始めた。前 2 者の埋没木片からは ^{14}C 年代の測定限界 (約 5 万年前) を超える結果が得られた。樹種鑑定により針葉樹が卓越する冷涼な環境が推定されるとともに、今回見出された古い火山泥流堆積物は、かねて想定していた山体崩壊以前の「小規模崩壊」に起因する可能性が考えられる。また、約 1.7 万年前の火砕流は針葉樹からなる埋没林を形成し、この時点で湖成層を堆積した湖沼は既に消滅していたと判明した。

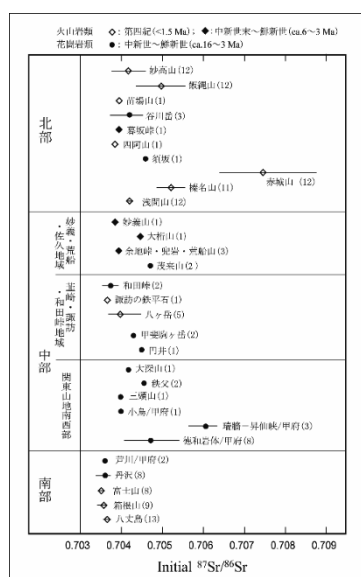


図 1. フォッサマグナ地域に産する中新世以降の火成岩類の Sr 同位体比 (佐藤ほか, 2024)。

「フォッサマグナ地域」の範囲に関しては、佐藤ほか (2024 の註 1) を参照。



図 2. 浅間火山形成初期の山体の崩壊跡とされる黒斑山の馬蹄形カルデラ (北部)。

教員名：佐藤 健

所 属：客員教授・東北大学災害科学国際研究所 教授

工学の都市・建築学をバックグラウンドとしながらも、教育学や社会学，経済学，地理学，医学などとの学際的研究に積極的に取り組み，学際融合による新しい研究成果の創造と，その社会実装による減災社会の構築を目指しています。

◎ 防災教育を中心とした包括的学校安全に関する研究

東北大学災害科学国際研究所「防災教育国際協働センター」の研究者ネットワークを生かし，防災教育モデルの開発と実践，評価，さらには社会実装に取り組んでいます。また，学校と家庭・地域が連携した包括的学校安全の推進モデルを探究しています。

- ・ 加賀谷 碧，佐藤 健：学校運営体制から見た地域に根差した防災教育の持続性―石巻市内の学校を対象としたアンケート調査を通して―，安全教育学研究，第22巻，第1号，pp.3-13，2022.10
- ・ Aiko Sakurai, Yoshiyuki Murayama, Takeshi Sato and Takashi Oda: “Climate and disaster risk reduction education” : in Rajib Shaw, ed, Handbook on Climate Change and Disasters, Elgar Handbooks in Energy, the Environment and Climate Change, Edward Elgar, U.K., pp.322-329, 2022.

◎ 学校教員を対象としたリスクコミュニケーションモデルの開発に関する研究

学校防災の推進を担う役割を持つ学校教員を対象とした研修会の実践を通して、専門的知識の獲得プロセスやリスクコミュニケーションのロールモデルを探究しています。

- ・ 佐藤 健，橋本雅和，桜井愛子，北浦早苗，藤坂雄一，村山良之，熊谷 誠，小田隆史，李泰榮，池田真幸：洪水災害を対象とした学校の防災管理の充実化と防災教育の実践―石巻市立大谷地小学校における事例―，安全教育学研究，Vol.22, No.2, pp.37-48, 2023.3
- ・ 桜井愛子，佐藤 健，村山良之，熊谷 誠，北浦早苗，小田隆史：実効性のある学校版避難確保計画作成支援のための教員研修プログラムの開発，安全教育学研究，第23巻，第1号，pp.19-30，2023.9

◎ 多様な都市防災問題に関する研究

分娩取扱施設の災害対策やマンション防災のロールモデルなど、多様な都市防災問題を探究しています。

- ・ 佐藤美樹，佐藤 健：大規模災害時を想定した分娩取扱施設における災害対策，Japanese Journal of Disaster Medicine, Vol.27, No.3, pp.165-172, 2022.
- ・ 酒井悠里，佐藤 健：仙台市のがんばる避難施設に着目したマンション防災力の評価，自然災害科学，Vol.41，特別号，pp.55-64，2022.

教員名：佐藤比呂志

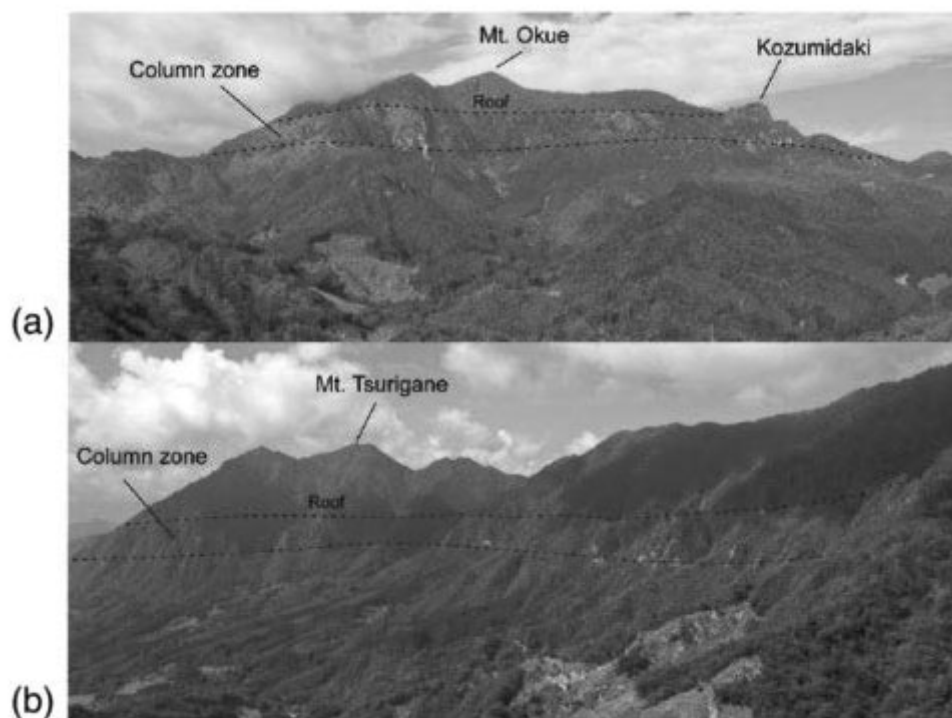
所 属：客員教授・東京大学名誉教授（元東京大学地震研究所 教授）

地震災害を予測するためには、震源断層の位置や姿勢を明らかにする必要があります。このため構造探査を通じて、震源断層のモデル化を行ってきました。日本海や北日本については作成済みです。2024 年 1 月の能登半島地震は、既にモデルが構築された地域で発生した初めての被害地震となりました。大局的にはよく一致していたのですが、探査できなかった半島陸域の断層傾斜については、モデルより低角度でした。こうした不一致の地学的な意味や、他地域での断層モデルの構築を進めていくつもりです。現在の震源断層は、日本海拡大期のテクトニクスと関連していることが多いので、併せて日本海拡大期の変形像についても考えてみたいと思っています。

教員名：千木良雅弘

所 属：客員教授

2022 年度から 2023 年度にかけては、花崗岩の冷却節理と山体の重力変形についての研究を進めてきました。その結果、花崗岩の冷却節理は方状節理と信じられてきましたが、そうではなく、花崗岩体のルーフとウォール近くに柱状の節理ができるのが一般的で、岩体中心部は割れ目が少ないことがわかってきました。その典型は、宮崎県の大崩山に見られます。ここでは、ルーフをなす四万十層群の下に厚さ約 300m にわたって柱状節理帯があり、その下方は塊状部分となっていることがわかりました。柱状節理とはいっても直径 10 m を超えることも多い巨大なもので、その形も玄武岩の場合のように規則的ではなく、節理面は湾曲し、断面の形も不規則なものです。このような柱状節理に囲まれた花崗岩が球状風化してコアストンを作る場合が多いこともわかってきました。コアストンは間を埋めるマサとともに、豪雨時に崩壊して土石流となることが多く、それらの分布を知ることにより、災害の強度のようなものを評価することも可能になると考えています。



大崩山の遠景. ルーフの下に柱状節理帯が追跡できる (Chigira and Kato, 2024, Island Arc)

教員名：中川和之

所 属：客員教授・時事通信社解説委員

2024 年 3 月末で、定年後も続いていた時事通信社との嘱託社員契約が終了し、解説委員の肩書きが「客員」の称号となりましたが、最初の所属配置は昭和だった気象庁記者クラブにも名前を残しており、記者でもあり続けています。10 年続けた公益社団法人日本地震学会の理事も、2024 年度の交替で任期を終え、2021 年 7 月に 8 学会で設立した日本ジオパーク学術支援連合（JGASU）の委員も交替となります。学会によって、運営のあり方が様々なことは裏方をして実感しました。30 年近く、研究者でないのにもかかわらず、地震学会の各種委員会でお手伝いをしてきて、多くの研究者が地域での啓発活動に取り組む時代になったことを実感しています。

2020-2023 年度の科研費基盤研究(C)に採択された「事前の地学教育が震災時のストレス軽減を促す心理的プロセスの検証－熊本地震の事例」の研究や、2024 年 1 月の能登半島地震前に行われていた地震学研究者による地元学習会の成果など、事前に知っていることの意義と、その先の展開を深めていくお手伝いはしたいと考えています。能登半島のあの形は、日本海で繰り返されてきた地震が創り出していたのですから。

内閣府（防災）の災害被害を軽減する国民運動の一環で開設されている「TEAM 防災ジャパン」という Web サイトを中核にした活動のアドバイザーを引き続き行っています。発足時は、権威主義的な場になりかかった「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」ですが、いろんな防災の担い手がフラットに集う場になりつつあるのも嬉しいことで、引き続き、裏方をやっています。

総務省消防庁のお手伝いで、2014 年からベテラン災害記者たちと続けているトップセミナー用研修資料は、災害を経験した延べ 107 人の首長たちのなまなましい言葉が、消防庁の防災・危機管理 e カレッジで公開されています。その時に何を考えたのかの経験談や、全国の首長仲間へのメッセージは、ずっしり重たい内容になっています。

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/index3.html>

教員名：楠城一嘉

所 属：客員教授・静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門特任教授

最近の活動の一つ目は、富士山噴火に備えたマグマ活動監視の新手法を提案したことです¹⁾。従来の観測では認識しきれない低周波地震のデータを解析し、気象庁の観測にない地震を検出することができました。具体的には、東日本大震災の 4 日後に発生した静岡県東部を震源とする最大震度 6 強の地震のあと、低周波地震が起きていたことがこの手法による分析でわかりました。震源は富士山の山麓だったため、当時、噴火の危惧が高まりました。現在、噴火の危惧は払拭されましたが、静岡東部の地震はマグマ活動に影響を与えた出来事だったことになります。この新手法は富士山の噴火までの異常を見逃さない監視方法になり得ます。成果は中日新聞の朝刊 1 面(2023 年 7 月 28 日)やNHKで報道されました。

二つ目の活動は、2011 年東北地方太平洋沖地震(東北沖地震)と 2016 年熊本地震の震源域に次の大地震発生の可能性があるか評価したことです²⁾。その結果、東北沖地震では大地震の再来につながるリスクは確認できませんでしたが、熊本地震では今なおリスクが残ることがわかりました。熊本地域の注意深い監視の必要性を指摘できる点で、地震防災上、重要な研究となります。

三つ目は防災啓発を目的とした活動で、オンライン講座「地震と火山と防災」を開催したことです³⁾。2023 年度で 6 期目となりました。本講座のユニークな点は、金曜日の夕方にオンライン開催して、全国から幅広い世代の方々が聴講できる会となっていることです。また、「これだけは知ってほしい」情報を学ぶ講義に加え、東日本大震災を経験した語り部による「震災の経験と教訓が未来の命を守る力になる」講話をセットにして、誰でも興味が持てる内容としています。中高生や働き盛りの世代の参加が多く、講座終了ギリギリまで多数の質疑応答がある点も本講座の特徴の一つです。

1. Nanjo, K.Z., Yukutake, Y. & Kumazawa, T. Activated volcanism of Mount Fuji by the 2011 Japanese large earthquakes. Scientific Reports 13, 10562 (2023).
<https://doi.org/10.1038/s41598-023-37735-4>
2. Iwata, D., Nanjo, K.Z. Adaptive estimation of the Gutenberg–Richter b value using a state space model and particle filtering. Scientific Reports 14, 4630 (2024).
<https://doi.org/10.1038/s41598-024-54576-x>
3. https://www.global-center.jp/holding_guidance/20240202/index.html

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授（元生物資源学部 教授）

鶴岡市西目の深層崩壊の破壊-崩壊経過と水文誘因：2022 年 12 月 31 日 01 時に山形県鶴岡市西目の丘陵性の孤立した小山において深層崩壊が発生した。崩壊斜面の高さは約 25m, 崩壊土砂量 15 万 m³であった。この崩壊により家屋十数棟が倒壊し, 2 名の人命が失われた。この崩壊の疑問点は, 豪雨の時期でない年末になぜ深層崩壊が発生したかということである。誘因として 2022 年 12 月の降水量が例年より 1.8~1.9 倍多かったということが上げられる。一方, 疑問点の解明に 2 つのモデルが使われた。1 つは, 崩壊までの経過日数が規模に依存することから, これまで知られているデータより, 崩壊斜面高 H と崩壊経過日数 Te に関する次の関係式 $Te = 0.0142H^{1.99}$ あるいは, 概略 $Te \propto H^2$ が得られた。この関係式より今回の崩壊斜面高 25m に対し, 崩壊経過日数 8.6 日が求められる。このことと降水状況からクラックの発生日として 12 月 24 日が得られる。2 つ目は斜面内部の水貯留量を実効雨量によって予測すると, クラック発生日に 303mm の限界水貯留量 D_e となり, 係数 a に $a = 0.96$ が求められる。この水文モデルに地山への最大浸入水量 R_0 を設定することによって冬期以外に夏期の豪雨に対しても適用可能であることが示される。つまり, 2019 年の地震を受け, R_0 は, 地震前 30mm/d となり, 地震後, 60mm/d まで上昇した。水貯留量は 12 月 24 日に限界値 D_e に近い値に到達した。その後の経過を経て, 30-31 日に深層崩壊が発生したと推察される。

教員名：藤岡換太郎

所 属：客員教授

最近の研究活動

2020 年 4 月に静岡大学防災総合センターの客員教授になって以来、朝日カルチャーセンターや名古屋中日文化センターなどで講義を行ってきた。講義の内容はそれまで講談社ブルーバックスから出版された 7 冊の本の内容をいくつかの講座に振り分けて行ってきた。

2021 年から始まった京都府立大学松田法子准教授の科研費、紀伊半島の漁村の調査メンバーとして参加してきた。2022 年から 23 年にかけては太地、勝浦、古座、串本、新宮、尾鷲、九鬼、などの地域の地形、地質、災害の痕跡を調べた。その結果は 2024 年の地質学会で発表の予定である。

伊豆半島ジオパークのガイド養成講座の講義を行った。内容は伊豆半島を取り巻く海の講義であった。

22 年と 23 年の日本地質学会に参加し、23 年の早稲田大会では大会後の秩父の巡検にも参加した。

様々な巡検によって、神奈川県の大山、矢倉岳、秦野などの地域、とくに関東大地震で出来た震生湖にも足を運んだ。秦野や酒匂川沿いの湧水の起源について現地でいろいろ検討した。房総半島の海成段丘やチバニ안의露頭の見学も行った。

今後の研究の展望

もうこの年になって論文を書く気がしないので、多く講義や本でいままで研究してきた事柄を表現したい。論文では査読に 1 年もかかり出版されるまでに何度も査読者とのやり取りや修正が必要で、もはやそのような元気がないのが現状。かわって単行本や講義で話す分にはそのような面倒な経路は必要ないのでそちらを選んでいる。論文は読んでくれる人はわずか【自分の専門分野の研究者と関係者】だが一般書は万人が読んでくれる。講義は 50 人のクラスが何回かすると総計数百人が講義を聞いてくれるというメリットがある。

これまで災害に関しては「天変地異」を執筆した折に地球史での大きな災害（天変地異）に多くの注意を払ってきた。紀伊半島の漁村の地形や地質を見て回るうちに、集落と地形・地質、災害との関係に注意を払うようになった。

以前から人類の発生から律令国家が形成されるまでの間に起こった現象に興味を持って調べてきたが、人類が災害といかに戦ってきたのかに興味を持つようになってきた。今後は地球史の中の一つ新しい人類紀での災害というものに取り組んでいきたいと考えている。まずは京都がなぜ都に成り得たのかについて現在執筆中である。その主なコンセプトは地形・地質にあると読んでいる。これは 2024 年中には出版されるであろう。

一方、日本列島の大きな構造がどうしてできたのかはいまだに定説がなく基本的なことが曖昧模糊としている。そのうちの 7 つの事件を取り上げて考察することを考えている。

これには災害、あるいは天変地異が関係しているようである。これも本としてまとめたい。

関東地震の折に静岡県にどのような被害があったのかは吉村昭の「闇を裂く道」に詳しい。丹那トンネルを作った苦労、特に破碎帯と水との戦いが良く書かれている。これはリニアに反対する理由として丹那トンネルをみよということで説明が付くが、トンネル工事の折に関東地震が起こっている。その時の静岡県の被害が驚くほど詳しく書かれている。おそらくこの本が最初静岡新聞に連載されたこともあって、吉村は新聞記事を丹念に読んでいたと思われる。この中で驚いたのは伊豆山で山崩れが起こって多くの家屋や人が埋まったことである。先日の熱海の地滑りが起こるよりも 100 年も前に伊豆山で同様の地滑りが起こったことである。

今後の課題として静岡県に起こった災害（岩田ほかの「静岡の大規模自然災害の科学」がある）について防災センターのメンバーといっしょに丹念に見ていきたいと考えている。

教員名：増田俊明

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授（元理学部 教授）

私は岩石の組織について調べています。具体的には、主として変形変成岩に含まれている雲母類の結晶軸の配向のばらつき（これを **preferred orientation** という）について、その成因と岩石の力学的異方性への影響に興味を持っています。鉱物が異方的に配列している岩石は、面構造（縞模様、割れやすい面）があったり線構造（面構造の面上で鉱物がある方向に向いている構造）があったりします。このような岩石の強度は等方的ではありません。すなわち方向によって強度が変わるのです。岩石に応力が加わった時に何が起こるのかを調べることで、地震や地滑り現象と関わってきます。

もう一つのテーマは、どうして鉱物の配列が異方的になるのか、という問題です。私としては、（１）応力場で鉱物が成長するときに応力依存性があるのだろうと考えており、（２）さらにその後の変形によってその結晶が回転するのだろう、と考えております。世界各地のそれなりの岩石を調べて少しずつ現象に迫っているつもりでいます。

教員名：三ヶ田 均

所 属：客員教授・京都大学名誉教授（元工学研究科 教授）

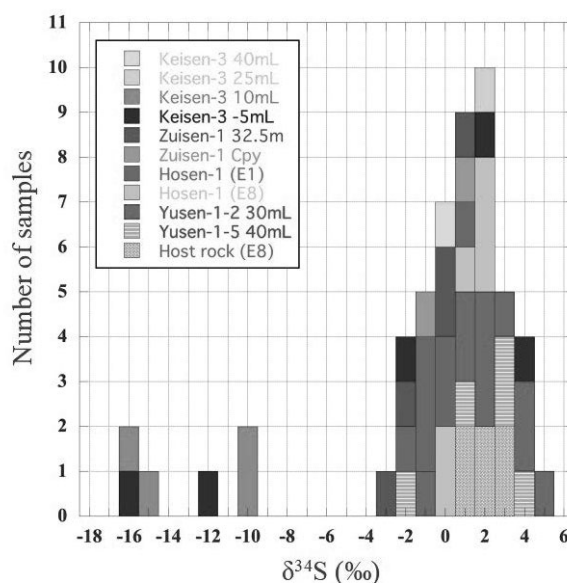
ハードウェア、アルゴリズムとも新しい探索手法についての研究を継続している。

教員名：森下祐一

所 属：客員教授

2022～2023 年度には以下の研究を行なった。

菱刈金鉱床は世界的に高品位で知られ、現在も鹿児島県で生産を続けている我が国最大の鉱脈型含金石英脈である。本研究では 0.4mg までの微小方解石試料の炭素・酸素同位体比を測定して熱水の起源と進化を推定した。その結果、天水起源の周辺の金鉱床とは異なり、本鉱床ではマグマ起源の熱水が熱水系に流入することにより高品位な金の濃集を実現したと結論づけた。また、本研究では黄鉄鉱の微小領域硫黄同位体比も測定した。先行研究でバルク岩石の硫黄同位体比が報告されており、その値は概ね 0 パーミルであり、マグマ起源の値を示すとされた。本研究では二次イオン質量分析法(SIMS)を用いて黄鉄鉱の 3mm の領域の硫黄同位体比を測定した (図)。その結果、黄鉄鉱の硫黄同位体比の大部分が 0 パーミル付近に分布する点は先行研究と同様であるが、金の濃集部(Keisen veins)で-10 パーミルより低い値を示すことを明らかにした (Morishita and Yabe, 2022 doi.org/10.3390/min12121595)。



鉱物と熱水の反応において、熱力学的平衡を仮定し、その環境での同位体平衡分別係数を求める事は重要であるが、完全な平衡下では熱水から鉱物が晶出しないことは明らかである。従って、結晶生成はキネティクス(kinetics)により支配されるが、それがどの程度平衡反応に近いかは結晶成長のメカニズムに依存すると考えられる。このため、地質現象として起きるキネティックな素過程の進行速度の目安となる鉱物生成速度などを考慮することが重要である。本研究では気体質量分析計により分析した石英と方解石の酸素同位体比と、顕微鏡観察による鉱物の産状から「石英、方解石が平衡に近い環境で沈澱した」場合と「石英、方解石が非平衡な環境で沈澱した (それぞれの晶出ステージが異なる)」場合を比較して考察した (Morishita, 2023 doi.org/10.3390/app13095610)。

社会的活動では、静岡県環境影響評価審査会委員や静岡県中央新幹線環境保全連絡会議の地質構造・水資源部会専門部会長及び生物多様性部会専門部会委員を務めている。また、日本学術振興会 R026 先端計測技術の将来設計委員会委員や独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 湿式製錬技術開発委員会委員を務める。

教員名：吉田明夫

所 属：客員教授

箱根火山の2015年の活動の中で、5月半ばに芦ノ湖北岸において顕著な群発地震活動が発生した。その最も激しかった15日の活動では拡張係数が約 $16 \text{ m}^2/\text{sec}$ という地震発生域の高速拡張が観測された。この群発活動は中央火口丘下の地震活動と連動しておらず、空間的にも両活動域の間には間隙が存在する。群発活動域のすぐ北側の湖尻観測点の傾斜計では4月末から北下りの傾斜変化がゆっくりと進行していた。一連の群発地震活動のはじまりは5月8日の活動域西端での浅い地震の発生だった。その後、活動は東漸して、5月15日午前湖尻付近で浅い地震が多発した後、活動域が高速拡張した。高速拡張した時の地震の深さは2 km前後だった。これらの観測事実をもとに、2015年の群発活動の発生要因として、以下のような仮説を提唱した—芦ノ湖北岸域のキャップロック下の深さ2 km前後に存在した西北西-南南東走向の破碎帯に、ガスを多量に含むマグマ由来の火山性流体が、箱根火山の活動がはじまっていた4月末からゆっくりと侵入していった。5月8日頃、カルデラ縁に近いキャップロックで覆われていない破碎帯の北西端で火山性流体が上昇し、大気と通じて脱ガス、発生した気泡が岩石の割れ目に入って間隙圧が高まり浅い地震が発生した。その後、活動は破碎帯内を東漸して、15日朝に湖尻付近に達し、そこに存在した火山性流体の溜まりで圧力が高まって流体がキャップロックの隙間を上昇、一気に通気が進んで流体内部圧力が急減し、大量の気泡が生じて地震が多発した。流体内部圧力の急減と溶け込んでいたガスの放出、間隙圧の増大という状況は流体で充填されていた深さ2 km前後の破碎ゾーンに沿って伝播し、それが地震発生域の高速拡張現象として観測された。

教員名：渡辺俊樹

所 属：客員教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授

主に地震波動を用いて地球の内部を「見る」物理探査の研究を行っています。防災に関連する研究として、地震活動や火山活動が起こる場所がどのようになっている、なぜ地震・火山噴火が起きるのかを理解する第一歩として、まず、構造や状態を「調べ」、さらに、現象が発生するまでのプロセスを「監視する」研究をしています。また、地すべりや液状化といった地盤災害に関する浅部地盤探査の研究も行っています。2022 年度～2023 年度に実施した研究を以下に紹介します。

八丈島火山の構造調査：東京都立大学が実施する東京都の島嶼部の火山災害研究プロジェクトの一環として、八丈島において 2019～2020 年の地震観測に引き続き 2 回目の地震観測を 2021 年 9 月～2022 年 3 月に実施しました。このデータを用いて、火山島下の地震波速度構造の推定とそれを用いた微小地震の震源の再決定、2 回の観測による火山内部の変化の有無の検出の解析、火山の散乱体構造推定やその時間変化のモニタリングなどを共同研究として実施しています。

御嶽山火山の構造解析：名古屋大学が実施している御嶽山山頂域での地震観測データを用いて、御嶽山の地下の地震波速度構造と反射波構造の推定を行い、それらを基に御嶽山における熱水系のモデルを考案しました(Maeda and Watanabe, 2023)。

首都圏、近畿圏の地殻プレート構造：地震波形に含まれる微小な反射波を抽出して波動場の性質を利用して構造イメージングを行う方法を開発し、首都圏や近畿圏で密な観測点展開で取得された地震記録に適用しました(Shiraishi and Watanabe, 2023, 中丸ほか, 2022)。

活断層の調査：2020～2022 年度に「屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯（恵那山－猿投山北断層帯）における重点的な調査観測」の研究プロジェクトにおいて、「断層の三次元地下形状把握のための調査観測（サブテーマ 3）」を実施しました。2021 年度に実施した反射法探査、屈折法探査のデータ解析を実施しました。加えて、この地域で発生した微小地震の震源分布をもとに各断層深部の様子を推定しました。比抵抗法電気探査も実施しました。

浅部地盤構造の推定：名古屋市内において微動を観測し、S 波速度構造や H/V 比のマッピングを行い、地盤状況との対応を検討しました。また、名古屋市内の河川敷で実施した微動探査の結果を用いて、液状化リスク評価を従来よりも高い空間分解能で行う方法を検討しました。

浅部地盤の状態モニタリング：本センター副担当の生田准教授らとともに、微動や人工震源装置を用いた地下浅部の状態のモニタリングの研究を実施しています。地すべり地帯での降雨や地下水位などの影響と地盤震動との関係を調べています (Feng et al., 2023)。

教員名：井ノ口宗成

所 属：客員准教授・富山大学准教授

令和6年1月1日の能登半島地震では、富山県内においても20,000棟を超える住家被害が発生した。その多くは、石川県に隣接する氷見市を中心に発生し、揺れによる被害のみならず、液状化による被害も多数発生した。この状況に対し、取り残しのない生活再建支援を進めるべく、氷見市を対象として住家被害認定調査ならびに罹災証明書交付の支援活動を実施した。特に、対口支援の枠組みによって県外から多くの応援職員が動員されたこともあり、受援体制支援もあわせて実施した。具体的な活動事項は、以下の通りである。

1. 戦略的な調査方針の決定

- 予備調査による調査方法の決定
- 地域特有の課題の特定と解決策の導出

2. 応援職員マネジメントの実施

- 事前研修による調査方針の認識統一
- 事務局空間の効果的なレイアウト設計

3. 調査実施の着実な進捗管理

- データマネジメント
- 日次での進捗管理

4. ぬけもれのない調査フォロー

- 罹災証明交付担当との連携調整
- 聞き取りやアンケート調査による屋内被害の把握

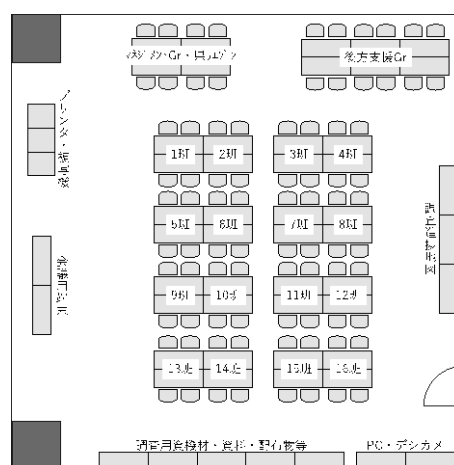


図1 事務局空間のレイアウト

迅速に体制整備を進めるために、発災直後より状況見積（被害量および被害発生の様相）を実施した。当初、被害状況の全容は把握できておらず、震度5強を観測という情報のみで見積もる必要があり、全世帯数の3割程度（約5,000棟）に住家被害があると想定した。調査の日次実績（図2）が示すように、応援を含めた調査では想定被害量に対して、おおよそ予定通りに遂行した。

しかし、実際には軟弱地盤による影響から、想定を上回る被害量であった。この想定との差が、氷見市にとって単独で調査を必要とする対象として残された。本事例から、早い段階における高精度な状況見積の重要性が再認識された。

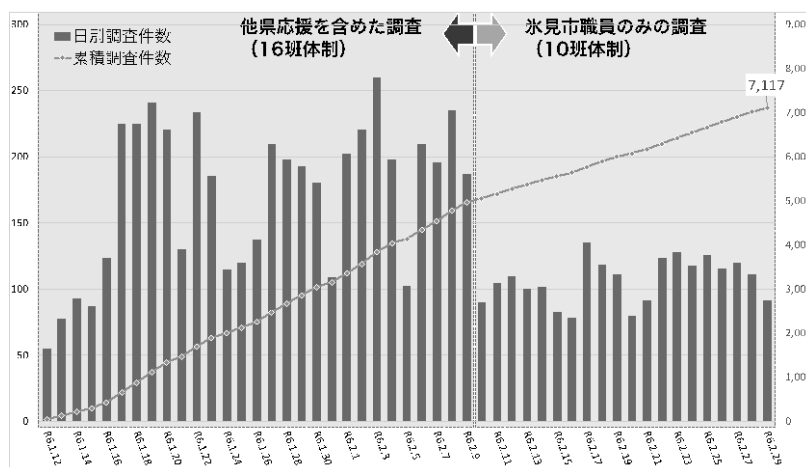
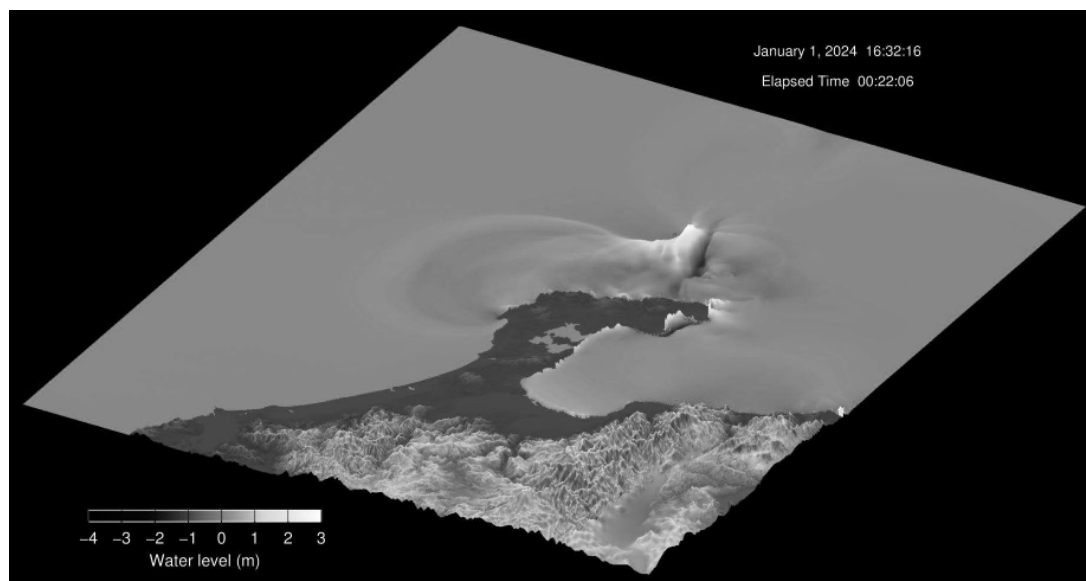


図2 住家被害認定調査の日次実績

教員名：菅原大助

所 属：客員准教授・東北大学災害科学国際研究所准教授

北海道・東北地方の古津波調査を中心に、土砂移動数値シミュレーションの高度化、波源推定などの研究に取り組んでいます。2024年1月1日の能登半島地震では、津波痕跡・堆積物の現地調査と津波数値シミュレーションによる波源推定を実施しました。



2024 年能登半島地震津波の再現シミュレーション

教員名：中西利典

所 属：客員准教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム・教授

2022～2023 年度は、科学研究費補助金・基盤研究（A）「汽水成年縞堆積物と年輪試料の複合解析による完新世の気候変化と高分解能編年の研究」斎藤文紀ほか、同「磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明」小田啓邦ほか、同（B）「年縞を用いた ASGM による環境汚染の実態解明」山田和芳ほか、同「フィリピン・ルソン島のパイタン湖ボーリングコアによる高精度環境復元」奥野 充ほか、同「日本の動物相の原風景—集団ゲノミクスと古代 DNA による在来動物の集団史の解明」岸田拓士ほか、同「河川のアバルジョンに着目した氾濫原の形成過程の解明」堀 和明ほか、同挑戦的研究（開拓）「最先端地下可視化技術によるサイスミックトレンチ法が拓く活断層の長期間活動履歴研究」石山達也ほか、同「人工水域から都市環境を診る：人新世地理環境学の創成」山田和芳ほかに分担者として参画して、下記の三分野の研究などを遂行した。

静岡県の活断層の活動履歴の研究

富士川河口断層帯や北伊豆断層帯などの静岡県内で直下型の地震被害を生じさせる活断層において野外調査や室内分析を実施して、それらの活動履歴を検討した。北伊豆断層帯に関する研究成果の一部を *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B* 誌に公表し（Kimura *et al.*, 2023）、富士川河口断層帯に関する研究成果の一部は欧州地球科学連合（Ishiyama *et al.*, 2023）や Radiocarbon 国際学会（Nakanishi *et al.*, 2022）、東アジア加速器質量分析（AMS）シンポジウム（Nakanishi *et al.*, 2023）等で発表した。

放射性炭素（ ^{14}C ）を用いた年代測定の研究

釧路市春採湖と三陸海岸における ^{14}C 海洋リザーバー効果に関する研究成果が *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B* 誌に掲載された（Nakanishi *et al.*, 2023ab）。また、春採湖や横浜市、高知県宿毛市、博多湾での ^{14}C 年代測定を用いた共同研究の成果の一部が、*LAGUNA* 誌（酒井ほか, 2024）、*Biological Journal of the Linnean Society* 誌（Kishida *et al.*, 2023）、*Island Arc* 誌（Yamaguchi *et al.*, 2022）、*Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 誌（Kajita *et al.*, 2023）にそれぞれ掲載された。

第四紀後期の地質試料を用いた古環境変化や自然災害に関する研究

国内外の第四紀後期における古環境変化や自然災害の履歴を解明するため、野外踏査やボーリング調査、室内分析などを実施した。その結果、奈良盆地東縁断層帯に関する成果が活断層研究誌（堤ほか, 2023）に、出雲平野の沖積層に関する成果が *LAGUNA* 誌（瀬戸ほか, 2023）に、熱海土石流の研究成果が静岡大学地球科学研究報告（北村ほか, 2022a-d ; 2023）にそれぞれ掲載された。

教員名：紅谷昇平

所 属：客員准教授・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授

企業、自治体等の災害対応やそのための計画、訓練に関する研究を実施しています。

企業に関しては、中小企業強靱化法（2019 年）に基づく事業継続力強化計画認定制度という比較的新しく創設された仕組みに着目し、その策定プロセスや支援体制に関する実態調査を行いました。事業継続力強化計画には単独型と連携型の二種類があり、特に連携型は、中小企業どうしの相互の助け合いを推進する狙いがあり、その効果や普及状況に注目しています。現在は、単独型でも連携型でも策定によるインセンティブが同じなので、連携型に取り組んでいるのは、防災への意識が高い企業が中心です。連携型に取り組むことによるメリットを政策的に作り出していくことが重要であり、現在、査読論文として成果をとりまとめ中です。

自治体に関しては、被災した市町村に対して、所管する都道府県がどのような人的支援を行ってきたかに注目し、河川情報センターの助成を得て研究を行ってきました。都道府県によって、被災市町村への人的支援状況には違いがあります。上手くいった事例としては、令和 2 年 7 月豪雨の熊本県があり、被害発生直後から部長級をトップとする支援チームを派遣しています。単にリエゾン（情報連絡員）やマンパワーとなる職員を派遣するだけでなく、幹部職員をトップとするチームを、速やかに派遣する重要性が明らかになりました。この研究成果を公表した論文「水害被災市町村の応急対応に対する当該都道府県による人的視点の役割」（地域安全学会論文集 No.41）は、2022 年地域安全学会年間優秀論文賞を受賞し、成果をまとめた報告書は、47 都道府県および総務省、内閣府（防災）に送付いたしました。

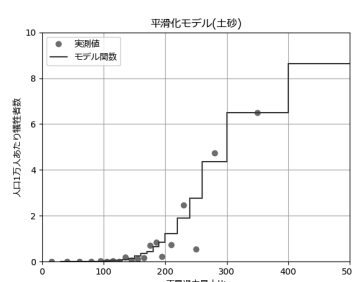
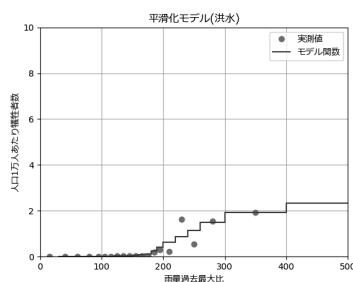
他にも高齢者介護施設における業務継続や大学における留学生への防災対策についても研究に取り組んできました。組織の形態は異なっても、初動対応やそのための体制・準備については共通点が多く、俯瞰的に見るからこそ明らかとなるポイントがあります。また大学において国際化の重要性が指摘されますが、受け入れた留学生への防災対策は、日本人学生に比べて不十分であり、「隗より始めよ」の言葉を痛感いたしました。留学生向けの防災力確認テストのサイト (<https://forms.gle/UAxoZG8Xnz1HUTZMA>) も実験的に作成してみました。回答すると正解と解説が見られますので、よろしければお試しください。

教員名：本間基寛

所 属：客員准教授・一般財団法人日本気象協会 担当部長

2022～2023 年度は、「豪雨災害における犠牲者数の推定方法に関する研究」に取り組みました。この研究では、過去の雨量観測最大値との比である「既往最大比」と災害危険区域、人口分布、居住形態の各データを使用し、過去の豪雨事例から**水害犠牲者推計モデル**を構築しました。**河川・洪水と土砂災害のそれぞれで推計モデルを構築し**、2010-2022 年の豪雨 78 事例の雨量データと犠牲者発生位置データで分析しました。年間の水害犠牲者数を推計した結果、2018 年、2020 年の洪水で推計値が実績値に比べて過小評価の傾向がありましたが、全体的な傾向はおおむね一致する傾向が得られました。土砂災害は洪水に比べて災害リスク区域内人口当たりの犠牲者数が多く、土砂災害では遭難時の致死率が高くなる傾向が示唆されました。

構築した
犠牲者数
推計モデル



年別水害犠牲者数の
推計値・実績値比較

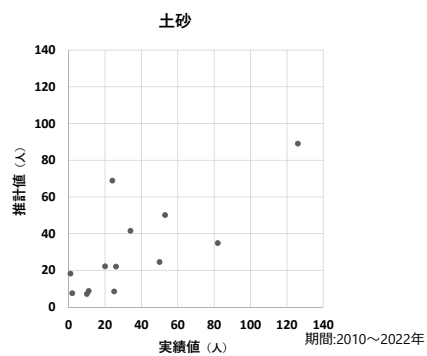
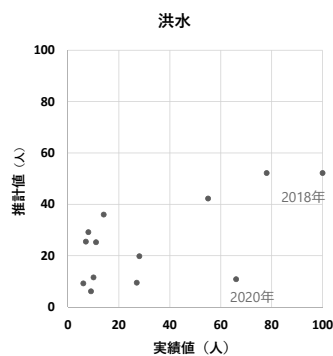


図 洪水及び土砂災害における犠牲者推計モデルの構築

教員名：松井 務

所 属：客員准教授・国立大学法人浜松医科大学地域医療学講座 客員准教授

地域医療学講座は、中部電力株式会社による寄附講座です。

静岡県では安全・安心な地域を形成するために、南海トラフ地震などの集団災害に備えた対策を行政、住民などが一体となって進めています。しかし、対策を実行する上で重要な役割を担う医療の実態は、人口 10 万人あたりの医師数が静岡県は全国平均に比べて少なく、さらに二次保健医療圏別にみると中東遠および志太榛原の両医療圏は全国平均の 6 割～7 割程度であるなど、医師不足そして医師の地域偏在が深刻になっています。

医療面からの集団災害への対応は、まずは平常時から地域の各病院が機能し、その上で災害発生を想定した訓練等の備えを継続することが重要です。そこで当講座は、上記の二次医療圏を中心に住民の立場から地域医療を育む住民活動の支援や災害医療（特に原子力災害医療）に関わる人材育成などの活動を行っています。

2.2 研究業績リスト

2.2.1 著書

秋元菜摘, 2023, コンパクトなまちづくりをめぐる相克, 584-585, 日本地理学会編『地理学事典』, 古今書院.

Angelini, M.L., R. Muñiz (吉川肇子分担執筆, 担当範囲: Interactive Courses and Assignments Using Simulation and Gaming in the COVID-19 Era.) Springer 2023 年 8 月.

紅谷昇平: 災害復興学事典 (共著)、朝倉書店 (分担執筆: 紅谷昇平「企業の事業継続 (BCP、BCM)」 pp.110-111 を担当)、2023 年 9 月.

紅谷昇平: 地域防災データ総覧 大規模災害時の応援・受援 (人的・物的支援) 編 (共著)、消防防災科学センター、(分担執筆: 紅谷昇平「被災自治体への人的支援の必要性と課題」 pp.7-15 を担当)、2024 年 2 月.

千木良雅弘, 高レベル放射性廃棄物地層処分場の立地選定—地質的不確実性の事前回避—, 近未来社, 2023.

Fei, Y., Walter, M., Badro, J., Hirose, K., Lord, O. T., Campbell, A., Ohtani, E., Investigation of Chemical Interaction and Melting Using Laser-Heated Diamond Anvil Cell, Static and Dynamic High Pressure Mineral Physics, Cambridge University Press pp 300-336, 2022.

藤井基貴・村越真・中村美智太郎・塩田真吾 (編) (2023) 教育の現代的課題シリーズ 防災教育と ICT. 静岡学術出版.

藤井基貴 (2023) 「1 章 1 節 哲学対話の道德授業」「4 章 2 節 哲学対話の道德授業 Q & A」「終章 1 節 哲学対話の未来 1 節」『子どもの問いではじめる！哲学対話の道德授業』明治図書、(総頁数 168 頁).

藤井基貴 (2023) 「はじめに」、「防災教育における ICT の可能性」、「令和 4 年台風 15 号における調査」、「感染症対策と防災」『防災教育と ICT』静岡学術出版、担当頁数 38 頁、総頁数 135 頁.

藤井基貴 (2022) 「第 12 章 スポーツを題材とした道德教育の実践開発に向けて」『続・道德教育はいかにあるべきか』ミネルヴァ書房、193—209 頁、総頁数 320 頁

藤井基貴編著 (2022) 『スポーツ・インテグリティ入門 (卓球編)』静岡大学現代教育研究所、1—10 頁、総頁数 10 頁

藤岡換太郎 2022、天変地異の地球学—巨大地震、異常気象から大量絶滅まで、講談社ブルーバックス

二川雅登、南戸 秀仁, “Society 5.0 における農業・環境センシング最前線”, シーエムシー出版, 監修: Society 5.0 における農業および環境センシング技術に関わる調査研究委員会, 2023 年 6 月 30 日, 5.6 節 防災・減災に役立つセンシング, pp.231—238.

林 能成, 『ファミリービジネスの事業承継と経営戦略—関西ファミリービジネスの BCM

- と東アジア戦略―』(p.215-225,「第 10 章 地震・津波研究における事業継続マネジメントと事業承継」), 関西大学出版会, 2024.
- 井ノ口宗成:「レジリエンス社会」をつくる研究会:しなやかな社会の実現きたるべき国難の先に, 日経 BP コンサルティング, pp.188-191 (分担執筆), 2022.4.
- Kamada, S., Sakamaki, T., Ohtani, E., Elasticity at High Pressure with Implication for the Earth's Inner Core, Static and Dynamic High Pressure Mineral Physics, Cambridge University Press, pp.189-220, 2022.
- 狩野謙一, 2023: 1-1-3 最後の海と最初の陸地. 富士宮の歴史・自然環境編, 第 1 章 富士宮の大地, 静岡県富士宮市, 18-29.
- 狩野謙一, 2023: 1-1-5 活断層が作った富士宮の地形. 富士宮の歴史・自然環境編, 第 1 章 富士宮の大地, 静岡県富士宮市, 54-65.
- 狩野謙一, 「大井川に沿う赤石山地・南アルプスのジオサイトガイド」, 静岡県環境部自然環境保護課ホームページ.
<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/1056979.html> 【監修】
- 川野 誠・木村浩之, メタネーションとグリーン水素の最新動向, シーエムシー出版, 2023 (第 I 編, 第 4 章「微生物的メタネーション」を執筆した).
- 川瀬憲子 (単著)『集権型システムと自治体財政―「分権改革」から「地方創生」へ』(自治体研究社、2022 年、全 205 頁)
- 川瀬憲子 (共編著) 平岡和久・川瀬憲子・栗田但馬・霜田博史編著『入門 地方財政―地域から考える自治と共同社会』(自治体研究社、2023 年、全 415 頁)、執筆箇所 第 2 章 公共サービスと地方経費 (45-69 頁)、第 4 章 国と地方の財政関係 (101-130 頁)、第 11 章 まちづくりと地方財政 (225-235 頁)、第 21 章 地方自治をめぐる動向と地方財政、(第 1 節 357-358 頁)、第 22 章 地方財政改革 (371-384 頁)、あとがき、用語解説 (担当章)
- 風間 聡: Water use of flood in Cambodia, Water Projects and Technologies in Asia historical Perspectives, IAHR, CRC press, Chapter 23, pp.279-288, 2023. DOI: 10.1201/9781003222736
- 風間 聡: 水文・水資源学会, 水文・水資源学会ハンドブック, 朝倉書店, pp.10-12, 2022.9.1.
- Kikkawa, T. Simulation for Participatory Education. Springer Texts in Education.
- Kikkawa, T., Kriz, W.C., & Sugiura, J. (Eds.) Gaming as a Cultural Commons. Springer. 2022 年 6 月.
- 吉川肇子 リスクを考える:「専門家まかせ」からの脱却 筑摩書房 2022 年 6 月.
- 木村浩之, 難培養微生物研究の最新技術 III (普及版), シーエムシー出版, 2022 (第 26 章「地下圏微生物によるメタン生成と分散型エネルギー生産技術への応用」を執筆した).
- 北原糸子・武村雅之・鈴木淳・森田祐介・高野宏康(2023)『関東大震災絵図:揺れたあの日のそれぞれの情景』東京美術,143pp.(共著)

- 北村晃寿, 2023, 古生物学の百科事典.丸善. 「気候変動」と「海水準変動」を担当. 2023.
- 小林朋子,「第 7 章 マインドフルな先生、マインドフルな学校：学校文化を変える」マインドフルな先生、マインドフルな学校 Kevin,H 著 伊藤靖・芦谷道子編集訳 金剛出版、2023 (p231-262)
- 小杉素子・土屋智子・桑垣玲子: “伝える” から “伝わる” に よりよいリスクメッセージの作り方, (一社)複合リスク学際研究・協働ネットワーク, 2024.
- 小山真人: 最新地学事典. 地学団体研究会編, 平凡社, 2046 p, 2024 (分担執筆)
- 小山真人: 富士宮の歴史 自然環境編. 富士宮市, 223 p, 2023 (編著)
- 小山真人: 地学基礎 (検定教科書). 実教出版, 199 p, 2022 (分担執筆)
- 望月美希、福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか (分担執筆・担当範囲: 第 8 章 「ふるさとを失う」ということ―一定住なき避難における大堀相馬焼の復興と葛藤、pp.178-197)、関 礼子・原口 弥生 (編著)、新泉社、2023 年.
- 森下祐一 (2024) 最新地学事典 (項目:イオンマイクロプローブ, 二次イオン質量分析, マトリックス効果), 最新地学事典編集委員会編, 平凡社, 2046p.
- 村越 真(2022) 研修会の安全で効果的な運営方法. 北村憲彦他 (編) 新・高みへのステップ第一部. 日本スポーツ振興センター国立登山研修所. 総ページ 225. (担当 p.165-183.)
- 村越 真(2022) 読図とナビゲーション. 北村憲彦他 (編) 新・高みへのステップ第三部. 日本スポーツ振興センター国立登山研修所. 総ページ 150. (担当 p.99-115,141-149.)
- 村越 真(2023) 山岳遭難事故の傾向.山岳事故の原因.事故発生モデルに基づく事故防止. 北村憲彦他 (編) 新・高みへのステップ第 5 部. 日本スポーツ振興センター国立登山研修所. pp.1-22. (総ページ 135)
- 村越 真 (2023) 学校危機管理学から見た子供. 日本健康相談活動学会 (編) 健康相談活動学.pp.48-50.日本健康相談活動学会.
- 中川和之「災害復興学事典」(日本災害復興学会編: 分担執筆: 景観と地名による伝承、朝倉書店、2023 年 9 月)
- 中西利典, 駿河湾の成り立ち, うつりゆく駿河湾〜人と自然の関わりから見た過去、現在、そして未来〜, 第一部, 第一章, しずおかの文化 4, ことのは社, p. 12-21, 2022 年 7 月 (査読無し)
- 中西利典, 海洋リザーバー効果. 最新 地学事典, 地学団体研究会 (編), 2024 年 3 月 (査読無し)
- 中西利典, 群列ボーリング. 最新 地学事典, 地学団体研究会 (編), 2024 年 3 月 (査読無し)
- 佐藤 健, 自分で地域で 手づくり防災術 土砂崩れ、洪水、地震に備える, 農山漁村文化協会, 2023 (地理院地図を使ってハザードマップを読む)
- 佐藤 健, こどものためのもしもマニュアル “きんきゅうじたいにつかうもの” がわかる

本, 理論社, 2024 (監修)

渋川浩一, 中西利典, 日下宗一郎, 山田和芳, 菅原大助: 『うつりゆく駿河湾(しずおかの文化 4)人と自然の関わりから見た過去、現在、そして未来』, ことのは社, 2022 年

武村雅之 (2023) 『関東大震災がつくった東京一首都直下地震へどう備えるか』 中公選書／中公新社, 245pp. (単著)

武村雅之 (2023) 『ノブさんからのメッセージ: 手記に学ぶ関東大震災』 東京防災救急協会／桜映画社 DVD. (監修)

武村雅之・北原糸子(2023) 『関東大震災: 1923 年、東京は被災地だった』 改訂版, 東京防災救急協会, 135pp. (監修)

武村雅之 (2023) 『神奈川県 関東大震災遺構一県内に残る関東大震災の爪痕』 神奈川県くらし安全防災局, 183pp. (監修)

武村雅之 (分担執筆), 鈴木康弘・他編(2023) 『新・災害と防災(1)地震』 帝国書院, 63p

田阪美樹: 最新 地学事典, 平凡社(2024 年), 著書(教育), 分担執筆, 地学団体研究会編

渡辺俊樹 (分担執筆), 最新地学事典, (編) 地学団体研究会, 平凡社, 2024.

山崎 登: 災害情報はなぜヒットしないのか ～住民の避難を進めるために～, 近代消防社, 令和 5 年 3 月 25 日, 単著.

2.2.2 学術論文

Abeygunasekara, H., So Kazama, Chaminda, Samarasuriya, Numerical modeling of landslide susceptibility: A case study for Uma Oya Catchment, Sri Lanka, Journal of JSCE, Special Issur, Vol.11, Iss.2, 23-27036, 2024.2.14.
DOI:10.2208/journalofjsce.23-27036

Abeykoon, S., Howard, C., Dominijanni, S., Eberhard, L., Kurnosov, A., Frost, D J., Boffa Ballaran, T., Terasaki, H., Sakamaki, T., Suzuki, A., Deuterium content and site occupancy in iron sulphide at high pressure and temperature determined using in situ neutron diffraction measurements, Journal of Geophysical Research: Solid Earth e2023JB026710 2023.

秋元菜摘・田中捺希 2022.大学における防災教育と学生への情報提供ー ICT の利活用と地域連携の可能性ー. 地理空間 15(1): 49-63.

Ballesteros-Cánovas, J. A., Kariya, Y., Imaizumi, F., Manchado, A. M. T., Nishii, R., Matsuoka, N., Stoffel, M. (2023/12) Debris-flow activity in the Japanese Alps is controlled by extreme precipitation and ENSO – evidence from multi-centennial tree-ring records, Global and Planetary Change, 231, 104296,
<https://doi.org/10.1016/j.gloplacha.2023.104296>

紅谷昇平「水害被災市町村の応急対応に対する当該都道府県による人的支援の役割」 地域安全学会論文集 No.41, pp.295-302, 2022 年 10 月.

- Bouvier, A., Kimura, M., Lin, Y., Ohtani, E., Sharp, T., Preface for article collection “Thermal, dynamical, and chemical processes in our early Solar System”, *Progress in Earth and Planetary Science* 9 (1), 1-3, 2022.
<https://doi.org/10.1186/s40645-022-00522-2>
- Chen, H-Y., Y-J. Hsu, R. Ikuta, H. Tung, C-H. Tang, C-S. Ku, H-H. Su, P-R. Jian, M. Ando, & T. Tsujii, Strain partitioning in the southern Ryukyu margin revealed by seafloor geodetic and seismological observations. *Geophysical Research Letters*, doi: 10.1002/2022GL098218, 2022
- 千葉皓太, 風間聡, 分布型流出モデルを用いた人口減少による中小河川の流量の変動評価, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.78. No.2, I_535-I_540, 2022.11.25.
- Chigira, M., 2022. An obelisk - shaped granitoid tower at Mt. Jizogadake in the Southern Alps of Japan : A 3 - D morphological study. *Island Arc* 31.
- Chigira, M., Kato, H., 2023. Granite rock towers shaped by mesh - like joint sets, which formed in the shallower portion of a granite body during cooling at depth. *Island Arc* 32.
- Chigira, M., Kato, H., 2024. A zone of columnar joints beneath the roof of a granitic pluton: The Okueyama granite, southwestern Japan. *Island Arc* 33, 1-13.
- Chigira, M., Tsou, C.-Y., Higaki, D., Amatya, S.C., 2022. A series of rockslides and gravitational slope deformations aligned along the Kali Gandaki across the Nepal Himalaya. *Geomorphology* 400.
- 千木良雅弘, 2022. 研究所からの報告 (深田地質研究所) . 地質と調査 22, 47-52.
- 千木良雅弘, 2022. 最近の地質調査の道具立てと QGIS によるデータ統合. 深田地質研究所年報 23, 125-136.
- 千木良雅弘, 2023. 対馬市内山花崗岩体のルーフ直下の柱状節理とその下位の塊状部. 深田地質研究所年報 24, 47-61.
- 千木良雅弘, 金子誠, 2023. 西オーストラリア Wave Rock (ウェーブロック) の地質と地形. 深田地質研究所年報 24, 33-46.
- 千木良雅弘, 田近淳, 2022. 2018 年北海道胆振東部地震によってテフラすべりが膨大に発生した地形的背景ー普遍的に存在する遷急線と遷急点の実証ー. 深田地質研究所年報 23, 111-124.
- 千木良雅弘, 北村晃寿, 木村克己, 市村康治, 2022. 熱海市逢初川盛土崩壊の地質的原因について. 静岡大学地球科学研究報告 49, 45-059.
- Chubachi, N., Kumiko Konno, Yo Fukushima, Takeshi Sato : “What if the Nankai Trough Earthquake Occurred?” : A Collaboration Between Academia with the Media Using a Newspaper-Making Workshop as a Starting Point to Engage Elementary School Students and Their Parents in Disaster Risk Reduction, *Journal of Disaster*

- Research, Vol.18, No.4, pp.397-414, 2023.6
- Dominijanni, S., McCammon, CA., Ohtani, E., Ikuta, D., Sakamaki, T., Ishii, T., Criniti, G., Dubrovinsky, LS., Khandarkhaeva, S., Fedotenko T., …, Sound Velocity Measurements of B2 - Fe - Ni - Si Alloy Under High Pressure by Inelastic X - Ray Scattering: Implications for the Composition of Earth's Core, Geophysical Research Letters 49(15) 2022.
- Ebina, Y., Sugawara, D.: Reconstructing historical terrain to elucidate the causes of disaster occurrence and improve disaster prevention literacy, Journal of Disaster Research 19, 1, 30-37, 2024.
- 藤井基貴・鵜飼峻二「高校公民科「公共」における「人間の尊厳」の取り扱い(2)：学習指導要領及び教科書における記載を中心に」『静岡大学教育実践総合センター紀要』 34、2024 年 3 月、109-117 頁。
- 藤井基貴「キーワードでよくわかる 道德教育の新常識 防災教育」『道德教育』783、2023 年、54-55 頁。
- 藤井基貴「高校公民科「公共」における哲学対話（P4C）の可能性 ―教科書分析を中心に―」『静岡大学教育実践総合センター紀要』 33、2023 年 3 月、144-151 頁。
- 藤井基貴「現代的な諸課題に道德教育はどう応えるか―『防災道德』の授業開発から考える―」『道德と教育（日本道德教育学会学会誌）』 342、2023 年、89－99 頁。
- 藤井基貴「世界市民主義と愛国主義―カントと同時代の教育思想―」『教育哲学研究』 127、2023 年、128-131 頁
- 藤井基貴「道德科における評価考―立浪さんのサイン帽―」『道德と教育（日本道德教育学会学会誌）』 341、2022 年、93-94 頁。
- 藤井基貴「哲学的大学像の再考―デカルト、カント、サクラエビー」『近代教育フォーラム（教育思想史学会学会誌）』 31、2022 年、73-80 頁。
- 藤原 明, 渡辺俊樹, 東中基倫, 阿部 進, 伊藤谷生, 狩野謙一, 佐藤 剛, 阿部信太郎, 津村紀子, 岩崎貴哉, 武田哲也, 山本玄珠, 佐藤比呂志, 石山達也, 小田原啓, 原田昌武, 小森次郎, 富士川河口断層帯から糸魚川-静岡構造線に至る伊豆弧衝突帯北西部の地殻構造―統合的地震探査 FIST2012 の成果―, 地学雑誌, 133 (1), 23-48, 2024.
- 萩原照通, 会田俊介, 風間聡, 袋型根固め材に繁茂した植生が河川護岸に及ぼす影響, 土木学会論文集 G (環境), Vol.78. No.5, pp. I_135-I_142, 2022.8.31.
- Hagiwara, T., Shunsuke Aita, Kazuya Watanabe, So Kazama, A Numerical Analysis About Suspended Sediment Deposition Around Filter Unit, Proceedings of the 39th IAHR World Congress, 04-05-001-221, 2022.6.
DOI:10.3850/IAHR-39WC252171192022221
- 萩原照通, 会田俊介, 風間聡, 植生および堆積土砂が袋型根固め材の安定性に及ぼす影響, 河川技術論文集, 第 29 巻, 311-316, 2023.6.22.

- Hasada, Y., Kasahara, J., et al., Investigation of DAS characteristics by complementary observations of DAS in geothermal wells and by surface seismometers, in “Distributed Acoustic Sensing for borehole Geophysics”, AGU monograph, in press.
- 橋間昭徳, 佐藤比呂志, 石山達也, 日本海溝におけるプレート間相互作用による東北日本背弧域の震源断層への応力蓄積, 地震予知連絡会会報, 108, 654-656, 2022.
- 林 拙郎: 山形県鶴岡市西目の深層崩壊の破壊－崩壊経過と水文誘因－, 砂防学会誌, Vol.76, No.4, p.25-32, 2023.
- 林 泰成・藤井基貴「道德教育と防災教育」『道德教育論叢(日本道德教育方法学会学会誌)』, 1、2023 年、101-110 頁
- 林 能成・高橋浩晃・元吉忠寛, 北海道における北海道・三陸沖後発地震注意情報の認識状況とその地域差, 社会安全学研究, vol.14, p.107-116, 2024.
- 林 能成, 地震被害の集中域が地震によって反転する事例 静岡県中部における 1944 年東南海地震と 2009 年駿河湾の地震の場合, 社会安全学研究, vol.14, p.119-124, 2024.
- 本間基寛・牛山素行: 令和 3 年 8 月の大雨での降水量と犠牲者発生の関係性の検証, 自然災害科学, 41, 特別号, pp.1-18, 2022.
- 本間基寛・牛山素行: 線状降水帯に関する情報に対する住民の受け止め方の調査, 災害情報, 21, pp.35-46, 2023.
- 本間基寛・牛山素行: 令和 4 年の大雨事例における雨量と人的被害発生の関係性, 自然災害科学, 42, 特別号, pp.1-20, 2023.
- 本間基寛・諸原慎之介・戸谷洋介・後藤祐輔・牛山素行: 風水害時における宿泊施設への避難に向けた課題, 災害情報, 21, 2, pp.157-168, 2023.
- Hsieh, W-P., Marzotto, E., Ishii, T., Dubrovinsky, L., Aslandukova, AA., Criniti, G., Yi - Chi Tsao, Yi-Chi., Lin, C-H., Tsuchiya, J., Ohtani, E., Low Thermal Conductivity of Hydrous Phase D Leads to a Self - Preservation Effect Within a Subducting Slab, Journal of Geophysical Research: Solid Earth 127(6) 2022.
- 池田恵子, 言葉から行動へー男女共同参画視点の実質的導入に向けてー, ビオシティ, 93, 26-33, 2023.
- 池田恵子, 言説化されにくい復興の課題, 学術の動向, 28 巻 3 号, 3-65, 2023.
- Ikemoto, A., So Kazama, Takeo Yoshida, Hayata Yanagihara, Evaluation and Study of Flood Damage Reduction for Future Flood Control Use of Irrigation Reservoirs in the View of Local, Proceedings of the 40th IAHR World Congress, pp.915-922, 2023.8.22. Vienna. DOI:10.3850/978-90-833476-1-5_iahr40wc-p1306-cd
- Ikemoto, A., So Kazama, Takeo Yoshida, Hayata Yanagihara, Evaluation of an adaptation strategy for flood damage mitigation under climate change through the use of irrigation reservoirs in Japan, Water Resources Management, Vol.37, pp.4159-4175, 2023. 6. DOI: 10.1007/s11269-023-03544-7

- 池本敦哉, 風間 聡, 吉田武郎, 柳原駿太, 峠 嘉哉, ため池の治水活用の潜在的効果と
県別の洪水被害軽減の評価, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.78. No.2, I_265-I_270,
2022.11.25.
- Ikuta, D., Ohtani, E., Fukui, H., Sakai, T., Ishikawa, D., Baron, A Q R., Sound velocity
of hexagonal close-packed iron to the Earth's inner core pressure, *Nature
Communications* 13(1) 2022.
- Ikuta, D., Ohtani, E., Fukui, H., Sakamaki, T., Heid, R., Ishikawa, D., Baron, A Q R.,
Density deficit of Earth's core revealed by a multimegabar primary pressure scale,
Science Advances 9(36) eadh8706 2023.
- Ikuta, R., & R. Oba, How credible are earthquake predictions that are based on TEC
variations? *Journal of Geophysical Research: Space Physics*,
doi:10.1029/2021JA030151, 2022
- Imaizumi, F., Oya, S., Takayama, S. (2023/6) Initiation and runout characteristics of
partially saturated debris flows in Ohya landslide scar, Japan, *Proceedings of 8th
International Conference on Debris Flow Hazard Mitigation*, 03013.
- Imaziumi, F., Osanai, N., Jato, S., Koike, M., Kosugi, K., Sakai, Y., Sakaguchi, H.,
Satofuka, Y., Takayama, S., Tanaka, T., Nishi, Y. (2022/6) Debris flow disaster in
Atami, Japan, in July 2021, *International Journal of Erosion Control Engineering*,
15, 1, 1-6, <https://doi.org/10.13101/ijece.15.1>
- 井ノ口宗成・壽崎成秋: マルチエージェントシミュレーションを活用した避難時の橋梁の必
要性評価 ～福島県浪江町を事例として～, 電子情報通信学会 信学技報, Vol.122, No.56,
pp.34-38, 2022. (査読無)
- 井ノ口宗成: 生活再建を中心とした共起ネットワークの年次変化の把握 ～東日本大震災に
関する新聞記事を事例として～, 井ノ口 宗成, 第 22 回情報科学技術フォーラム論文集,
pp.4, 2023. (査読無)
- Inoguch, M. : Development of Cloud-Based Support Tools for Effective Evacuation
Focusing on Time-Phase from Pre-Registration to Post-Incident Response to Improve
Literacy for Disaster Resilience, *Journal of Disaster Research*, Vol.19, No.1, pp.56-71,
2024. (査読有)
- 井下雄揮, 千葉皓太, 風間 聡, 平賀優介, 人口減少に伴う土地利用及び河道条件変化によ
る中小河川の流量変動, 土木学会論文集 (水工学), 80 巻, 16 号, 23-16186, 2024.2.29.
DOI:10.2208/jscej.23-16186
- 石橋秀巳, 鬼塚寛士, 岩城吉春, 森 英樹: 斑晶に富む玄武岩質溶岩の固体 - 液体遷移の実
験的研究: 富士山水神溶岩の例. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 33-43, 2022
- Ishii, T., Criniti, G., Ohtani, E., Purevjav, N., Fei, H., Katsura, T., Mao, H-k,
Superhydrous aluminous silica phases as major water hosts in high-temperature

- lower mantle, *Proceedings of the National Academy of Sciences* 119(44) 2022.
- Ishii, T., Ohtani, E., Shatskiy, A., Aluminum and hydrogen partitioning between bridgmanite and high-pressure hydrous phases: Implications for water storage in the lower mantle, *Earth and Planetary Science Letters* 583 117441-117441 2022.
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2023): プチスポットパイプのライザーレス掘削で海洋マントル採取に挑むー 地球深部探査船「ちきゅう」による新モホール計画 ー. 深田地質研究所年報, 24, 119-138. (査読無)
- 石野好彦, 瀬尾直樹, 原田賢治: 御前崎地区住民の津波避難に関する基礎調査ー東北地方太平洋沖地震後 10 年の地域の津波避難ー, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.78, No.4, I_689-I_701, 2022.
- Iso, S., Yu Sato, Hiroyuki Kimura, Impacts of groundwater pumping on subterranean microbial communities in a deep aquifer associated with an accretionary prism. *Microorganisms* 12, 679, 2024.
- 板寺一洋・吉田明夫, 2015 年 5 月芦ノ湖北岸の群発地震活動 ーその発生要因ー, 地学雑誌, 132 (6), 465-482, 2023
- 伊籐谷生・狩野謙一・佐籐 剛・籐原 明・渡辺俊樹・阿部信太郎・津村紀子・山本玄珠・佐藤比呂志・岩崎貴哉・武田哲也・石山達也・小田原 啓・原田昌武・小森次郎・東中基倫・阿部 進: 伊豆衝突帯北西部, 富士川河口断層帯東縁の大宮断層ー入山瀬断層の 3 次元地下構造とその形成過程ー星山丘陵多測線統合的地震探査の成果ー. 地学雑誌, 133, 2, 101-128, 2024.
- Iwata, D., Nanjo, K.Z.: Adaptive estimation of the Gutenberg–Richter b value using a state space model and particle filtering, *Scientific Reports*, 14, 4630, 2024. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-54576-x>.
- 加賀谷碧, 佐藤 健: 学校運営体制から見た地域に根差した防災教育の持続性ー石巻市内の学校を対象としたアンケート調査を通してー, 安全教育学研究, 第 22 巻, 第 1 号, pp.3-13, 2022.10
- Kajita, H., Yuta Isaji, Rintaro Kato, Yoko Nishikura, Masafumi Murayama, Naohiko Ohkouchi, Shouye Yang, Hongbo Zheng, Ke Wang, Toshimichi Nakanishi, Takenori Sasaki, Ayumi Maeda, Atsushi Suzuki, Toshiro Yamanaka, Hodaka Kawahata. Climatic change around the 4.2 ka event in coastal areas of the East China Sea and its potential influence on prehistoric Japanese people. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 609(1), 111310, January 2023, doi:10.1016/j.palaeo.2022.111310
- 金井純子・中野 晋・北村晃寿・樫本誠一・西村実穂, 令和 4 年台風第 15 号による静岡市清水区の高齢者施設における浸水被害と夜間の緊急参集の課題. 河川技術論文集, 29, 581-586, 2023.

- Kani, R., Hitoshi Mikada, and Junichi Takekawa (2023). Development of a new DAS sensor for recording full strain components. Seventh International Conference on Engineering Geophysics, Al Ain, UAE, 16–19 October 2023, 212 - 216. DOI: <https://doi.org/10.1190/iceg2023-049.1>
- 荻間澤勇人, 小林朋子, 川俣智路, 磯村元信, 神崎真実, & 藤江玲子. (2023). 新型コロナ禍において困難を抱える高校生への心理教育的援助の現状と課題—支援が限られる高校や課題集中高校に注目して—. 教育心理学年報, 62, 271-279.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Ohnuma, H., Mikada, H., Fujise, Y.(2022) A field experiment of a temperature-tolerant distributed acoustic sensor in deep geothermal reservoir prospecting, The Leading Edge, Volume 41, No. 5.,May 2022,
- 笠原, 羽佐田, 久詰, 三ヶ田, 藤瀬, 秋田県大沼地熱発電所地熱井内の DAS を用いた地熱探査, 日本地熱学会誌, 第 44 巻第 2 号, p.73-84. 2022.
- Kasahara et al., Chapter 22: DAS and DTS geophysical study in the Takigami geothermal field in northeastern Kyushu, Japan, in “Distributed Acoustic Sensing for borehole Geophysics”, AGU monograph, in press.
- Kasahara et al., Chapter 10 9: Geothermal Reservoir Characterization Using Distributed Acoustic Sensing from Vertical Seismic Profiling in Six Geothermal Fields in Japan, in “Distributed Acoustic Sensing for borehole Geophysics”, AGU monograph, in press.
- 川瀬憲子、(単著)「コロナ禍における交付金事業と自治体財政—静岡県熱海市の事例検証」『経済研究』(静岡大学) 27 巻 1 号、2022 年 7 月、25-51 頁
- 川瀬憲子、(単著)「鉄道高架事業による巨大開発と自治体財政—静岡県沼津市の事例検証」『経済研究』(静岡大学) 27 巻 2 号、2022 年 10 月、55-82 頁
- 川瀬憲子、(単著)「集約型国土再編とコンパクトシティ政策を問う—静岡県内自治体の事例を中心に」『現代総有』第 5 号、2023 年 6 月 20 日、94-99 頁 (依頼原稿、査読あり)
- 川瀬憲子、(単著)「地域コモンズと環境保全による内発的发展—クラフトビールと維持可能なまちづくりに焦点を当てて」『経済研究』静岡大学、28 巻 1・2 号、2023 年 10 月、25-41 頁
- 川瀬憲子、(単著)「世界文化遺産『富士山』と景観・環境保全型まちづくりの課題」『住宅会議』120 号、2024 年 2 月、37-40 頁 (依頼原稿)
- Kayama, K., Hitoshi Mikada, and Junichi Takekawa, (2023). The effect of fluid flow in the longitudinal fracture along a borehole axis on Stoneley wave propagation. Geophysics, 88 (3), D207-D225. DOI: <https://doi.org/10.1190/geo2022-0132.1>
- Kazama, S., Kota Chiba, Evaluation of runoff change on landuse change using hydrological model, Proceedings of the 40th IAHR World Congress, pp.265-268, 2023.8.25. Vienna. DOI:10.3850/978-90-833476-1-5_iahr40wc-p1339-cd

- 風間 聡, 山本道, 柳原駿太, 池本敦哉, 河川氾濫を対象とした洪水リスクに対する適応策評価, 地球環境, Vol.28, No.1, pp.77-84, 2023.
- Kazama, S., Yuta Sugawara, Yoshiya Touge, Event based analysis on spatial distribution of heavy downpour using radar rainfall data in Yoneshiro River Basin, Japan, Proceedings of the 39th IAHR World Congress, 08-03-001-30, 2022.6. doi://10.3850/IAHR-39WC2521716X202230
- Kikkawa, T. Haga, S. Shigemori, M. Nakamura, M, Suzuki, M. ISERA: An innovative simulation to enhance resilience of aircrew.Proceedings of the 54th International Simulation and Gaming Association Conference (ISAGA 2023): 2023 年 7 月.
- Kimura, H., Toshimichi Nakanishi, Takashi Hosoya, Wan Hong. Holocene right-lateral slip-rate revealed by sediment core analyses and ground penetrating radar profiling, the Sagiriko fault, Izu Peninsula, Japan, at the northern tip of the Izu–Bonin–Mariana arc. Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B, 538, p.115-122, March 2023, doi: 10.1016/j.nimb.2023.02.020
- Kishida, T., Sakiko Namigata, Toshimichi Nakanishi, Yasukazu Niiyama, Hiroyuki Kitagawa. Dolphins from a prehistoric midden imply long-term philopatry of delphinids around Tokyo Bay. Biological Journal of the Linnean Society, blad159, November 2023, doi: 10.1093/biolinnean/blad159
- 北村晃寿, 熱海土石流に関する地球科学的研究. 環境と測定技術, 50, 33-42, 2023.
- 北村晃寿・山下裕輝・森 英樹, 相模湾の 7 か所の海浜における打ち上げ二枚貝類と海浜堆積物粒子組成の調査—2021 年 7 月 3 日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土砂災害の発生原因解明の基礎資料として—. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 155-163, 2023.
- 北村晃寿・三井雄太, 1974 年 7 月洪水(七夕豪雨)の浸水深データのデジタル化ならびに 2022 年 9 月洪水との自然的条件・浸水深の相違について. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 143-153, 2023.
- 北村晃寿・山道美友, 1978 年 11 月に静岡県が公表した「東海地震の危険度の試算」のデジタル化. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 65-113, 2023.
- 北村晃寿・矢永誠人・山下裕輝・中西利典, 静岡県熱海市逢初川の源頭部の黒色盛土層の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 39-63, 2023
- 北村晃寿, 2022 年台風 15 号により 9 月 24 日に発生した静岡市の洪水に関する報告. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 7-37, 2023.
- 北村晃寿・山下裕輝, 静岡県熱海市逢初川の源頭部の盛土中の淘汰の良い砂層. 静岡大学地球科学研究報告, 50, 1-6, 2023.
- 北村晃寿・亀尾浩司・本山 功・守屋和佳・齊藤 毅・渡辺真人・森 英樹, 静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土に含まれる軟質泥岩礫. 第四紀研究, 61, 143-155, 2022

- 北村晃寿, 静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土の崩壊斜面と土石流堆積物から見つかった海生二枚貝の貝殻. 第四紀研究, 61, 109-117, 2022.
- 北村晃寿・山下裕輝・本山 功・中西利典・森 英樹, 静岡県熱海市逢初川の源頭部の盛土下端部の露頭調査. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 61-72, 2022.
- 北村晃寿・山下裕輝・矢永誠人・中西利典・森 英樹, 静岡県熱海市逢初川源頭部の東側地点の盛土に関する調査速報. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 97-103, 2022.
- 北村晃寿・矢永誠人・岡寄颯太・片桐 悟・中西利典・森 英樹, 静岡県熱海市逢初川の砂防堰堤の埋積土の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化 —2021年7月3日の土石流堆積物の識別—. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 87-95, 2022.
- 北村晃寿・戸田健太郎, 相模湾の5か所における打ち上げ二枚貝類の調査—2021年7月3日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土砂災害の発生原因解明の基礎資料として—. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 139-142, 2022.
- 北村晃寿・岡寄颯太・近藤 満・渡邊隆広・中西利典・堀 利栄・池田昌之・市村康治・中川友紀・森 英樹, 静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土と土石流堆積物の地球化学・粒子組成分析. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 73-86, 2022.
- 北村晃寿, 2021年7月3日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土砂災害の写真資料. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 105-137, 2022.
- 小高猛司・沢田和秀・今泉文寿・難波喬司 (2023/2) 2021年7月熱海土石流災害における関連学会の技術支援活動, 地盤工学会誌, 71(3), 1-8
- Koma, T., Tatsuhito Kono, So Kazama, How should river embankments be spatially developed, from the upstream section or the downstream section?, Journal of Flood Risk Management, e12870, 2022.11.24. DOI:10.1111/jfr3.12870
- 近藤大騎, 外岡 凌, 鈴木 愛未, 橋本 岳, 橋本智洋, 山本茂広, “山間部道路情報の高頻度更新・詳細化を目的とした狭隘道路における道幅自動計測の検討,” 土木学会 AI・データサイエンス論文集, 2022年3巻J2号, pp. 563- 571 (2022).
- Kosugi, I., Yuta Mitsui: Azimuthal differences and changes in strain rate and stress of the Japanese Islands deduced from geophysical data, Earth Planets Space, 74(137), 2022.
- Kosugi, Motoko & Kenshi Baba. Five types on perception of global warming in Japanese. Frontiers in Climate, 5, 2023. <https://doi.org/10.3389/fclim.2023.1227585>.
- Kosugi, Motoko (2022) Typology and Characteristics of COVID-19 Preventive Measures Implementation. International Journal of Environmental Research and Public Health, 19, 2022, <https://doi.org/10.3390/ijerph191912194>.
- 小杉素子・馬場健司 (2022) 気候変動リスクへの対策行動の規定因. 環境科学会誌, 35(4), 227-236, 2022. <https://doi.org/10.11353/sesj.35.227>
- 小山真人 (2023a) 近接空撮画像と航空レーザー計測点群を用いた富士山 1707 年宝永噴火

- の火口近傍堆積物の層序と形成過程. 富士山学, No.3, 23-35.
- 小山真人 (2023b) 2022 年台風 15 号による静岡県中部巴川下流域の河川氾濫—現地調査と航空レーザー計測点群による分析—. 静岡大学地球科学研究報告, No.50, 115-142.
- Kozono, T., Hidemi Ishibashi, Satoshi Okumura, Takahiro Miwa: Conduit flow dynamics during the 1986 sub-Plinian eruption at Izu-Oshima volcano. *Journal of Disaster Research*, 17, 754-767, 2022
- Kurokawa, A. K., Takahiro Miwa, Hidemi Ishibashi: Aging in Magma Rheology. *Scientific Reports*, 12, 10015, 2022
- 黒岡あゆ子・秦 康範・牛山素行: 大学入試センター試験におけるハザード・災害関連問題の分析, *自然災害科学*, 42, 4, pp.261-274, 2024.
- Kurugama, K. M., So Kazama, Yusuke Hiraga, Chaminda Samarasuriya, A comparative spatial analysis of flood susceptibility mapping using boosting machine learning algorithms in Rathnapura, Sri Lanka, *Journal of Flood Risk Management*, e12980, 17pp. 2024.3. DOI:10.1111/jfr3.12980
- Kurumaga, K. M., So Kazama, Chaminda Samarasuriya, A novel hybrid approach of spatial prediction of flood susceptibility in Sri Lanaka using bivariate index of entropy and support vector machine models, *Journal of JSCE, Special Issur*, Vol.11, Iss.2, 23-27037, 2024.2.14. DOI:10.2208/journalofjsce.23-27037
- 串山 傳・松岡昌志・井ノ口宗成・堀江 啓: 2016 年熊本地震の益城町における被害建物の解体率と構造内訳, *地域安全学会論文集*, No.41, pp.363-368, 2022. (査読有)
- Kusumoto, S., Imai, K., Hori, T., Sugawara, D., Satake, K: Sensitivity of Slip Distribution on Tsunami Trace Heights and Geological Evidences: A Case Study of the 2011 Tohoku-Oki Earthquake, *Progress in Earth an Planetary Science* 10, 52, 2023.
- Li, J., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa (2023). Improved full-waveform inversion based on sparse relaxed regularized regression processing of seismic data. *Seventh International Conference on Engineering Geophysics*, Al Ain, UAE, 16–19 October 2023, 262-266. DOI: <https://doi.org/10.1190/iceg2023-059.1>
- Li, J., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa (2023). Accelerated augmented Lagrangian full-waveform inversion based on truncated randomized singular value decomposition, *Third International Meeting for Applied Geoscience & Energy Expanded Abstracts*, 645-649. DOI: <https://doi.org/10.1190/image2023-3910542.1>
- Liu, L., Yuan, H., Yao, Y., Yang, Z., Gorelli, F A., Giordano, N., He, L., Ohtani, E., Zhang, L., Formation of an Al - Rich Niccolite - Type Silica in Subducted Oceanic Crust: Implications for Water Transport to the Deep Lower Mantle, 2022, *Geophysical Research Letters* 49 (15), e2021GL097178,

<https://doi.org/10.1029/2021GL097178>

- Maeda, Y., Watanabe, T., Seismic structure and its implication on the hydrothermal system beneath Mt. Ontake, central Japan, *Earth Planets and Space*, 75, 115, 2023.
- 萬年一剛・小林 淳・西澤文勝・笠間友博・宮下雄次 2023. 箱根町仙石原春山下に露出した湖成堆積物の年代. 神奈川県温泉地学研究所報告: 55, 1–13.
- Masuda, H., Sugawara, D., Abe, T., Goto, K.: To what extent tsunami source information can be extracted from tsunami deposits? Implications from the 2011 Tohoku-oki tsunami deposits and sediment transport simulations, *Progress in Earth and Planetary Science* 9, 65, 2022.
- Masuda, T., Omori, Y., 2023. Syn-tectonic development of the shape preferred orientation of phyllosilicates: A two-dimensional simulation of foliation development using the March model. *Journal of Structural Geology*, 176, 104957.
- 松原 誠,平松良浩,中川和之:「アンケート調査から見たジオパークの活動における地震学的知見の需要,地震, Vol.74,P139,2022 年 1 月
- Mastuda, T., Kitaoka, S., Nakahira, K., Ito, T., Kato, T., and Kasahara, J., Evaluation of in-site optical loss of polyimide-coated optical fiber under hydrothermal environment, *Optical Fiber Technology*, 103582, 2023.
- McIntosh, I. M., K. Aoki, T. Yanagishima, M. Kobayashi, M. Murata and T. Suzuki 2022. Reconstruction of submarine eruption processes from FTIR volatile analysis of marine tephra: Example of Oomurodashiki volcano, Japan. *Frontiers in Earth Science*, DOI 10.3389/feart.2022.963392.
- 三井雄太, 新井璃子: 2011 年東北地方太平洋沖地震発生前のハイレート GNSS データのトレンド解析: 空間分布の視点から, 測地学会誌, 69, 37-41, 2023.
- Mitsui, Y., Keiji Uehara, Issei Kosugi, Koji Matsuo: Along-strike distribution of seismicity and large slow slip correlated with gravity at the Nankai Trough, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 598(117824), 2022.
- Mitsushita, K., Murakoshi, S., and Koyama, M.(2023) How are various natural disasters cognitively represented?: a psychometric study of natural disaster risk perception applying three-mode principal component analysis. *Natural Hazards*, 116, 977-1000.
- Mitsushita, K., Murakoshi, S., & Koyama, M. (2022) How are various natural disasters cognitively represented?: a psychometric study of natural disaster risk perception applying three-mode principal component analysis. *Natural hazards*, 116, 977-1000. <https://doi.org/10.1007/s11069-022-05708-x>
- 満下健太・鎌塚優子・村越 真 (2023) 学校における障害事故の発生状況分析: 休憩時間中の事故に対する計量的分析. *リスク学研究*, 32(3), 233-241.

- 満下健太・村越 真（2024）密な人間関係のジレンマ—COVID-19 禍中の学校行事における校長のリスクマネジメントに関する質的研究—。リスク学研究,34(1),27-44.
- Miwa, T., Hidemi Ishibashi, Ryunosuke Kazahaya, Satoshi Okumura, Masato Iguchi, Genji Saito, Atsushi Yasuda, Nobuo Geshi, Hiroyuki Kagi: Redox state of magma recorded in volcanic glass from an ash-forming eruption at Bromo volcano, Indonesia: Insights into the degassing process. *Bulletin of Volcanology*, 85, 48, 2023
- Miyake, K., Hiroyuki Kimura, Rei Narikawa, Identification of significant residues for intermediate accumulation in phycocyanobilin synthesis. *Photochemical & Photobiological Sciences*, 21, 437-446, 2022.
- Miyamachi, H., Yakiwara, H., Kobayashi, R., Hirano, S., Kubo, T., Souda, M., Sakao, K., Unno, N., Matsushima, T., Uchida, K., Miyamachi, R., Isoda, K., Teguri, Y., Kamiya, Y., Triahadini, A., Shimizu, H., Katao, H., Shibutani, T., Tameguri, T., Yamashita, Y., Miura, T., Nakagawa, J., Yoneda, I., Kato, S., Takishita, K., Nakai, K., Maeda, Y., Watanabe, T., Horikawa, S., Matsushiro, K., Okuda, T., Tsuji, S., Sogawa, N., Hasegawa, D., Nakahigashi, K., Kurashimo, E., Yamada, T., Abe, H., Ando, M., Tanaka, S., Ikezawa, S., Iwasaki, T., Shinohara, M., Sato, T., Yamamoto, M., Azuma, R., Hirahara, S., Nakayama, T., Suzuki, S., Otomo, S., Hino, R., Tsutsui, T., Inoue, Y., Takei, R., Tada, Y., Takahashi, H., Murai, Y., Aoyama, H., Ohzono, M., Shiina, T., Takada, M., Ichiyanagi, M., Yamaguchi, T., Ono, N., Saito, K., Ito, C., Susukida, Y., Nakagaki, T., Tanaka, Y. & Akinaga, Y., Solidified magma reservoir derived from active source seismic experiments in the Aira caldera, southern Kyushu, Japan, *Earth Planets and Space*, 75:166, 2023.
- 宮坂 晃・狩野謙一, 2022: 北部フォッサマグナ, 中央隆起帯南部に分布する中部中新統内村累層の重複変形—中央隆起帯は無褶曲地区か?—. 静岡大学地球科学研究報告, 49, 1-31.
- 宮崎太良・井ノ口宗成: 参画型リスクマップ作成システムにおける実証実験の自由記述データの分析 ～取得情報の自立化をめざして～, 電子情報通信学会 信学技報, Vol.123, No.218, pp.6-11, 2023. (査読無)
- 望月 大・村越 真(2022)豪雨災害時の「避難意図」を高める小学校社会科授業の開発と効果の検証 —博物館を活用して—, 防災教育学研究 2-2、(受理.ページ未)
- 望月 大・村越 真（2024）豪雨災害から命を守る資質・能力を育む小学校社会科授業の開発 —『避難行動判定フロー』を活用して— 防災教育学研究、4(2),65-77.
- 望月美希、社会調査教育における質的研究法、『年報社会学論集』 36、pp.44-51、2023 年。（招待有）
- 望月美希、東日本大震災後の長期・広域避難と支援の課題：静岡県における避難者支援活動に着目して、『情報学研究』 28、pp.1-16、2023 年。（査読有）

- 望月美希、社会学・農村社会学の研究動向（社会学）、『年報村落社会研究』58、pp.259-273、2022 年。（招待有）
- 望月美希、東日本大震災と〈生〉の復興、地域社会のゆくえ——津波被災地における復興過程、『地域社会学会年報』34、pp.73-86、2022 年。（招待有）
- Morishita, Y. (2023) Hydrothermal calcite precipitation in veins: Inspired by experiments for oxygen isotope fractionation between CO₂ and calcite from 1 °C to 150 °C, *Applied Sciences*, 13, 5610; <https://doi.org/10.3390/app13095610>.
- Morishita, Y., Yabe, Y. (2022) Genesis and evolution of hydrothermal fluids in the formation of the high-grade Hishikari gold deposit: Carbon, oxygen, and sulfur isotopic evidence, *Minerals*, 12, 1595, <https://doi.org/10.3390/min12121595>.
- Mori, T., Satoaki Higashi, Hiroyuki Kimura, Hirokazu Kawagishi, Hirofumi Hirai, Effects on microstructures of decayed wood particles in spent mushroom substrates on the enzymatic saccharification and fermentation properties. *Bioresource Technology Reports*, 22, 101494, 2023.
- Mori, Y., Toshihisa Asano, Yasunobu Maeda: Which is the Key for Participation in Volunteer Activities, Factors of Demographic, Psychology, or Related to Being Asked? *環境共生*, 39/1, 55-65, 2023.
- 村越 真・楠見 孝・宮内佐季子(2024) 登山におけるリスクマネジメント能力：実践知の概念に基づく質問紙と状況判断テストの開発. *野外教育研究*、(受理 2024.5.2)
- 長原翔伍・宮本成悟・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介（2023）原子核乾板を使った多方向ミュオグラフィによる火山の 3 次元透視. *日本写真学会誌*, vol 86, p177-188.
- Nagahara, S., Miyamoto, S., Morishima, K., Nakano, T., Koyama, M., and Suzuki, Y. (2022): Three-dimensional density tomography determined from multi-directional muography of the Omuroyama scoria cone, Higashi-Izu monogenetic volcano field, Japan. *Bulletin of Volcanology*, 84, 94.
- 永松伸吾・牛山素行・関谷直也・鈴木進吾: 避難情報は人的被害を軽減したか —平成 30 年 7 月豪雨・令和元年東日本台風の実証分析—, *災害情報*, 20,, pp.51-62, 2022.
- Nakamura, A., Miyahara, M., Suga, H., Yamaguchi, A., Wakabayashi, D., Yamashita, S., Takeichi, Y., Kukihara, K., Takahashi, Y., Ohtani, E., Mn - Precipitates Found in a Martian Crustal Rock, *Journal of Geophysical Research: Planets*, 128(9) 2023.
- 中村譲治, 原田賢治: 自主防災組織を対象に基礎自治体が取り組んだコロナ禍対応に関する実態把握, *地域安全学会論文集*, 43, 189-199, 2023.
- 中村泰敏, 橋本 岳, 鈴木康之, “モバイル端末型三次元点群スキャナの土木建設分野向け公共座標対応化の研究,” *土木学会 AI・データサイエンス論文集*, 2022 年 3 巻 J2 号, pp. 92-103 (2022).

- Nakanishi, T., Yuichi Niwa, Wan Hong. Radiocarbon age offsets of plant and shell in the Holocene sediments from the Sanriku coast, Northeast Japan. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B*, 538, p.95-102, March 2023, doi: 10.1016/j.nimb.2023.02.032
- Nakanishi, T., Futoshi Nanayama, Yasuo Kondo, Keitaro Yamada, Keisuke Sakai, Tatsuhiko Yamaguchi, Kiyoyuki Shigeno, Kota Katsuki, Hirokuni Oda, Ryuta Furukawa, Wan Hong. Radiocarbon ages and tsunami deposits in laminated mud layers from the Lake Harutori, Pacific coast of Hokkaido, Northeast Japan. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B*, 538, p.173-178, March 2023, doi: 10.1016/j.nimb.2023.02.015
- 濤岡 優・藤井基貴・小野詩紀子・堀江未来「日本における『ブレンデッド・ラーニング』の研究動向ーポストコロナ時代の国際教育再構築に向けて」『静岡大学教育実践総合センター紀要』33、2023年3月、21ー31頁。
- 濤岡 優・藤井基貴・植松希世子「SDGsをテーマとした国際共修：フィンランド・オウル大学とのオンライン短期プログラムの成果と課題」『静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）』54、2022年、211-224頁。
- Nanjo, K.Z., Yukutake, Y. & Kumazawa, T.: Activated volcanism of Mount Fuji by the 2011 Japanese large earthquakes, *Scientific Reports*, 13, 10562, 2023. <https://doi.org/10.1038/s41598-023-37735-4>.
- 楠城一嘉, 北海道・東北沖の地震サイズ分布(b 値)の時空間変化, 地震予知連絡会会報, 第111巻, 549-553, 2024. https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/report/kaihou111/11_10.pdf.
- Nozaki, T., Goto, K. T., Takaya, Y., Shimada, K., Owada, A., Shimoda, G., Kimura, J.-I., Chang, Q., Onoue, T., Machida, S., Ishii, T., Shimizu, K., Hirano, N., Mimura, K., Yano, M., Ohta, J. and Kato, Y. (2024) Petrography and stratigraphic Os isotopic ages of ferromanganese nodules from the Northwest Pacific east of Minamitorishima Island. *Journal of Asian Earth Sciences*: X, vol. 11, 100176. (査読有)
- 小川日南・藤井基貴「災害伝承と防災教育(1): 静岡市における民話「沼のばあさん」を事例として」『静岡大学教育実践総合センター紀要』34、2024年3月、56-64頁。
- Ohtani, E., Sakurabayashi, T., Kurosawa, K., Experimental simulations of shock textures in BCC iron: implications for iron meteorites, *Progress in Earth and Planetary Science*, 9:24, 2022. <https://doi.org/10.1186/s40645-022-00482-7>
- 大谷 竜・入江さやか・中鉢奈津子・福島 洋・横田 崇・堀 高峰・橋本徹夫・林 能成・隈本邦彦・岩田孝仁・谷原和憲・兵藤 守・橋本 学、南海トラフ地震情報の報道における論点の抽出を目的としたワークショップの試みー「西半割れ」ケースー, 日本地震工学会論文集, vol.22, p.2_88-2_108, 2022.
- 大谷 竜・林 能成, 南海トラフ地震臨時情報の認知度と防災対応に関する意識調査, 社会

- 安全学研究, vol.14, p.63-75, 2024.
- Oida, R., Hidemi Ishibashi, Akihiko Tomiya, Masashi Ushioda, Natsumi Hokanishi, Atsushi Yasuda: Experimental constraints on the H₂O-saturated plagioclase liquidus and the storage depth of the Izu-Oshima 1986B basaltic andesite melt. *Journal of Disaster Research*, 17, 716-723, 2022
- Okada, I., Tomoyuki Shibata, Masako Yoshikawa, Hidemi Ishibashi, Takeshi Sugimoto, Yasutaka Hayasaka: Genesis of andesitic magma erupted at Yufu Volcano, Kyushu Island, Southwest Japan arc: Evidence from the chemical compositions of amphibole phenocrysts. *Journal of Petrology*, 65, ega018, 2024
- 岡本彩果, 柳原駿太, 風間 聡, 平賀優介, 洪水被害による市区町村の人口変動とその要因に関する統計的分析, 土木学会論文集 G (環境), 79 巻, 27 号, 23-27044, 2024.2.14. DOI:10.2208/jscej.23-27044
- Okuno, H., Arai, S., Suzuki, H., & Kikkawa, T. Impact of Refutational Two-Sided Messages on Attitudes Toward Novel Vaccines Against Emerging Infectious Diseases During the COVID-19 Pandemic. *Frontiers in public health* 10 775486-775486 2022 年.
- 奥野 充・井口正人・三好雅也・三浦大助・小林 淳・橋本武志・大場 武・佐藤鋭一・宝田晋治 2022. 特集「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」について (エピローグ) . *火山* 67: 251-254.
- 小野詩紀子・堀江未来・濤岡 優・藤井基貴「国際教育のための「ブレンデッド・ラーニング」の 概念および要素の整理 ― 海外におけるブレンデッド・ラーニング理論に着目して―」『アカデミア 文学・語学編』33、2023 年 6 月、 21-31 頁。
- Oya, S., Imaizumi, F., Takayama, S. (2024/1) Field monitoring of pore water pressure in fully and partly saturated debris flows at Ohya landslide scar, Japan, *Earth Surface Dynamics*, 12, 2, 67-86, <https://doi.org/10.5194/esurf-12-67-2024>
- Pragati, P., Yasunobu Maeda: Life cycle environmental impacts of consumer packaging products in Japan, *Risk Analysis*, 43/8, 1682-1693, 2022.
- Ramil B. Atando, Daisuke Sugawara: Differences in the earthquake preparedness of low and high-income countries: the cases of Shizuoka prefecture, Japan, and the four provinces in Panay, Philippines, *Natural Hazards*, 2023.
- 酒井恵祐・中西利典・七山 太・藤木利之・大串健一. 北海道東部春採湖の花粉分析による過去 9,500 年前から 3,200 年前にかけての古植生変遷. *LAGUNA*, 31, p.1-13, 2024 年 3 月
- 酒井悠里, 佐藤 健: 仙台市のがんばる避難施設に着目したマンション防災力の評価, *自然災害科学*, Vol.41, 特別号, pp.55-64, 2022.
- Sakamaki, T., Ohtani, E., High Pressure Melts, *Reviews in Mineralogy and*

Geochemistry 87(1) 557-574 2022.

- 桜井愛子, 佐藤 健, 村山良之, 熊谷 誠, 北浦早苗, 小田隆史: 実効性のある学校版避難確保計画作成支援のための教員研修プログラムの開発, 安全教育学研究, 第 23 巻, 第 1 号, pp.19-30, 2023.9
- Sakurai, A., Yoshiyuki Murayama, Takeshi Sato and Takashi Oda : “Climate and disaster risk reduction education” : in Rajib Shaw, ed, Handbook on Climate Change and Disasters, Elgar Handbooks in Energy, the Environment and Climate Change, Edward Elgar, U.K., pp.322-329, 2022.
- Satgada, C. P., Egusa, T., Yamakawa, Y., Imaizumi, F. (2023/12) Forest harvesting affects soil organic carbon and total nitrogen transports by facilitating landslides, Catena, 233, 107517, <https://doi.org/10.1016/j.catena.2023.107517>
- 佐藤比呂志, 石山達也, 野 徹雄, 加藤直子, 小平秀一, 佐藤 壮, 松原 誠, 東北日本背弧域での震源断層モデルの構築と実施したリスクコミュニケーション会議, 地震予知連絡会会報, 108, 635-639, 2022.
- 佐藤興平・南 雅代・若木重行・中野 俊 (2023): 群馬・長野県境域に分布する新第三紀～第四紀火成岩類の Sr 同位体比: 時空分布の予察的検討, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.27, 49-60, 2022.
- 佐藤興平・竹之内耕 (2023): 飛騨山脈北端の日本海岸に産する青海花崗岩の年代と化学組成, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.27, 61-70, 2022.
- 佐藤興平・南 雅代・若木重行 (2024): フォッサマグナ地域の新第三紀～第四紀火成岩類の Sr 同位体比: 時空分布の特徴, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.28, 129-144, 2023.
- 佐藤興平・南 雅代・児島美穂・山岸松平・黒岩俊明・安部 久・洪 完 (2024): 軽石流に埋められた浅間火山北麓の埋没林: 樹種および 14C 年代, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.28, 145-150, 2023.
- 佐藤興平・南 雅代・児島美穂・山岸松平・安部 久・洪 完 (2024): 浅間火山北麓に分布する湖成層と火山泥流堆積物: 埋没木片の樹種と 14C 年代の予察的検討, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.28, 151-160, 2023.
- 佐藤興平・滝澤文教 (2024): 飛騨神岡周辺域に産する白亜紀中期の流紋岩類: K-Ar 年代と主成分組成, 群馬県立自然史博物館研究報告, No.28, 161-168, 2023.
- 佐藤美樹, 佐藤 健: 大規模災害時を想定した分娩取扱施設における災害対策, Japanese Journal of Disaster Medicine, Vol.27, No.3, pp.165-172, 2022.
- 佐藤 健, 橋本雅和, 桜井愛子, 北浦早苗, 藤坂雄一, 村山良之, 熊谷 誠, 小田隆史, 李泰榮, 池田真幸: 洪水災害を対象とした学校の防災管理の充実化と防災教育の実践ー石巻市立大谷地小学校における事例ー, 安全教育学研究, Vol.22, No.2, pp.37-48, 2023.3
- Satta, N., Miyahara, M., Ozawa, S., Marquardt, H., Nishijima, M., Arai, T., Ohtani, E., Apollo 15 regolith breccia provides first natural evidence for olivine incongruent

- melting, *AMERICAN MINERALOGIST* 107(9) 1661-1667 2022.
- Sekiguchi, H., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa, and Shibo Xu (2022). Hydrodynamic analysis of pipe-wall thinning due to flow accelerated corrosion. SEG Technical Program Expanded Abstracts, 3281-3285. DOI: <https://doi.org/10.1190/image2022-3750970.1>
- 瀬戸浩二・香月興太・中西利典・入月俊明・三浦伊織・林田 明・齋藤文紀. 出雲平野東部から採取した HK19 コアの堆積層と年代. *LAGUNA*, 30, p.47-60, 2023 年 9 月
- Shigemasa, R., Y. Teraoka, S. Ota, H. Hirano, K. Yasutomi, S. Kawahito, M. Futagawa, “Development of a Current Injection—Type Impedance Measurement System for Monitoring Soil Water Content and Ion Concentration”, *Sensors*, Vol. 22, No. 9, pp. 3509-1-20, 2022.
- 清水英彦・新部貴夫・佐藤比呂志・石山達也・檜原省吾・阿部 進: 広帯域地震探査技術と pre-stack MDRS 法を主体とする高精度イメージング技術を組み合わせた陸上難地域深部地震探査における新たなワークフロー, *石油技術協会誌*, 88, 3, 217～232, 2023.
- Shiraishi, K., Watanabe, T., Seismic reflection imaging of deep crustal structures using local earthquakes in the Kanto region, Japan, *Earth Planets and Space*, 75: 14, doi: 10.1186/s40623-023-01772-0, 2023.
- Shishikura, M., Namegaya Y., Kaneko, H., and Koyama , M. (2023) Late Holocene tectonics inferred from emerged shoreline features in Higashi-Izu monogenetic volcano field, Central Japan. *Tectonophysics*, 864, 229985.
- 須崎光祐, 三城春樹, 橋本岳, 阿部雅人, 杉崎光一, 山本茂広, “画像を用いた橋梁のたわみ計測におけるカメラの振動補正に関する研究,” *土木学会 AI・データサイエンス論文集*, 2022 年 3 巻 J2 号, pp. 572- 585 (2022).
- 鈴木睦代・根津美智子・鈴木康之・前田恭伸: 「民間保育士等キャリアアップ研修」後の食育・アレルギー対応に関する保育士等の行動変容と検討, *山梨学院短期大学研究紀要*, 43, 1-14, 2023.
- 鈴木清史, 「パンデミック下でのマスク着用促進ポスターの研究」『*アジア研究*』静岡大学人文社会科学部, 18 号 3-19 頁 DOI:10. 14945/00029392, 2023.
- Suzuki, S., Encouraging the Use of Masks During Pandemics: What posters said, *Advance Preprints*, DOI: 10.31124/advance.22083815.v1, 2023.
- 鈴木清史, 「五六年目の国民投票 ―オーストラリア先住民が直面した新たな現実―」『*部落問題研究*』247 号 53-76 頁, 査読あり, 2023.
- Suzuki, S., Two Years of Perseverance and Beyond: an exploratory reflection on the Covid days in Japan, *Advance Preprints*, DOI:10.31124/advance.171153114.49187492/v1, 2024.
- Takahashi, R., Maeda, Y., Watanabe, T., Waveform inversion of the ultralong-period

- seismic event associated with ground tilt motion during an eruption of Mount Kusatsu-Shirane, Japan, on January 23, 2018, *Earth Planets and Space*, 74: 85, 2022.
- 高橋尚志・青木かおり・村田昌則・小林 淳・鈴木毅彦 2022. 伊豆諸島北部、利島における更新世末期の流紋岩質テフラの層序. *第四紀研究* 61: 87–107.
- 高橋範仁, 風間 聡, 洪水流量形成における大気圧変動の影響に関する基礎的検討, 土木学会論文集 (応用力学), Vol.79. No.15, 22-15046, 12pp, 2023.1.
- Takayama, S., Karasawa, R., Imaizumi, F. (2024/2) Depth-averaged mixture model for development processes of debris flows over a steep unsaturated mobile bed, *Landslides*, DOI 10.1007/s10346-023-02202-8
- Takayama, S., Hayashi, N., Imaizumi, F. (2023/6) Experimental study on the effects of local sediment accumulation on a debris flow surge in a steep channel, *Proceedings of 8th International Conference on Debris Flow Hazard Mitigation*, 01026.
- Takayama, S., Imaizumi, F. (2022/9) Effects of coarse particles on downstream face erosion processes and outflow discharge during the overtopping of a landslide dam, *Landslides*, 20, 351–366, <https://doi.org/10.1007/s10346-022-01973-w>
- Takayama, S., Satofuka, Y., Imaizumi, F. (2022/7) Effects of water infiltration into an unsaturated streambed on debris flow development, *Geomorphology*, 409, 108269, <https://doi.org/10.1016/j.geomorph.2022.108269>
- Takekawa, J., Hitoshi Mikada, Shibo Xu, Masahiro Uno, Shiori Kamei, Kinzo Kishida, Daiji Azuma, Masafumi Aoyanagi, Naoto Tanaka, and Hiroki Ichikawa, (2022). A new DAS sensor prototype for multicomponent seismic data. *The Leading Edge*, 41 (5), 338–346. DOI: <https://doi.org/10.1190/tle41050338.1>
- 武村雅之(2023), 1923 年関東地震に対する強震動地震学の成果—国内地震記象・被害統計資料・体験談の発掘と解析. *地震 (第 2 輯)* 76, 111-128. (総説)
- 竹之内健介, 鈴木舜平, 本間基寛, 山口弘誠, 佐山敬洋, 及川 康, 大西正光, 矢守克也: 気象災害の潜在性を示す情報の基礎的分析～情報の特徴分類と意識調査を通じて～, 土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol.78, No.2, pp.I_141-I_152, 2022.
- 瀧本壮平, 重柊竜希, 藤園幹樹, 大多哲史, 二川雅登, “現場計測に向けた電流注入型土中水分量・電気伝導度計測のための周波数計測回路の開発”, *電気学会論文誌 E*, Vol. 143 No.5, pp. 89-95, 2023.
- Takimoto, S., R. Shigemasu, M. Fujisono, S. Ota, M. Futagawa, “Development of frequency measurement circuit for soil moisture content and electric conductivity measurement system with detection of soil transient response characteristics for on-site measurement”, *Electronics and Communications in Japan*, Vol. 106, Issue 3, pp. e12415-1-8, 2023

- Tanaka, S., S. Ota, H. Hirano, M. Futagawa, Y. Takemura, “Evaluation of harmonic signals derived from multiple spatially separated samples for magnetic particle imaging”, IEEE Transaction on Magnetism, Vol. 58, No. 8, 2022.
- Tasaka, M., K. Maeda, K. Nambu, H. Motomura, H. Yoshida (2023), Sintering and deformation properties of forsterite + diopside aggregates in an electrical field, Physics of the Earth and Planetary Interiors, <https://doi.org/10.1016/j.pepi.2023.107051>.
- Tasaka, M., Y. Nakai, Y. Harigane, A. Andreas (2023), Mantle deformation during opening of the Japan Sea back-arc: Insights from peridotite xenoliths, Kawashimo, southwest Japan, Tectonophysics, <https://doi.org/10.1016/j.tecto.2023.229722>.
- 田阪美樹 (2022), かんらん岩の高歪みねじり実験から探るマントル・レオロジー, 岩石鉱物科学, 日本鉱物科学会研究奨励賞第 29 回受賞者記念研究紹介, 55, 1-5.
- Torisawa, K., Masashi Matsuoka, Kei Horie, Munenari Inoguchi and Fumio Yamazaki: Development of Fragility Curves for Japanese Buildings Based on Integrated Damage Data from the 2016 Kumamoto Earthquake, Journal of Disaster Research, Vol.17, No.3, pp.464-474, 2022. (査読有)
- Touge, Y., Masashi Hasegawa, Masayoshi Minegishi, Seiki Kawagoe, So Kazama, Multitemporal UAV surveys of geomorphological changes caused by postfire heavy rain in Kamaishi City, Northeast Japan, Catena, 220, 106702, 2022.10.19. DOI:10.1016/j.catena.2022.106702
- Tozato, K., Nilo Lemuel J. Dolojan, Yoshiya Touge, Shuichi Kure, Shuji Moriguchi, Seiki Kawagoe, So Kazama, Kenjiro Terada, Limit equilibrium method-based 3D slope stability analysis for wide area considering influence of rainfall, Engineering Geology, 308, 106808, 2022.8.10. DOI:10.1016/j.enggeo.2022.106808
- 堤 浩之・杉戸信彦・木村治夫・川嶋渉造・中西利典・小俣雅志・郡谷順英・谷口 薫. 奈良盆地東縁断層帯の帯解断層と天理撓曲の活動履歴と変位速度. 活断層研究, 58, p.1-19, 2023 年 6 月
- 上田啓瑚・大塚萌香・藤井基貴「令和 4 年台風 15 号における SNS の効用と課題 ―災害情報等伝達における拡散性と世代間格差―」『地域安全学会梗概集』 53、2023 年 11 月、135-138 頁
- 植木暖人・林能成・飯尾能久, COVID-19 に伴う社会活動の変化が地動ノイズレベルに与える影響―大阪平野北部地域における観測事例―, 社会安全学研究, vol.13, p.3-15, 2023.
- 鵜飼峻二・藤井基貴「高校公民科「公共」における「人間の尊厳」の取り扱い(1): 「人間の尊厳」をめぐる教育実践の課題と可能性を検討するための基礎作業」『静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇』 55、2023 年 12 月、131-143 頁。
- 浦辺徹郎・伊藤谷生・藤本光一郎, 御坂・巨摩山地の伊豆衝突帯に胚胎する黒鉱鉱床の産

- 状とその地質学的意義. 地質学雑誌, 129, 1, 17-33, 2023.
- 浦辺徹郎・伊藤谷生・藤本光一郎, 御坂・巨摩山地の黒鉱鉱床, 衝突した伊豆弧の海底熱水鉱床, 地質学雑誌, 129, 1, 35-44, 2023.
- 牛山素行:風水害時の避難に伴う犠牲者について,自然災害科学,41,3,pp.189-202,2022.
- 牛山素行・北村晃寿:2022年9月23日~24日の静岡県における豪雨災害の特徴,自然災害科学,42,1,pp.5-29,2023.
- 牛山素行・佐藤史弥・秦 康範:水害リスク情報に対する情報利用者の認識,東北地域災害科学研究,60,,pp.131-136,2024.
- Velasco-Reyes, E.R., Sugawara, D.: Toward a deposit-based stochastic interpretation of tsunami sources, The Proceedings of the Coastal Sediments 2023, 2355-2371, 2023.
- Velasco-Reyes, E.R., Goto, K., Sugawara, D., Nishimura, Y., Shinohara, T., Chiba, T.: Paleotsunami history of Hachinohe, northern Japan: a multiproxy analysis and numerical modeling approach, Progress in Earth and Planetary Science 9, 19, 2022.
- 渡邊隆広・山本悠介・北村晃寿, ポータブル蛍光エックス線分析装置による津波堆積物の簡易判別手法の検討ー静岡平野から採取したボーリングコア試料への適用ー. 地学雑誌, 132, 417-437, 2023.
- Weng, M.-C., Wu, J.-H., Hwang, J.-H., Chigira, M., Massey, C., 2022. Preface to the special issue of “Geo-hazards induced by the 1999 Chi-Chi earthquake, Taiwan: Lessons learned and progress in two decades”. Engineering Geology 297.
- Yamaguchi, T., Futoshi Nanayama, Toshimichi Nakanishi, Tomohiro Tsuji, Michiharu Ikeda, Yasuo Kondo, Michiko Miwa, Yohei Hamada, Middle Holocene relative sea-level changes and vertical tectonic crustal movements on Shikoku Island near the Nankai Trough, Japan. Island Arc, 31, e12452, June 2022, doi: 10.1111/iar.12452
- 山元孝広・小林 淳 2023. 富士火山東山麓、御殿場・馬伏川岩屑なだれ堆積物の 14C 年代. 地質調査研究報告: 74-3, 107-118.
- 山本 道, 多田 毅, 風間 聡, 日本全域河道位数データと河道マスクデータの整備, 水文・水資源学会誌, 36 巻, 4 号, pp.297-305, 2023. 11.
- 山本耀平, 橋本 岳, 武井祐馬, 菊池康平, 橋本智洋, 山本茂広, 井澤大介, 中島規人, 高野隼行, 阿部雅人, 杉崎光一, 全 邦釘, “点検作業サポートシステムの開発に向けたセマンティックセグメンテーションによるひび割れ領域の検出と幅推定の改良,” 土木学会 AI・データサイエンス論文集, 2022 年 3 巻 J2 号, pp. 631- 641 (2022).
- 山本玄珠・北垣俊明・斉藤朗三・狩野謙一・坂本 泉, 2022: 安居山低地周辺における富士川河口断層帯の断層活動に規制された上部更新統一完新統の新富士溶岩の流路. 東海大学紀要海洋学部, 20, 28-40.
- 柳原駿太, 池本敦哉, 風間 聡, 呉 修一, 藤下龍澄, 河道内植生の伐採による日本全国の潜在的な洪水被害軽減の評価, 土木学会論文集 G (環境), 79 巻, 27 号, 23-27042,

2024.2.14. DOI:10.2208/jscej.23-27042

柳原駿太, 池本敦哉, 風間 聡, 呉修一, 藤下龍澄, 河道内植生の伐採順序による洪水適応策と緩和策の評価 土木学会論文集 (水工学), 80 巻, 16 号, 23-16121, 2024.2.29. DOI: 10.2208/jscej.23-16121

Yanagihara, H., So Kazama, Tsuyoshi Tada, Evaluation of High-Floor Houses for Pluvial Floods in Japan, Proceedings of the 40th IAHR World Congress, pp.1149-1153, 2023.8.24. Vienna.

DOI:10.3850/978-90-833476-1-5_iahr40wc-p0309-cd

柳原駿太, 風間 聡, 多田 毅, 山本 道, 峠 嘉哉, 共有社会経済経路 (SSP) を用いた気候変動と土地利用変化による日本全国の洪水被害の変化, 土木学会論文集 G (環境), Vol.78. No.5, pp. I_387-I_396, 2022.8.31.

Yanagihara, H., Tao Yamamoto, So Kazama, Estimation of Inland Flood Damage Based on Extreme Precipitation in Japan, Proceedings of the 39th IAHR World Congress, 08-03-006-214, 2022.6. DOI://10.3850/IAHR-39WC2521716X2022214

Yanagihara, H., So Kazama, Tsuyoshi Touge, Yoshiya Touge, Estimation of the effect of future changes in precipitation in Japan on pluvial flood damage and the damage reduction effect of mitigation/adaptation measures, PLOS Climate, 1(7): e0000039, 2022.7.11. DOI: 10.1371/journal.pclm.0000039

Yanagisawa, H., So Kazama, Yoshiya Touge, Spatial frequency analysis of annual extreme daily precipitation across Japan, Journal of Hydrology: Regional Studies, 42, 101131, 2022.6. DOI: 10.1016/j.ejrh.2022.101131

Yokoyama, K., Egusa, T., Ikka, T., Yamashita, H., Imaizumi, F. (2023/3) Effects of shallow groundwater on deep groundwater dynamics in a slow-moving landslide site, International Journal of Erosion Control Engineering, 16(1), 1-12, <https://doi.org/10.13101/ijece.16.1>

Yokoyama, K., Imaizumi, F., Egusa, T. (2022/8) A review of groundwater observation methods for slow-moving landslide, International Journal of Erosion Control Engineering, 15, 2, 7-12, <https://doi.org/10.13101/ijece.15.7>

Yoshida, K., Uno, M., Matsuzawa, T., Yukutake, Y., Mukuhira, Y., Sato, H., Yoshida, T., Upward earthquake swarm migration in the northeastern Noto Peninsula, Japan, initiated from a deep ring-shaped cluster: possibility of fluid leakage from a hidden magma system, Journal of Geophysical Research: Solid Earth, 128, e2022JB026047. <https://doi.org/10.1029/2022JB026047>, 2023.

Yoshida, K., Akira Miyake, Shota H. Okumura, Hidemi Ishibashi, Satoshi Okumura, Atsushi Okamoto, Yasuhiro Niwa, Masao Kimura, Tomoki Sato, Yoshihiko Tamura, Shigeaki Ono: Oxidation-induced nanolite crystallization triggered the 2021 eruption

of Fukutoku0Oka-no-Ba, Japan. Scientific Reports, 13, 7117, 2023
Zhou, Z., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa, J., and Shibo Xu, (2022). Numerical Simulation of Hydraulic Fracturing in Enhanced Geothermal Systems Considering Thermal Stress Cracks. Pure Appl. Geophys. 179, 1775–1804. DOI: <https://doi.org/10.1007/s00024-022-02996-z>

2.2.3 学会口頭発表

阿部 進, 清水英彦, 斉藤秀雄, 佐藤比呂志, 石山達也, 近年における地震探査技術の進展による不均質地質構造可視化への貢献, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SSS08-01, 2022 年 5 月.

阿部 進, 佐藤比呂志, 石山達也, 斉藤秀雄, 地震探査技術の進展による地殻構造解明への貢献と今後への期待, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SSS08-P06, 2023 年 5 月.

秋元菜摘, コンパクトシティとスマートシティの接合—浜松市デジタル・スマートシティを事例とした考察—, 日本地理学会 (空間的な視野に基づく交通研究グループ), 東京都立大, 23/2023.

秋田寛己, 今泉文寿, 中谷洋明, 堤 大三 (2023/5) 過去 40 年程度の主要流木災害における発生流木量の傾向について, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, 613-614, 札幌市, 北海道大学

秋山真太郎, 大多哲史, 二川雅登, “長期連続計測を目指した自動調節による広範囲高分解 pH 計測システム開発”, 令和 4 年電気学会 E 部門総合研究会, 金沢商工会議所会館, 金沢市, 石川県, 2022 年 6 月 7 日-8 日.

秋山真太郎, 大多哲史, 二川雅登, “長期連続計測を目指した広範囲高分解を可能とする自動調節機能付き pH 計測”, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.

秋澤紀克・石川 晃・石井輝秋 (2022): 前弧域の枯渇したマントルカンラン岩が記録する古溶融イベント, 日本地球化学会 2022 年年会, 2022 年 9 月 6 日, 高知大学.

Aoki, A., M. Kobayashi, T. Takahashi, M. Murata, F. Nishizawa 2022. Geochemical variation of tephra beds in the sedimentary core C9010E off the Boso Peninsula in Japan and their source volcanoes. Goldschmidt Hwawai' i, 2022 年 7 月 14 日,

青木かおり・小林 淳・村田昌則・宮入陽介・横山裕典・鈴木毅彦 2022. 房総沖掘削コア C9010E のテフラ層序—海底火山大室ダシ起源と推定される 3 万年前のテフラの発見—. 日本第四紀学会 2022 年大会, O-05, 2022 年 8 月 26 日.

青木かおり・小林 淳・高橋尚志・村田昌則・鈴木毅彦 2023. 房総沖掘削コア C9010E に存在する海底火山由来と推定されるテフラ層, 令和 4 年度共同利用・共同研究成果発表会, O-04, 2023 年 2 月 27 日.

Azuma, H., Kunimasa, H., Tottori, R., Oda, Y., Watanabe, T., Matsuoka, T., Automatic

- first arrival picking of P and S-wave using machine learning from temporary observation records on a volcanic island, Hachijojima, AGU 2022 Fall Meeting, 2022.12.11-15.
- 馬場 章・藤井敏嗣・安田 敦・小林 淳・村田昌則・西澤文勝 2022. 富士火山、宝永噴火の最初期相. 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SVC29-07, 2022 年 5 月 23 日.
- 馬場 章・藤井敏嗣・安田 敦・小林 淳 2022. 富士火山、宝永噴出物中の溶結凝灰岩・黒曜石. 日本火山学会 2022 年度秋季大会, A2-04, 2022 年 10 月 13 日.
- 馬場 章・小林 淳, 2023. 富士北麓から見た 1707 年宝永噴火, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, M-IS22-02, 2023 年 5 月 21 日
- Ballesteros Canovas, J. A., Nishii, R., Kariya, Y., Imaizumi, F., Matsuoka, N., Stoffel, M. (2022/5) Linking long-term debris flow and typhon activity in the Japanese Alps: insights from tree-ring records, Japan Geoscience Union 2022, 千葉市, 幕張メッセ
- 紅谷昇平, ピニエイロ アベウ タイチ コンノ, 今石佳太, 上田知史: 自治体の災害対応力向上に向けた生成系 AI チャットボットの活用可能性についての予備的検討: 地域安全学会・梗概集 No.52 pp.143-146、2023 年 5 月.
- Chigira, M., 2022. Geological features of landslides of tephra induced by earthquakes and rainstorms, Japan Geosciences Union Meeting 2022, Makuhari.
- Chigira, M., 2022. Primary structures of granite and following weathering schemes define landslide behavior in granite areas., European Geosciences Union General Assembly 2022, Vienna.
- Chigira, M., 2023. Catastrophic and continuous debris yielding from large gravitationally deformed slopes (Keynote speech), Interpraevent 2023 International Symposium, Taichung.
- Chigira, M., Hirata, Y., Kato, H., 2022. Origins of rock columns and corestones of granitoids and their contributions to landslides, 10th IAG International Conference on Geomorphology. International Association of Geomorphologists, Coimbra.
- Chigira, M., Kato, H., 2023. Fracture systems and landform of the Okueyama batholith, Japan Geoscience Union Annual Meeting, Makuhari.
- Chigira, M., Tsou, C.-Y., Yokoyama, O., 2023. New insights of geological structures for Oya-kuzure and Shichimenzan-kuzure landslides, Japan Geoscience Union, General Meeting, Makuhari.
- 千木良雅弘, 2022. 地層処分母岩として考えた場合の日本の花崗岩, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, Makuhari.
- 千木良雅弘, 2023. 関東地震による震生湖地すべり, および類似の地震時テフラ地すべり, 2023 年度土砂災害予測に関する研究集会 対象関東地震による土砂災害を振り返るー震災 100 周年を迎えてー, オンライン.

- 千木良雅弘, 2023. 高レベル放射性廃棄物地層処分場のサイズと地質構造, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 幕張.
- 千木良雅弘, 2023. 高レベル放射性廃棄物地層処分場の立地選定—避けるべき不確実性から見た地質— (招待講演), 日本地質学会第 130 年学術大会, 京都.
- 千木良雅弘, 加藤弘徳, 2023. 花崗岩の冷却割れ目と岩体の内部構造, 日本応用地質学会令和 5 年度研究発表会 講演論文集, 秋田, p. 61–62.
- 千木良雅弘, 加藤弘徳, 2023. 大崩山バソリスの割れ目構造と地形, 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 幕張.
- Dahal, S., Imaizumi, F. (2023/5) Grain Size Distribution Characteristics of Debris Flow Torent in Ohya Landslide, Central Japan, Japan Geoscience Union 2023, H-DS05, 千葉市, 幕張メッセ
- Dianto, A., Tetsuya Sakai, Kota Katsuki, Koji Seto, Toshimichi Nakanishi, Yoshiki Saito. Paleoenvironmental changes of Lake Shinji and the Izumo Plain Shimane Prefecture during the Holocene: sediment grain size and ITRAX mXRF analyses for the HK19 core. 日本地質学会西日本支部, 令和 4 年度総会第 173 回例会, O-1, 島根大学, March 2023
- Dianto, A., Tetsuya Sakai, Kota Katsuki, Koji Seto, Toshimichi Nakanishi, Yoshiki Saito. Subdivision of the central basin facies in the Holocene incised valley fills of Paleo-Shinji Bay revealed by geochemical micro-XRF data from the HK19 core, Izumo Plain, Shimane Prefecture, Japan. 汽水域研究会, 島根大学エスチュアリー研究センター, 2024 年 1 月 6–7 日.
- Dianto, A., Tetsuya Sakai, Kota Katsuki, Koji Seto, Toshimichi Nakanishi, Yoshiki Saito. Subfacies determination of the central basin facies in the Holocene incised valley fills of Paleo-Shinji Bay using geochemical micro-XRF (Itrax) data from the HK19 core, Izumo Plain, Shimane Prefecture, Japan. 令和 5 年度高知大学海洋コア総合研究センター共同利用・共同研究成果発表会, 高知大学海洋コア総合研究センター, 2023 年 2 月.
- Doi, I., Obara, K., Wang, G., Kamai, T., Chigira, M., 2022. Temporal occurrence pattern of repeated seismic waves observed at the seismic stations in the southeastern part of Kumakogen town, Ehime prefecture, Japan Geosciences Union Meeting 2022, Makuhari.
- 榎本純三, 中村譲治, 原田賢治: 津波避難タワー・マウンドの設置運用状況に関する調査報告—浜松市、湖西市における現地調査—, 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.2-3, 2023 年 3 月 4 日.
- 馮 晨, 山岡耕春, 生田領野, 辻修平, 渡辺俊樹, 小池遥之, 大庭拓武, 微動信号の時間変化検出に向けた表面波モニタリング, 物理探査学会第 147 回(秋季)学術講演会, 2022.11.16-18.

- Feng, C., Yamaoka, K., Ikuta, R., Tsuji, S., Watanabe, T., Koike, H., Oba, H., Surface wave monitoring using ambient noise for detecting temporal variation of underground structure of landslide, The 28th IUGG General Assembly, 2023.6.11-20.
- 藤井基貴「人文社会科学研究における生成 AI」2023 年度全国公正研究推進会議、2024 年 2 月 16 日、於東京大学。
- Fujii, M., Hina Ogawa, Kotori Takeshita, Achievements and Challenges of the BOSAI Youth Ambassador Program, 11th International ESD Forum 2023, 21th, December, 2023.
- 藤井基貴「『スポーツ・インテグリティ入門（卓球編）』を用いた教育実践の開発・評価・分析」2023 年度日本卓球協会スポーツ医・科学委員会研究発表、2023 年 11 月 23 日、オンライン開催。
- 藤井基貴「道徳教育と防災教育」日本道徳教育方法学会、2022 年 12 月 3 日、於オンライン開催。
- 藤井基貴「品性教育の理論に基づくスポーツ・インテグリティ教材の開発・普及・評価」2021 年度日本卓球協会スポーツ医・科学委員会研究発表、2022 年 11 月 23 日、オンライン開催。
- 藤井基貴「世界市民主義とパトリオティズムスーカントとその周辺の教育思想」教育哲学会、2022 年 10 月 23 日、於慶應義塾大学。
- 藤井基貴「カントにおける世界市民的教育思想」名古屋大学教育史研究会、2022 年 9 月 17 日、於名古屋大学。
- 藤井基貴・高木ひとみ・太田知彩・星野晶成「国際教育交流分野における「第三領域 (third space) の研究—日本における近年の研究動向と人事公募の現状と課題について—」異文化間教育学会、2022 年 6 月 11 日、於立命館大学。
- 藤園幹樹, 重柵竜希, 瀧本壮平, 大多哲史, Kofi A.A. Makinwa, 二川雅登, “土壌水分量・イオン濃度モニタリングのためのチョッパ増幅器を用いたインピーダンス計測回路の開発”, 令和 4 年電気学会 E 部門総合研究会, 金沢商工会議所会館, 金沢市, 石川県, 2022 年 6 月 7 日-8 日.
- 藤園幹樹, 重柵竜希, 瀧本壮平, 大多哲史, Kofi Makinwa, 二川雅登, “土中水分量・イオン濃度計測のためのチョッパ増幅器を用いたインピーダンス計測回路システムの開発”, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.
- 福與直人・小田啓邦・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・松野佑香. 釧路市春採湖における津波堆積物・テフラの岩石磁気学的特徴:予察. 地球電磁気・地球惑星圏学会, 東北大学青葉山北キャンパス, 2023 年 9 月 23-27 日.
- Futagawa, M., H. Sato, K. Sakamoto, S. Ota, “Development of a High Sensitivity Peltier Type Soil Water Content Sensor for Monitoring Agricultural Media”, The 22th

- International Conference on Solid-State Sensors, Actuators and Microsystems (Transducers 2023), Kyoto, Japan, June 25-29, 2023.
- Goto, H., Y. Akita, R. Takahashi, H. Hirano, M. Futagawa, Y. Takemura, S. Ota, “Estimation of interdepending parameters distribution in magnetic nanoparticles based on magnetization curves”, 11th International Conference on Fine Particles Magnetism, Yokohama, Japan, Oct. 16-21, 2022.
- Goto, H., M. Futagawa, Y. Takemura, S. Ota, “Characterization of Néel relaxation time in multicore magnetic nanoparticles”, IEEE International Magnetism Conference 2023, Sendai, Japan, May 15-19, 2023.
- 後藤春樹, 秋田祐加, 高橋廉, 平野陽豊, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史, “磁性ナノ粒子のパラメータ間相互依存性を考慮した分布推定”, 信州大学, 長野市, 2022年9月6-8日.
- 後藤春樹, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史, “パルス磁場を用いた磁性ナノ粒子の磁気緩和特性の観測”, 第47回日本磁気学会学術講演会, 大阪大学, 豊中市, 大阪府, 2023年9月27-29日
- 二川雅登, 佐藤晴紀, 長根尾修平, 大多哲史, “農業培地計測を目指した高感度かつ高速計測可能な比熱検出型水分量センサの開発”, 第40回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2023年11月6日-8日, 熊本城ホール, 熊本県熊本市
- 秦 康範・佐藤史弥・牛山素行:土砂災害ハザードマップの判読に関する基礎的調査,日本災害情報学会第27回研究発表大会予稿集,2023/10/29.
- Hammond, N. Q., Adomako-Ansah, K, Ishiyama, D and Morishita, Y, Orogenic gold mineralization in the Kaapvaal Craton: Constraints from the Kraaipan and Amalia Greenstone Belts, South Africa, 72nd Annual Meeting of the Society of Resource Geology, Tokyo, 2023.6.28.
- 長谷川優斗・香月興太・瀬戸浩二・藤木利之・奥野 充・中西利典・Raymond Patrick R. Maximo・Robjunelieaaa B. Lim・Marie Thess Q. Gemal・Jason Edward A. Cochon・Aljhon Q. Marco・Arian Paul D. Norcio・Cheska Joi G. Vergara・富安卓滋・村尾 智・山田和芳. 珪藻群集を用いたフィリピン・セブンレイクの近過去の環境変遷. 汽水域合同研究会 2023年(第15回)三重大会, 三重大学生物資源学部, 2023年10月28-29日.
- 長谷川優斗・香月興太・瀬戸浩二・藤木利之・奥野 充・中西利典・Raymond Patrick R. Maximo・Robjunelieaaa B. Lim・Marie Thess Q. Gemal・Jason Edward A. Cochon・Aljhon Q. Marco・Arian Paul D. Norcio・Cheska Joi G. Vergara・富安卓滋・村尾 智・山田和芳. 珪藻群集を用いたフィリピン・セブンレイクの近過去の環境変遷. 汽水域研究会, 島根大学エスチュアリー研究センター, 2024年1月6-7日.
- 橋間昭徳・佐藤比呂志・石山達也・松原 誠, 2011年東北沖地震前後の東北地方の震源断層への応力蓄積, 日本地球惑星科学連合 2022年大会, SCG50-08, 2022年5月
- 林田 明・亀井瑞生・広川翔太・齋藤文紀・瀬戸浩二・香月興太・中西利典. 宍道湖西岸

- の汽水域堆積物に記録された完新世の古地磁気永年変化と環境変遷. 地球電磁気・地球惑星圏学会, 東北大学青葉山北キャンパス, 2023 年 9 月 23-27 日.
- 林 雅空・香月興太・瀬戸浩二・中西利典・園田 武. 藻琴湖湖底堆積物中の珪藻群集を用いた後期完新世の洪水史復元. 汽水域合同研究会 2023 年 (第 15 回) 三重大会, 三重大学生物資源学部, 2023 年 10 月 28-29 日.
- 林 拙郎・川邊 洋: 地震による大規模崩壊の発生に関する因子ー強震動・PGA・PGV・震動エネルギー・震度からみた要因の検討ー, 砂防学会研究, 2022 年 5 月. 令和 4 年度砂防学会研究発表会概要集, 241-242
- 林 拙郎: 鶴岡市, 西目崩壊地の破壊-崩壊過程と水文誘因, 砂防学会, 2023 年 5 月, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, p.243-245,
- 林 能成, 防災意識の地域差に与える地震学的情報の考察, 日本地震学会秋期大会, S18-01, 北海道立市民活動センター, 2022 年 10 月 26 日.
- 林 能成・高橋浩晃, 後発地震情報の認知度と対応行動に関する市民意識調査, 日本地球惑星科学連合大会,SSS11-P05, 2023 年 5 月 23 日.
- 林 能成, 歴史地震研究者の墓をたずねて, 歴史地震研究会小田原大会, 小田原三の丸ホール, 2023 年 9 月 1 日.
- 林 能成・大谷 竜, 南海トラフ地震臨時情報の認知度と対応行動に関する意識調査, 日本地震学会秋季大会, パシフィコ横浜, 2023 年 11 月 2 日.
- 日原 彩, 田阪美樹, 栗原圭佑, 川本竜彦, 北海道, 幌満かんらん岩体の層状構造を明らかにするための構造岩石学的研究, JpGU2023, 幕張メッセ, 5 月 25 日(ポスター).
- 日原 彩, 田阪美樹, 栗原圭佑, 川本竜彦, 谷内 元, 2023, 北海道, 幌満かんらん岩体の層状構造を明らかにするための構造岩石学的研究, 鉱物科学会 2023, 大阪公立大, 9 月 16 日(ポスター).
- 日原 彩, 田阪美樹, 栗原圭佑, 川本竜彦, 谷内 元, 2024, 幌満かんらん岩体の層構造を持つ露頭に記録された変形と岩石-メルト相互作用, 変成岩などシンポジウム(東京大), 3 月 14 日-3 月 16 日 (ポスター).
- 平田みゆ(熊本県立大学)・岩見麻子(熊本県立大学)・小杉素子(静岡大学), 地球温暖化対策に係る行動の実践状況の把握ー熊本県を対象としてー, 土木学会第 30 回地球環境シンポジウム: 北海道大学, 2022 年 8 月
- 本多勁汰, 清水広介, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史, “腫瘍内における磁性ナノ粒子の磁気特性評価, 第 46 回日本磁気学会学術講演会”, 信州大学, 長野市, 2022 年 9 月 6-8 日.
- 本間基寛, 後藤祐輔, 戸谷洋介, 諸原慎之介, 牛山素行: 風水害時における宿泊施設への避難意向に関する調査, 日本災害情報学会第 25 回研究発表大会予稿集, pp. 70-71, 2022.10.
- 本間基寛・牛山素行:都道府県別の水害時要避難者数の試算,日本災害情報学会第 27 回研究発表大会予稿集,2023/10/29.

- 本間基寛, 小野大樹, 遠藤 理: 降雨規模と家屋被害発生の関係性分析, 日本災害情報学会第 26 回研究発表大会予稿集, pp.25-26, 2023.03.
- 堀江未来・藤井基貴・小野詩紀子・松本哲彦『『ブレンデッド・ラーニング』の概念形成に関する考察—ポスト・コロナ時代における異文化間教育実践の「再」構築に向けて—』異文化間教育学会, 2022 年 6 月 12 日、於立命館大学。
- Hoshino, A., Kazusa Ota, Hitomi Takaki, Motoki Fujii, Capturing International Educational Exchange as "Third Space" and Its Dilemma -A Case of Faculty Staff Employment at Japanese Universities-, The 68th Annual Meeting of the Comparative and International Education Society (CIES), 11th, March, 2024.
- Hsieh, W-P., Hsieh, Enrico Marzotto, Takayuki Ishii, Leonid S Dubrovinsky, Alena Aslandukova, Giacomo Criniti, Yi-Chi Tsao, Chun-Hung Lin, Jun Tsuchiya, Eiji Ohtani, A self-protection mechanism by the hydration reduced thermal conductivity of hydrous minerals, AGU Fall Meeting 2022.
- 藤木利之・田畑 薫・池田陽大・山田和芳・中西利典. 和歌山県ゆかし潟の花粉分析による古植生変遷. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (2), 5-03, 西日本技術開発, 2024 年 2 月 18 日.
- 市川幸太, 木村浩之, 田代陽介, 二又裕之, 細胞外電子伝達促進による効果的プロピオン酸分解プロセスの構築と解析, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023 年 3 月.
- 五十嵐哲也・小林朋子, 小中学生におけるレジリエンススキルと不登校傾向との関連(2)―「学業」のストレスに焦点をあてて―, 2023 年 9 月、日本カウンセリング学会第 55 回 総会 (ポスター発表)
- 池田恵子, 大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究 2023 (3) 標本調査からみた復興の「地域的最適解」: ジェンダー指標に関する分析, 日本社会学会第 96 回大会 (2023 年 10 月 8 日) .
- 池田恵子, 自治体の規模別に見た「ジェンダー視点の防災施策」導入の課題～佐賀県 6 市町の調査から, 国際ジェンダー学会 2023 年大会, (2023 年 9 月 3 日) .
- IKEDA, Keiko, Women and Community Disaster Resilience in Post-3.11 Japan, XX ISA World Congress of Sociology, (2023 年 6 月 30 日) .
- IKEDA, Keiko, Recommending Equity in Inequal Institutions: Japan' s Experiences of Policy Recommendation for Integrating Gender Perspectives to the Disaster Management Policies, XX ISA World Congress of Sociology (2023 年 6 月 29 日) .
- 池田恵子, 「東日本大震災後の復興に関する意識調査」の分析 (基礎的報告) ―性別を中心に, 第 9 回震災問題研究交流会 (2023 年 3 月 19 日) .
- 池田恵子, 富岡町の復興に関する住民活動とネットワーク 3 ―見えにくい復興の課題, 第 9 回震災問題研究交流会 (2023 年 3 月 19 日) .
- 池田恵子, 地域防災活動を担う女性の実態と意識 ―静岡県における質問紙調査より, 国

- 際ジェンダー学会 2022 年大会 (2022 年 9 月 2 日) .
- 池浦康平, 川野 誠, 寺尾美菜子, 市川幸太, 二又裕之, 木村浩之, 微生物メタネーションシステムにおける微生物複合系の利点, 日本微生物生態学会第 36 回大会, 2023 年 11 月.
- 池浦康平, 川野 誠, 寺尾美菜子, 木村浩之, 温泉微生物群集を用いた微生物メタネーション〜バイオリアクターに空気が混入した際の影響評価〜, 第 23 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2023 年 3 月.
- 池浦康平, 川野 誠, 寺尾美菜子, 木村浩之, 深部地下帯水層から採取された微生物群集を用いた微生物メタネーション, 日本微生物生態学会第 35 回大会, 2022 年 11 月.
- 生田大穰, 大谷栄治, 福井宏之, 境 毅, 石川大介, バロン アルフレッド: Sound velocity of hcp-iron to the Earth's inner core pressure: Implication for light elements in the core, JpGU Meeting 2022 Japan, May 29-June 3, 2022.
- 生田大穰, 大谷栄治, 福井宏之, 境 毅, 石川大介, バロン アルフレッド: Sound velocity of hcp-iron to the inner core pressure, and light elements in the inner core, 日本鉱物科学会, Japan, September 17-19, 2022.
- 生田大穰・大谷栄治・福井宏之・境 毅・石川大介・BARON Alfred Q. R.: Sound velocity measurement of hcp-iron to the Earth's inner core pressure: Implications for light elements in the inner core, 第 63 回高圧討論会, Japan, December 12-15, 2022.
- 生田大穰, 大谷栄治, 福井宏之, 坂巻竜也, 増野いづみ, 石川大介, バロン アルフレッド: Sound velocity measurement of B2 Fe-Ni-Si alloys at high pressure and high temperature, JpGU, S-IT17, Makuhari, Japan, May 21-26, 2023.
- 生田領野・小林ゆい・川本竜彦, 震源の空間分布から見る南海トラフ深部微動の存在条件, 日本地震学会秋季大会, 2022 年 10 月
- 生田領野・原田 靖・佐柳敬造, 海底地殻変動観測のための超軽量・小型ブイシステムの開発, 日本地球惑星科学関連学会連合大会, 2023 年 5 月
- 生田領野・原田 靖・佐柳敬造・田所敬一, 横田裕介, 中畑僚佑, 超軽量・小型ブイ航ブイシステムを用いた GNSS・音響結合方式の海底地殻変動観測, 日本地震学会秋季大会, 2023 年 10 月
- 今泉文寿, 池田 敦, 逢坂興宏, 柏原佳明, 西村直記 (2023/5) 富士山大沢川において地盤凍結が土砂生産・流下特性へ与える影響, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, 559-560, 札幌市, 北海道大学
- Imaizumi, F., Oya, S., Takayama, S. (2023/5) Field monitoring of pore-water pressure in debris flow, Japan Geoscience Union 2023, HDS05-09, 千葉市, 幕張メッセ
- Imaizumi, F., Yamamoto, R., Ikeda, A. (2022/5) Runout characteristics of debris flow under effects of ground freezing on Mt. Fuji, Japan Geoscience Union 2022, 千葉市, 幕張メッセ
- Inoguchi, M. : What is OSS-SR from Information Science Perspective, Sustainability

Research & Innovation Congress 2022, 2022.6.23.

井ノ口宗成：被災者生活再建支援にかかる相談データ分析からみた傾向，減災情報システム
第 12 回合同研究会, 2023.3.6.

井ノ口宗成・田村圭子：被災者生活再建支援の対応記録に基づく相談内容の傾向分析，日本
地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.22.

井ノ口宗成・田村圭子・堀江啓：非住家を含む建物被害認定調査における効率的なデータ
マネジメントツールの開発 -2022 年福島沖地震を事例として-, 日本地球惑星科学連合
2023 年大会, 2023.5.23.

犬飼知宏, 川本竜彦, 影田樹哉, 田阪美樹, 谷内 元, Koga, K., Rose-Koga, E., Nicollet, C.,
Debret, B., Godard, M., オマーンオフィオライトと西アルプスシュナイエ・ラゴネロオ
フィオライト蛇紋岩中の多世代の炭酸塩脈中の流体包有物が記録する熱水流体, 鉱物科
学会 2023, 大阪公立大, 9 月 15 日(ポスター).

犬飼知宏, 川本竜彦, 影田樹哉, 田阪美樹, 谷内元, Koga Kenneth, Nicollet Christian,
Rose-Koga Estelle, Debret Baptiste, 流体包有物が記録する西アルプスピエモンテ帯に
位置するかつての海洋コアコンプレックス中のオフィカーボネート形成流体の化学組成,
JpGU2023, 幕張メッセ, 5 月 21 日(ポスター).

石橋秀巳, 大塚芽久, 外西奈津美, 安田 敦: 富士山宝永噴火 Ho-II スコリアに含まれる流
紋岩質ガラス. 日本火山学会 2023 年秋季大会, 2023 年 10 月

石橋秀巳: 伊豆大島の浅部マグマ供給系：斜長石リキダスからの制約. 火山 PJ 課題間連
携研究：伊豆大島 WS, 2023 年 10 月

石井貴之, 大谷栄治: Water solubility of aluminous post-stishovite at top lower mantle
conditions: Implications for water cycle in the deep mantle (SIT17-10) (invited),
JpGU Meeting 2022, May 29-June 3, 2022.

石井貴之, 大谷栄治: Water solubility of aluminous stishovite coexisting with hydrous
phase δ : Implication for water cycle in the lower mantle, JpGU, S-IT17, Makuhri,
Japan, May 21-26, 2023.

Ishii, T., Criniti, G., Ohtani, E., Fei, H., Prevjav, N., Mao, H., Katsura, T., Water
solubility of aluminous silicas at lower mantle conditions and their implication for
water cycle in the deep mantle, AGU23. 2023 Dec 11.

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2022)：プチスポット溶岩中の太平
洋プレート構成物質の探索, 令和 3 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同
利用・共同研究成果発表会, 講演要旨集：O-22, 2022 年 2 月 28 日 (月), 高知大学, (口
頭発表) .

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2022)：プチスポットパイプを活用
してのモホール計画——海洋マントル掘削の新たな提案, 日本地質学会第 129 年学術大
会(2022 東京・早稲田)、海洋地質口頭 G7-O-6：2022 年 9 月 6 日(火)11:30～於 14 号館

B101B501 教室

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2023) : 東北沖プチスポットパイプのライザーレス掘削で海洋マントル採取に挑むー地球深部探査船「ちきゅう」による新モホール計画ー, 令和 4 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会,講演要旨集 : O-28,2023 年 2 月 28 日 (火) ,高知大学, (口頭発表) .

石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・秋澤紀克 (2023) : プチスポットパイプを活用してモホ面掘削に挑む, 令和 5 年度 東京大学地震研究所共同利用研究集会:海溝海側の変動現象と沈み込み帯へのインプット INPUT-WS2023 2023/11/27-28, INPUT23-14, 2023/11/28 (火) 14:30-15:00 (口頭発表)

石井輝秋・平野直人・秋澤紀克・金子 誠・町田嗣樹 (2024) : プチスポットパイプを活用しての, 海洋マントル採取を目指す, ライザーレス掘削,令和 5 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会,講演要旨集 : O-18,2024 年 2 月 28 日 (水) ,高知大学, (口頭発表) .

石川宏之 : 日本のジオパークにおける運営組織の教育・観光活動と地域との関係性ー日本ジオパークネットワークの 56 地域を事例としてー, 2022 年度日本建築学会大会 (北海道) , 2022.8.

石川宏之 : 土砂災害後の空地・空き家を活かす復興まちづくりのあり方ー伊豆大島ジオパークにおけるメモリアル公園と災害語り部を事例としてー, 2023 年度日本建築学会大会 (近畿) , 2023.9.

石川有三,能登半島北東部の群発地震,情報地質学会,p50-51,岡山 2023 年 6 月 23 日

石川有三,2024 年能登半島地震と群発地震,自然災害研究協議会中部地区部会,06-07,静岡 2024 年 3 月 2 日 Zoom

Ishiyama, T., Toshimichi Nakanishi, Daisuke Hirouchi, Nobuhisa Matsuta, Naoko Kato, Hiroshi Sato. Historical activity of an onshore subduction thrust and related geomorphic changes, northeastern Nankai subduction zone. European Geosciences Union General Assembly 2023, Vienna and virtually, April 2023

石山達也, 加藤直子, 佐藤比呂志, 日本列島の第四紀堆積盆地に分布する伏在活断層, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SSS12-01, 2022 年 5 月.

石山達也・佐藤比呂志・加藤直子・越谷 信, Active tectonics of reactivated of rift-related structural elements: southwestern northern Honshu rift system, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SCG50-10, 2022 年 5 月

石山達也, 佐藤比呂志, 平松良浩, 岩田知孝, 斉藤秀雄, 石毛宏和, 阿部 進, 森本・富樫断層帯中央部の深部構造探査, 日本地球惑星科学連合大会, SSS13-P09, 2023 年 5 月.

石山達也, 佐藤比呂志, 加藤直子, 反射法地震探査データからみた富山トラフ周辺の oblique rift 系の再活動, 日本地球惑星科学連合, SCG62-P06, 2023 年 5 月.

Ishizuki, A., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa (2022). Passive Seismic Method for

Direct Exploration of Subsurface Flow Associated with Hydrocarbon Production. SPE Symposium: Production Enhancement and Cost optimization–Agility in the New Era, Kuala Lumpur, Malaysia, 22-23 November, 2023.

磯 真成, 木村浩之, 地下水の揚水に伴う深部帯水層中の微生物群集構造の時間変動, 日本微生物生態学会第 35 回大会, 2022 年 11 月.

磯 真成, 木村浩之, 温泉水の汲み上げが深部地下圏の微生物群集構造に及ぼす影響, 第 23 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2023 年 3 月.

磯 真成, 佐藤 悠, 木村浩之, 付加体の深部帯水層からの揚水が地下圏微生物群集に与える影響, 日本微生物生態学会第 36 回大会, 2023 年 11 月.

板寺一洋・吉田明夫, 2015 年 5 月 芦ノ湖北岸の群発地震活動, 地球惑星科学連合大会, 2023 年 5 月.

岩崎貴哉・佐藤比呂志・蔵下英司・石毛宏和・清水英彦・石山達也・飯高 隆・篠原雅尚・川崎慎治・阿部 進・平田 直, The crust and uppermost mantle structure across the central part of the NE Japan Arc revealed from the 2019 onshore seismic refraction/wide-angle reflection profiling - II, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SCG50-04, 2022 年 5 月

岩崎貴哉, 佐藤比呂志, 蔵下英司, 石毛宏和, 清水英彦, 石山達也, 飯高 隆, 篠原雅尚, 川崎慎治, 阿部 進, 平田 直, 2019 年海陸統合地震探査による東北日本弧中部の地殻・上部マントル構造 -III, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, S06-06, 2022 年 10 月.

岩崎貴哉, 佐藤比呂志, 蔵下英司, 石毛宏和, 清水英彦, 石山達也, 飯高 隆, 篠原雅尚, 川崎慎治, 阿部 進, 平田 直, 2019 年陸域屈折/広角反射法探査解析に基づく中部東北日本弧の構造変化, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SCG62-P02, 2023 年 5 月.

岩崎貴哉, 佐藤比呂志, 蔵下英司, 石毛英彦, 清水英彦, 石山達也, 飯高 隆, 篠原雅尚, 川崎慎治, 阿部 進, 平田 直, Lateral structure variation across the central part of the NE Japan Arc deduced from the 2019 onshore seismic profiling -II, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, S06-03, 2023 年 10 月.

鏡味沙耶・丹羽正和・梅田浩司・檀原 徹・藤田奈津子・中西利典・鎌滝孝信・黒澤英樹. 火山ガラスの化学組成に基づく宮崎平野コアのイベント堆積層の対比. 地球惑星科学連合大会, HQR03-01, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月

Kajita, H., Yuta Isaji, Rintaro Kato, Yoko Nishikura, Masafumi Murayama, Naohiko Ohkouchi, Shouye Yang, Hongbo Zheng, Ke Wang, Toshimichi Nakanishi, Takenori Sasaki, Ayumi Maeda, Atsushi Suzuki, Hodaka Kawahata. Climatic changes around 4,200 years BP in western Japan and eastern China: Potential influence on the introduction of paddy rice cultivation to Japan. Japan Geoscience Union Meeting, U05-04, Chiba, June 2022

- 梶原、笠原、森谷、長曾、前藤、大沼:森地熱地域における DAS 調査の結果と地質構造、解釈との比較検討, 22) 2022 年 11 月日本地熱学, 口頭発表。
- 金瀬英義・前田恭伸: 中小企業の事業継続力強化計画の認定状況についての研究, 2023 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2024 年 3 月 2 日。
- Kani, R., Hitoshi Mikada, and Junichi Takekawa (2023). Development of a new DAS sensor for recording full strain components. Seventh International Conference on Engineering Geophysics, Al Ain, UAE, 16–19 October 2023.
- 神崎沙緒莉・前田恭伸: 自治体における防災人員の配置と課題, 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2023 年 3 月 4 日。
- 笠原、羽佐田、久詰、大沼、三ヶ田(2022)北海道森地熱発電所周辺での光ファイバーDASによる地熱フィールドの地震探査, 2022 年 5 月日本地球惑星科学連合 2022 年大会、口頭発表。
- 笠原、羽佐田、大沼、三ヶ田、藤瀬(2022)秋田県八幡平澄川地熱フィールドにおける地熱探査, 2022 年 5 月 物理探査学会 第 146 回(2022 年度春季)学術講演会、口頭発表。
- 笠原、羽佐田、三ヶ田、大沼、藤瀬 (2022)秋田県大沼・澄川での地熱坑井内の光ファイバーによる分布型温度(DTS)、振動計測(DAS)用いた地熱構造探査 2022 年 10 月日本地震学会 2022 年度秋季大会。
- 笠原、羽佐田、古谷、島崎、三ヶ田、大沼、藤瀬 滝上地熱フィールドの地熱坑井を用いた DAS 地熱探査, 2022 年 11 月物理探査学会第 147 回(2022 年度秋季)学術講演、
- 笠原、羽佐田、古谷、島崎、大沼、三ヶ田、藤瀬 滝上地熱フィールドにおける地熱坑井を用いた DAS 地熱探査, 2022 年 11 月 日本地熱学会、令和 4 年学術講演会、口頭発表。
- 笠原・羽佐田・久詰・三ヶ田・大沼・藤瀬 北海道濁川地熱フィールド森発電所の地熱坑井での DAS を用いた地熱探査, 2022 年 11 月 日本地熱学会、令和 4 年学術講演会。
- 笠原・羽佐田・大沼・三ヶ田・藤瀬 秋田県澄川地熱フィールドにおける地熱坑井を用いた DAS 地熱探査, 2022 年 11 月 日本地熱学会、令和 4 年学術講演会。
- Kasahara, J., Hasada, Y., Mikada, Ohnuma, H., H., Fujise, Y., Geophysical exploration of subsurface structure in six geothermal fields using distributed acoustic and temperature sensing methods, 2022 年 12 月 GRE2022, Oral presentation
- Kasahara, J., Hasada, H., Mikada, H., Kuzume, H., Ohnuma, H. and Fujise, Y., 静岡大学, Seismic Study at the Mori Geothermal Power Plant, Japan using DAS and DTS in a geothermal well, Stanford Geothermal Workshop 2023, 2023.2
- 笠原順三・羽佐田葉子・三ヶ田均、大沼 寛・藤瀬吉博, 静岡大学, 光ファイバーDTS と DAS の利用による高温の地熱坑井内の温度と地下構造探査, LST68, 2023.5
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Masaru Suzuki, Tomohiro Takahashi, Hitoshi Mikada, Hiroshi, Ohnuma and Yoshihiro Fujise, 静岡大学, Geothermal exploration at Kijimaya KJ-5 hot geothermal borehole in NE Japan using DTS and DAS, IMAGE

2023, 2023/7-8

Kasahara, J. Hasada, Y., Mikada, H., and Ohnuma, H., 静岡大学, Application of Optical Fiber Sensing for Geophysical Exploration in Geothermal Fields Using High-temperature and Deep Geothermal Boreholes., OFS-28, 2023.11

Kasahara, J., Yoko Hasada, Hitoshi Mikada and Hiroshi Ohnuma, 静岡大学, Fiber optic system for downhole passive/active seismic monitoring of geothermal reservoirs, 2nd SEG Geothermal workshop, 2023.11

笠原順三・羽佐田葉子・鈴木勝・高橋智広・三ヶ田均・大沼寛・藤瀬吉博, 静岡大学, 秋田県木地山地熱開発地域における地熱探査, 日本地熱学会令和5年学術講演会, 2023.11

Kasahara, J., Hasada, Y., Mikada, H., Ohnuma, H., Fujise, Y., 静岡大学, Geothermal exploration at Sumikawa, in Japan, by DTS and DAS in the geothermal well, EAGE 2023 Annual Meeting, 2023.5

笠原順三, 静岡大学, 北中部九州滝上地熱フィールドにおける地熱探査, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5

笠原順三, 静岡大学, 秋田県木地山地熱フィールドにおける地熱探査, 物理探査学会第 148 回学術講演会, 2023.5

Kasahara, J., Hasada, Y., Furuya, S., Shimazaki, M., Ohnuma, T., Mikada, H., Fujise, Y., 静岡大学, Geothermal exploration at Takigami field in Kyushu, Japan using DAS and DTS systems, EAGE Borehole Geophysics workshop, 2023.9

加藤寛基, 大多哲史, 二川雅登, “釘状電極を用いる土壌水分量計測に向けた精密土壌等価回路の構築, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集”, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.

加藤直子, 石山達也, 佐藤比呂志, 越谷 信, 小池太郎, 野田克也, 庄内平野(遊佐・中野俣・余目地域)における高分解能反射法地震探査, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SCG50-P01, 2022 年 5 月

Katsuki, K., Iori Miura, Toshimichi Nakanishi, Koji Seto, Yoshiki Saito: Diatom-inferred geomorphological changes in relation to Holocene sea-level fluctuations and delta progradation in lagoonal environments of Izumo Plain, Japan. The 17th East Eurasia International Workshop, Kunming, China, October 8-12th 2023.

Katsura, T., Ishii, T., Criniti, G., Ohtani, E., Purevjav, N., Fei, H., Mao, H.: Hydrous aluminous silicas as major water hosts in the lower mantle, EGU23, EGU23-2770, 2023.

河合竜汰, 中村香太, 橋本 岳 (静大), 山本茂広 (神戸大), “高精度三次元画像計測を目指した位相限定相関法の新しい周波数重みづけに関する基礎的研究,” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, D1-5 (2023 年 8 月).

川村 淳・西山成哲・賈 華・小泉由起子・梅田浩司・中西利典. 河川の横断面の変化をた

- どる：大井川と安倍川の事例．自然史しずおか祭，ふじのくに地球環境史ミュージアム，2023 年 10 月－11 月．
- 川野 誠，鈴木崇之，寺尾美菜子，木村浩之，微生物群集を用いたメタネーションの実用化検討，日本微生物生態学会第 36 回大会，2023 年 11 月．
- 川野 誠，中山洋平，木村浩之，多孔質セラミック担体を用いた微生物メタネーション速度向上の検討，日本微生物生態学会第 35 回大会，2022 年 11 月．
- 川崎 楽・香月興太・瀬戸浩二・斎藤文紀・中西利典．出雲平野東部の堆積物中に残された前・中期完新世の洪水記録と珪藻群集．汽水域合同研究会 2023 年（第 15 回）三重大会，三重大学生物資源学部，2023 年 10 月 28－29 日．
- 川崎 楽・香月興太・瀬戸浩二・斎藤文紀・中西利典．出雲平野東部の堆積物中に残された中期完新世初頭の洪水記録と珪藻群集．汽水域研究会，島根大学エスチュアリー研究センター，2024 年 1 月 6－7 日．
- 川瀬憲子、(単独)「分権改革 30 年と自治体財政―集権型システムの構造と課題」日本地方自治学会全国大会、共通論題 I、2023 年 11 月 11 日、東海大学品川キャンパス
- 川島 廉・牛山素行:事業所における災害リスクと BCP 策定状況の関連性,2022 年度自然災害科学中部地区研究集会,2023/03.
- 川嶋渉造・木村治夫・谷口 薫・中西利典・堤 浩之，超多重スタックの地中レーダ探査に基づく奈良盆地東縁断層帯・帯解断層の浅部地下構造．地球惑星科学連合大会，SSS12-P06，幕張メッセ国際会議場，2022 年 5 月
- Kawashima, S., Haruo Kimura, Kaoru Taniguchi, Toshimichi Nakanishi, Hiroyuki Tsutsumi, Application of ultra-rapid-stacking GPR to active fault studies: Comparison with arrayed boring in the eastern marginal fault of the Nara Basin, Southwest Japan. 19th Asia Oceania Geosciences Society, Online, August 2022
- Kazama, S., Flood adaptation and mitigation in Japan under climate change, India-Japan Joint Research, GP-RSS Symposium, Sendai, 2024.3.8.
- Kazama, S., Flood adaptation and mitigation in Japan under climate change, GP-RSS Seminar, Sendai, 2024.2.19.
- 風間 聡，気候変動における広域アクションプランについて，気候変動適応フォーラム，秋田，2024.1.27.
- 風間 聡，日本における洪水の適応策と緩和策の評価，気候変動国際シンポジウム-気候変動対策と未来ビジョン-適応・緩和研究の展望，東京，2023.10.18.
- 風間 聡，「かわ」と「みち」の関係と将来展望，シンポジウム「みち」の視点からとらえる人と自然のかかわり，オンライン，2023.9.18.
- Kazama,S.,Relationship between frequent flood,people perception,and countermeasures in cases of the 2022 floods in Japan, HS12-A002, AOGS, Singapore, 2023.8.3.
- 風間 聡，日本全土の洪水氾濫被害と適応策の検討，JHPCN:学際大規模情報基盤共同利

- 用・共同研究拠点第 15 回シンポジウム, オンライン, 2023.7.7.
- 風間 聡, 気候変動下の洪水適応オプションと地域性 (土木学会), 日本学術会議公開シンポジウム/防災学術連携シンポジウム, 東京, 2023.4.11.
- Kazama, S., Landfill problems by large river delta development, 1st Japan-Thailand Hydrology Seminar, Bangkok, 2022.9.19.
- Kazama, S., Hajime, Yanagisawa, Spatial Frequency Analysis of Extreme Precipitation Using d4PDF in Whole Japan, HS07-A007, AOGS, Online, 2022.8.3.
- 風間 聡, 水害受容社会の可能性 (水文・水資源学会), 日本学術会議公開シンポジウム/防災学術連携シンポジウム, 東京, 2022.5.9.
- 菊池康平, 山本耀平, 山本駿哉, 橋本 岳 (静大), 楠橋伸樹, 浅野隆博, 永田貴洋 (矢崎化工), 山本茂広 (神戸大), “単眼深度推定の特定環境における絶対距離推定に関する実験的検討,” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, D1-7 2023 年 8 月).
- Kimura, H., Toshimichi Nakanishi, Mei Yukawa, Takashi Hosoya, Ki-Suck Sung, Wan Hong. Holocene activity of the secondary strand of the Tanna fault revealed by sediment core analyses and ground penetrating radar profiling, the Izu Peninsula, Japan. XXI INQUA Congress, Sapienza University of Roma, July 2023
- 北村晃寿・矢永誠人・山下裕輝・中西利典. 静岡県熱海市逢初川の源頭部の黒色盛土層の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化. 2022 年度災害科学中部地区研究集会, 第 1 セッション, 静岡大学, 2023 年 3 月
- Kitamura, A., Disaster research using paleontology. 2nd Asian Palaeontological Congress, Tokyo, 2023 年 8 月 5 日.
- 北村晃寿・亀尾浩司・本山 功・守屋和佳・齊藤 毅・渡辺真人・森 英樹, 熱海土石流の発生源の盛土に含まれる軟質泥岩礫, 日本古生物学会, 博多, 2023 年 2 月 5 日.
- 北村晃寿, 2022 年台風 15 号により 9 月 24 日に発生した静岡市の洪水に関する研究, 日本第四紀学会, 所沢市, 2023 年 9 月 1 日.
- 北村晃寿・三井雄太, 1974 年 7 月洪水(七夕豪雨)の浸水深データのデジタル化と 2022 年 9 月洪水との自然的条件・浸水深の相違について, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張, 2023 年 5 月 21 日.
- 北村晃寿, 熱海土石流に関する地球科学的研究, 日本第四紀学会, 静岡市, 2022 年 8 月 26 日.
- 北村晃寿, 原田賢治: 令和 6 年能登半島地震に伴う石川県輪島市黒島漁港の隆起と津波堆積物, 2023 年度自然災害科学中部地区研究集会, 10-11, 2024 年 3 月 2 日.
- Kluger, M.O., Moon, V.G., Lowe, D.J., Chigira, M., 2022. Role of halloysite in causing flow-like landslides: examples from New Zealand and Japan, Japan Geosciences Union 2022 meeting, Makuhari.
- Kluger, M.O., Moon, V.G., Lowe, D.J., Chigira, M., 2022. Role of halloysite in causing flow-like landslides: examples from New Zealand and Japan, Japan Geoscience

Union Meeting 2022, Makuhari.

- 小林朋子・五十嵐哲也,小中学生におけるレジリエンススキルと不登校傾向との関連(1)―「友人関係」のストレスサーに焦点をあてて―,2023 年 9 月、日本カウンセリング学会 第 55 回総会 (ポスター発表)
- 小林朋子・五十嵐哲也,コロナ禍が続いたことによる小中学生の不登校傾向およびストレスサーとの関連,2023 年 8 月、日本教育心理学会第 65 回総会 (ポスター発表)
- 小村天音・成田美香・石賀裕明・瀬戸浩二・齋藤文紀・香月興太・中西利典. 堆積物の地球化学分析に基づく過去 1 万年間における宍道湖の水環境変遷について. 汽水域合同研究会 2022 年 (第 14 回) 佐賀大会, 佐賀大学, 2022 年 11 月 12-13 日
- 小村天音・成田美香・石賀裕明・瀬戸浩二・齋藤文紀・香月興太・中西利典. 地球化学的観点からみた斐川平野における完新世の水環境変遷について. 島根大学エスチュアリー研究センター第 30 回汽水域研究発表会, 汽水域研究会第 11 回例会, 汽水域合同研究発表会 2023, 島根大学, 2023 年 1 月
- 小坂宏輝, 本多勁汰, 二川雅登, 清水広介, 竹村泰司, 大多哲史, “生体内腫瘍における磁性ナノ粒子の磁気緩和機構の評価”, 第 47 回日本磁気学会学術講演会, 大阪大学, 豊中市, 大阪府, 2023 年 9 月 27-29 日
- 小関祐之・高橋信人・堀 和明・吉田圭一郎・牛山素行:大学入試における自然災害と防災に関する考察,2023 年度日本地理学会春季学術大会発表要旨集,2023/03.
- 興水健一, 石丸聡, 今泉文寿, 川上源太郎 (2022/5) 地質の違いに着目した土石流発生に寄与する地形因子の検討: 沖積錐分布に基づく決定木分析, 令和 4 年度砂防学会研究発表会概要集, 623-624, 宮崎市, 宮崎市民プラザ
- 興水健一, 石丸聡, 今泉文寿, 川上源太郎 (2023/5) 決定木分析により推定された土石流発生流域の検証, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, 751-752, 札幌市, 北海道大学
- 越谷 信, 岡田真介, 梅木健太郎, 佐々木亮輔, 佐藤比呂志, 石山達也, 加藤直子, 山形県庄内平野に伏在する活断層の側方延長, 日本地球惑星科学連合大会, SSS13-P08, 2023 年 5 月.
- 小杉素子(静岡大学)・桑垣玲子(電力中央研究所)・土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク) 放射線リスクに関する情報発信と受け手の理解 (2), 日本社会心理学会第 63 回大会: 京都橘大学, 2022 年 9 月
- 小杉素子(静岡大学) COVID-19 の予防行動の規定因 (2), 日本リスク学会第 35 回年次大会: 京都大学, 2022 年 11 月
- 小杉素子(静岡大学) 居住地域の自然災害についての認識と対策行動. 日本リスク学会第 36 回大会: 北海道大学, 2023 年 11 月
- Kosugi ,M., Reiko Kuwagaki, & Tomoko Tsuchiya. Implications for providing information about radiation risks: A comparison of mental models between Fukushima residents and experts. ICRP 2023. Online. November, 2023
- Motoko Kosugi. Climate change action implementation and determinants.

Sustainability Research + Innovation 2023, Asia Spotlight Session: Implementing online deliberation system and citizen science in climate change adaptation. Online. July, 2023

Kosugi, M., Reiko Kuwagaki, & Tomoko Tsuchiya. Information on Radiation Health Effects Based on Mental Model Comparisons: A Case Study of Fukushima Prefecture Residents 10 Years after the Fukushima Nuclear Accident. Society of Risk Analysis Europe 2023, Lund, Sweden. June, 2023

小山真人, 近接空撮画像と航空レーザー計測点群を用いた富士山 1707 年宝永噴火の火口近傍堆積物の層序と形成過程. 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, SVC32-01, 千葉市, 2023 年 5 月

小山真人, 2022 年台風 15 号による静岡県中部巴川下流域の河川氾濫～現地調査と高密度 3 次元点群データによる分析. 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2023 年 8 月 20 日, 静岡市

小山真人, 学際研究にもとづく火山の理解・知識普及・防災. 日本火山学会 2023 年秋季大会, S-01, 鹿児島市, 2023 年 10 月

小山真人, 階段図形状の意味と将来予測性. 地震・火山噴火予知研究協議会 火山計画推進部会主催シンポジウム「火山噴火の中長期的予測に向けた研究の現状と今後の課題」, 2023 年 12 月 23 日, 東京

Kukihara, K., Masaaki Miyahara, Akira Yamaguchi, Yoshio Takahashi, Yasuo Takeichi, Naotaka Tomioka, Eiji Ohtani, Elucidation of aqueous alteration in the lava units with nakhlites NWA 10153 and NWA 6148, NIPR (極地研)symposium abstract 2022.

國政光, 東宏幸, 小田義也, 渡辺俊樹, 松岡俊文, EQ transformer を用いた深層学習による地震波自動検出－7 ヶ月間の八丈島臨時地震観測データへの適用性の検討－, 物理探査学会第 147 回(秋季)学術講演会, 2022.11.16-18.

蔵下英司・佐藤比呂志・岩崎貴哉・飯高隆・石山達也・篠原雅尚・石毛宏和・清水英彦・川崎慎治・阿部進・平田直, Seismic structure from the forearc region off Miyagi to the central part of Northern Honshu arc, Japan, revealed by onshore-offshore seismic experiment - II, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SCG50-03, 2022 年 5 月

黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明. 佐賀県唐津市, 檜原湿原の形成史. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (2), 1-01, 西日本技術開発, 2024 年 2 月 17 日.

桑垣玲子(電力中央研究所)・小杉素子(静岡大学)・土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク) 放射線リスクの情報に関する受け手と専門家の差違－福島第一原子力事故に関するデブスインタビューの分析－, 日本原子力学会 2022 年秋年次大会: 茨城大学, 2022 年 9 月

桑垣玲子(電力中央研究所)・小杉素子(静岡大学)・土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク) 放射線の健康影響に対する不安に寄り添う情報提供方策の提案

- ーメンタルモデルを踏まえたメッセージ案の検討ー, 日本原子力学会 2023 年春の大会 : 東京大学, 2023 年 3 月
- 栗原圭佑, 川本竜彦, 日原 彩, 田阪美樹, 谷内 元, 2023, 幌満かんらん岩体上部のかんらん岩とマフィック岩からなる対称性がよい露頭の鉱物化学組成に記録されるマントルの再肥沃化, JpGU2023, 幕張メッセ, 5 月 25 日(ポスター).
- 栗原圭佑, 川本竜彦, 日原 彩, 田阪美樹, 谷内 元, 2023, 幌満かんらん岩体上部のかんらん岩とマフィック岩からなる対称性がよい露頭の鉱物化学組成と全岩化学組成, 鉱物科学会 2023, 大阪公立大, 9 月 16 日(ポスター).
- 栗原圭佑, 川本竜彦, 日原 彩, 田阪美樹, 谷内 元, 2024, 北海道、幌満かんらん岩体上部のかんらん岩とマフィック岩からなる露頭に記録されるメルトー岩石反応とマントルの再肥沃化, 変成岩などシンポジウム(東京大), 3 月 16 日 (口頭).
- 桑原暢子・牛山素行:熊本県における大雨警報等と被害の関係, 日本災害情報学会第 27 回研究発表大会予稿集, 2023/10.
- Li, J., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa (2023). Improved full-waveform inversion based on sparse relaxed regularized regression processing of seismic data. Seventh International Conference on Engineering Geophysics, Al Ain, UAE, 16–19 October 2023.
- Li, J., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa (2023). Accelerated augmented Lagrangian full-waveform inversion based on truncated randomized singular value decomposition, Third International Meeting for Applied Geoscience & Energy, Houston, Texas, U.S.A., 27 August-1 September, 2023.
- Maeda, Y., Watanabe, T., Terakawa, T., Yamanaka, Y., Horikawa, S., Subsurface structure and recent activity of Mt. Ontake, central Japan, IAVCEI Scientific Assembly, 2023.1.
- Maeda, Y., urhan Yunus Mamajiwala: Gaps of perception about risk of cyber security attacks on autonomous vehicles between automotive companies and third-party companies, SRA Asia 2022 Conference, 2022 年 11 月 19 日.
- Maeda, Y., Pooja Suresh: Climate change and plastic ban, Society for Risk Analysis Annual Meeting 2023, 2023 年 12 月 11 日.
- 牧田みなみ・秋元菜摘, 地理情報システム (GIS) の応用に関する教育効果ー浜名湖弁天島における観光防災の事例, 第 21 回情報学ワークショップ, 静岡大学, 12/2023.
- 増田俊明・大森康智:板状鉱物の形態選択配向の変形による改変: マーチモデルを用いた 2 次元シミュレーション, 日本地質学会. 2022
- 増田俊明・酒井瑞帆・大森康友・楠 賢司:面構造の定量化: ホルンフェルスの変形解析, 日本地質学会. 2023
- 松原 誠, 佐藤比呂志, 越谷 信, 地震波速度急勾配域で発生した 2022 年 3 月 18 日岩手県

- 沖の地震, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, S09P-10, 2022 年 10 月.
- 松原 誠, 佐藤比呂志, 伊豆衝突帯周辺のフィリピン海プレートのイメージング, 日本地球惑星科学連合, SCG62-P04, 2023 年 5 月.
- 松原 誠, 佐藤比呂志, 近畿地方における地震発生層下限, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, S09-19, 2023 年 10 月.
- 松田、北岡、笠原、中平 光ファイバーの光透過損失その場観察装置の開発, 2022 年 11 月 日本地熱学会令和 4 年学術講演会。
- Matsuda, T., Satoshi Kitaoka, Kenji Nakahira, Taishi Ito, Takeharu Kato, Junzo Kasahara, JFCC, 静岡大学, Evaluation of in-situ optical loss of polyimide-coated optical fiber under hydrothermal environments, OFS-28, 2023.11
- 松田哲志・北岡諭・中平兼司・伊藤大志・加藤丈晴・笠原順三, ファインセラミックスセンサー, 静岡大学, 高温高压水中における光ファイバーの光透過損失のその場評価, LST68, 2023.5
- 勝又慎之輔・小林朋子・小川良子, 学習内容とソーシャルエモーショナルラーニングとの関連について(2)ー中学校「保健」の教科書分析からー, 2023 年 8 月、日本学校心理学会第 25 回大会 (ポスター発表)
- 松本一久, 奥村 聡, 中谷貴之, 鈴木敏弘, 東宮昭彦, 石橋秀巳: 高温高压実験に基づいた伊豆大島 1986 年 B 火口サブプリニー式噴火のマグマ上昇中の結晶化の温度・圧力の推定. JpGU Meeting 2023, 2023 年 5 月
- 松本拓己, 田阪美樹, 2024, 三波川変成帯のメタチャートを用いたアルバイト異常粒の形成過程, 変成岩などシンポジウム(東京大), 3 月 14 日-3 月 16 日 (ポスター).
- 松野佑香・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・福與直人・小田啓邦. 北海道釧路市の春採湖で見られる近現代の津波堆積物と珪藻. 汽水域合同研究会 2022 年 (第 14 回) 佐賀大会, 佐賀大学, 2022 年 11 月 12-13 日
- 松野佑香・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・福與直人・小田啓邦. 北海道釧路市春採湖の近現代の津波と古環境. 汽水域合同研究発表会 2023, 島根大学+ Web 開催, 2023 年 1 月
- 松野佑香・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・福與直人・小田啓邦. 北海道釧路市春採湖の近現代の津波と古環境. 地球惑星科学連合大会, HQR03-P011, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月
- 松野佑香・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・福與直人・小田啓邦. 珪藻分析に基づく北海道釧路市の春採湖における近現代の津波堆積物の水環境復元. 汽水域合同研究会 2023 年 (第 15 回) 三重大会, 三重大学生物資源学部, 2023 年 10 月 28-29 日.
- 松野佑香・香月興太・七山 太・中西利典・深津恵太・酒井恵祐・福與直人・小田啓邦. 珪藻分析を用いた北海道釧路市の春採湖の近現代の津波にかかわる湖水環境の復元. 汽

- 水域研究会, 島根大学エスチュアリー研究センター, 2024 年 1 月 6-7 日.
- McIntosh, I., K. Tani, K. Aoki, A. Nichols, T. Yanagishima, Q. Chang, J. Kimura, M. Kobayashi, M. Murata and T. Suzuki 2022. Eruption history of the submarine Oomurodashi volcano. 日本火山学会 2022 年度秋季大会, B2-14, 2022 年 10 月 13 日.
- McIntosh, I., K. Tani, K. Aoki, A. Nichols, T. Yanagishima, Q. Chang, J. Kimura, M. Kobayashi, M. Murata, T. Suzuki, 2023. FTIR analysis of H₂O in hydrated volcanic glasses: insights into submarine eruption processes, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, S-GC37, 2023 年 5 月 23 日.
- Mikada, H. (2023). Numerical study on sustainable seismic passive monitoring of subsurface fluid flow in an early hydrogen society, Post Convention Workshop, Annual Meeting of the Society of Exploration Geophysicists, Houston, Texas, U.S.A., 28 August-2 September, 2022 (Invited Talk).
- 光井能麻, 吉武久美, 坪井裕子, 窪田由紀, 中川和之: 事前の理科教育が震災時のストレス軽減を促す心理的プロセスの検証-熊本地震の事例における面接調査の実施, 日本地球惑星科学連合大会, 2022 年 5 月
- 三井雄太, 上原啓嗣, 小杉一誠, 松尾功二: 南海トラフにおける地震活動と大規模スロースリップの海溝軸方向分布: 重力との関係, 日本測地学会第 138 回講演会, 2022/10/7.
- 三井雄太: GNSS 速度場のソフトクラスタリングに基づく伊豆半島周辺の地体構造, 第 1 回「南海トラフ～南西諸島海溝の地震・津波に関する研究会」, 2022/10/18.
- 三井雄太, 宇田川裕矢: 日本のマグニチュード 7 級地震を例とした余震域拡大速度の定量化: 差応力計としての可能性, 日本地震学会 2022 年度秋季大会, 2022/10/25.
- 三井雄太: 常時地震活動・余震活動から探る日本列島下の応力状態, 2023 年度統計関連学会連合大会, 2023/9/6.
- 三井雄太: 日本列島下の地殻内「内部摩擦係数」の分布推定, 日本地震学会 2023 年度秋季大会, 2023/11/1.
- 三浦伊織・香月興太・瀬戸浩二・齋藤文紀・中西利典. 珪質微化石分析に基づく斐伊川河口域における完新世の環境変動とその要因. 汽水域合同研究会 2022 年 (第 14 回) 佐賀大会, 佐賀大学, 2022 年 11 月 12-13 日
- 三浦伊織・香月興太・瀬戸浩二・齋藤文紀・中西利典. 珪質微化石分析に基づく斐伊川河口域における中期・後期完新世の環境変動. 地球化学的観点からみた斐川平野における完新世の水環境変遷について. 島根大学エスチュアリー研究センター第 30 回汽水域研究発表会, 汽水域研究会第 11 回例会, 汽水域合同研究発表会 2023, 島根大学, 2023 年 1 月
- 三輪学央, 石橋秀巳, 風早竜之介, 奥村 聡, 井口正人, 斎藤元治, 安田 敦, 下司信夫, 鍵 裕之: Comparison of redox states of volcanic glass and gas at Bromo volcano, Indonesia: Implications for the degassing process. JpGU Meeting 2023, 2023 年 5 月
- 宮下明典, 石橋秀巳, 外西奈津美, 安田 敦: 伊豆大島 1986 年 B 噴火マグマの時系列変化.

- 日本火山学会 2023 年秋季大会, 2023 年 10 月
- 宮崎太良・井ノ口宗成：クラウドソーシングを活用した社会素因リスクマップの策定支援ツールの開発, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.23.
- 望月美希、2024、令和 4 年台風 15 号災害における中・長期支援とその課題—静岡市清水区を事例に一、第 10 回震災問題研究交流会自由報告.
- Mochizuki, Miki, What Are the Reconstruction Issues 10 Years after the Great East Japan Earthquake? Case Studies of Tsunami-Affected Area in Miyagi Prefecture ,XX International Sociology Association World Congress of Sociology (ISAWCS2023 in Melbourne, Australia) , Session:Toward a Critical Disaster Studies in Japan and Beyond: Issues in Theory and Research, 1page, 2023.
- 望月美希、2023、「ふるさとを失う」ということ—福島県浪江町大堀相馬焼の復興と葛藤、第 96 回日本社会学会大会自由報告（立正大学）.
- 望月美希、2023、避難の「超長期化」における生活課題と支援—静岡県における東日本大震災避難者支援活動の事例から、地域社会学会第 40 回大会自由報告（駒沢大学）
- 望月美希、2023、その〈土地〉で〈働く〉ことの意味を考える—『震災復興と生きがいの社会学』を問い直す、日本社会理論学会 2022 年度研究例会（招待有、オンライン）
- 望月美希、2023、東日本大震災後の長期・広域避難と支援の課題—静岡県における避難者支援活動に着目して、第 9 回震災問題研究交流会自由報告（早稲田大学）
- Miki Mochizuki,2022, Succession of Urban Agricultural Land: A Case Study of suburban area of Tokyo, 10th ESD Forum by JPTI6 Sustainable Development Consortium (Invited presentation, Online).
- 望月美希、2022、社会調査教育における質的調査法—若手研究者の視点から、第 60 回関東社会学会大会（招待有、オンライン）.
- 森下祐一、地球科学における IRMS・SIMS 質量分析から見た同位体比の意義、日本学術振興会 R026 委員会第 15 回研究会、東京、2023.12.18.
- Morishita, Y., Significance of carbon and oxygen isotope ratios of hydrothermal calcite: Re-recognition of calcite for the interpretation of fluid-rock interaction processes during ore mineralization, Goldschmidt Conference 2022, Hawaii, USA, 2022.7.12.
- 森 保文・浅野敏久・前田恭伸：態度、意図、社会圧力およびコスト感がボランティア活動参加に与える影響：予定行動理論の適用、環境科学会 2023 年会、2023 年 9 月 7 日.
- 森重 学、田阪美樹、2022、結晶方位選択配向による熱伝導率の異方性が沈み込み帯温度構造に及ぼす影響、地球惑星科学連合、幕張、5 月 26 日(口頭).
- Motoyoshi, T. and Hayashi Y., Risk perception and Disaster preparedness in Japan, "Society for Risk Analysis Annual Meeting, Tampa Marriott Water Street, FL, USA, 2022 年 12 月 5 日.
- 元吉忠寛・林 能成、地震リスクの認知と防災対策行動の実施度、日本リスク学会年次大会、

北海道大学, 2023 年 11 月 12 日.

向井利明・牛山素行:キキクル（危険度分布）等を用いた避難情報の検討ー2022 年 8 月の新潟県の線状降水帯等による大雨ー,日本災害情報学会第 26 回研究発表大会予稿集,2023/03.

向井利明・牛山素行:大雨特別警報の運用等の変遷と改善効果,日本災害情報学会 第 28 回学会大会 ,2024/03/16.

村上琥太郎, 河合竜汰, 橋本 岳（静大）, 高橋英俊（中日本高速道路）, 山本茂広（神戸大）, “防災応用のための 3 次元画像計測のフィルタリングによる改善,” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, D1-8 (2023 年 8 月).

村山良之, 桜井愛子、佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史、熊谷 誠：地形を踏まえたハザードマップ 3 段階読図法ー教員研修の実践に基づく展開、日本地理学会発表要旨集、pp191、2024.3

Muztahidul, I. MD., S. Ota, S. Koike, M. Takai, M. Futagawa, “Development of a Striped Gate Potassium ion Sensor Without Anion Exclusion Material for Long-Term Monitoring”, The 22th International Conference on Solid-State Sensors, Actuators and Microsystems (Transducers 2023), Kyoto, Japan, June 25-29, 2023.

Muztahidul, I. MD., S. Ota, S. Koike, M. Takai, M. Futagawa, “アニオン排除効果を制御するストライプゲート型カリウムイオンセンサーデバイスの開発”, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.

長原翔伍・宮本成悟・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介：多方向ミュオグラフィによる伊豆大室山の 3 次元透視. 日本写真学会年次大会, 2-II-14, オンライン, 2022 年 7 月

長根尾修平, 佐藤晴紀, 大多哲史, 二川雅登, “短時間かつ微小信号計測可能な熱電型土壌水分量センサシステムの開発”, 令和 5 年電気学会 E 部門総合研究会, 豊田工業大学, 名古屋市, 愛知県, 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

長尾年恭, 鴨川 仁, 上嶋 誠, 楠城一嘉, 2023 年度における富士山における全磁力・地震データ解析の進捗状況, 認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会第 17 回成果報告会, 2024 年 3 月 10 日, 連合会館（ハイブリッド方式）,
https://npofuji3776.org/seika/yoko17/yoko17_05.pdf.

長尾年恭, 鴨川 仁, 楠城一嘉, 上嶋 誠, 佐柳敬造, 富士山噴火予知実現のための多角的監視 22-11, 日本地震予知学会 第 9 回学術講演会, 京都大学吉田キャンパス・国際科学イノベーション棟シンポジウムホール, 2022 年 12 月 23-24 日,
<https://www.eqpsj.jp/docs/FY2022program.pdf>.

Naito, Y., S. Akiyama, S. Yokoyama, S. Ota, M. Futagawa, “Development of the Protection Circuit for the Electrostatic-Discharge of Stripe-Gate Type ISFET pH

- Sensor”, Advanced Materials Research Grand Meeting MRM2023/IUMRS-ICA2023, Kyoto, Japan, December 11-16, 2023.
- 内藤嘉晴, 秋山真太郎, 横山竣也, 大多哲史, 二川雅登, “静電気放電に対する耐性向上を目指したストライプゲート型 ISFET センサシステムの開発”, 第 40 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2023 年 11 月 6 日-8 日, 熊本城ホール, 熊本県熊本市
- 中川和之:日常の景観に大地の営みを読み解き災害を想起する＝地震火山地質こどもサマースクールの 23 年, 日本地球惑星科学連合大会, 2022 年 5 月
- 中川和之:講師役などを務めた 86 人の研究者アンケートから, 日本地球惑星科学連合大会, 2022 年 5 月
- Nakajima, Y., Yu Sato, Satoshi Ohkubo, Miho Hirai, Kenji Okano, Hiroyuki Kimura, Kohsuke Honda, Masaru K. Nobu, Hideyuki Tamaki, Ken Takai. Tera base hot spring metagenomes illuminate novel and diverse microbiomes. Symposium of Aquatic Microbial Ecology (SAME17), 2023 年 8 月.
- 中丸遼太, 渡辺俊樹, 白石和也, 澁谷拓郎, リバースタイム反射波イメージングの遠地地震記録への適用, 物理探査学会第 146 回(春季)学術講演会, 2022.6.7-9.
- 中西利典・北村晃寿・石山達也・堀 和明・松多信尚・北川浩之・ホン ワン, 駿河湾沿岸における放射性炭素海洋リザーバー効果. 日本第四紀学会, O-16, 静岡県地震防災センター, 2022 年 8 月
- Nakanishi, T., Tatsuya Ishiyama, Marie Noguchi, Wan Hong, Detection of tectonic movement and marine reservoir effect in the Holocene sediments from the Ukishima plain, central Japan. The 24th Radiocarbon – 10th 14C & Archaeology International Conference, A05_P08, p.49, Zurich, September 2022
- Nakanishi, T., Kazuaki Hori, Rei Nakashima, Wan Hong, Identification of marine reservoir effect in the Holocene sediments from the Nobi Plain, central Japan. The 24th Radiocarbon – 10th 14C & Archaeology International Conference, A02_P03, p.15, Zurich, September 2022
- 中西利典, 大型試料用の蛍光 X 線分析装置の展望. 国際火山噴火史情報研究集会, 2022 (1), 大阪公立大学 (オンライン併用), 2-08, 2022 年 10 月
- 中西利典, 沖積層に含まれる碎屑物の放射性炭素年代値の高精度解析, 2022 年度 ISEE 共同利用・共同研究コミュニティ・ミーティング, オンライン, 2022 年 11 月
- 中西利典・北川浩之・山田和芳, 尾鉾堆積物に含まれる木片の放射性炭素年代, 第 32 回社会地質学会シンポジウム, ハイブリッド, 2022 年 11 月
- 中西利典・瀬戸浩二・香月興太・入月俊明・ホン ワン・齋藤文紀, 斐伊川河口の完新統の堆積速度と海洋リザーバー効果. 国際火山噴火史情報研究集会, 2022 (2), 1-05, 福岡大学 (Webex meeting 併用), 2023 年 3 月

- 中西利典・瀬戸浩二・香月興太・入月俊明・齋藤文紀・ホン ワン, 放射性炭素年代測定による斐伊川河口の完新統の堆積速度と海洋リザーバー効果. 日本第四紀学会, P-05, 早稲田大学所沢キャンパス, 2023 年 9 月 1-3 日
- 中西利典・木村治夫・湯川芽依・細矢卓志・ソン キソク・ホン ワン, ボーリングコア解析と地中レーダ探査による丹那断層の完新世の活動性評価. 日本地質学会, G-P-29, 京都大学吉田南構内, 2023 年 9 月 17-19 日
- Nakanishi, T., Tatsuya Ishiyama, Ki-suck Sung, Wan Hong, Accumulation rate in the Holocene sediments across an onshore subduction thrust, northeastern Nankai Trough. The 9th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium (EA-AMS 9), P29, Seoul, November 2023
- 中西利典・北田寿夫・水平 学, 蛍光 X 線分析による博物館標本への元素マッピングの試行実験. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2023 (2), 4-07, 福岡, 2024 年 2 月 18 日.
- Nanjo, K. Z., Y. Yukutake, A study on detection of low-frequency earthquakes at Mt. Fuji and data quality evaluation, JpGU2022, 2022 年 5 月 22-27 日ハイブリッド(幕張メッセ), 5 月 29 日-6 月 3 日オンラインポスター,
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2022/subject/SSS11-P04/advanced>.
- 七山 太・香月興太・松野佑香・中西利典・福與直人・酒井恵祐・深津恵太・石井正之・重野聖之・大串健一・古川竜太・小田啓邦. 釧路市春採湖から採取された年縞堆積物コアの解析計画: 1 次的な研究成果と今後の展望. 地球惑星科学連合大会, HQR03-14, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月
- 楠城一嘉, ETAS と b 値を用いた静岡県大の研究, ISM STAR-e workshop, 2024 年 2 月 13 日, 統計数理研究所会議室 1 (ハイブリッド方式),
<https://star-e.ism.ac.jp/topics/285.html>.
- 楠城一嘉, 行竹洋平, 熊澤貴雄, 静岡県伊東沖の地震活動の解析, 日本地震学会 2023 年度秋季大会, 2023 10 月 31 日-11 月 2 日, パシフィコ横浜アネックスホール,
<https://confit.atlas.jp/guide/event/zisin2023/subject/S09-17/advanced>.
- 楠城一嘉, 山本揚二郎, 有吉慶介, 堀川博紀, 矢田修一郎, 高橋成実, DONET の地震検知能力に関する研究, 日本地震学会 2023 年度秋季大会, 2023 年 10 月 31 日-11 月 2 日, パシフィコ横浜アネックスホール,
<https://confit.atlas.jp/guide/event/zisin2023/subject/S02P-03/advanced>.
- Nanjo, K. Z., Y. Yamamoto, K. Ariyoshi, H. Horikawa, S. Yada, N. Takahashi, A completeness analysis of Dense Oceanfloor Network system for Earthquakes and Tsunamis (DONET), AGU fall meeting, 2023 年 12 月 11-15 日, San Francisco (USA),
<https://agu.confex.com/agu/fm23/meetingapp.cgi/Paper/1337376>.
- 楠城一嘉, Hierarchical Space-Time ETAS (HIST-ETAS)モデルを用いたオンライン地震活

- 動評価の実証実験：序報，日本地球惑星科学連合 2023 年大会，2023 年 5 月 21-26 日，幕張メッセ(千葉)，
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2023/subject/SSS10-P19/advanced>.
- 楠城一嘉，行竹洋平，熊澤貴雄，A preliminary analysis of seismic activity off the coast of Ito, Shizuoka, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会，2023 年 5 月 21-26 日，幕張メッセ(千葉)，<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2023/subject/SVC33-03/advanced>.
- Nanjo, K.Z., Keisuke Ariyoshi, Yojiro Yamamoto, Hiroki Horikawa, Shuichiro Yada, Narumi Takahashi, Preliminary analysis of earthquake detection probabilities and completeness levels for the Dense Oceanfloor Network system for Earthquakes and Tsunamis (DONET), 日本地球惑星科学連合 2023 年大会，2023 年 5 月 21-26 日，幕張メッセ(千葉)，<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2023/subject/SSS04-P06/advanced>.
- 楠城一嘉，井筒 潤，鴨川 仁，堀 高峰，尾池和夫，Spatial variability of the response of the Nagano seismicity to the 2011 Tohoku-oki earthquake, in Japan, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会，2023 年 5 月 21-26 日，幕張メッセ(千葉)，
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2023/subject/SSS1013/advanced>.
- Nanjo, Kazuyoshi, Izutsu, Jun, Kamogawa, Masashi, Hori, Takane, Nagao, Toshiyasu, Oike, Kazuo, Seismicity before and after the 2023 M7.8 and M7.5 earthquake sequence in Turkey: a preliminary report, The 28th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG), 2023 年 7 月 11-20 日，Berlin (Germany), https://gfzpublic.gfzpotdam.de/pubman/item/item_5020882.
- Nanjo, K.Z., SE13-A011 A Preliminary Report on Evaluating Online Seismicity: a Demonstration Experiment Using the Space-time ETAS Model, AOGS2023, 2023 年 7 月 30 日-8 月 4 日，Singapore,
<https://www.meetmattsvr.net/timetable/presenterSchedule2023?CfId=5&AuthorFname=nanjo&PMode=All&DayId=&SlotId=&SID=>.
- Nanjo, K.Z., Y. Yukutake, T. Kumazawa, Volcanism of Mount Fuji activated by the 2011 Japanese large earthquakes, EGU23-2186, EGU, Vienna, Austria, 2023 年 4 月 23-28 日，<https://doi.org/10.5194/egusphere-egu23-2186>.
- 成田美香・小村天音・石賀裕明・瀬戸浩二・齋藤文紀・香月興太・中西利典．出雲平野における柱状試料の地球化学的分析から見た後背地地質の変化．汽水域合同研究会 2022 年（第 14 回）佐賀大会，佐賀大学，2022 年 11 月 12-13 日
- 成田美香・小村天音・石賀裕明・瀬戸浩二・齋藤文紀・香月興太・中西利典．出雲平野における柱状試料の地球化学的分析から見た後背地地質の変化の評価．島根大学エスチュアリー研究センター第 30 回汽水域研究発表会，汽水域研究会第 11 回例会，汽水域合同研究発表会 2023，島根大学，2023 年 1 月
- Nishida, M., S. Tanaka, M. Futagawa, Y. Takemura, S. Ota, “Evaluation of detection

technique of magnetic nanoparticles using pulsed magnetic field”, The 67th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials (MMM 2022), Mineapolis, USA, Oct. 31-Nov. 4, 2022.

Nishida, M., M. Futagawa, Y. Takemura, S. Ota, “Evaluation of magnetization response of magnetic nanoparticles internalized into cultured adherent cells”, IEEE International Magnetics Conference 2023, Sendai, Japan, May 15-19, 2023

西田 穰, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史, “接着細胞内磁性ナノ粒子の磁気緩和機構の評価, 令和 4 年度電気学会 A 部門マグネティックス研究会”, 東北大学 青葉記念会館, 2023 年 1 月 20 日.

西田 穰, 倉科佑太, 二川雅登, 竹村泰司, 大多哲史, “接着細胞内における磁性ナノ粒子の磁気特性評価”, 第 47 回 日本磁気学会学術講演会, 大阪大学, 豊中市, 大阪府, 2023 年 9 月 27-29 日

西川 空・奥野 充・大下愛央・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・ホン ワン. 京都北山, 八丁平湿原のコア層序と完新世の堆積環境史. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (1), 4-02, 福岡大学 (オンライン併用), 2023 年 3 月

西川 空・奥野 充・大下愛央・藤木利之・林田 明・中西利典・鳥井真之・洪 完. 京都北山, 八丁平湿原における完新世の堆積環境史. 地球惑星科学連合大会, SGL21-P02, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月

西川 空・大下愛央・Raymond Patrick R. Maximo・Robjunelieaaa B. Lim・Marie Thess Q. Gemal・Jason Edward A. Cochon・Aljhon Q. Marco・Arian Paul D. Norcio・Cheska Joi G. Vergara・林田 明・中西利典・香月興太・瀬戸浩二・藤木利之・富安卓滋・村尾 智・山田和芳・奥野 充. フィリピン・ルソン島, Amorong 火山群の Paitan 湖のコア試料分析. 第 33 回社会地質学シンポジウム, 日本大学文理学部, 2023 年 11 月 24-25 日.

西川 空・黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明. 福井県勝山市, 池ヶ原湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (2), 1-02, 西日本技術開発, 2024 年 2 月 17 日.

野村智哉, 三浦健太郎, 藤園幹樹, 二川雅登, “小型 NMR 計測システムのための均一かつ高い静磁場を目指した永久磁石の開発”, 令和 4 年電気学会 E 部門総合研究会, 金沢商工会議所会館, 金沢市, 石川県, 2022 年 6 月 7-8 日. 2022 年度電気学会優秀論文賞受賞

野村智哉, 三浦健太郎, 大多哲史, 二川雅登, “NMR 計測システム小型化のための高均一かつ高磁場を目指した永久磁石の開発”, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.

野村智哉, 三浦健太郎, 大多哲史, 二川雅登, “永久磁石を用いた小型 NMR センサシステムによる水素イオン微小信号検出の実現”, 令和 5 年電気学会全国大会, 名古屋大学, 名古屋市, 愛知県, 2023 年 3 月 15 日-17 日

- Nozaki, T., Goto, K. T., Takaya, Y., Shimada, K., Owada, A., Kimura, J.-I., Chang, Q., Onoue, T., Machida, S., Shimizu, K., Ishii, T. and Hirano, N. (2022): Petrography and stratigraphic Os isotope age of ferromanganese nodule in the eastern offshore of Minamitorishima Island. 日本地球惑星科学連合 2022 年大会 (幕張, 2022 年 5 月).
- 大庭拓武, 生田領野, 山岡耕春, 辻修平, 馮晨, 渡辺俊樹, 小池遥之, 精密制御定常震源システム ACROSS による, 地震波速度の地下水位への応答の解析, 日本地震学会 2022 年秋季大会, 2022.10.24-26.
- 小田義也, 東 宏幸, 國政 光, 渡辺俊樹, 白石和也, 深層学習を用いた Virtual Seismic Network とその予備的検討, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.21-26.
- 小形 学・塚原柚子・川村 淳・菅野瑞穂・西山成哲・末岡 茂・小松哲也・中西利典・安江健一, 長石の OSL 年代測定による離水時期の推定: 能登半島と大井川の事例. 地球惑星科学連合大会, SCG42-P07, 幕張メッセ国際会議場, 2022 年 6 月
- 小形 学・小松哲也・中西利典. MIS 5e 海成段丘堆積物の長石 OSL 年代測定: 紀伊半島南東部における事例. 地球惑星科学連合大会, SCG54-P03, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月
- 小川良子・小林朋子・勝又慎之輔, 学習内容とソーシャルエモーショナルラーニングとの関連について(1)ー小学 1, 2 年生国語の教科書分析からー, 2023 年 8 月、日本学校心理学会第 25 回大会 (ポスター発表)
- 大橋克矢・秋元菜摘, 浜名湖弁天島エリアの観光におけるスマートシティ化, 第 20 回情報学ワークショップ, S-2B-2, 愛知工業大学, 12/2022.
- 大下愛央・奥野 充・西川 空・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・ホン ワン. 阿武単成火山群, 宇生賀盆地のコア層序: 鬼界アカホヤテフラの発見とその意義. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (1), 4-03, 福岡大学 (オンライン併用), 2023 年 3 月
- 大下愛央・奥野 充・西川 空・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・洪 完. 阿武単成火山群, 宇生賀盆地の埋積過程. 地球惑星科学連合大会, SGL21-P03, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月
- 大下愛央・西川 空・Raymond Patrick R. Maximo・Robjunelieaaa B. Lim・Marie Thess Q. Gemal・Jason Edward A. Cochon・Aljhon Q. Marco・Arian Paul D. Norcio・Cheska Joi G. Vergara・林田 明・中西利典・香月興太・瀬戸浩二・藤木利之・富安卓滋・村尾 智・山田和芳・奥野 充. フィリピン・ルソン島, San Pablo 火山群の Balungbong マールのコア試料分析. 第 33 回社会地質学シンポジウム, 日本大学文理学部, 2023 年 11 月 24-25 日.
- 大下愛央・黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明. 伊豆半島南部, 蛇石大池湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元. 国際火山噴火史情報研究集会, 2023 (2), 1-03, 西日本技術開発, 2024 年 2 月 17 日.
- 大谷栄治, 石井貴之, シャツキー アントン: Aluminum and hydrogen partitioning between

- bridgmanite and high-pressure hydrous phases and its application to the lower mantle dynamics, JpGU Meeting 2022 Japan, May 29-June 3, 2022.
- 大谷栄治, 生田大穰, 福井宏之, 坂巻竜也, 石川大介, バロンアルフレッド: Density deficit of the inner core revealed by a new rhenium primary pressure scale, JpGU Meeting 2022 Japan, May 29-June 3, 2022.
- 大谷栄治, McDonough William, 吉崎 昂: 酸素とイオウに富んだ火星の核と火星核のダイナモ, JpGU Meeting 2022 Japan, May 29-June 3, 2022.
- 大谷栄治, 石井貴之: 含水鉱物と共存するブリッジマナイトの水素とアルミナ枯渇と地球内部ダイナミクス, 日本鉱物科学会, Japan, September 17-19, 2022.
- 大谷栄治, マクドノア ウィリアム: High temperature separation of the oxygen-rich big Martian core, JpGU2023, S-IT17, Makuhari, Japan, May 21-26, 2023.
- 大谷栄治, 石井貴之: Role of water in dynamics of slabs and surrounding mantle, JpGU, S-IT17, Makuhari, Japan, May 21-26, 2023.
- 大谷栄治, マクドノアウィリアム: 高温における酸素に富む火星核の形成過程, 日本鉱物科学会 2023 年年会, 2023 年 9 月 14 日—16 日 R3-12.
- 岡田郁生, 柴田知之, 芳川雅子, 石橋秀巳, 杉本 健, 早坂康隆: 西南日本弧由布岳安山岩を生成した端成分マグマ. 日本火山学会 2023 年秋季大会, 2023 年 10 月
- 奥野 充・三浦大助・廣野哲朗・菅原大助・藤木利之・山田和芳・早川宗志・中西利典・栗畑光博・新里貴之・清杉孝司・宝田晋治, 低頻度・巨大災害のレジリエンス強化に向けた融合研究の提唱. 国際火山噴火史情報研究集会, 2022 (1), 2-02, 大阪公立大学 (オンライン併用), 2022 年 10 月
- 大植 和・入月俊明・中島 啓・瀬戸浩二・香月興太・中西利典・齋藤文紀. 簸川平野東部のボーリングコアにおける完新世 貝形虫の高時間分解能分析. 日本地質学会西日本支部, 令和 4 年度総会第 173 回例会, P-4, 島根大学, 2023 年 3 月
- 大植 和・入月俊明・中島 啓・瀬戸浩二・香月興太・中西利典・齋藤文紀. 貝形虫化石群集解析に基づく島根県出雲平野東部の前期完新世の古環境変化. 日本地質学会, 京都大学吉田南構内, 2023 年 9 月 17-19 日.
- 大植 和・入月俊明・中島 啓・瀬戸浩二・香月興太・齋藤文紀・中西利典. 貝形虫化石群集解析に基づく島根県出雲平野東部の前-中期完新世の古環境変化. 汽水域研究会, 島根大学エスチュアリー研究センター, 2024 年 1 月 6-7 日.
- 小沢光幸・川崎慎治・東中基倫・佐藤比呂志・阿部 進, 深層学習 (コンボリャーションニューラルネットワーク) を用いた地震波の初動検出, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, STT50-01, 2022 年 5 月
- 齋藤 玲, 小田隆史, 邑本俊亮, 佐藤 健: 放射線教育とその研究の時空間減衰—文献レビューと齋藤・小田 (2021) の追加分析—, 東日本大震災・原子力災害第 1 回学術研究集会, 2023.3

- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一，北海道東部，春採湖湖底堆積物の花粉分析による縄文海進期の植生変遷についての予察的研究．地球惑星科学連合大会，HQR04-07，幕張メッセ国際会議場，2022 年 5 月
- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一．北海道東部，春採湖で得られた堆積物を用いた縄文海進期の花粉分析．日本第四紀学会，O-15，静岡県地震防災センター，2022 年 8 月
- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一．北海道釧路市春採湖における縄文海進期の植生変遷．国際火山噴火史情報研究集会，2023 (1)，1-02，福岡大学（オンライン併用），2023 年 3 月
- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一．花粉分析に基づく北海道春採湖における過去 8,500 年間の植生変遷．地球惑星科学連合大会，HQR03-15，幕張メッセ国際会議場，2023 年 5 月
- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一．北海道春採湖における 9,500～3,000 cal BP の高時間分解能に基づく古植生復元．日本第四紀学会，O-25，所沢キャンパス，2023 年 9 月 1-3 日．
- 境澤由起江(静岡大学)・中村泰敏(静岡大学)・小杉素子(静岡大学)・西田昌史(静岡大学)・和田 真(静岡大学)・鈴木康之(静岡大学) 児童の時間知覚の発達を支援するリズムアプリの研究開発，情報処理学会アクセシビリティ研究会第 20 回研究会：オンライン，2022 年 12 月
- 桜井愛子，村山良之，佐藤 健，熊谷 誠，北浦早苗，小田隆史：Web GIS を利用した学校職員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～，日本安全教育学会第 24 回奈良大会プログラム・予稿集，pp.48-49，2023.9
- 桜井愛子，村山良之，佐藤 健：地域の災害リスクを踏まえた学校防災の拡充に向けた一考察～防災主任の役割に着目して～，防災教育学会第 3 回大会，オンライン，2022.6
- 三城春樹，内藤 諒，橋本 岳（静大），山本茂広（神戸大），阿部雅人，杉崎光一（ベイスコンサルティング），“橋梁のたわみ計測の汎用性向上のための広範囲撮影及び高倍率超解像に関する実験的研究，” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会，D1-6 (2023 年 8 月)．
- 佐々木貴史，山田巧真，加藤寛基，大多哲史，二川雅登，“土中 2 次元水分量分布計測システムの開発に向けた水分量不均質土壌計測の精度確認”，第 40 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集，2023 年 11 月 6 日-8 日，熊本城ホール，熊本県熊本市
- Satgada, C. P., Imaizumi, F., Egusa, T. (2022/5) Effect of the landslides occurrence on the soil carbon/nitrogen loss in the southern Japanese Alps, Japan Geoscience Union 2022, 千葉市，幕張メッセ

- 佐藤比呂志・石山達也・橋間昭徳・加藤直子・越谷 信・松原 誠, 東北地方陸域の震源断層モデル, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, SCG50-07, 2022 年 5 月
- 佐藤比呂志・阿部 進・松原 誠・石山達也・加藤直子・蔵下英司・岩崎貴哉・平田 直, 関東地域の地殻・マントル構造の特徴, 日本地質学会学術大会, 2022 年 9 月
- 佐藤比呂志, 阿部 進, 岩崎貴哉, 松原 誠, 石山達也, 蔵下英司, 加藤直子, 中山貴隆, 平田 直, 統合地震探査による関東地域の地殻構造と形成プロセス, 日本地球惑星科学連合, SCG62-P03, 2023 年 5 月.
- 佐藤比呂志, 阿部 進, 岩崎貴哉, 松原 誠, 蔵下英司, 石山達也, 加藤直子, 中山貴隆, 平田 直, 制御震源から見た関東地域のフィリピン海プレートの上面形状, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, S23-07, 2023 年 10 月.
- 佐藤幹人・秋元菜摘, 浜名湖周辺地域における地理的特性とエコツーリズムの可能性—地理情報データを用いた分析から—, 第 20 回情報学ワークショップ, S-2B-3, 愛知工業大学, 12/2022.
- 佐藤 健, 桜井愛子: 地名を題材とした防災教育の探究, 日本安全教育学会第 24 回奈良大会プログラム・予稿集, pp.32-33, 2023.9
- 佐藤 健, 橋本雅和, 北浦早苗, 桜井愛子, 李 泰榮, 池田真幸, 村山良之, 熊谷 誠, 小田隆史: 学校の防災管理の充実化と関連させた洪水災害の防災教育～石巻市立大谷地小学校における実践事例～, 日本安全教育学会第 23 回宮城大会プログラム・予稿集, pp.-, 2022.9
- 佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之, 熊谷 誠, 北浦早苗: 津波に対する緊急避難場所の学校教員による優先度評価, 令和 4 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集, pp.-, 2022.12
- Sato, Y., Yu Nakajima, Satoshi Ohkubo, Miho Hirai, Kenji Okano, Hiroyuki Kimura, Kohsuke Honda, Masaru K. Nobu, Hideyuki Tamaki, Ken Takai, Tera base hot spring metagenomes illuminate novel and diverse microbiomes in Japanese subsurface, 日本微生物生態学会第 36 回大会, 2023 年 11 月.
- 佐藤 悠・中島 悠, 大久保智司, 岡野憲司, 木村浩之, 本田孝祐, 深部流体に含まれる微生物の多様性と代謝特性, 日本微生物生態学会第 35 回大会, 2022 年 11 月.
- 澤井 南・秋元菜摘, 浜名湖弁天島の観光まちづくりマップにおける Web 連携, 第 21 回情報学ワークショップ, 静岡大学, 12/2023.
- Sekiguchi, H., Hitoshi Mikada, Junichi Takekawa, and Shibo Xu (2022). Hydrodynamic analysis of pipe-wall thinning due to flow accelerated corrosion. Annual Meeting of the Society of Exploration Geophysicists, Houston, Texas, U.S.A., 28 August-2 September, 2022.
- 瀬戸浩二・香月興太・藤木利之・奥野 充・中西利典・Raymond Patrick R. Maximo・Robjunelieaaa B. Lim・Marie Thess Q. Gemal・Jason Edward A. Cochon・Aljhon Q. Marco・Arian Paul D. Norcio・Cheska Joi G. Vergara・山田和芳・富安卓滋・村尾 智.

フィリピン、セブンレイクにおける年縞堆積物の解析による近年の環境変化. 第 33 回社会地質学シンポジウム, 日本大学文理学部, 2023 年 11 月 24-25 日.

柴田伊廣, 中川和之, 藤間 藍: 地震火山地質サマースクールの新しいホームページ, 日本地球惑星科学連合大会, 2022 年 5 月

重森雅嘉・芳賀 繁・吉川肇子 促進焦点によるレジリエントな問題解決 日本心理学会大会発表抄録集 86th 2023 年.

清水真之介, 磯 真成, 木村浩之, 付加体の深部帯水層に生息するメタン生成菌の機能遺伝子の解析と水素ガス供給量の推定, 日本微生物生態学会第 36 回大会, 2023 年 11 月.

下田一太・山田和芳・久保純子・本村充保・南雲直子・藤木利之・森 勇一・山口博之・中西利典. サンボー・プレイ・クック遺跡群の古環境復元調査. 日本第四紀学会, O-18, 所沢キャンパス, 2023 年 9 月 1-3 日.

白石和也 渡辺俊樹, 近地地震を用いた関東地方深部地殻構造の反射波イメージング, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022.5.22-27.

菅原大助・石澤堯史・吉池奏乃: 古津波調査における地中レーダーの活用, 日本災害・防災考古学会第 1 回総会・研究会 (オンライン), 2022 年 9 月 23 日

菅原大助: 日本海溝北部・南部の津波履歴研究, 国際火山噴火史情報研究集会, 2022 年 10 月 1 日

菅原大助・石澤堯史: 津波堆積物の研究と東北地方太平洋側の津波履歴, 2023 年度日本考古学協会宮城大会, 2023 年 10 月 29 日

Sugawara, Daisuke: An overview of field observation, experiment and modeling of tsunami sediment transport in Japan, NTHMP Tsunami Sediment Transport Benchmarking Workshop, 2023 年 8 月 4 日

菅原大助: 津波起源の侵食地形の形成過程・条件とその意義, 日本地球惑星科学連合大会, 2023 年 5 月 23 日

鈴木和生・前田恭伸: 企業防災における安否確認訓練の有効性の考察, 日本リスク学会第 35 回年次大会, 2022 年 11 月 12 日.

鈴木睦代・志村亜依・前田恭伸: 栄養士養成課程の IT イノベーションのケーススタディ, 経営情報学会 2023 年全国大会, 2023 年 11 月 11 日.

鈴木睦代・前田恭伸: 高校生における食教育の必要性和 Zoom 導入の検討, 日本食育学会第 11 回学術大会, 2023 年 6 月 11 日.

Suzuki, T., Chigira, M., Matsushi, Y., Nakayama, D., 2022. Assessment of earthquake-induced landslides potential on artificial landform transformation areas in the Tama Hills covered with thick tephric loess, west Tokyo, Japan Geosciences Union Meeting 2022, Makuhari.

鈴木毅彦・青木かおり・小林 淳・村田昌則・西澤文勝・高橋尚志 2022. 伊豆諸島北部火山の噴火史研究に関する最近の動向. Proceedings of the International Meeting on

- Eruptive History and Informatics, No.1, A-0, 2022 年 10 月 1 日.
- Suzuki, T., K. Aoki, M. Kobayashi, M. Murata, F. Nishizawa, T. Takahashi 2023. Constraining the tempo and frequency of explosive eruptions since 30 ka occurred in the northern Izu Islands, off Tokyo, Japan. IAVCEI Scientific Assembly 2023, Rotorua, New Zealand, 2023 年 1 月 31 日.
- Tajika, J., Chigira, M., Inui, T., Yahata, M., 2022. A cause for swarm of tephra slides induced by the 2018 Hokkaido Eastern Iwate Earthquake: comparison with landslides occurred in the Jomon period, Japan Geosciences Union Meeting 2022, Makuhari.
- 高原花梨, 道羅英夫, 木村浩之, メタトランスクリプトーム解析による発酵細菌とメタン生成菌の共生機構の解明～深部帯水層中の共生微生物における細胞外電子伝達的重要性～, 第 23 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 2023 年 3 月.
- 高原花梨, 道羅英夫, 木村浩之, 深部帯水層における水素発生型発酵細菌と水素資化性メタン生成菌の共生メカニズム, 日本微生物生態学会第 35 回大会, 2022 年 11 月.
- 高橋英成, 今泉文寿, 高山翔揮, 蓮谷龍信 (2023/5) 荒廃溪流源頭部における土石流流下特性と間隙水圧との関係, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, 107-108, 札幌市, 北海道大学
- 高橋 誠・井ノ口宗成・木村玲欧: 防災リテラシー研究の現状と課題, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.22.
- 高橋信人・小関祐之・堀和明・吉田圭一郎・牛山素行: 高校教科書「地理総合」における防災分野の計量テキスト分析, 2023 年度日本地理学会春季学術大会発表要旨集, 2023/03.
- 高島 誠・横山 修・土屋 智: 水窪川上流の国有林に形成された土砂ダム (2011 年) の越流決壊、令和 5 年度砂防学会研究発表会、2023 年 5 月
- 高山翔揮, 今泉文寿 (2023/5) 溪流源頭部における土石流の発生・発達過程に関する研究, 令和 5 年度砂防学会研究発表会概要集, 105-106, 札幌市, 北海道大学
- 高山翔揮、今泉文寿 (2022/5) 天然ダムに含まれる巨礫が越流侵食過程と洪水流出過程に与える影響, 令和 4 年度砂防学会研究発表会概要集, 667-668, 宮崎市, 宮崎市民プラザ
- 武富愛美・秋元菜摘, 浜名湖の自然環境保全に向けた水産資源と地理空間データの整備, 第 21 回情報学ワークショップ, 静岡大学, 12/2023.
- 瀧本壮平, 重栴竜希, 藤園幹樹, 二川雅登, “現場計測を目指した土壌過渡応答特性検出型土中水分量・イオン濃度計測システムにおける周波数計測回路の開発”, 令和 4 年電気学会 E 部門総合研究会, 金沢商工会議所会館, 金沢市, 石川県, 2022 年 6 月 7 日-8 日.
- 瀧本壮平, 重栴竜希, 藤園幹樹, 大多哲史, 二川雅登, “電流印加型土中水分量・イオン濃度計測回路のための現場計測を目指した周波数計測システムの開発”, 第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2022 年 11 月 14 日-16 日, アクティとくしま, 徳島県徳島市.
- 瀧本壮平, 重栴竜希, 藤園幹樹, 大多哲史, 二川雅登, “現場計測に向けた電流印加型土中水

- 分量・電気伝導度センサ用周波数計測システムの開発”，令和 5 年電気学会全国大会，名古屋大学，名古屋市，愛知県，2023 年 3 月 15 日-17 日
- 田村圭子・木村玲欧・加藤尚之・井ノ口宗成：地震・火山噴火災害における被害軽減のために利用可能な要素・知識体系の整理・検証～地震の基礎知識を学ぶ～，日本地球惑星科学連合 2023 年大会，2023.5.22.
- 田中陶子・瀬戸浩二・香月興太・斎藤文紀・中西利典．HK19 コアを用いた宍道低地帯中央部における旧宍道湖の古環境変遷史．汽水域合同研究会 2022 年（第 14 回）佐賀大会，佐賀大学，2022 年 11 月 12－13 日
- 田中陶子・瀬戸浩二・香月興太・斎藤文紀・中西利典．簸川平野から得られた完新世コアを用いた宍道低地帯中央部の古環境変遷史．汽水域合同研究発表会 2023，島根大学＋Web 開催，2023 年 1 月
- 田阪美樹，仲井優河，2022，西南日本川下かんらん岩捕獲岩から得られた日本海拡大時の変形の証拠，地球惑星科学連合，幕張，5 月 26 日(口頭).
- 田阪美樹，2022，マントルかんらん岩捕獲岩から探る日本海拡大の証拠，静岡県地学会，6 月 25 日(口頭).
- 土屋智子(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク)・小杉素子(静岡大学)・桑垣玲子(電力中央研究所) 放射線の健康影響に対する不安に寄り添う情報提供方策の提案～市民の知識・認識構造の検討～，日本リスク学会第 35 回年次大会：京都大学，2022 年 11 月
- 塚原柚子・小形 学・川村 淳・菅野瑞穂・西山成哲・末岡 茂・中西利典・小松哲也．穿入蛇行河川の旧流路地形・堆積物に基づく下刻速度の推定：赤石山脈南部，大井川の事例．日本第四紀学会，P-04，静岡県地震防災センター，2022 年 8 月
- 上田啓瑚・大塚萌香・藤井基貴「令和 4 年台風 15 号における SNS の効用と課題－災害情報等伝達における拡散性と世代間格差－」地域安全学会，2023 年 11 月 19 日、於静岡県地震防災センター。
- 牛山素行:災害被災家屋写真を巡る一考察,日本自然災害学会第 41 回学術講演会講演概要集,2022/09.
- 牛山素行:人的被害規模から見た 2021 年熱海土砂災害の特徴(序報),日本災害情報学会第 25 回研究発表大会予稿集,2022/10.
- 牛山素行:2022 年の風水害による人的被害,日本災害情報学会第 26 回研究発表大会予稿集,2023/03.
- 牛山素行:2023 年台風 2 号と梅雨前線による大雨に伴う人的被害発生場所の特徴,日本自然災害学会第 42 回学術講演会講演概要集,2023/09/18.
- 牛山素行:風水害時の「共助死」について(序報),日本災害情報学会第 27 回研究発表大会予稿集,2023/10/29.
- 牛山素行:水害リスク情報に対する情報利用者の認識,東北地区災害科学研究集

会,2023/12/27.

牛山素行・杉村晃一・横幕早季:令和 6 年能登半島地震における人的被害(速報),日本災害情報学会第 28 回学会大会,2024/03/17.

若松由希・秋元菜摘,地域文化を活用したアプリによる浜名湖弁天島の観光支援,第 20 回情報学ワークショップ, S-2B-1, 愛知工業大学, 12/2022.

渡辺俊樹,阿部信太郎,澤田義博,東通サイトにおける稠密地震観測記録のレシーバ関数および地震波干渉法解析による基盤推定,物理探査学会第 147 回(秋季)学術講演会, 2022.11.16-18.

渡辺俊樹,中丸遼太,白石和也,澁谷拓郎,遠地地震記録を用いた近畿地域地殻構造のリバースタイム反射波イメージング,日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022.5.22-27.

渡辺俊樹,佐藤溪一朗,名古屋大学東山キャンパスでの地盤振動観測:地下鉄走行振動の解析,物理探査学会第 149 回(秋季)学術講演会, 2023.10.11-13.

渡辺俊樹,田所敬一,石山達也,松多信尚,鈴木康弘,山岡耕春,市原 寛,齋藤秀雄,中田守,阿部 進,反射法地震探査による恵那山断層、猿投山北断層、猿投一境川断層の浅部構造,日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.21-26.

渡邊詩子,東 宏幸,小田義也,渡辺俊樹,稠密地震観測データを用いた二重スペクトル比法による八丈島の減衰特性(その 2),物理探査学会第 147 回(秋季)学術講演会, 2022.11.16-18.

渡邊詩子,東 宏幸,小田義也,渡辺俊樹,二宮 啓,稠密地震観測の微動記録を用いた八丈島の 3 次元 S 波速度構造の推定,日本地球惑星科学連合 2023 年大会, 2023.5.21-26.

渡邊善明,前田恭伸:津波防災に係る市町村の職員の安全対策に関する研究,2023 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2024 年 3 月 2 日.

山田和芳・佐々木亮太郎・香月興太・瀬戸浩二・中西利典・奥野 充・藤木利之・富安卓滋・村尾 智. 鹿児島県さつま湖の湖底地形と鎌倉時代以降の堆積環境変遷. 地球惑星科学連合大会, HQR03-P14, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月

山田和芳・佐々木亮太郎・瀬戸浩二・香月興太・中西利典・奥野 充・藤木利之・富安卓滋・村尾 智. 鹿児島県内の湖沼堆積物を用いた ASGM による水銀汚染史の解明～さつま湖・蘭牟田池の事例～. 第 33 回社会地質学シンポジウム, 日本大学文理学部, 2023 年 11 月 24-25 日.

山田和芳・田畑 薫・池田陽大・藤木利之・中西利典. 和歌山県ゆかし潟堆積物を用いた歴史時代の紀伊半島における環境史復元(予報). 汽水域研究会, 島根大学エスチュアリー研究センター, 2024 年 1 月 6-7 日.

山田勢真・秋元菜摘,道路ネットワーク分析を用いた中山間地域における避難施設の再考—浜松市天竜区春野町を事例として,第 20 回情報学ワークショップ, S-3B-3, 愛知工業大学, 12/2022.

山田泰暉・秋元菜摘,走行環境の整備に資する先進的な地理空間データの利活用—GNSS・

- 加速度センサ・3D 点群データ等による路面性状の分析から一, 第 20 回情報学ワークショップ, S-3B-2, 愛知工業大学, 12/2022.
- 山口玄祐・秋元菜摘, 浜松市の都市構造と遠州鉄道沿線の生活関連施設に関する GIS 分析, 第 21 回情報学ワークショップ, 静岡大学, 12/2023.
- 山本駿哉, 橋本 岳 (静大), “AGV 走行環境下における物体検出と単眼深度推定の統合による走行制御の基礎的研究,” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, D. 情報・システム, P2-11 (2024 年 2 月).
- 山中 蛍・後藤秀昭・細矢卓志・寺田龍矢・中瀬千遥・後藤 慧・中西利典・牧田智大. 変動地形から推定される曽根丘陵断層帯の右横ずれ変位. 日本地理学会, 青山学院大学, 2024 年 3 月 19-21 日.
- 山下敦也, 橋本 岳 (静大), “ステレオ画像計測のパターンマッチング汎用性向上 のための超解像に関する基礎的研究,” 令和 5 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, D. 情報・システム, P3-10 (2024 年 2 月).
- 山下裕輝・北村晃寿, 未崩落盛土のボーリングコアを用いた熱海土石流の研究, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張, 2023 年 5 月 26 日.
- 山下裕輝・北村晃寿, 静岡県下田市の沿岸低地における完新世の古環境変遷, 日本古生物学会, オンライン, 2022 年 7 月 2 日.
- 保田真理, 原田賢治, 邑本俊亮: 科学館における防災ワークショップの教育効果, 土木学会第 43 回地震工学研究発表会講演論文集, D14-79, 2023 年 9 月 7 日.
- 保田真理, 齊藤 玲, 邑本俊亮, 原田賢治: 学校外施設における防災教育による子どもと保護者の防災意識の向上とその持続性に関する検証: 静岡県地震防災センターでのワークショップを事例として, 第 41 回自然災害学会学術講演会, pp.155-157, 2022 年 9 月 19 日.
- 安永大地・藤井基貴「ユース選手を対象としたスポーツ・インテグリティ教材の開発と評価—道徳教育における基礎理論の応用—」日本体育・スポーツ・健康学会, 2023 年 8 月 31 日、於同志社大学。
- 横山賢治, 今泉文寿, 江草智弘 (2022/8) 地すべり内部の浅層地下水が深層地下水動態におよぼす影響, 第 61 回日本地すべり学会研究発表会, 3-16, 福岡市, 博多国際展示場&カンファレンスセンター
- Yokoyama, O., Chigira, M., 2022. Development of uphill-facing scarps along high angle faults by flexural toppling, Japan Geosciences Union Meeting 2022, Makuhari.
- 横山竣也, 秋山真太郎, 内藤嘉晴, 大多哲史, 二川雅登, “基板電圧制御機能付きソース接地回路を用いたストライプゲート型 ISFET による高分解広範囲 pH 計測システムの開発”, 第 40 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2023 年 11 月 6 日-8 日, 熊本城ホール, 熊本県熊本市
- 吉田圭佑, 宇野正起, 松澤 暢, 行竹洋平, 椋平祐輔, 佐藤比呂志, 吉田武義, 石川県能登半島北東部の群発地震: マグマ活動に起因する構造と流体, 日本地震学会講演予稿集秋季

大会, S08-02, 2022 年 10 月.

吉田健太, 三宅亮, 奥村翔太, 石橋秀巳, 奥村 聡, 田村芳彦, 小野重明: 2021 年福岡
ノ場噴火の黒色軽石中に含まれるナノライトの意義. JpGU Meeting 2022, 2023 年 5 月
吉田那緒, 石橋秀巳, 千葉達朗, 外西奈津美, 安田敦, 針金由美子: 伊豆大島 1986 年 B 噴
火のマグマ供給系: 深成岩捕獲岩からの制約. 日本火山学会 2023 年秋季大会, 2023 年
10 月

2.2.4 その他の著作物

秋元菜摘, 〈私たちの研究室〉情報学部情報社会学科秋元研究室, 11-12, 静岡大学広報誌
SUCCESS, 2023/04.

秋元菜摘, 浜名湖弁天島における観光防災—地域住民や観光客へ WebGIS 活用を促すイベ
ント展示—, 2023 年度地域連携推進室活動報告書. ※原稿提出・受付済みで, HP・報
告書等への掲載作業中

天野一男・影山秀雄・狩野謙一・岸本年郎・黒田貴綱・國領康弘・小林信一・小林 淳・
渋川浩一・土谷 智・饒村 曜・増澤武弘・村中康秀 2023. 富士宮の歴史 (自然環境編)
(市史編さん委員会編): 223p.

千木良雅弘, 2022. 紀伊半島の山と谷. 河川文化 98, 4-7.

藤井基貴「ICT を活用した防災教育・防災訓練の開発と普及モデルの構築—静岡県内の地
域防災・学校防災での実践と普及—」『令和 3 年度共同研究助成・成果報告書』ふじのく
に地域・大学コンソーシアム, 2023 年 3 月. 全 4 頁。

藤岡換太郎、大河内直彦、2023、地球の歴史の見つめ方、(対話)、公研、No.718、p.40-51.

藤岡換太郎、2023、監修、世界最大の火山噴火ってどれくらいスゴイの？、名探偵コナン
の探求ファイル、小学館。

藤岡換太郎、2023、監修、昔の地球は今とちがう形をしていたの？、名探偵コナンの探求
ファイル、小学館。

林 拙郎・川邊 洋: 地震による大規模崩壊の発生に関する因子および火山性他地域の脆
弱性, 防災科学技術研究所研究資料 第 480 号, 97-108, 2022.

林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(1)大地震両川口津浪記と南海地震, 金属, vol.92,
No.11, p.103-108, 2022.

林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(2)日本における地震学のはじまり, 金属, vol.92,
No.12, p.71-76, 2022.

林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(3)濃尾地震と震災予防調査会の設置, 金属,
vol.93, No.1, p.79-84, 2023.

林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(4)震災予防調査会の研究活動 (その 1), 金属,
vol.93, No.2, p.155-161, 2023.

林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(5)震災予防調査会の研究活動 (その 2), 金属,

- vol.93, No.3, p.237-242, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(6)震災予防調査会の研究活動 (その3), 金属, vol.93, No.4, p.317-321, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(7)昭和三陸津波の石碑, 金属, vol.93, No.5, p.423-428, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(8)四国に残る津波の石碑, 金属, vol.93, No.6, p.543-548, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(9)南海トラフ地震の繰り返しとその防災, 金属, vol.93, No.7, p.621-626, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(10)関東大震災の被害とその伝承, 金属, vol.93, No.8, p.727-731, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(11)関東大震災からの復興を伝えるもの, 金属, vol.93, No.9, p.801-806, 2023.
- 林 能成, 石碑と墓碑でたどる地震の歴史(12: 最終回)地震研究体制の刷新, 金属, vol.93, No.10, p.915-920, 2023.
- 本間基寛, 松本健人, 小林 瞭: 気象データ活用による SDGs の取り組み～予測と連携で持続可能なロジスティクスへ～, 流通ネットワークキング, No. 339, pp. 64-69, 2023.
- 藤木利之・田畑 薫・池田陽大・山田和芳・中西利典, 和歌山県ゆかし潟の花粉分析による古植生変遷. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2023 (2), p.180-188, 2024 年 2 月 (査読無し)
- 池田恵子, 復興の「地域的最適解」研究におけるインクルージョンとエンパワーメント, 「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」(科学研究費 基盤研究(A) (一般) 課題番号 19H00613 最終報告書 研究期間 2019～2023) <https://prj-sustain.w.waseda.jp/newpage/project/final.html>.
- 池田恵子, 標本調査からみた復興の「地域的最適解」: ジェンダーに関する分析, 「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」(科学研究費 基盤研究(A) (一般) 課題番号 19H00613 最終報告書 研究期間 2019～2023) <https://prj-sustain.w.waseda.jp/newpage/project/final.html>.
- 井ノ口宗成: 防災から地域の福祉力を高める, ひみのふくし, 2022 年 10 月号, p.2, 2022.10.
- 井ノ口宗成: 氷見市災害時要支援者避難訓練実施報告書, 富山大学 都市デザイン学部, p.1-36, 2023.3.
- 井ノ口宗成: 一手先を見通す応急対応 DX, 兵庫ジャーナル, 1948 号, p.1, 2023.5.
- 石橋秀巳, 書評 岩波書店「科学」編集部編「富士山噴火に備える」, 火山, 68, 125-126, 2023
- 石川宏之: 日本のジオパークにおける運営組織の教育・観光活動と地域との関係性—日本ジオパークネットワークの 56 地域を事例として—, 2022 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 991-994, 2022

石川宏之：土砂災害後の空地・空き家を活かす復興まちづくりのあり方ー伊豆大島ジオパークにおけるメモリアル公園と災害語り部を事例としてー, 2022 年度日本建築学会大会 学術講演梗概集, pp. 1155-1158, 2023

岩田孝仁：「防災福祉のまちづくり」へ, 防災ハンドブック 2022 春号, 日刊工業新聞社, 第 70 巻 第 2 号, pp.10-14, 2022,

岩田孝仁：総論 災害に強い自治体になるためにハザードマップでの確な想像力を育む, 防災ハンドブック 2022 秋号, 日刊工業新聞社, 2022 年 9 月別冊, PP10-13, 2022,

岩田孝仁：[時評] 防災社会を築くために 想像力欠如に陥らない, 静岡新聞 朝刊 P24 読者のページ, 2022.4.27.

岩田孝仁：想像力の欠如に陥らない防災を目指して, (公財) ひょうご震災記念 231 世紀機構, 研究レター Hem21 Opinion, 令和 4 年 5 月号, Vol.71, 2022.05.01.

岩田孝仁：[時評] 防災社会を築くために 想像力欠如に陥らない, 静岡新聞 朝刊 P24 読者のページ, 2022.4.27.

岩田孝仁：[時評] コンパクトシティー移行 防災、福祉の機能強化へ, 静岡新聞 朝刊 P24 読者のページ, 2022.6.29.

岩田孝仁：[時評] 南海トラフ地震臨時情報 防災の日に行動確認を, 静岡新聞 朝刊 P24 読者のページ, 2022.8.24.

岩田孝仁：[時評] 台風 15 号が残した課題 県と市町 連携不可欠, 静岡新聞 朝刊 P25 読者のページ, 2022.10.19.

岩田孝仁：[時評] 災害時の多様な課題 地域の支援者と連携を, 静岡新聞 朝刊 P28 読者のページ, 2022.12.14.

岩田孝仁：2022 年の台風第 15 号が残した課題“県と市町村の連携”, 日本災害情報学会 News Letter, No.92, P2, 2023.1.

岩田孝仁：[時評] 自治体・企業の事業継続計画 平時こそ見直しの好機, 静岡新聞 朝刊 P30 読者のページ, 2023.2.15.

岩田孝仁：巻頭提言 災害が激甚化・多様化するなか自治体の災害対応力強化は急務, 防災ハンドブック 2023 春号, 日刊工業新聞社, 2023 年 3 月別冊, pp.09-13, 2023.

岩田孝仁：巻頭提言 関東大震災 100 年 教訓を構成まで受け継ぎ、新たな課題には様々な英知を, 防災ハンドブック 2023 秋号, 日刊工業新聞社, 2023 年 10 月別冊, pp.09-13, 2023.

岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」, 災害時の在宅要介護者支援 活動の『障壁』見直しを, 2023/04/11

岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」, 非常口確保の大切さ 日常文化として徹底を, 2023/06/06

岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」, 熱中症特別警戒情報 高温 災害並み対応必要, 2023/08/01

- 岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」，御嶽山噴火の教訓 火山活動「見える化」を，2023/09/26
- 岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」，災害時のリスク認知 行動ゆがめる 偏見 注意，2023/11/21
- 岩田孝仁：災害時事務分掌の重要性，（公財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構，研究レター_HEM21_Opinion, Vol.81 2024 年 1 月号
- 岩田孝仁：巻頭言 限界を知り共有する重要性，月間「建設」,2024.03, Vol.68
- 岩田孝仁：静岡新聞 朝刊 P6 オピニオン「時評」，能登半島地震 自分事に 防災対策 実効性担保を，2024/02/20
- 狩野謙一，2022：静岡県の GEO DATA (27): C041 悪沢岳北側斜面の万の助カールと蛇抜沢上流部の U 字谷，C042 赤崩の深層崩壊地形，C043 転付峠周辺と山伏南方の線状凹地群，C044 サカサ川の異常蛇行と安倍峠の風隙地形． C045: 抜里(大井川中流)の環流丘陵，C046 大井川下流域の三角洲性扇状地を作る網状流路，C047: 西農鳥岳山頂付近のブロッケン現象． 静岡地学, 126.
- 狩野謙一，2023：静岡県の GEO DATA (27): C048 南アルプス主部，大井川上流域へのデジタルジオトリップ，C049 間ノ岳南面の山体解体地形，C058 荒川三山南面のカール地形，C051 周氷河性低起伏地形・ソリフラクションローブと雪窪，C052 大井川上流域の V 字谷，C053 兎岳・聖岳コルの赤色チャート，C054 聖沢の枕状溶岩，C055 上河内岳・茶臼岳間の層状チャートの岩塔と褶曲構造，C056 光岳の石灰岩塊（光岩），C057 白根帯白根層群中のメラングジュ 2 例，W045 中新統二俣層群の乱雑層の褶曲構造，W046 小笠層群の礫層が作る六枚屏風． 静岡地学, 127.
- 狩野謙一，2023：静岡県の GEO DATA (28): C058 古流向の指標となる底痕，C059 大井川・接岨峡の穿入蛇行，C060 鵜山の七曲がりの生育蛇行，C061 四万十帯の大規模横臥褶曲（諸橋 良と共著），C062 大井川扇状地扇頂域の水利，C063 牧ノ原大茶園の地学的環境，C064 宇嶺の滝と四万十帯の褶曲，C065 マントル物質を含む角礫岩，C066 安倍奥周辺のジオサイト群（楠 賢司と共著），C067 大谷崩による堆積段丘と堰止湖． 静岡地学, 128.
- 川瀬憲子、(単著)「止まらない巨大開発—沼津鉄道高架事業と住民運動・訴訟」『住民と自治』2022 年 6 月号（通巻 710 号）、49 頁
- 川瀬憲子、(単著)「コンパクトシティ構想と住民運動—みなと町・清水のまちづくり」『住民と自治』2022 年 7 月号（通巻 711 号）49 頁
- 川瀬憲子、(単著)「コロナ禍の熱海市伊豆山土石流災害—住民主体の復旧・復興に向けて」『住民と自治』2022 年 11 月号（通巻 715 号）49 頁
- 川瀬憲子、(単著)「巻頭言 鉄道高架事業と住民訴訟」『区画・再開発通信』630 号、2022 年 6 月、1-2 頁
- 川瀬憲子、(単著)「2024 年度政府予算案と地方財政の焦点」『住民と自治』731 号、2024

年 3 月、29-34 頁（依頼原稿）

吉川肇子：開かれた犯罪心理学の研究と実践(1)「差別・偏見」の研究を識る コロナ禍でのスティグマ化と、体験による解消の可能性 犯罪心理学研究 犯罪心理学研究 60(2) 87-88 2023 年 1 月.

吉川肇子：教育とゲーミング Informatio, 20, 2023 年.

北村晃寿・山下裕輝・矢永誠人・本山 功・中西利典・森 英樹，静岡県熱海市逢初川の源頭部の盛土下端部の露頭調査. 静岡大学地球科学研究報告，49，p. 61-72，2022 年 7 月（査読あり）

北村晃寿・岡寄颯太・近藤 満・渡邊隆広・中西利典・堀 利栄・池田昌之・市村康治・中川友紀・森 英樹，静岡県熱海市伊豆山地区の土砂災害現場の盛土と土石流堆積物の地球化学・粒子組成分析. 静岡大学地球科学研究報告，49，p. 73-86，2022 年 7 月（査読あり）

北村晃寿・矢永誠人・岡寄颯太・片桐 悟・中西利典・森 英樹，静岡県熱海市逢初川の砂防堰堤の埋積土の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化—2021 年 7 月 3 日の土石流堆積物の識別. 静岡大学地球科学研究報告，49，p. 87-95，2022 年 7 月（査読あり）

北村晃寿・山下裕輝・矢永誠人・中西利典・森 英樹，静岡県熱海市逢初川源頭部の東側地点の盛土に関する調査速報. 静岡大学地球科学研究報告，49，p. 97-103，2022 年 7 月（査読あり）

竹村恵二・木村治夫・中西利典，別府南部朝見川断層沿いの地下構造. 大分県温泉調査研究会報告，73，p. 35-45，2022 年 8 月（査読無し）

北村晃寿・矢永誠人・山下裕輝・中西利典，静岡県熱海市逢初川の源頭部の黒色盛土層の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化. 静岡大学地球科学研究報告，50，p.39-63，2023 年 3 月（査読あり）

Kitamura, A., Collapsed black embankment sediments "definitely originated from elsewhere": Shizuoka University and others perform compositional analysis to verify landslide in Atami City. Science Japan.
<https://sj.jst.go.jp/news/202206/n0630-01k.html>, 2023.

北村晃寿，2023，静岡県熱海市逢初川の源頭部の黒色盛土層の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化. <https://www.youtube.com/watch?v=nlO9fUvVpfg>

北村晃寿，2023，1974 年と 2022 年洪水の比較.

https://www.youtube.com/watch?v=NkF36ut_oZQ

北村晃寿，2022，静岡県熱海市逢初川の源頭部の盛土中の淘汰の良い砂層.
https://www.youtube.com/watch?v=KXTEln_2cxY

北村晃寿，2022，熱海土石流災害の発生原因の究明のための地球科学的研究. 盛土下端部の基底部の構造を発見. <https://www.youtube.com/watch?v=4LARikEFqlM>

北村晃寿，2022，熱海市逢初川源頭部の東側地点の盛土.

- <https://www.youtube.com/watch?v=7RmzbutTFBU>
- 北村晃寿, 2022, 熱海市逢初川の砂防堰堤の埋積土の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化. <https://www.youtube.com/watch?v=AOAYnx5mlFY>
- 北村晃寿, 2022, 熱海土砂災害に関する 5 月 20 日のプレスリリース.
<https://www.youtube.com/watch?v=64kSHysIKL4>
- 北村晃寿, 2022, 2022 年台風 15 号に伴う清水区における洪水の浸水深調査.
<https://www.youtube.com/watch?v=DM3QKgeqHAg>
- 小林 淳・村田昌則・西澤文勝 2023. 新島・神津島一流紋岩マグマがもたらす爆発的な噴火一. 鈴木毅彦・市古太郎編著『伊豆諸島の自然災害』（古今書院）：45－68.
- 小林 淳 2023. 富士宮を襲った富士山噴火一青沢溶岩流、風祭川火砕流、二子山天母山噴出物に関する新知見. 『富士山学』：3, 54－61.
- 小林 淳 2023. 地層剥ぎ取り標本からみえる富士山の噴火と崩壊. 『富士山学』：3, 62－63.
- 小林 淳 2023. 富士山噴火の痕跡を巡る(その 2)一富士山東麓に出現した巨大露頭にみえる富士山の爆発的噴火と山体崩壊. 富士山世界遺産コラム：15.
- 小林 淳 2023. 富士山噴火の痕跡を巡る(その 3)一田貫湖岩屑なだれ：富士山の残骸が作る地層と地形. 富士山世界遺産コラム：21.
- 小林 淳 2023. 大地の恵み一地下水と地下資源（分担）：富士宮市史，第一編 富士宮の自然環境 第一章 富士宮の大地, pp.66－77.
- 小林 淳 2023. 火山噴出物から分かる遺跡の年代と分布（分担）：富士宮市史，第二編 富士宮の自然と向き合った人々 第一章 先史～中世：自然を生かした暮らしと信仰心のめばえ, pp.136－145.）
- 小林 淳 2024. 富士山の生い立ちと麓にもたらした湧水の科学的特徴一富士山の地下水の道のりをさぐる. 静岡大学地域創造教育センター編，静岡大学東部市民講座ブックレット 13『静岡の自然と社会一県東部を中心に一』：45－61.
- 小林 淳 2024. 仙石原湖・芦ノ湖の成り立ちとその変遷. 山口珠美ほか編『箱根ジオミュージアム展示解説書』：28－29.
- 小林 淳 2024. 3000 年前以降の水蒸気噴火一地形と堆積物に残された噴火の痕跡一. 山口珠美ほか編『箱根ジオミュージアム展示解説書』：30－31.
- 小林 淳 2024. 生きている山，富士山. 遠山敦子編著『富士山と日本人』（静岡新聞社）：49－77.
- 小林 淳・井上卓哉 2024. 富士山の恵みを活かす，富士山. 遠山敦子編著『富士山と日本人』（静岡新聞社）：217－239.
- 小林 淳 2024. 最新地学事典，恐山火山（項目執筆），地学団体研究会.
- 小林朋子，特別寄稿 令和 6 年能登半島地震に寄せて，健康教室，75(4)，21，2024 年 3 月 1 日
- 小林朋子，状況を変えるのは難しいときもあるから，学校保健ニュース高校版第 1966 号 心のドクターシリーズ p2-3 インタープレス，2024 年 1 月 5 日

- 小山真人・宮本成悟・長原翔伍・鈴木雄介（2022）世界初の多方向3次元透視が明らかにした大室山の内部構造. 科学, 92, 637-640.
- 小山真人（2022）改定された富士山のハザードマップ 読み解き方と活用のポイント. 季刊企業経営, 158, 32-35.
- 黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明, 佐賀県唐津市, 檜原湿原の形成史. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2023 (2), p.1-7, 2024 年 2 月（査読無し）
- 三ヶ田均（2023）. 教育者としての無比の喜びは教育効果を実感すること、京都大学工学広報, 79, 18-20.
- 三ヶ田均（2023）. 振動に魅せられた私の研究履歴書, 水曜会誌, 25 (6), 535-541.
- 森下祐一, よろしかったですか? 楽しいわが家, 全国信用金庫協会 (72), 3, 6-7, 2024.
- 森下祐一, 生命誕生の秘密入り玉手箱その2. 楽しいわが家, 全国信用金庫協会 (71), 1, 6-7, 2023.
- 森下祐一, 『日本沈没』と地球温暖化. 楽しいわが家, 全国信用金庫協会 (70), 8, 6-7, 2022.
- 村越 真・満下健太・小山真人（2023）ハザードマップはハザード理解に資するか：地形図との対比と自然災害と地形の関係についての学習の効果. 測量, vol.73, No.2, 16-19.
- 村越 真（2022）私たちの周りにあるリスクとそのマネジメント. 静岡大学地域創造教育センター（編）リスクに向き合う：危機に備えたまちづくり・くらしづくり. 静岡大学地域創造教育センター.
- 中西利典, 大型試料用の蛍光 X 線分析装置の展望. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2022 (1), p.37-39, 2022 年 10 月（査読無し）
- 中西利典, 日本で最も深い駿河湾の成り立ち. ひょうしり（兵庫県私立中学高等学校理科教育研究会誌）, 3, p.14-18, 2022 年 11 月（査読無し）
- 中西利典・北川浩之・山田和芳, 尾鉾堆積物に含まれる木片の放射性炭素年代, 第 32 回社会地質学会シンポジウム論文集, p.125-126, 2022 年 11 月（査読無し）
- 中西利典・瀬戸浩二・香月興太・入月俊明・ホン ワン・齋藤文紀, 斐伊川河口の完新統の堆積速度と海洋リザーバー効果. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2022 (2), p.9-12, 2023 年 3 月（査読無し）
- 中西利典・北田寿夫・水平 学, 蛍光 X 線分析による博物館標本への元素マッピングの試行実験. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2023 (2), p.146-150, 2024 年 2 月（査読無し）
- 楠城一嘉, 地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 6: 決定論的地震予知から確率論的地震予測への道のり」参加報告, 地震学会ニュースレター, 75(5), NL-5-21. January 10, 2023.
- 西川 空・奥野 充・大下愛央・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・洪 完, 京都北山, 八丁平湿原から採取したコア試料の層序と年代. 名古屋大学年代測定研究, 7, p.36-42, 2023 年 3 月（査読無し）

- 西川 空・奥野 充・大下愛央・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・ホン ワン,
京都北山, 八丁平湿原のコア層序と完新世の堆積環境史. 国際火山噴火史情報研究集会
講演要旨集, 2022 (2), p.96-102, 2023 年 3 月 (査読無し)
- 西川 空・黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明, 福井県勝山市, 池ヶ原
湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集,
2023 (2), p.8-15, 2024 年 2 月 (査読無し)
- 大下愛央・奥野 充・西川 空・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・洪 完, 阿
武火山群, 宇生賀盆地から採取したコア試料の層序と年代. 名古屋大学年代測定研究, 7,
p.43-49, 2023 年 3 月 (査読無し)
- 大下愛央・奥野 充・西川 空・藤木利之・中西利典・林田 明・鳥井真之・ホン ワン,
阿武単成火山群, 宇生賀盆地のコア層序: 鬼界アカホヤテフラの発見とその意義. 国際
火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2022 (2), p.103-109, 2023 年 3 月 (査読無し)
- 大下愛央・黒木 瞭・奥野 充・藤木利之・中西利典・林田 明, 伊豆半島南部, 蛇石大
池湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集,
2023 (2), p.16-21, 2024 年 2 月 (査読無し)
- 奥野英雄, 吉川肇子, 新井 智, 鈴木 基: ヒトパピローマウイルスワクチン接種における
自発的思考の重要性について 臨床とウイルス 51(3) 209-209 2023 年 9 月.
- 奥野 充・三浦大助・廣野哲朗・菅原大助・藤木利之・山田和芳・早川宗志・中西利典・
栗畑光博・新里貴之・清杉孝司・宝田晋治, 低頻度・巨大災害のレジリエンス強化に向
けた融合研究の提唱. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2022 (1), p.13-14, 2022
年 10 月 (査読無し)
- 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一, 北海道釧路市春採湖における縄文
海進期の植生変遷. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集, 2022 (2), p.2-3, 2023 年
3 月 (査読無し)
- 佐藤比呂志: 地学ニュース(紙碑) 名誉会員松田時彦先生のご逝去を悼む, 地学雑誌, 132,
6,N107-108, 2023.
- 佐藤 健: 震災と防災教育～これまでの歩みとこれからの課題～, 日本地震工学会誌第 51
号, pp.2-5, 2024.2
- 菅原大助・石澤堯史: 津波堆積物の研究と東北地方太平洋側の津波履歴, 2023 年度日本考古
学協会宮城大会「災害と境界の考古学」研究発表資料集, 85-94, 2023 年
- 菅原大助: イベント性砂層の成因と年代に関する検討, 蒲生御蔵跡第 1 次発掘調査報告
書, 216-223, 2023 年
- 武村雅之(2022) 1923 年関東大震災後の区画整理による寺院の大移動—その実態解明と移
転の成否. 中部「歴史地震」研究年報 10 号.55-100
- 武村雅之(2023) 関東大震災の遺産: 30 年間の研究を支えたもの. 地震ジャーナル 75 号,
3-21

- 武村雅之(2023) 関東大震災後の帝都復興事業に対する予算削減の真相-蔵相・井上準之助の役割とその評価. 中部「歴史地震」研究年報第 11 号, 121-126
- 武村雅之(2023) 海溝型巨大地震の震源直上での出来事：関東大震災と神奈川県. J.Geophys.Lett .Vol.19No.2,16-17
- 武村雅之(2023) 東京を支え続ける関東大震災―復興小公園と井下清. 報道写真展「関東大震災から 100 年-写真に刻まれた記憶」(図録) /新聞通信調査会・共同通信社, 122-123
- 武村雅之(2023) 関東大震災から 100 年 その 5 帝都復興事業. 日本地震学会広報紙「なみふる」8月号,2-3.
- 武村雅之(2023) 首都としての品格を東京は取り戻せ.月刊公明 9月号,2月7日
- 武村雅之(2023) 帝都復興事業における公園整備と現在の状況. 土木施工 9月号(特集),112-115
- 武村雅之(2023) 関東大震災後の帝都復興事業と現在の東京.学士会報第 962 号,55-59
- 武村雅之(2023) 関東大震災を今に伝える-災害と復興、そして現在,窮理第 24 号,11-19
- 武村雅之(2023) 関東地震、地震がもたらす被害～火災・地盤・津波. 関東大震災・南海地震パンフレット/東大地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会,10
- 武村雅之(2023) 関東大震災研究の総括―被害と復興から学ぶ地震防災,住団連 秋号,No.337,25-28
- 武村雅之(2023) 関東大震災の記憶をたどり防災の今を視る.Ace 建設業界 4月号, 6-11.(インタビュー)
- 武村雅之(2023) 関東大震災の研究に携わって.日本地震工学会 No.49,3-6. (インタビュー)
- 武村雅之(2023) マグニチュード 7 超の大地震が 2 日間に 6 回も起きていた…だれも詳細を知らなかった「関東大震災」の真実. PRESIDENT Online(1), 6/15 15:00 (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 揺れの犠牲者は 4%だった…関東大震災で「東京での焼死者 6 万人超」という途轍もない被害が出た理由. PRESIDENT Online(2),6/20 12:00 (インタビュー)
- 武村雅之(2023)「湾岸のタワマン」はリスクが大きすぎる…震災の専門家が「倒壊しなければいいわけではない」と警告するワケ.PRESIDENT Online(3),6/21 9:00(インタビュー)
- 武村雅之(2023) 関東大震災 100 年と向き合う(4)経済成長を追い求めてきて東京は地震に弱いまちになった, 週刊金曜日,7/28 号, 16-19 (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 帝都復興事業を再評価する. 東京人 9月号 (No.469),18-27. (座談会×筒井・紅林)
- 武村雅之(2023) 過去に学び、未来につなぐ地震学 現代思想総特集, 9 月臨時増刊号、114-125. (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 関東大震災を知る,港湾 8月号(特集),4-9. (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 関東大震災 100 年、先人に学ぶ「調査」と「記録」の大切さ. 災害情報学会誌(巻頭言),No.94 1.1. (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 復興の品格 関東大震災から考える市民・政治家・専門家の責任災害復興

- 学会誌 第 30 号 Vol.12No.1,9-14. (インタビュー)
- 武村雅之(2023) 関東大震災の教訓を忘れないために: 目先の利益優先で損なわれる安全と
景観, 月刊保団連 10 月号,4-11. (インタビュー)
- 牛山素行:ハザードマップは有効だが依存しすぎには注意が必要,工業材料,2022 年,9 月号別
冊,pp.14-18,2022.
- 牛山素行:消防庁の災害統計に期待する,消防防災の科学,,144,pp.2-4,2022.
- 牛山素行:風水害の避難情報に対する様々な誤解,都市問題,113,12,pp.58-66,2022.
- 山本裕之. 新型コロナ感染症近況-with コロナか after コロナか. 「はまかぜ」第 41 号,
2022.12. (寄稿)
- 山本裕之. 新型コロナ感染症: アフターコロナのレジリエンスに期待. 「はまかぜ」第 42
号, 2023.6. (寄稿)
- 山崎 登:「時の視点」連載,月刊・近代消防(現在も連載中).
- 山崎 登:「トンガの大規模噴火で津波警報」,月刊・近代消防,2022 年 4 月号.
- 山崎 登:「災害関連死を防ぐために」,月刊・近代消防,2022 年 5 月号.
- 山崎 登:「季節性のリスクを考慮した防災対策～千島海溝と日本海溝の地震防災対策まと
まる～」,月刊・近代消防,2022 年 6 月号.
- 山崎 登:「避難所生活で命を守る～6 年経った熊本地震の教訓～」,月刊・近代消防,2022
年 7 月号.
- 山崎 登:「最近の豪雨災害と情報～気象情報を避難にどう生かすか～」,月刊・近代消防,
2022 年 8 月号.
- 山崎 登:「首都直下地震の新被害想定」,月刊・近代消防,2022 年 9 月号.
- 山崎 登:「桜島で初の噴火警戒レベル 5」,月刊・近代消防,2022 年 10 月号.
- 山崎 登:「危険になる夏～温暖化がもたらす猛暑と豪雨～」,月刊・近代消防,2022 年 1
1 月号.
- 山崎 登:「津波の怖さを伝え続ける～千島海溝・日本海溝の特別強化地域指定～」,月刊・
近代消防,2022 年 12 月号.
- 山崎 登:「首都直下地震に備える～韓国の大惨事の教訓を生かす～」,月刊・近代消防,20
23 年 1 月号.
- 山崎 登:「気候変動対策をどう進めると良いのか～COP27 で決まった“損失と損害”
の基金～」,月刊・近代消防,2023 年 2 月号.
- 山崎 登:「11 年ぶりの住民帰還を巡って～東日本大震災 福島県の被災地の現在～」,月
刊・近代消防,2023 年 3 月号.
- 山崎 登:「地域の防災力をどう高めるか～80 万人を割り込んだ消防団員～」,月刊・近代
消防,2023 年 4 月号.
- 山崎 登:「トルコの大地震～防災先進国としての日本の貢献～」,月刊・近代消防,2023
年 5 月号.

山崎 登:「教訓を後世に伝えるために～東日本大震災から 12 年～」,月刊・近代消防,2023 年 6 月号.

山崎 登:「社会の情報リテラシーを高める～関東大震災から 100 年のシンポジウムから～」,月刊・近代消防,2023 年 7 月号.

山崎 登:「求められる災害ボランティアを支える仕組み～関東大震災にもあった災害ボランティア活動～」,月刊・近代消防,2023 年 8 月号.

山崎 登:「災害情報への関心を高める」,月刊・近代消防,2023 年 9 月号.

山崎 登:「内陸直下 活断層が引き起こす地震」,月刊・近代消防,2023 年 10 月号.

山崎 登:「事前復興の取り組みを進める」,月刊・近代消防,2023 年 11 月号.

山崎 登:「“地球沸騰”と言われた今年の夏の天候」,月刊・近代消防,2023 年 12 月号.

山崎 登:「揺れは小さくても津波に注意!～鳥島近海の地震が教えたこと～」,月刊・近代消防,2024 年 1 月号.

山崎 登:「処理水放出後の福島の被災地」,月刊・近代消防,2024 年 2 月号.

山崎 登:「能登半島を襲った震度 7 の地震と津波」,月刊・近代消防,2024 年 3 月号.

山崎 登:「新たな視点から防災や防火を考える時代」,季刊「消防防災の科学」2022 年春号用(消防防災科学センター発行).

山崎 登:「地域の安全を、自分の命をどう守りますか?～首都直下地震に備える～」,「地域防災」8 月号(日本防火・防災協会発行).

2.2.5 受賞

紅谷昇平、2022 年地域安全学会年間優秀論文賞「水害被災市町村の応急対応に対する当該都道府県による人的視点の役割」(地域安全学会論文集 No.41), 2023 年 5 月.

藤井基貴 公益社団法人日本青年会議所・東海地区・静岡ブロック協議会主催 ビジネスプランコンテスト(第 55 回静岡ブロック大会) 最優秀賞 2022 年 9 月(静岡大学教育学部藤井基貴研究室)

藤井基貴 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞(ぼうさい甲子園)」ぼうさい大賞 2023 年 12 月(静岡大学教育学部藤井基貴研究室)

藤井基貴 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞(ぼうさい甲子園)」優秀賞 2022 年 12 月(静岡大学教育学部藤井基貴研究室)

藤井基貴 静岡大学 静岡大学研究フェロー(第 5 期) 2022 年 4 月

藤井基貴 静岡大学 静岡大学学長賞表彰 2024 年 3 月 防災教育を通じた地域連携(静岡大学教育学部藤井基貴研究室)

二川雅登研究室, 2022 年電気学会 優秀論文発表賞 A 受賞「小型 NMR 計測システムのための均一かつ高い静磁場を目指した永久磁石の開発」総合技術科学研究科工学専攻電気電子工学コース修士 1 年 野村智哉 2023 年 02 月 01 日.

井ノ口宗成, 福島県新地町 感謝状「令和 4 年 3 月福島県沖地震における家屋被害認定調査

の支援に対して」, 2022.6.1.

井ノ口宗成, 新潟県村上市 感謝状「令和 4 年 8 月豪雨災害における家屋被害認定調査及び罹災証明発行業務の支援に対して」, 2023.12.24.

井ノ口宗成, 新潟県関川村 感謝状「令和 4 年 8 月豪雨災害における家屋被害認定調査及び罹災証明発行業務の支援に対して」, 2022.12.24.

井ノ口宗成, 電子情報通信学会 2023 年安心・安全な生活と ICT 研究会 研究優秀賞, 2024.3.18.

吉川肇子 日本シミュレーション&ゲーミング学会 学会賞 (2023 年)

小山真人, 2023 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 (科学技術賞/理解増進部門)

小山真人, 2023 年度日本火山学会賞

小山真人, 2023 年度防災功労者内閣総理大臣表彰

小山真人, 2023 年度日本リスク学会グッドプラクティス賞 (富士山火山広域避難計画検討委員会として団体受賞)

望月美希, 地域社会学会 研究奨励賞 (個人著作部門), 令和 4 年 5 月.

望月美希, 東北社会学会 研究奨励賞 (論文の部), 令和 5 年 7 月.

村越 真, 日本地図学会、論文賞、2022 年 4 月 (村越真・満下健太・小山真人(2021) 自然災害リスクはハザードマップから適切に読み取れているか? 地図リテラシーの視点からの検討. 地図、58(4),1-16.)

村越 真, 野外教育学会、優秀論文賞、村越真(2022)自然環境での個別的リスクに対するリスクマネジメントの枠組みの提案. 野外教育研究,25,19-35.

楠城一嘉, 第十二回気象文化大賞 (一般財団法人 WNI 気象文化創造センター), 地面の揺れのビックデータから富士山の火山活動監視, 2022 年 6 月,
https://www.wx bunka.com/prize_grant/prize_grant_list/result/.

大谷栄治, 日本鉱物科学会名誉会員, 2022 年, 9 月 17 日.

境澤由起江・中村泰敏・小杉素子・西田昌史・和田 真・鈴木康之, 情報処理学会アクセシビリティ研究会 2022 年ヤマハ賞(児童の時間知覚の発達を支援するリズムアプリの研究開発), 2022 年

佐藤比呂志, 日本地質学会功績賞, 反射法地震探査を軸とした日本のサイスモテクトニクスの研究の推進, 2023 年 9 月 20 日

土屋 智、防災功労者内閣総理大臣表彰、2022 年 9 月

土屋 智、赤木賞、2023 年 2 月

牛山素行, 日本自然災害学会, 第 32 回学会賞(令和 4 年度)学術賞,2022/9.

2.2.6 特許等

特許第 7133858 号, 発明者: 二川雅登, 川人祥二, 安富啓太, 名称: 土壌センサ及び土壌計測方法, 登録日: 2022 年 9 月 1 日

特許第 7356730 号, 発明者: 二川雅登, 名称: 土壌評価センサ、土壌評価システム及び土壌評価センサ用の電極及びインピーダンス特性を得る装置, 登録日: 2023 年 9 月 27 日

特許第 7391382 号, 発明者: 二川雅登, 名称: イオン濃度計測装置, 登録日: 2023 年 11 月 27 日

特願 2023-110852, 発明者: 二川雅登, 森下智貴, 三浦俊彦, 西田憲司, 名称: 容器、イオンセンサシステム、及び土壌間隙水の水質管理方法, 出願日: 2023 年 7 月 5 日

欧州特許番号: EP3702768, 発明者: Masato Futagawa, Shoji Kawahito, Keita Yasutomi, 名称: Soil Sensor and Soil Measurement Method, 登録日: 2023 年 9 月 13 日

欧州特許番号: EP3872483, 発明者: Masato Futagawa 名称: Soil Evaluation Sensor, Soil Evaluation System, Electrode for Soil Evaluation Sensor, and Device for Obtaining Impedance Characteristic of Soil, 登録日: 2023 年 9 月 13 日

米国特許番号: US 11,828,721 B2, 発明者: Masato Futagawa, 名称: Ion Concentration Measuring Device, 登録日: 2023 年 11 月 28 日

特願 2022-175065, 2022 年 10 月 31 日, メタンの製造方法、制御装置、及びメタン製造システム, 川野 誠, 木村浩之, 横河電機株式会社、国立大学法人静岡大学.

特願 2023-197208, 2023 年 11 月 21 日, ガス測定装置およびガス測定方法, 川野 誠, 木村浩之, 横河電機株式会社、国立大学法人静岡大学.

特許第 7219977 号, 2023 年 2 月 1 日, 水素ガス生成方法、水素ガス生成システム、並びに、水素ガス及びメタン生成システム, 木村浩之, 国立大学法人静岡大学.

特許第 7406205 号, 2023 年 12 月 19 日, メタン生成装置, 川野 誠・木村浩之, 横河電機株式会社、国立大学法人静岡大学.

3 学内教育活動

3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、講演会を実施しており、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講演会の一部として、「防災を考える」というタイトルで講義を分担している。主な講義内容は下記の通りである。また、静岡県危機管理部の協力を得て、静岡県発行の「ふじのくに防災ガイドブック」を参考資料として提示している。

災害と防災

「災害の時にどうするか」が防災ではない
様々な外力で被害が生じている
東海・東南海・南海地震の発生史
地震による被害
地震の建物倒壊は古い建物で主に生じている
津波の発生
津波による被害
洪水災害

土砂災害

高波による被害
避難とは避難場所へ行くことだけではない
災害は主として起こりうる場所で発生する
重ねるハザードマップ
ハザードマップを見るときに注意点
日頃の備えについて

図 2024 年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

本講演会は、2020 年度は新型コロナウイルス感染症への対策として講義動画(30 分程度)によるオンデマンド形式での実施となり、これ以降も同様な開講形式となった。講義動画の作成は牛山教授(専任)のとりまとめにより、原田准教授(専任)、生田准教授(副担当)、小杉准教授(副担当)の計 4 名で担当した。

3.2 全学教育科目「地震防災」

地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、数十年にわたり地震に対する注意が呼びかけられ対策が進められてきた静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。この講義は、(1)地震を中心に、災害をもたらす自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(2)地震災害を主な例として、被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。(3)社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に防災に関する視点を持てるようになる。などの知識、態度を身につけることを目標とし、2004年度から開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、2022、2023年度は、前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡（昼間および夜間）の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計例年数百人におよんでいる。

2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策として講義動画または資料配信によるオンデマンド形式での実施となり、2021～2022年度も同様だったが、2023年度から対面形式での開講(1回のみはオンデマンド形式)が再開された。以下に一例として2023年度・静岡地区（前期）の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2023/4/14	地震学の基礎 1	生田領野	静大
2023/4/21	次の南海トラフ巨大地震・津波	北村晃寿	静大
2023/4/28	地震学の基礎 2	三井雄太	静大
2023/5/12	地震による災害：津波災害	原田賢治	静大
2023/5/19	地震による災害：建物災害	小林研治	静大
2023/5/26	地震防災行政	板坂孝司	静岡県
2023/6/2	地震災害史	武村雅之	名古屋大
2023/6/9	災害報道	荒川修平	テレビ東京
2023/6/16	地震予知	堀高峰	JAMSTEC
2023/6/23	地震による災害：土砂災害	今泉文寿	静大
2023/6/30	災害時の心のケア	小林朋子	静大
2023/7/7	地震災害のリスク認知	村越真	静大
2023/7/14	災害時の医療	山本裕之	静大
2023/7/21	市民防災	横幕早季	静大
オンデマンド	様々な自然災害	牛山素行	静大

3.3 全学教育科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。受講者は、2022年度約135人、2023年度約150人などとなっている。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員2人、兼任教員1人、客員教員2人、教育研究支援員(以下の一覧では「支援員」)2人の計7名が分担する形式としている。

2022年度は講義動画または資料配信によるオンデマンド形式での実施が続いていたが、2023年度から対面形式での開講(1回のみはオンデマンド形式)が再開された。以下に2023年度の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2023/10/3	自然災害科学概論1	牛山素行	静大
2023/10/10	自然災害科学概論2	牛山素行	静大
2023/10/17	地震災害	原田賢治	静大
2023/10/24	津波・高潮災害	原田賢治	静大
2023/10/31	風水害1	牛山素行	静大
2023/11/7	風水害2	牛山素行	静大
2023/11/14	火山災害	石橋秀巳	静大
2023/11/21	ハザードマップ	牛山素行	静大
2023/11/28	警報と避難	牛山素行	静大
2023/12/5	地域社会と災害	矢守克也	京都大
2023/12/12	原子力災害医療	中村和正	浜松医大
2023/12/19	行政と災害対応	牛山素行	静大
オンデマンド	災害情報	牛山素行	静大
2024/1/16	防災行政実務	杉村晃一	静岡市
2024/1/23	災害と身近な暮らし	横幕早季	静大

3.4 全学教育科目「地球科学」

全学教育科目「地球科学」では、地球をシステムととらえ、地球の活動を理解するとともに、地球の活動により人間社会へもたらされる災害のメカニズムや地球上に暮らす我々の社会と自然の関わりについて理解し、その課題について考えることができるようになることを目標としている。全学教育科目「地球科学」は、平成 24 年度より防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「地球科学」は全学教育科目—教養展開科目/現代的教養科目—教養領域 B (自然科学分野) /個別分野科目 (自然科学分野) として、理学部・グローバル共創科学部を除く、静岡キャンパスの全学生を対象に開講されており、令和 4 年度 137 名、令和 5 年度 131 名の履修登録受講者であった。

1. 地球科学概論
2. 流体地球と固体地球
3. 地球システム（気圏、水圏、地圏、生物圏、人間圏）としての地球
4. 大気、海洋のシステム
5. 水循環システム
6. 気温、気候、温暖化のシステム
7. 温暖化対策と炭素循環のシステム
8. 地球システムと物質循環
9. 固体地球のシステム
10. 地殻運動のシステム
11. 地球システムの進化（地球環境の歴史）
12. 地球システムの進化（生命の誕生と進化）
13. 地球環境と人間社会（自然災害と防災減災）
14. 地球環境と人間社会（資源と地球環境）
15. 地球科学総論（地球システムと地球観）

3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」

防災の地域づくりには私たちが暮らす社会が持続的に発展しかつ安全で暮らしやすい社会であることが重要である。静岡大学には都市計画や防災まちづくりを専門的に学ぶ既存コースがなく、このため街づくりなど中長期を見据えた視点で防災施策を議論する基礎的な学習が困難であった。本講座では静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、2016年度より開講した。私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関する行政・関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに安全な地域社会づくり、街づくり、防災施設としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得することができる。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、人文社会学部、教育学部、理学部、農学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2023年度の講義内容の一覧を掲げる。

社会資本マネジメント論 対象2年生（2023後期 月曜日 5・6時限）						12:45～14:15
No	講義名	授業日	授業方法※	所属	役職	氏名
①	ガイダンス	10/2	対面授業	静岡大学防災総合センター	—	岩田特任教授
②	社会資本概論		動画配信	建設技術監理センター	技監	大隅泰史
③	インフラと静岡の未来についていっしょに考えてみませんか？	10/16	対面授業	建設政策課企画班	主査	寺田知史
④	社会インフラの長寿化	10/23	対面授業	建設政策課企画班	主査	清 憲三
⑤	協働によるまちづくり	10/30	対面授業	建設技術監理センター技術支援第1班	班長	草野勝将
⑥	静岡どぼくらぶ	11/13	対面授業	建設政策課企画班	主任	富田ひかる
⑦	静岡の景観を考える	11/20	対面授業	景観まちづくり課景観づくり推進班	班長	勝又江里
⑧	インフラ整備と環境保全	11/27	対面授業	技術調査課技術調査班	主任	小田 匠
⑨	港湾に関する基礎知識	12/4	対面授業	港湾企画課港湾計画班	班長	畠中照史
⑩	防災から減災へ	12/11	対面授業	土木防災課防災班	班長	内山敬介
⑪	地域特有の防災対策を考える	12/18	対面授業	河川企画課海岸企画班	班長	百瀬大志
⑫	VIRTUAL SHIZUOKAの構築	1/9	対面授業	建設政策課イノベーション推進班	班長	山崎友寛
⑬	持続可能な都市の形成	1/15	対面授業	都市計画課都市行政班	主幹	金子弥生
⑭	静岡時代の交通ネットワーク(陸・海・空)	1/22	対面授業	建設政策課交通政策推進班	班長	浅野 智大
⑮	リニア中央新幹線と南アルプスの環境アセスメント	1/29	対面授業	生活環境課環境影響評価班	主査	諸橋 良

3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」

静岡大学には土木・建築を専門に学ぶ既存コースがなく、このため防災施策の中でもハード面での耐震工学や土木工学、水利工学などを学生が学ぶ機会は限定的である。この解消のため、静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の整備にあたっての計画段階から設計、施工に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法について実践事例を交えて学ぶことにより、耐震や防災、安全なまちづくりなどをデザインする上での基礎を身につける科目として2016年度より開講した。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、人文社会学部、教育学部、理学部、農学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2023年度の講義内容の一覧を掲げる。

公共施設デザイン論 対象3年生（2023前期 金曜日 3・4時限）						10:20～11:50
No	講義名	授業日	授業方法	所属	役職	氏名
①	ガイダンス	4/14	対面授業	静岡大学防災総合センター	—	岩田特任教授
②	社会資本と公共施設		動画配信	建設技術監理センター	技監	大隅泰史
③	道路の歴史と役割	4/21	対面授業	道路企画課企画班	班長	杉山剛夫
④	子どもや高齢者を守る 道路の交通安全対策	4/28	対面授業	道路整備課県市町道班	班長	森下貴史
⑤	舗装の歴史と役割	5/12	対面授業	道路保全課維持舗装班	班長	戸井口芳輝
⑥	橋の歴史と役割	5/19	対面授業	道路整備課橋梁班	班長	櫻井智洋
⑦	静岡県の川づくりと防災・減災	5/26	対面授業	河川企画課河川企画班	班長	横山卓司
⑧	豊かな河川環境を目指す	6/2	対面授業	河川海岸整備課河川整備班	班長	望月一弘
⑨	白砂青松を保全	6/9	対面授業	河川企画課海岸企画班	班長	百瀬大志
⑩	土砂災害から人命と財産を守る	6/16	対面授業	砂防課傾斜地保全班	班長	三谷真史
⑪	くらしや産業を支える港の役割	6/23	対面授業	港湾整備課港湾工事班	班長	山崎 剛
⑫	都市計画とまちづくり	6/30	対面授業	都市計画課地域計画班	班長	伊東賢吾
⑬	人の動きと都市交通マスタープラン	7/7	対面授業	都市計画課施設設計画班	班長	神村崇宏
⑭	都市公園の役割と概要	7/14	対面授業	公園緑地課公園緑地班	班長	戸田晃裕
⑮	水道施設の概要	7/21	対面授業	西部事務所 水質管理センター	班長	上村 慎子

3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」

本科目は、浜松地区で「静岡大学防災マイスター称号制度」をスタートさせるにあたり、必修科目として 2016 年度より開講している。なお、2022 年度より科目名が「災害のリスクマネジメント」に変更となった。

(1) 科目概要

本科目は、自然災害を含む日常生活の中のリスクについて、個人や家庭や社会としてどのように対処するかを受講生が主体的に考えられるようになることを目指す。

現代社会は、直接的・局所的・短期的なリスクだけでなく、間接的・広域・長期的かつ複雑な因果関係を伴うリスクが増大してきている。それらのリスクを理解し、適切に管理するためには、科学的なリスク評価の視点だけでなく、多様な利害関係者の視点が必要とされる。本科目は、講義と演習を通して多様なステークホルダーが関与してリスク問題を考えるためのリスク管理プロセス全体に関する知識を習得することを目的としている。リスク評価、リスクコミュニケーション、リスク管理の 3 要素を相互に関連付けて社会問題の解決に寄与することを、具体的な事例を扱いながら理解を深める。そのため、この科目は、理学や工学分野におけるリスク管理やリスク評価に関する内容、人間の認知や情報処理の特徴やバイアスに関する心理学や認知科学分野の内容、地域コミュニティや利害関係者とのコミュニケーションのあり方に係わる内容などから構成される。

2023 年度の講義内容一覧は、以下の通りである。

- 1 ガイダンス：生活の中のリスク 小杉素子（静大）
- 2 リスクへのアプローチ 小杉素子（静大）
- 3 リスク認知と情報処理 小杉素子（静大）
- 4 演習① リスクメッセージ 小杉素子（静大）
- 5 地震とプレートテクトニクス 増田俊明（静大）
- 6 火山のハザードマップの作られ方を学ぶとともに、一般市民が防災情報を利用する上での課題を考える 村越 真（静大）
- 7 災害リスクコミュニケーション 前田恭伸（静大）
- 8 災害とインフラ整備 鈴木康之（静大）
- 9 震災とここの復興－東日本大震災の事例から 望月美希（静大）
- 10 東日本大震災から 10 年 放射能汚染からの環境回復と今後の課題を考える 万福裕造（農研機構）
- 11 コミュニケーションとリアリティの共有 小杉素子（静大）
- 12 社会問題としてのリスクと社会的合意形成 小杉素子（静大）
- 13 （オンデマンド）演習準備②－0 気候変動問題 小杉素子（静大）
- 14 演習②－1 交渉シミュレーションロールプレイング 小杉素子（静大）
- 15 演習②－2 交渉シミュレーションロールプレイング 小杉素子（静大）

3.8 全学教育科目「災害のリスクマネジメント」(静岡キャンパス)

災害のリスクマネジメントは、防災マイスターの必修科目であり、オムニバス形式で、災害と防災に関する幅広い知識を提供している。取り扱っているトピックは、リスクマネジメント・危機管理の概要、弱者・高齢者等から見た地域防災の課題、ICTの観点から見た防災、防災行政、リスクコミュニケーション、災害の倫理学、災害医療等である。防災ロゲイニングなどの実技系のテーマも取り上げており、理論面だけでなく、災害時の実践に役立つ知識やスキルの提供に努めている。例年定員いっぱいの150名が申し込むが実際に履修するのは100名程度である。

3.9 全学教育科目「災害のリスクマネジメント」(浜松キャンパス)

本科目は、2022(令和4)年度まで開講していた「リスクコミュニケーション」の科目名を、2022(令和4)年度入学者のカリキュラムから変更したもので、講義内容は同一である。
(講義内容は3.7参照)

なお、単位数は2単位で、履修年次も2年次と、全科目と変更無い。

3.10 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」

「津波工学特論」は、平成 27 年度より大学院総合科学技術研究科（修士課程）で開講されており、研究科コースに関わらず選択することができる研究科共通科目となっている。本科目は、防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「津波工学特論」では、現象としての津波、津波災害の特徴、津波防災対策について理解することを目的としている。総合科学技術研究科の理学専攻、農学専攻、工学専攻、情報学専攻の大学院生を対象に開講しており、令和 4 年度は 40 名、令和 5 年度は 17 名の履修登録受講者であった。

1. ガイダンス（講義概要）津波の特性と理論
2. 自然現象としての津波（津波の発生要因）
3. 自然現象としての津波（津波の規模と強度）
4. 自然現象としての津波（過去の津波の調査：地質学的調査、文献調査）
5. 自然現象としての津波（津波痕跡調査と津波の観測）
6. 自然現象としての津波（地震による津波の発生メカニズム）
7. 自然現象としての津波（外洋から浅海における津波の挙動）
8. 自然現象としての津波（沿岸から陸上における津波の挙動）
9. 津波による災害（津波による被害の発生要因）
10. 津波による災害（津波による被害の種類と形態：人的被害、建物被害、施設被害）
11. 津波による災害（津波による被害の種類と形態：インフラ被害、ライフライン被害、津波火災）
12. 津波による災害（日本における津波災害の歴史）
13. 津波に対する防災対策（総合的津波防災対策、事前対策）
14. 現在の総合的な津波対策
15. 津波に対する防災対策（津波予警報、東日本大震災以降の津波防災対策）

3.11 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」

「災害情報学特論」は、当センター専任教員(牛山素行教授)が担当する大学院総合科学技術研究科共通科目として、2015年度から開講された。防災のために必要とされる情報が「災害情報」であり、幅広いものが含まれる。現代は多くの災害情報が存在しているが、実際の災害時に十分活用されていないことがしばしば問題となる。本講では、自然災害に関わる様々な情報を読み解き、活用する上で知っておくべき「災害情報の性質」を理解することを目標としている。災害情報を活用する上で必要な基礎知識を、主に講義・演習形式で解説している。後半では各自事例地を設けて調査レポートをとりまとめる課題を出題し、最終回を報告会とした。

以下に 2023 年度の主な講義内容を掲げる。

- 災害と防災の基礎
- 「災害」「防災」の受講経験紹介
- 最近の自然災害事例から
- 災害統計
- 大雨によって生じる現象と災害
- 地形と災害
- 災害情報の基礎概念
- 防災気象情報・警報避難
- 災害情報に関わる厳しい現実
- 地域調査とその報告

3.12 静岡大学防災マイスター称号制度

(1) 静岡大学防災マイスター称号制度とは

「静岡大学防災マイスター」称号の付与制度は、これまで本学が地域・学生の防災力向上に貢献するために行われてきた防災に関する授業を有機的に結びつけ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出す事業であり、2011（平成23）年度より教育学部で試行的にスタートした。おりしも、2011年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識されたこともあり、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、本制度は全国的にも関心を集めた。

2012（平成24）年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げた。さらに、2016（平成28）年度からは浜松キャンパスにも対象を広げ、称号付与の条件も、両キャンパス同一とした。

本マイスターを社会に送り出してから10年余りが経ち、修了生たちの教育・行政その他の現場での活躍が期待されるが、防災総合センターとしてその活動を支援したり、社会の中での活用を生み出すには至っていない。この点は今後の課題だと考えられる。

(2) 称号付与の条件

本称号取得のためには、必修科目4単位、選択必修科目4単位以上、選択科目4単位以上の計12単位以上の履修に加え、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめた修了レポートを義務づけ、合格する必要がある。

（2022年度より科目別単位数改正）

(3) 称号付与までの流れ

- ①「静岡大学防災マイスター授与にかかる単位取得計画書（様式1）」と「申請者登録用紙」の提出 ※受付期間：4月初旬～4月下旬《以降、年度途中は受け付けない》
- ②科目の履修 ー前学期・後学期ー
- ③修了レポートの課題発表（10月上旬）
- ④卒業年次に修了レポートを提出（11月下旬 締切）
- ⑤修了レポートの返却（1月上旬） ※合格とならない場合、添削して返却(要再提出)
- ⑥修了レポートの再提出（再提出の指示があった者のみ・1月下旬 締切）
- ⑦「静岡大学防災マイスター称号授与申請書(様式2)」及び単位取得確認書類の提出（2月上旬締切）
- ⑧称号付与〔認定証の授与〕（3月下旬） ※学位記と合わせて交付

(4) 2022・2023（令和4・5）年度の実施状況

令和4、5年度には、それぞれ新たに27名、37名の登録があり、2023（令和5）年度末までに修了した者は計152名であった。

(5) 静岡県知事認証について

静岡大学防災マイスター称号制度は、「静岡県ふじのくに防災に関する知事認証認定要領」に基づき、県が実施するふじのくに防災マイスター養成講座と同等と認められており、修了生のうち、静岡県地震防災センターの見学（体験、講話を含む）をした者は、同要領により、「ふじのくに防災マイスター（県知事認証）」として認定したものとみなされ、県から認定証が交付される。令和4、5年度は、それぞれ8名、12名に交付された。

(6) オープンバッジ（デジタル証明書）の発行について

2023（令和5）年度修了生より、一般社団法人オープンバッジ・ネットワークが発行するオープンバッジ（デジタル証明書）が導入されることとなった。

オープンバッジは、獲得した知識やスキルを証明する、国際技術標準規格のデジタル証明書で、本学の特別教育プログラム及びその他の教育認定プログラムから、全学教育基盤機構会議に申請・承認された場合に発行が認められる。

令和5年度修了生は希望者に、令和6年度以降は対象者全員に発行されることとなった。



■バッジデザインの説明：

バッジの形は、防御を示す盾を表し、背景の色調は静岡大学のスクールカラー「紫味の青」である。

中央は、噴火の恐れのある富士山を表している。

(7) 静岡キャンパスにおける履修対象科目等について

必修科目は、全学共通科目の「災害のリスクマネジメント」、「大規模自然災害の科学」で浜松と共通、選択必修科目は、「地震防災」「地域社会と災害」「地球科学」「学校におけるリスク管理」「防災・減災論※」「安全とリスクの心理学※」「防災まちづくり※」から4位以上を履修することとなっている。

これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

なお、※を付した科目は、2023（令和5）年度に開設された新学部「グローバル共創学部」の授業であり、選択必修が飛躍的に充実したことが分かる。

選択科目は、全学教育科目に加え各学部で最低4単位以上が設定されており、各学部の学生にとっても履修しやすくなっている。卒業年度には、修了レポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

■静岡キャンパス履修対象科目〔2023（令和5）年度入学生〕

対応学部等	科 目 名	単位	対象年次	担当教員
-------	-------	----	------	------

▼必修科目（4単位）

全学教育科目	大規模自然災害の科学	2	2	北村晃寿
	災害のリスクマネジメント	2	2～3	村越 真

▼選択必修科目（4単位以上／4単位を超えて履修した場合、超えた単位は選択科目の単位とすることができる）

全学教育科目 (静岡)	地震防災	2	2～3	牛山素行/原田賢治
	地域社会と災害	2	2	牛山素行
	地球科学（原田先生が担当するクラス）	2	2	原田賢治（夜間主のみ）
教育学部	学校におけるリスク管理	2	3	村越 真
グローバル共創 科学部	防災・減災論	2	2	池田恵子/原田賢治
	安全とリスクの心理学	2	2	村越真/小杉素子
	防災まちづくり	2	3	池田恵子

▼選択科目（4単位以上）

全学教育科目 (静岡)	進化と地球環境	2	2	鈴木雄太郎
	静岡県の防災・減災と原子力	2	3	大矢恭久
	社会資本マネジメント論	2	2	岩田孝仁
人文社会科学部	心理学概論	2	1	田辺 肇
	人文地理学	2	2	山本隆太
	地誌学	2	2	山本隆太
教育学部	認知心理学	2	3	村越 真
	地誌学概論	2	1	中條暁仁
	地理学研究法	2	3	中條暁仁/佐藤正志
	持続可能な地域社会と災害	2	3	池田恵子
理学部	地球ダイナミクス概論Ⅰ	2	2	川本竜彦/田阪美樹
	地球ダイナミクス概論Ⅱ	2	2	生田領野/石橋秀巳/三井雄太
	生物環境科学概論Ⅰ	2	2	塚越哲/佐藤慎一
	生物環境科学概論Ⅱ	2	2	木村浩之/宗林留美
	堆積学	1	3	北村晃寿
	層序学	2	3	北村晃寿
	放射線計測・管理学概論	2	3～4	大矢恭久
	放射線管理実習	1	2～3	大矢恭久/矢永誠人/近田拓未
農学部	地質学概論	2	2	松澤 真（非常勤講師）
	山地保全学	2	3	高山翔揮
グローバル共創 科学部	コミュニティ心理学	1	3	江口昌克
	ウェルビーイングの哲学	1	3	堂園俊彦
	総合人間科学概論	2	1	オムニバス(主:堂園俊彦)
	現代社会の認知科学	2	1	須藤 智/前東晃礼/祝原 豊
	人間の尊厳と人権	2	1	正木祐史/堂園俊彦/板倉美奈子
	基礎地学	2	2	北村晃寿
	生物多様性保全論	2	2	小池 亨
	都市計画論	2	2	石川宏之
	応用倫理学概論	2	2	堂園俊彦
	臨床心理学概論	2	2	江口昌克
	自然災害の現象	2	3	原田賢治
	環境共生社会論	2	3	富田涼都
	森林水文学	2	3	今泉文寿/江草智弘
	環境工学	2	3	宮原高志
(学芸員科目)	博物館情報・メディア論	2	2	江水是仁

(8) 浜松キャンパスにおける履修科目等について

選択必修および選択科目については、情報学部および工学部から、自然災害の現象やメカニズムだけでなく、防災や減災に関わる技術や地域コミュニティや政策まで、幅広い分野の科目が指定されている。

■ 浜松キャンパス履修対象科目〔2023（令和5）年度入学生〕

対応学部等	科 目 名	単位	対象年次	担当教員
-------	-------	----	------	------

▼ 必修科目（4単位）

全学教育科目 （浜松）	災害のリスクマネジメント	2	2	小杉素子ほか
	大規模自然災害の科学	2	2	北村晃寿ほか

▼ 選択必修科目（4単位以上／4単位を超えて履修した場合、超えた単位は選択科目の単位とすることができる）

全学教育科目 （浜松）	地震防災	2	2	小杉素子ほか
	静岡県の防災・減災と原子力	2	2	大矢恭久ほか
	わが街・浜松の市政	2	2	望月美希ほか
	地域社会連携を考える	2	2	清水一男
工学部	安全工学	2	3～4	戸田三津夫ほか

▼ 選択科目（4単位以上）

工学部 （機械工学）	材料力学Ⅰ（必）	2	1	吉田健吾
	確率・統計（必）	2	2	岡本正芳
	流体環境工学（必）	2	3	福田充宏ほか
	経営システム工学（選）	2	4	關根惟敏
工学部 （電気電子）	確率統計＜情報エレクトロニクス（必）＞	2	2	大内浩司
	数値シミュレーション	3	3	丹沢徹ほか
	経営システム工学（選）	2	4	關根惟敏
	技術者倫理（選）	1	4	松本純也
	センサ工学＜情報エレクトロニクス（選）＞	2	4	二川雅登
	電気法規および施設管理	2	4	石川 明
工学部 （電子物質）	環境工学＜電子物理デバイス（選）＞	2	3	須田聖一
	経営システム工学（選）	2	4	關根惟敏
	数値計算法＜電子物理デバイス（選必）＞	2	3	伊藤 哲
工学部 （化学バイオ）	経営システム工学（選）	2	4	關根惟敏
	技術者倫理（必）	1	3	馬淵大幾
	移動現象論Ⅰ（必）	2	2	立元雄治
	環境化学＜環境応用化学（必）＞ ＜バイオ応用工学（選）＞	2	2	岡島いづみほか
工学部 （数理システム）	確率統計（選）	2	1	佐藤一憲
	リスク分析（選）	2	3	前田恭伸
	経営システム工学（選）	2	4	關根惟敏
	技術者倫理（必）	1	3	守田 智
情報学部	統計学入門	2	1	金 鎮赫
	社会モデル	2	2	高口鉄平
	社会調査論	2	1	藤岡伸明
	地域コミュニティ論	2	2	笹原 恵ほか
	Webデザイン	2	2	杉山岳弘
	都市環境デザイン	2	2	秋元菜摘
	情報・コミュニティ論	2	2	藤岡伸明ほか

4 プロジェクト・関連行事

4.1 ふじのくに防災フェロー養成事業

4.1.1 事業の概要

(1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成 8 年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成 22 年度に「静岡県防災士」を改名）を 1250 名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成 22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成 25 年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

戦略推進費による講座運営は 2014 年度で終了し、その後は静岡県および静岡大学からの予算拠出によって運営している。

(2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則 1 科目 1 日の形で開講される 25 科目(2023 年度実績、年度により若干変動する)の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、①講義実習科目を必修科目 2 科目、基礎系科目 1 科目以上、応用系科目 1 科目以上、実習系科目 1 科目以上、合計 10 科目以上履修、②修了研修の内容を何らかの公開の場で発表(もしくは発表の具体的な予定がある)の条件を満たすことで判定する。受講期間は 1 年間を基本とし、最長で 1 年間の期間延長(合計で 2 年間)は認めるものとした。

募集人数は若干名で、応募資格として次のいずれかに該当する者としている。

- ・ 行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関(都道府県は問わない)、学校(学校教育法第一章第一条に定める教育機関)のいずれかにおいて、防災に関わる業務に従事している者(今後従事する見込みの者も含む)。
- ・ 令和元年度以降に、静岡県「防災行政研修」を受講した者

- ・ 令和元年度以降に、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」を1コース以上受講した者
- ・ 防災関連の大学院修士課程以上に在学中の者
- ・ その他、防災に関わる業務に従事している者で、ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が適当と認める者。なお、「業務に従事」とは、その仕事に従事することにより、主たる生活上の収入を得ている者を指し、例えば地域の自主防災組織への関与は「業務」とは見なさない。

受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は2015年度までは無料として来たが、2016年度より有料化した。受講料は12万円とし、受講期間が2年にわたる場合でも追加の徴収は行わない。なお、静岡県職員のについては、勤務先から職務及び職員研修の一環として、所属長の了解のもとで受講が認められている場合受講料を免除している。2022年度までは市町振興協会からの助成制度の対象となっていたが、2023年度から廃止されたため、2023年度からは静岡県内市町の職員についても、県職員と同条件で受講料を免除することとした。

毎年1月に応募を受け付け、2月に選考作業を行っている。2014年度までは3月より講義開始としていたが、年度をまたぐことで不都合が多かったことから2015年度からは4月から開始とした。

講義・実習は、表1のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課題提出をもとめている。なお、2019年度からカリキュラムを見直し、講義科目、実習科目を明確に分けたほか、開始時の「入門演習」と、修了直前の「専門演習」を設け、いずれも必修とした。科目は随時見直しを続けており、2020年度には「防災気象情報論」を新設した。2021年度以降は大きな変更はない。

修了研修では、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決めて取り組む。2022、2023年度に発表されたテーマを下記に列挙する。

2023年3月修了者

- 自治体における防災人員の配置と課題
- 津波避難タワー・マウンドの現状および外来者利用に関する調査報告
- 事業所における災害リスクとBCP策定状況の関連性
- 企業防災における安否確認訓練の有効性の考察

2022年3月修了者

- 熊本県における大雨警報等と被害の関係
- 遠州斜め海岸林における林分構造について
- 津波避難対策特別強化区域に指定される市町村における職員の安全対策の施策について

表1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(2023年度)

科目名	科目群	担当教員	開講日
入門演習	必修	牛山 素行	2023/4/1
コミュニケーション論	応用系	関谷 直也	2023/4/8
災害社会学	応用系	矢守 克也	2023/4/22
地震計測実習	実習系	林 能成	2023/4/29
河川工学	基礎系	風間 聡	2023/5/13
人文社会科学のデータ収集と統計処理	基礎系	村越 真	2023/5/20
防災気象情報論	応用系	向井 利明・牛山 素行	2023/6/3
火山学	基礎系	小山 真人・鶴川 元雄	2023/6/17
リスク論	応用系	鈴木 清史	2023/7/1
砂防学	基礎系	土屋 智	2023/7/15
地震工学	基礎系	秦 康範	2023/7/29
地震学	基礎系	笠原 順三	2023/8/5
建築防災学	応用系	佐藤 健	2023/8/19
気候学	基礎系	木村 圭司	2023/9/2
都市防災概論	応用系	廣井 悠	2023/9/16
地理情報演習	実習系	岩崎 一孝	2023/9/30
地理学演習	実習系	近藤 昭彦	2023/10/14
強震動・地震災害史	応用系	武村 雅之	2023/10/28
地質学演習	実習系	狩野 謙一	2023/11/11
津波工学	基礎系	原田 賢治	2023/11/25
地域調査演習	実習系	牛山 素行	2023/12/9
企業防災と事業継続論	応用系	紅谷 昇平	2023/12/23
防災法制度	応用系	中川 和之	2024/1/6
防災実務実習	実習系	岩田 孝仁	2024/1/17
専門演習*	必修	牛山 素行	2024/2/3
			2024/2/17

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により開講形態の見直しの必要性が生じた。急遽オンライン開講の準備を整え、4月の第1回講義「入門演習」から、Zoomによるリアルタイムオンライン形式での開講を基本とすることとした。急な開講形態の変更であり、行動制限に関わる情勢も逐次変化したことから、結果的に以下のような開講状況となった。

- ・ 日程を変更してリアルタイムオンライン形式で開講：気候学

- ・ オンデマンド形式(講義動画の配信)で開講：コミュニケーション論、火山学
- ・ 休講：地理情報演習、地震工学、防災実務実習
- ・ 講義室での開講時間を短縮し対面形式で開講：地質学実習
- ・ リアルタイムオンライン形式で開講：その他の科目

2021 年度から 2022 年度にかけても新型コロナウイルス感染症の流行状況が継続したため、対面開講も模索しつつ、オンライン開講を引き続き基本とした。結果的には下記の開講状況となった。

- ・ 日程変更、オンデマンド形式開講は無し
- ・ 休講：地理情報演習、防災実務実習
- ・ 講義室での開講時間を短縮し対面形式で開講：地質学実習
- ・ リアルタイムオンライン形式で開講：その他の科目

2023 年度からは、本学の学部等の講義は基本的に対面開講形式に戻ったが、本講座については、開講当初から静岡県にとどまらず全国各地からの受講者が見られていたことなどから、オンライン形式での開講のメリットが大きく、特に支障や制限もないことから、引き続きオンライン形式での開講を基本として行っていくこととした。なお、対面形式での開講の方が効果的と考えられた、「地震計測実習」、「地質学実習」、「地理情報演習」、「防災実務実習」の 4 科目は対面開講とした。

(3)応募・終了の状況

2024 年 3 月末現在で、14 期生までの募集・選考が終了している。1 期 53 人、2 期 43 人、3 期 35 人、4 期 34 人、5 期 28 人、6 期 16 人、7 期 14 人、8 期 13 人、9 期 10 人、10 期 9 人、11 期 2 人、12 期 9 人、13 期 1 人、14 期 6 人の応募者があり、それぞれ 22 人、20 人、21 人、20 人、17 人、11 人、7 人、7 人、6 人、4 人、2 人、7 人、1 人、4 人を受講生として受け入れた。このうち 12 期までは 2024 年 3 月末時点で最長受講期間が終了しており、1 期 20 人、2 期 17 人、3 期 14 人、4 期 13 人、5 期 10 人、6 期 11 人、7 期 4 人、8 期 7 人、9 期 4 人、10 期 3 人、11 期 2 人、12 期 6 人が修了認定された。13 期は 1 人が継続受講中である。2024 年 3 月末時点で、のべ 149 人が受講し、うち 111 人が修了、5 人が受講中となっている。

受講者の所属を受講開始時点で分類すると図 1 となる。市町村、国、県といった行政機関からの受講生が概ね半数を占めるが、企業等からの受講生も少なくない。なお、「企業」46 人のうち、指定公共機関もしくは指定地方公共機関の関係者が 16 人を占める。

受講生の居住地は静岡県内が多いが、各年共に県外からの受講生も少なくない。県外としてはこれまでに、秋田県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県、熊本県、富山県に居住する受講生を受け入れており、広い範囲から受講生が集まっている。

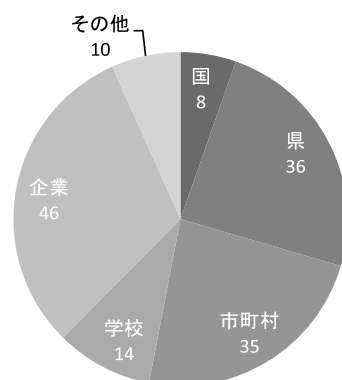


図1 受講者の所属

(4)修了後の対応

まず、受講生および関係教員との連絡を図る目的で、メーリングリストを講座開始直後から運用している。修了後も特に本人からの申し出が無い限りリストから削除していない。修了生から、防災関係の行事案内などが流されるケースもあり、関係者の連絡網として機能しつつある。

当初は、修了後に開講の講義・実習科目は受講できないこととしていたが、受講生からの意見を参考にリカレントの狙いも含め、2014年度から「科目受講制度」を新設し、講義内容を紹介するブログ記事を作成することを条件に、年間3科目までの受講を認める事になった。2018年度からはさらなる活性化のため、年間の受講科目数の上限を撤廃した。各担当教員によっては、開講しているゼミに修了生の出席を認めているケースもある。

2014年度からは、本講座修了生らと静岡大学のさらなる連携を図ることを目的として、「静岡大学教育研究支援員」の制度を新設し、これまでに修了生ら11人を任命し、修了研修や講義・実習科目の実施に協力してもらっているほか、研究、普及活動を教員と共同実施している。また、一部の支援員は、全学共通科目「地震防災」「地域社会と災害」の講義も担当している。

このほか修了生は、各職場において様々な活躍をしており、詳細は次項「受講生の活動成果」に挙げる。

(5)今後の展望

本講座では、受講対象を現役の防災実務者に限定したが、開講後5年間にわたり1年当たり10人程度と想定した受講者数をはるかに上回る旺盛な応募が広域から続き、防災実務者に対してある程度の魅力を持った内容となっていることが示唆される。修了後も継続的に本講座関係教員、修了生らとの交流が行われ、静岡大学を拠点とする防災に関する人的ネットワークが構築されつつあると見ていい。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行という非常事態により、いわば受動的な形

でオンライン形式での開講を余儀なくされ、2022 年度時点でも基本的な状況は変わっていない。一方で、オンライン開講により、特に遠方からの受講生にとって、時間的、費用的に大きなメリットが生じた面もある。そこで、前述のように 2023 年度以降もオンライン形式での開講を基本とし、講義室や野外での作業を伴う実習科目の一部は対面形式で開講する事とした。

現在、喫緊かつ重大な課題は運営資金の確保策である。2024 年時点では、静岡県および静岡大学からの予算拠出によって運営し、2016 年度からは 1 人 12 万円の受講料徴収を行っているが、厳しい状況が続いている。2018 年度からは、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」との連携、2019 年度からは静岡県「行政職員防災講座」との連携など、講座内容の更新を予定しているほか、今後も継続的に講座の見直しを計画している。今後、さらに講座の継続、発展を目指したいと考えている。

4.1.2 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。2022、2023 年度は下記シンポジウムを実施した。

(1)「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2022 年度称号授与式・シンポジウム

当年度は、東海圏減災研究コンソーシアムのシンポジウムを兼ねての実施となった。

日時：2023 年 3 月 18 日(土) 14:00～17:00

Zoom によるオンライン開催

【2022 年度ふじのくに防災フェロー称号授与式】

称号授与

静岡県危機管理部

挨拶

静岡県地震防災センター 所長 金嶋千明

【2022 年度ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム】

●基調講演

「臨海地域の環境変動・災害に関する地球科学的研究」

静岡大学防災総合センター センター長 北村 晃寿

●ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告

静岡大学防災総合センター教授・

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹 牛山 素行

●ふじのくに防災フェロー 今年度修了生からの挨拶

◆2022 年度修了生：神崎 沙緒莉、榎本 純三、川島 廉、鈴木 和生

●ふじのくに防災フェロー 修了生の近況報告

気象庁新潟地方気象台(第 4 期修了生) 向井 利明

(2)「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2023 年度称号授与式・シンポジウム

日時：2024 年 3 月 9 日(土) 14:00～17:00

Zoom によるオンライン開催

【2023 年度ふじのくに防災フェロー称号授与式】

称号授与

静岡県危機管理部

挨拶

静岡県地震防災センター 所長 金嶋千明

【2023 年度ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム】

●ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告

静岡大学防災総合センター教授・

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹 牛山 素行

●ふじのくに防災フェロー 新規修了生からの挨拶

◆2023 年度修了生：桑原 暢子、関口 岳志、渡邊 善明

●ふじのくに防災フェロー 修了生からの話題提供

「能登半島地震 現地派遣行政職員に聞く」

駿東伊豆消防本部沼津北消防署 消防司令(第 4 期修了生) 諸星大輔

4.1.3 受講生の活動報告

氏 名：青島 晃（フェロー1期生）

所 属：ふじのくに地球環境史ミュージアム客員研究員

ふじのくに地球環境史ミュージアム客員研究員として、静岡県西部地域の地形地質や歴史地震の研究と防災教育に取り組んでいます。1981年から中遠行政センターの委託を受け、「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め、「昭和19年東南海地震の記録」（1982）、「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心になって行いました。また、前任の袋井高校や磐田北高校（静岡県地震予知観測学習モデル校）、浜松北高校、磐田南高校の地学部顧問として、地震観測や歴史地震の研究を指導し、日本学生科学賞では内閣総理大臣賞を受賞するなど、指導力を発揮しました。

研究活動では、1944年東南海地震を対象とした約40,000件のアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施し、2011～2012年には、袋井市の液状化対策委員として、ハザードマップ作成のために、1944年東南海地震で発生した液状化現象の記録を提供しました。

また、2022年に「アンケート調査に基づく1944年東南海地震による静岡県天竜川低地左岸の噴水・噴砂発生日点とその地形・地盤条件」が、歴史地震37号に掲載されました（図参照）。

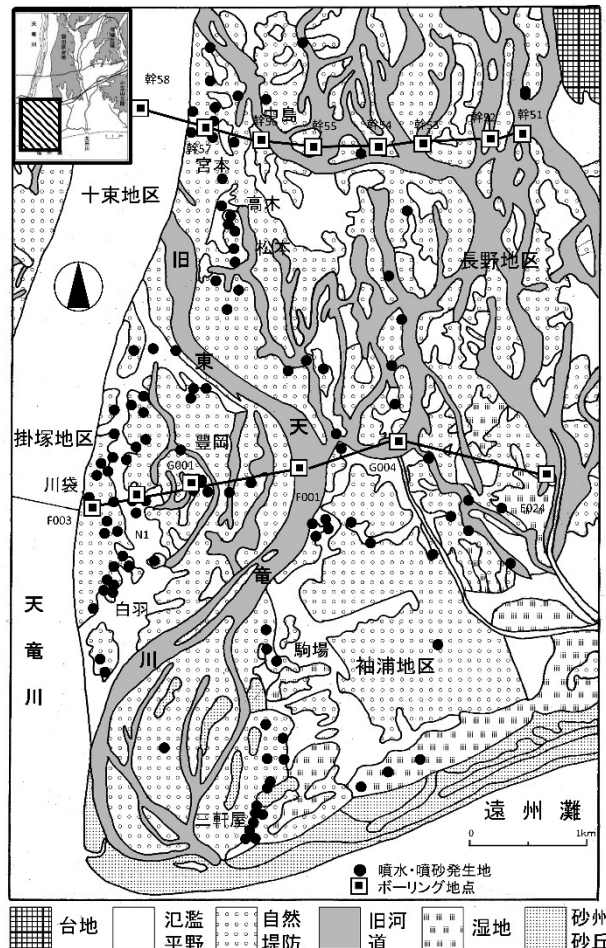


図 天竜川左岸磐田市十束・長野・掛塚・袖浦地区の噴水・噴砂発生日点 青島ほか（2022）より引用

https://www.histeq.jp/kaishi/HE37/HE37_039_049_Aoshima_web.pdf

さらに古い歴史地震による液状化現象や津波堆積物については、地質学的手法により研究を行ってきました。最近では、2023年に産業技術総合研究所の藤原治博士との共著による「静岡県浜松市の米津池跡で見られる1498年明応地震に伴う津波堆積物と環境変化」が、地学雑誌に掲載されました。

https://www.istage.jst.go.jp/article/jgeography/132/4/132_132.309/article-char/ja

今後は1944年東南海地震による天竜川右岸の浜松市南部の液状化現象についても、取り組む予定です。

氏 名：柴田達哉（フェロー2期生）

所 属：柴田地盤問題研究所

防災に関する活動は特に行っていません。2022年に個人事業として「柴田地盤問題研究所」を開設しました。地質土質に関わる実務業務を主に行っていますが、産総研委託の埼玉県での伏在断層に関するコア採取ボーリング調査も行いました。行政実務では、斜面崩壊災害調査や災害防除の観点からの斜面地質調査が極めて多くなりました。

2024年1月の能登地震で被災した内灘町を視察しました。従来の沈下の優勢な地盤災害が多かったのですが、当地では「液状化による広域側方流動」が特徴的でこれまでの「住宅個別の問題」から「地域全体の問題」へと新たな課題も抽出された災害だと思います。「液状化マップ」だけでは無く、側方流動の有無が予想される地盤傾斜のある地域の特定もこれからの地域防災に必要となるのではと思えました。



また、2024年に工学博士号の学位を東京都市大学から授与されました。

氏 名：向井利明（フェロー4期生）

所 属：気象庁

2022年度から2023年度は、再任用にて、新潟地方気象台に勤務しました（2024年度は気象庁大気海洋部気象リスク対策課に勤務）。

新潟地方気象台では、新潟県における過去の主な気象災害を掲載した「新潟県に災害をもたらした気象事例」というサイトを、若手職員とともに作成しました。

https://www.data.jma.go.jp/niigata/menu/saigai_NI.html

また、新潟県内の民放テレビ局が合同で開催する「新潟アナウンサー防災勉強会」が2023年度に発足し、この勉強会において、「防災気象情報の読み解き方・伝え方」「冬の防災気象情報」などの話題提供を行いました。

2022年8月3日から4日にかけて、新潟県では線状降水帯が発生するなどして、記録的な大雨となり、村上市、関川村、胎内市には大雨特別警報が発表となりました。この大雨によりこれらの市村を中心に、土砂災害、護岸損傷などの河川被害、内水氾濫などが多数発生しました。この大雨災害について、気象状況や防災気象情報の発表状況等をまとめた資料を作成したうえで、被災市村や報道機関との振り返りを実施し、防災気象情報の受け手と出し手双方の視点での課題抽出などを行いました。また、この事例を用いて、キキクル（危険度分布）と被害との関係分析などを行い、牛山基行教授にご指導いただきながら研究成果としてまとめ、2023年3月の日本災害情報学会において「キキクル（危険度分布）等を用いた避難情報の検討ー2022年8月の新潟県の線状降水帯等による大雨ー」と題して口頭発表を行いました。

2023年度には、牛山基行教授のご指導のもと、大雨特別警報の提供開始以降の運用等の変遷をまとめるとともに、その改善効果を、大雨特別警報の発表状況や災害との関係などの視点で分析し、現在運用している大雨特別警報の特徴と役割を考察しました。この成果は、2024年3月の日本災害情報学会において「大雨特別警報の運用等の変遷と改善効果」と題して口頭発表を行いました。

気象庁が行う「2023年度気象防災アドバイザー育成研修」において、「防災気象情報概論」の講義を担当し、3時間の講義動画ファイルを作成しました。内閣府主催の「防災スペシャリスト養成研修」の「警報避難コース」の実習の講師を依頼され、2022年8月の新潟県の災害事例も交えて、防災気象情報の活用などについて話題提供を行いました。ふじのくに防災フェロー養成講座において、2021年度、2022年度ともに、科目「防災気象情報論」の中で、近年の防災気象情報の動向等について講義を行いました。

これからも、気象庁の防災気象情報の利用促進や改善につながる調査、気象防災に関する普及啓発などに取り組んで行きたいと思います。

氏 名：鈴木淑夫（フェロー５期生）

所 属：伊東市役所

私は、２０１９～２０２１年度まで伊東市立図書館に館長として勤務しました。その時に、図書館は所在自治体の人口と同程度以上の住民が来館するのだから「防災情報を提供する場所」としては非常に優れているのではないかと、図書館が防災啓発する場所にならないかと考えました。

図書館は多くの地域資料を保存することができるので、その地域における防災に関する様々な資料を閲覧できます。特に「火山」に関してはその活動に関するだけでなく、自然や文化など多面的に理解することができます。

「火山災害」は概ね数百年から数千年間隔で発生するため、何世代にもわたり火山災害を全く経験せず、災害経験を伝承していくのが非常に難しいと感じていましたので、図書館がその伝承場所にならないかと考えました。

そこで、全国の常時観測火山がある自治体の５０図書館に、火山防災に関するアンケート調査を行い、それをまとめた論考を日本図書館協会が発刊している「現代の図書館」に投稿し掲載されました。（２０２２年５月発刊の「現代の図書館」（vol.60 no.1）に「火山防災における図書館の可能性について」として掲載）

アンケート結果（詳細は割愛します。）から、多くの図書館が平常時も含め火山災害情報を提供していくことに関しては残念ながら低調でしたが、一部の図書館は、火山災害に関する「情報提供拠点」としての役割を担いたいとの回答でしたので、今後もそのように考えてもらう図書館が多く増える取り組みをしていきたいと考えています。

現在の図書館を取り巻く環境は、予算や人員減など決して良くはありませんし、配架するスペースの確保も難しい図書館が多いため、これまでにない役割を担うことは難しいですが、引き続き全国の図書館関係者には図書館が災害伝承や防災情報などを提供できる場所になり、地域の防災啓発などを担える場所として地域貢献ができることを提言していきたいと考えています。

氏 名：中谷泰三（フェロー6期生）

所 属：JICA 海外協力隊 2024 年度第 1 次隊 チリ共和国プエルト・サアベドラ市役所防
災・災害対策課派遣（2024 年 8 月～2026 年 8 月）

「ふじのくに防災フェロー養成講座」第 6 期生として、2016 年度から受講させていただきました。修了研修が完了したのが 2017 年度だったため、修了も 2017 年度となりました。

自分は、防災フェロー養成講座を受講したことによって、信頼できるデータ・情報に基づいて判断や予測する仕事上のクセを身につけることができたように思います。

たとえば、気象警報等についていえば、事象の発生前、発生中、終了後にわたる一連の活動は、防災気象情報や河川水位情報等を活用して行うわけですが、以前はこれらの客観的情報を見ながらも、ややもすれば感覚的な判断をしてしまうことがあったように思います。防災フェロー養成講座は、そのような姿勢を根本から変えてくれました。

自分は、これまで勤めていた静岡県をこの 3 月に退職しました。そして、2024 年 8 月から 2026 年 8 月まで、JICA 海外協力隊 2024 年度第 1 次隊員として、チリ共和国プエルト・サアベドラ市役所防災・災害対策課に派遣されることとなっています。現地では、防災計画の策定や防災体制構築の支援業務等に従事する予定です。

客観的なデータ・情報に基づく判断と、それらに基づかない意見・見解等は峻別して仕事を進める、という、防災フェロー養成講座で教えていただいた基本姿勢は、現地の活動でも大切にするつもりです。

御指導くださった牛山先生をはじめとする先生方、また、素晴らしい専門家のゼミ生の皆様、本当にありがとうございました。

氏 名：渡邊浩喜（フェロー6期生）

所 属：星槎大学大学院教育学研究科客員研究員、星槎大学特任講師、静岡県立田方農業
高校(文部科学省インクルーシブな学校運営モデル事業カリキュラム・マネージャー)

2023年3月自然災害科学中部地区研究集会において、継続研究中である「大規模災害を想定した特別支援学校における防災力の評価と考察」について報告した。

特別支援学校においては、県内広域から赴任してくる校長や教職員にとって、多様な障害種の児童生徒や学校体制の違いの中で十分に地域の災害リスクに対応しきれていない現状が見られた。防災対応の基本は学校周辺の環境理解から始まることを改めて認識した。

また、災害対応を要素ごとに考えているため、避難から業務の継続・再開につながる連続的過程の中で課題を総合的に捉えきれておらず、防災対策マニュアルの再構成の必要性を指摘した。災害の形は地理的条件や気象条件に影響するばかりではなく、一つの災害が二つ目・三つ目の災害に複合することも少なく、避難業務、継続業務、復旧・再開業務を平行して進行する複合的・総合的な視点で考える必要性を認めた。

大規模災害発生時には携帯電話等によるリアルタイムでの情報伝達が困難となるため、地域を走行する特別支援学校のスクールバスや各特別支援学校とを結ぶ「大規模災害時情報伝達ネットワークの構築」について継続して県教育委員会と連携して進めた。通常、簡易無線の送受信範囲は1～2km程度であるが、大型アンテナを設置することにより半径10km以上の範囲での送受信が可能となる。山地等により通信が困難な地域は、携帯電話のデータ通信周波数帯で音声通話が可能な通信機器を導入した。

2023年4月以降は、「地域防災と自然災害の教訓の伝承」の視点から以下の活動を進めた。

- (1) 特別支援学校を巡回し、各学校における防災対策マニュアルの内容について意見交換するとともに、発災時における各校の避難所(福祉避難所)の対応について情報交換した。
- (2) 2019年3月15日以降「自然災害伝承碑」として国土地理院地図に登録されている県内74基の石碑に加え、他の団体等で集約している伝承碑等計100か所の現地調査を行った。長い年月の末風化している石碑や草藪や林の中にあり確認作業が容易でないものも見られた。全国的には2011年の東日本大震災以降作られた碑も多く、長い歴史の中に遺されてきた碑の多くは、未だ登録に至っていない。

県内で登録されている3基の石碑は、袋井市立三川小学校、袋井北小学校、袋井西小学校内に設置されている。昭和19年12月7日13時36分に発生した東南海地震では、この3校の校舎が倒壊し、現在の袋井市に含まれる市町村での死者数は161人、その内三川小学校で8人、袋井北小学校で5人、袋井西小学校では20人の計33人の児童が犠牲となった。袋井市では、毎年12月7日を防災学習の日としており、12月7日、袋井の3校を訪問し管理職の方から当時の記録や防災学習についてお話を伺うとともに、袋井西小学校において語り部の方との授業の参観をさせていただいた。

氏 名：石塚隆之（フェロー8期生）

所 属：千葉県 防災危機管理部 防災対策課 災害情報室

令和元年房総半島台風等被害を受けて新たに設置された災害情報室に配属され、人（リエゾン）・モノ（物流企業や大手小売業者との協定など）の体制整備に従事した。また、2023年度から配備された防災用ドローンについて、その運用立ち上げを担当した。

実災害の対応では、能登半島地震の被災地（珠洲市）への千葉県第1次派遣隊員として派遣。被災地での派遣体制構築（主に物資支援）及び避難所支援を行った。

氏 名：安本真也（フェロー8期生）

所 属：東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

2023 年度に博士論文が完成し、博士号（社会情報学）を取得した。当該論文では、マス・コミュニケーションの効果研究に軸足をおきながら、首都直下地震の被害想定をもとに制作されたドラマ『パラレル東京』を題材として、その受け手に対する効果を明らかにした。

その結果、防災啓発において映像は十分に活用可能であることが実証された。そして、活用のための情報のあり方として、脅威アピールによって感情に訴えることが重要である点が明らかとなった。それによって、認知面を中心とした効果がみられた。特に、従前よりリスク認知が低いような人びとは、被説得性が高かった。映像を用いる場合には、感情を刺激することこそ、地震防災において重要であった。

一方で、地震防災に関する行動面を考えた場合に、映像を用いて効果を及ぼすことは容易ではないという結果が得られた。これまでに対策行動をとっていた人は、確かに、防災啓発の映像に接した際に、再確認する傾向がみられた。一方で、今まで対策行動をとっていなかった人が新たにとるような、行動変容があまりみられなかった。つまり、一足飛びで行動レベルでの地震防災を促進させる映像コンテンツがあるわけではなく、地道に防災行動の啓発が必要であることを示しているといえる。

また、従来よりリスク認知が高いような人びとに対しては、恐怖感情を強く刺激しすぎた結果として、心的外傷（トラウマ）に結びつく可能性が示唆された。そのため、脅威アピールを用いて感情を刺激することで地震防災に対する動機づけもしつつ、心的外傷（トラウマ）にならないようなバランスが、映像においては求められるのである。

今後は、こうした博士論文の研究成果をふまえ、感情と防災啓発に関する研究、映像の効果的な活用方法の研究を進めていきたいと考える。ソーシャルメディアの発展もあり、映像は防災において非常に重要なツールであるが、十分な研究が行われているとは言い難い。社会科学的な立場からさらなる研究を推進していく。

他方、福島国際研究教育機構（F・REI）からの委託研究として、原子力災害等の大規模災害に関するデータをいかに集積、発信していくかという研究にも取り組んでいる。多様な記録データの収集・整理を行うことで、大規模災害時の情報提供のあり方について、総括を行うことを目的としている。それにより、大規模災害時の混乱した状況下でのコミュニケーションのあり方について確立することを目指していきたい。東日本大震災から 10 年以上が経過した今だからこそ出来る研究を長期的な視座から推進していく。

氏 名：和田弘貴（フェロー8期生）

所 属：始良市役所危機管理課（鹿児島県）

鹿児島市の北東、桜島が綺麗に見える始良の地で、地域防災専門員として勤務しています。鹿児島は台風の通り道になることが多く、台風発生前から動向には十分注意を払っています。また、大雨等に際しても、データー等の分析に基づいた避難情報の発令等の助言を危機管理監に対し行っています。

防災啓発に関しては、防災フェロー等で得た知識と科学的な根拠を基に、地域に密着した、市民に判りやすい講話を心がけ、好評を得ています。特に、住民が持つ災害に関する漠然とした恐れに対し地域特性に応じた危険を理解させ、適切に考えて判断・対応することにより安全が確保できることを認識させ、過度な不安を払拭させて安心を与えられ、いざという時には適切に行動ができるような講話を心がけています。

今後も内閣府の実施する防災スペシャリスト講習や静大のゼミ等により最新の知見を習得し、正しい知識による防災啓発、災害予測、災害対応に努める所存です。



始良市役所からの桜島

氏 名：石原貴代（フェロー10期生）

所 属：名古屋学芸大学

他学部教員と共に、南相馬市において学生ボランティア企画活動「みなみそうま SL」を企画・実施しています。実施後は、報告パネル作り、報告会を学内外で学生サポートをしています。

私自身は、防災倉庫に着目して調査等をしています。防災倉庫を日常から整備・整理していても、日常使わないため、非日常で使えない防災倉庫になっている様子が見られます。

4.1.4 受講生の研究成果・社会的活動

(1)著書

なし.

(2)学術論文

青島 晃・土屋光永・中野幸子:アンケート調査に基づく 1944 年東南海地震による静岡県天竜川低地左岸の噴水・噴砂発生地点とその地形・地盤条件,歴史地震,37,41-51,歴史地震研究会(2022).

藤原 治・太田耕輔・青島 晃:静岡県浜松市の米津池跡で見られる 1498 年明応地震に伴う津波堆積物と環境変化,地学雑誌,132,4,309-325,東京地学協会(2023).

石塚隆之:災害時に行政機関が取り扱う人的被害情報の実態と法的・社会的側面からの一考察,放送大学文化科学研究,第 2 巻,56-63,2023.

中村譲治, 原田賢治: 自主防災組織を対象に基礎自治体が取り組んだコロナ禍対応に関する実態把握, 地域安全学会論文集, No.43, 189-199, 2023.

柴田達哉・伊藤和也・吉川直孝・平岡伸隆・鈴木隆明:「残存型枠を利用した擁壁施工中の斜面崩壊による労働災害防止に有効性」,土木学会論文集 F6 (安全問題),Vol.78,No.2,I_81-I_91,2022

丹波史紀・安本真也・静岡健人・関谷直也・小山良太・服部正幸, 2023, 東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2021 年第 3 回双葉郡住民実態調査—, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.39, pp.169-237.
<https://doi.org/10.15083/0002007281>

安本真也, 2024, 首都直下地震をめぐるメディアコミュニケーション——ドラマ『パラレル東京』の効果と社会心理——, 東京大学大学院学際情報学府 学際情報学専攻 社会情報学コース 博士論文.

安本真也・葛西優香・富澤 周・内田充紀・関谷直也, 2023, 首都直下地震と都民の意識—2022 年東京都民調査から—, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.39, pp.43-105. <https://doi.org/10.15083/0002007278>

安本真也・葛西優香・富澤 周・関谷直也, 2022, 地震の被害想定をめぐるコミュニケーション—都民の意識と地震のしろうと理論—, 地域安全学会論文集 No.41, pp.95-105 (査読付) <https://doi.org/10.11314/jisss.41.95>

(3)学会口頭発表

青島 晃:アンケート調査に基づく 1891 年濃尾地震による静岡県の液状化現象, 歴史地震研究会, 2023 年 9 月.

青島 晃・宇都宮權・馬淵彩花・吉田和佳奈・樽松宏征:静岡県遠州灘海岸で見られる漂着軽石の分布と特徴, 日本第四紀学会, 2022 年 8 月.

榎本純三・中村譲治・原田賢治, 津波避難タワー・マウンツの設置運用状況に関する調査報告-浜松市、湖西市における現地調査-, 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2023 年 3 月 4 日.

神崎沙緒莉・前田恭伸, 自治体における防災人員の配置と課題, 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2023 年 3 月 4 日.

川島 廉・牛山素行, 事業所における災害リスクと BCP 策定状況の関連性, 2022 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2023 年 3 月 4 日.

桑原暢子・牛山素行, 熊本県における大雨警報等と被害の関係, 日本災害情報学会第 27 回学会大会, 2023 年 10 月 28 日.

向井利明・牛山基行, キキクル（危険度分布）等を用いた避難情報の検討ー2022 年 8 月の新潟県の線状降水帯等による大雨ー, 日本災害情報学会第 26 回学会大会, 2023 年 3 月.

向井利明・牛山基行, 大雨特別警報の運用等の変遷と改善効果, 日本災害情報学会第 28 回学会大会, 2024 年 3 月.

関口岳志・増澤武弘, 遠州斜め海岸林における林分構造について, 富士学会, 2023 年 11 月 26 日.

柴田達哉・伊藤和也・吉川直孝・平岡伸隆・鈴木隆明「残存型枠を利用した擁壁施工中の斜面崩壊による労働災害防止に有効性」, 土木学会安全問題討論会' 22, 2022.4

杉村晃一: 令和 4 年台風第 15 号における静岡市の断水と対応に関する報告, 日本水環境学会シンポジウム, 2023 年 9 月 20 日.

鈴木和生・前田恭伸, 企業防災における安否確認訓練の有効性の考察, 第 35 回日本リスク学会, 2023 年 11 月 13 日.

渡邊善明・前田恭伸, 津波防災に係る市町村の職員の安全対策に関する研究, 2023 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2024 年 3 月 2 日.

安本真也・葛西優香・富澤 周・内田充紀・関谷直也, 地震防災における感情的アプローチの可能性ードラマ「パラレル東京」による認知の変化についての追加分析ー, 日本災害情報学会第 27 回学会大会, コラッセふくしま, 2023 年 10 月 29 日. (口頭発表)

安本真也・葛西優香・富澤 周・関谷直也, 東京都民の地震の被害想定に関する意識, 第 50 回 (2022 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季), 愛媛大学, 2022 年 5 月 20 日. (口頭発表)

(4)その他の著作物

柴田達哉:「自然災害と戦う“インフラ」,(一社)中部地質調査業協会「土と岩」,p12~13,2022

柴田達哉:「これからの地質調査業界に望むこと」,(一社)中部地質調査業協会「土と岩」,p12~13,2022

柴田達哉・伊藤和也・吉川直孝・平岡伸隆・豊澤康男:「斜面崩壊による労働災害防止対策としての地盤リスクマネジメント」,総合土木研究所「基礎工 2 月号」,7-1~7-4,2023.2

(5)受賞

なし.

(6)特許等

なし.

(7) 外部・公開講演会等

青島 晃, ふじのくに地球環境史ミュージアム冬のイベント「遠州灘の砂からガーネットをみつけよう」, ふじのくに地球環境史ミュージアム, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2024 年 1 月 8 日.

青島 晃, 第 7 回自然史しずおか祭, 静岡県自然史博物館ネットワーク, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2023 年 11 月 5 日.

青島 晃, 野外観察会「化石をとりだそう」, 日本宇宙少年団袋井分団, 袋井市宇刈里山公園・高南コミュニティーセンター, 2023 年 8 月 27 日.

青島 晃, ふじのくに地球環境史ミュージアム夏のイベント「遠州灘の砂からガーネットをみつけよう」, ふじのくに地球環境史ミュージアム, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2023 年 8 月 8 日.

青島 晃, 野外観察会「海岸の砂を調べよう!」, 日本宇宙少年団袋井分団, 磐田市豊浜海岸・福田漁港周辺, 2022 年 11 月 20 日.

石原貴代: 防災人材育成プログラム「大規模災害に備える」, 名古屋学芸大学 SL センター, 名古屋学芸大学, 2022 年 7 月 9 日.

石原貴代 他, みよし市災害コーディネーター養成研修, みよし市, みよし市役所, 2023 年 2 月 11 日・19 日.

石原貴代 他, みよし市災害コーディネーター養成研修, みよし市, みよし市役所, 2023 年 12 月 23 日・23 日.

小林正人, 「大地震発生時、医療は人を救えるか?」Part3 ～「避難所に関心を持つこと、それが災害関連死を防ぐための第一歩～」, 講師, 浜松医科大学, アクトシティ浜松コンGRESセンター3 階, 2024 年 3 月 9 日

向井利明, 地域安全学会オンライン勉強会, 地域安全学会, オンライン, 2022 年 5 月 11 日.

向井利明, 日本気象予報士会新潟支部例会, 一般社団法人日本気象予報士会新潟支部, 新潟県新潟市, 2022 年 7 月 14 日.

向井利明, 新潟電設業協会総会, 一般社団法人新潟電設業協会, 新潟県新潟市, 2023 年 1 月 23 日.

向井利明, 市町村防災担当職員研修, 新潟県, オンライン, 2023 年 3 月 17 日.

向井利明, 日本気象予報士会新潟支部例会, 一般社団法人日本気象予報士会新潟支部, 新潟県長岡市, 2023 年 4 月 8 日.

向井利明, 気象防災研修, 新潟県, オンライン, 2023 年 6 月 26 日.

向井利明, 胎内市防災士連絡協議会研修会,胎内市防災士連絡協議会・胎内市総務課,新潟県胎内市,2023年7月23日.

向井利明,気象防災アドバイザー育成研修,気象庁,オンライン,2023年8月収録・配信.

向井利明,防災スペシャリスト養成研修「警報避難コース」演習,内閣府,東京都江東区,2023年10月11日.

向井利明,日本気象予報士会新潟支部例会,一般社団法人日本気象予報士会新潟支部,新潟県長岡市,2023年10月21日.

向井利明,NST新潟総合テレビ勉強会,株式会社NST新潟総合テレビ,新潟県新潟市,2023年10月25日.

向井利明,日本気象予報士会関西支部例会,一般社団法人日本気象予報士会関西支部,大阪府大阪市,2023年11月12日.

向井利明,防災スペシャリスト養成研修「警報避難コース」演習,内閣府,東京都江東区,2024年2月21日.

杉村晃一, 静岡県行政職員防災講座, 静岡県・静岡大学, オンライン, 2023年2月17日.

杉村晃一, シンポジウム「みんなでつくる地震津波防災」, 静岡県立大学, 清水マリンビル, 2024年1月13日.

安本真也. 第13回災害コミュニケーションシンポジウム(DCS2023)～関東大震災から100年目の災害情報処理とは～ 基調講演「大規模災害時における情報の課題―地震と流言・避難―」, 2023年12月26日.

安本真也, 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構第122回放射線防護課程「風評被害」, 2023年11月29日.

安本真也, 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構第121回放射線防護課程「風評被害」, 2023年3月8日.

(8) マスメディア・新聞等への掲載

青島 晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌「てくてく太田川」No23, 今之浦の歴史, 2024年3月1日.

青島 晃, 静岡第一テレビ news every.静岡, 1944年東南海地震による太田川低地の噴水・噴砂, 2024年1月14日.

青島 晃, 静岡第一テレビ news every.静岡, 東南海地震による袋井西小学校の体験とその慰霊祭, 2023年12月14日.

青島 晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌「てくてく太田川」No22, 太田川低地の成り立ち, 2023年3月1日.

青島 晃・磐田南高校地学部, 中日新聞朝刊, 磐田南高百周年, 地道な観測で新発見, 2022年12月1日.

青島 晃, 静岡新聞朝刊, 語り継ぐ東南海地震⑤, 軍需工場に壊滅的被害, 2022年11月

27 日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり! 静岡, 注意 静岡市で土砂崩れ 隣には小学校, 2022 年 5 月 18 日.

杉村晃一, SBS LIVE しずおか, 土砂崩れ 静岡市小学校の裏山 農家への被害も, 2022 年 5 月 18 日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, チェック! 防災 大雨 お住いの地域は安全?, 2022 年 5 月 24 日.

杉村晃一, SBS テレビ LIVE しずおか, 各地で大雨被害も「避難指示」避難行動につながりにくい, 2022 年 8 月 4 日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ every しずおか, 大雨特別警報発表 どう行動する?, 2022 年 8 月 6 日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ every しずおか, 静岡市「避難指示」連発”の懸念も… 発表基準を2段階引き下げ 土砂災害発生地区の住民の命を守るための運用, 2023 年 10 月 10 日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか, 津波災害警戒区域が拡大, 2022 年 12 月 8 日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, チェック! 防災 津波災害警戒区域とは?, 2022 年 12 月 13 日

杉村晃一, SBS テレビ LIVE しずおか, 線状降水帯の発生 最大 30 分早く発表「30 分あればできることいっぱい」, 2023 年 5 月 25 日

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか, 台風 7 号で県内も大気が不安定に 静岡市内で“竜巻”発生の理由は, 2023 年 8 月 15 日

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, みんなで防災 台風 15 号記録的大雨 1 年 生活水の備蓄, 2023 年 9 月 19 日

杉村晃一, 静岡第一テレビ every しずおか, 静岡市津波ハザードマップ改訂で住民説明会開催起こりうる状況を把握し“命を守る”行動がとれるよう… , 2023 年 11 月 16 日

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, みんなで防災 津波から命を守る! ハザードマップ, 2023 年 11 月 21 日

杉村晃一, SBS テレビ LIVE しずおか, わたしの防災「南海トラフ地震臨時情報」混乱の恐れ 7 割超が“的中率”誤認, 2023 年 11 月 7 日

杉村晃一, 静岡新聞, 静岡市 10 年ぶり津波マップ刷新 県の警戒区域指定受け 災害時の「基準水位」表示 避難行動「再確認を」, 2023 年 11 月 8 日

杉村晃一, FM・Hi! 防災特別番組, 「日頃からできることを確認して、災害に強くなるよう」, 2024 年 3 月 3 日.

(9) 公的な委員会等

石原貴代,日進市にぎわい交流館運営協議会,委員,2023年から2024年.

石原貴代,日進市環境まちづくり評価委員会,委員,2023年から2024年.

(10) 学会活動

柴田達哉, (公益) 土木学会地盤工学委員会斜面工学研究小委員会,委員,2023.6～現在

安本真也. 日本災害情報学会編集委員・幹事 (第12期), 2023年12月～

安本真也. 日本災害情報学会学会大会委員 (第10期～), 2019年12月～

4.2 静岡県行政職員防災講座

4.2.1 静岡県行政職員防災講座

2019 年度より静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して、静岡県行政職員防災講座を開講することとなった。この講座のカリキュラムは、内閣府が実施している「防災スペシャリスト養成研修」の地方研修に準じている。昨今災害が続発する中、現場で防災実務に当たる行政職員の役割は重要性を増している。一般向け「防災教育」「防災人材育成」はよくいわれるところだが、地域での防災知識普及を推進する核となるべき自治体等の防災担当職員は、防災実務に関する特別なトレーニングを受けているわけではなく、厳しい環境下で職務に従事している。こうした方々に対する支援策の一つとして、こうした研修機会の充実は重要性が高いものと考え、実施に至った。

本講座は、年度初めに 2 日間程度で講義および演習を行う通称「本研修」と、年度末 2 月頃に 1 日程度の講義形式で開講する「フォローアップ研修」で構成される。受講対象者は静岡県の職員および、静岡県内市町の職員としているが、県外の行政職員の受講を受け入れたこともある。受講回数などは特に制限していないが、「本研修」は新たに防災関係業務に就いた職員、「フォローアップ研修」は本研修の既修者を主な対象としている。

前項の「ふじのくに防災フェロー養成講座」の入門編的な内容であり、同講座との連携を図る意味で、「静岡県行政職員防災講座」(令和元年度以降)の受講者は、1 科目分の履修を免除することとしている。

2019 年度は、本研修、フォローアップ研修とも対面形式で開講したが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の流行により開催形式を再検討し、内閣府より「防災スペシャリスト養成研修」の地方研修用に用意されている講義動画の提供を受け、オンデマンド形式と、Zoom によるリアルタイムオンライン形式を組み合わせ、本研修とフォローアップ研修を統合し、2021 年 2 月に開講した。

2021 年度は、本研修をオンデマンド形式と Zoom によるリアルタイムオンライン形式を組み合わせ、演習もオンラインで実施する形式とし、オンデマンド講義動画の受講を 5 月に開始し、リアルタイムオンライン形式の講義、演習は 2021 年 6 月に実施した。フォローアップ研修は後述のようにリアルタイムオンライン形式とし、2022 年 2 月に実施した。

オンライン形式の開講は対面形式よりも参加が容易で、演習についても特に大きな支障は見られなかったことから、2022 年度以降も同様な形式での開講を続けることとした。2022 年度は、講義動画の視聴は 2022 年 6 月中に行うこととし、リアルタイムオンライン形式の講義・演習は 2022 年 6 月 1、2 日に実施し、静岡県内の市町職員 38 人、県職員 20 人、計 58 人が受講した。講義内容は下記の通りだった。

講義動画

防災行政概要	(内閣府)
災害法体系	(内閣府)

防災計画	(内閣府)
警報避難の枠組み	(内閣府)
被災者支援の枠組み (A)	
(災害救助法と仮設住宅)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (B)	
(避難生活支援)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (C)	
(生活再建支援①)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (D)	
(生活再建支援②)	(内閣府)

6月1日

防災基礎総論	牛山素行 (静岡大学)
地震・火山災害の基礎	山下慧 (静岡地方気象台)
静岡県の防災行政	金嶋千明 (静岡県危機管理部)

6月2日

風水害の基礎	牛山素行 (静岡大学)
避難情報に関するガイドラインについて	岩井真央 (内閣府)
[演習]災害対応過程と態度を学ぶ (気象防災ワークショップ)	
	竹本加良子 ((株)サイエンスクラフト)
	牛山素行 (静岡大学)
	岩井真央 (内閣府)
	高木康伸 (気象庁)
防災実務者育成の重要性 (まとめ)	牛山素行 (静岡大学)

2023 年度も、講義動画の視聴は 2023 年 6 月中に行うこととし、リアルタイムオンライン形式の講義・演習は 2023 年 6 月 7、8 日に実施し、静岡県内の市町職員 75 人、県職員 13 人、計 88 人が受講した。講義内容は下記の通りだった。

講義動画

防災行政概要	(内閣府)
災害法体系	(内閣府)
防災計画	(内閣府)
警報避難の枠組み	(内閣府)
被災者支援の枠組み (A)	
(災害救助法と仮設住宅)	(内閣府)
被災者支援の枠組み (B)	

(避難生活支援) (内閣府)

被災者支援の枠組み (C)

(生活再建支援①) (内閣府)

被災者支援の枠組み (D)

(生活再建支援②) (内閣府)

6月7日

防災基礎総論

牛山素行 (静岡大学)

避難情報に関するガイドラインについて

岩井真央 (内閣府)

静岡県の防災行政

金嶋千明 (静岡県危機管理部)

6月8日

風水害の基礎

牛山素行 (静岡大学)

地震・火山災害の基礎

高橋祐介・長尾若菜(静岡地方気象台)

[演習]災害対応過程と態度を学ぶ (気象防災ワークショップ)

竹本加良子 ((株)サイエンスクラフト)

牛山素行 (静岡大学)

岩井真央 (内閣府)

高木康伸 (気象庁)

防災実務者育成の重要性 (まとめ)

牛山素行 (静岡大学)

4.2.2 フォローアップ研修

静岡県行政職員防災講座は、2018年度以前は静岡県単独主催で実施しており、これら既修者に対するフォローアップ研修も、2019年度からは静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して行うこととなった。なお2020年度は前述のように本研修と統合し、単独では実施しなかった。

2022年度は、2023年2月17日に、Zoomによるリアルタイムオンライン形式で実施し、県職員29人、市町職員26人の計55人が受講した。当日の講義内容は下記の通りだった。

「令和4年台風第15号に関する静岡市の対応について」

杉村晃一 (静岡市危機管理総室)

「2022年9月23日～24日の静岡県における豪雨災害」

牛山素行 (静岡大学防災総合センター)

2023年度は、2024年2月6日に、Zoomによるリアルタイムオンライン形式で実施し、県職員7人、市町職員25人の計32人が受講した。能登半島地震から間もないこともあり、支援対応などで特に県職員の受講者が少なくなったものと見られる。当日の講義内容は下記の通りだった。

「千葉県の応援受援体制 -令和 5 年台風第 13 号の接近に伴う大雨(千葉県内)と令和 6 年能登半島地震(石川県珠洲市)との対比の視点から-」

宇野雄一郎（千葉県防災危機管理部危機管理政策課）

「令和 5 年台風第 13 号の接近に伴う大雨の概要と茂原市の対応」

近藤恒史（茂原市総務部防災対策課）

「能登半島地震 現地派遣行政職員に聞く」

諸星大輔（駿東伊豆消防本部沼津北消防署）

「令和 6 年能登半島地震 人的被害の規模について・土砂移動現象による家屋被害と土砂災害警戒区域」

牛山素行（静岡大学防災総合センター）

4.3 自然災害科学中部地区研究集会

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、2011 年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年 3 月上旬に静岡市内で開催してきた。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の流行により開催形式を再検討し、Zoom によるリアルタイムオンライン形式とした。参加が容易であることなどから、2021 年度以降も継続的にオンライン形式での実施としている。

2022 年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2023 年 3 月 4 日(土)

場所：Zoom によるオンライン開催

一般講演：6 件

招待講演：「被害想定情報の説得コミュニケーションー地震防災における恐怖感情の活用可能性ー」

安本真也(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任助教)

2023 年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2024 年 3 月 2 日(土)

場所：Zoom によるオンライン開催

一般講演：5 件

招待講演：「令和 6 年能登半島地震で発生した地震火災に関する調査」

廣井悠(東京大学先端科学技術研究センター 教授)

4.4 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座

静岡県では県危機管理部、教育委員会および静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、東海大学、常葉大学の県内6大学、静岡地方気象台、報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が2009（平成21）年4月に発足した。なお、2024（令和6）年4月から静岡理工科大学（袋井市）が新たに加盟することとなった。

このコンソーシアムは、県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており、その一環として、静岡県地震防災センターを会場として、市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」をおおむね1か月に1回のペースで定期的開催している。

コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり、2008（平成20）年度から2011（平成23）年度までに45回開催し、2011（平成23）年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え、継続的に実施されている。防災総合センターは、静岡県地震防災センターと連携してこの講座の運営にあたっている。2010（平成22）年度からは、参加6大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を担う形で運営している。静岡県の防災研究者、防災行政関係者、市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

2020（令和2）年度前半はコロナ禍のため中止となり、同年度後半から会場への入場者数を制限し、Zoomによる視聴と合わせたハイブリッド形式で行われた。（一部Zoomのみ）

その後、入場制限も緩和され、会場参加とZoom視聴のハイブリッド形式による開催が続いている。

【2022（令和4）年度／受講者のべ人数：会場受講353名・Zoom視聴870名...計1,223名】
143回 5/21(土)：「避難者のいまを見つめる～原子力災害から10年～」

講師：日本放送協会静岡放送局 仲田萌重子記者

144回 6/18(土)：「関東大震災、津波から子どもたちは必死に逃げた—伊東市宇佐美小学校の作文集から」

講師：元常葉大学大学院生 中田剛光氏、常葉大学社会環境学部 河本尋子教授

145回 7/16(土)：「熱海市伊豆山地区土砂災害に関する科学調査」

講師：静岡大学防災総合センター長 北村晃寿教授

146回 9/17(土)：「地盤液状化災害から学ぶレジリエントな社会構築」

講師：東海大学海洋研究所長 平 朝彦教授

147回 10/15(土)：「地域で支える災害時の要配慮者支援～誰一人取り残さないインクルーシブ防災活動～」

講師：静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 江原勝幸准教授

148回 11/19(土)：「富士山の火山活動と火山の監視」

講師：静岡地方気象台 道端秀和火山防災官

149回 12/17(土)：「緊急被ばく医療～放射線事故に備える」

講師：浜松医科大学 地域医療学講座 松井 務客員准教授

150回 1/21(土)：「台風15号。そのとき街は、街の人はどうなったか。見直して安心、トイレの備え。」

講師：NPO法人よしよし 末吉喜恵理事長、ママ防災塾マモルマムズ代表 高木有加氏

151回 2/18(土)：「防災まちづくり～地区と地域」

講師：静岡文化芸術大学 文化政策学部 藤井康幸教授

152回 3/18(土)：「2022年9月23日～24日の静岡県における豪雨災害」

講師：静岡大学防災総合センター副センター長 牛山素行教授

【2023（令和5）年度／受講者のべ人数：会場受講 329名・Zoom 視聴 744名…計 1,073名】

153回 5/20(土)：「南海トラフ地震臨時情報」を知り地震によりよく備える

講師：東北大学 災害科学国際研究所 福島 洋准教授

154回 6/17(土)：「2023年2月6日に発生したトルコ巨大地震の現地調査報告」

講師：常葉大学附属社会災害研究センター研究員・琉球大学名誉教授 藍檀オメル氏

155回 7/15(土)：「プレート境界に巨大地震の巣を探す」

講師：静岡大学 理学部地球科学科 生田領野准教授

156回 9/16(土)：「駿河湾の海底観測機器が捉えた地震活動と海底地すべり(混濁流)について」

講師：東海大学 海洋学部 馬場久紀准教授

157回 10/28(土)：「気象衛星ひまわりと防災」

講師：静岡地方気象台 上清直隆次長

158回 11/25(土)：「自然災害研究の最新動向と災害時の衛星インターネット活用」

講師：静岡県立大学グローバル地域センター 楠城一嘉特任教授

講師：静岡県立大学ICTイノベーション研究センター 経営情報学部経営情報学科 湯瀬裕昭教授

159回 12/16(土)：「万ーのために放射線について理解する」

講師：浜松医科大学副学長（共創・イノベーション担当）,放射線腫瘍学講座 中村和正教授

160回 1/20(土)：「いのちてんでんこー釜石東中学校での避難体験ー」

講師：東日本大震災語り部 菊池のどか氏

161回 2/17(土)：「今こそ行うべき家庭におけるLCP（生活継続計画）作り」

講師：静岡文化芸術大学 デザイン学部デザイン学科 中野民雄教授

162回 3/16(土)：「令和6年能登半島地震・津波の災害調査報告」

講師：静岡大学防災総合センター 原田賢治准教授



▲講演する牛山教授／令 5.3



▲講演する原田准教授とテレビ取材の様子／令 6.3

4.5 しずおか防災コンソーシアム・勉強会

しずおか防災コンソーシアム構成機関の担当者が最新の防災関連情報の共有と専門家との意見交換を行う勉強会を開催している。2020 年以降、コロナ禍でオンライン開催が続いたが、2023 年度は対面方式で開催した。

(参考) しずおか防災コンソーシアム構成機関

静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、東海大学、常葉大学、静岡県、静岡県教育委員会、静岡地方気象台、静岡新聞社、中日新聞静岡総局、NHK 静岡放送局、静岡放送、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ静岡

(令和 6 年度から静岡理工科大学が加盟／コンソーシアムの目的等の詳細は 4.4 参照)

第 12 回 2024 (令 6) 年 2 月 26 日 (月) 19 : 30 ~ 20 : 50

テーマ 南海トラフ地震臨時情報と対応への課題

講師 東北大学災害科学国際研究所 福島 洋准教授

参加者 30 名

会場 静岡市産学交流センター (B-nest) プレゼンテーションルーム



▲講演する東北大学福島准教授／令 6.2



▲会場の様子／令 6.2

4.6 防災総合センター主催・共催シンポジウム

2022・2023 年度中に当センターが主催・共催したシンポジウム等は以下のとおりである。

4.6.1 令和4年9月24日台風被害に関するシンポジウム

主 催：静岡大学防災総合センター

開催日：2023（令和5）年8月20日（日）

時 間：13時00分～16時00分

会 場：静岡市東部勤労者福祉センター（清水テルサ）テルサホール〔静岡市清水区〕

内 容：

第1部「令和4年台風15号の気象状況について」

講師：北田繁樹（静岡地方気象台長）

「2022年台風15号に伴う降水量及び被害の特徴」

講師：牛山素行（静岡大学防災総合センター副センター長・教授）

「2022年台風15号による静岡県中部巴川下流域の河川氾濫－現地調査と高密度3次元点群による分析」

講師：小山真人（静岡大学教育学領域教授・防災総合センター副担当）

第2部「台風15号洪水被害と七夕豪雨被害の比較」

講師：北村晃寿（静岡大学防災総合センター長・理学領域教授）

「清水区における中・高生への意識調査」

講師：上田啓瑚（防災科学技術研究所 総合防災情報センター研究員）

「2022年台風15号災害における中・長期支援とその課題－清水区の状況を中心に」

講師：望月美希（静岡大学情報学領域助教・防災総合センター副担当）

質疑応答

参加者：151名（県・自治体職員、一般市民、学内関係者等）

来 賓：森 貴志静岡県副知事、難波喬司静岡市長

司会進行：原田賢治准教授（防災総合センター）



▲会場の様子〔静岡新聞社撮影・同社編集局調査部許諾済〕／令5.8

4.6.2 小山真人教授退職記念シンポジウム「静岡の火山と防災ーその 45 年を振り返るー」

共 催：静岡大学防災総合センター、未来社会デザイン機構、教育学部

開催日：2024（令和 6）年 3 月 2 0 日（水・祝）

時 間：13 時 00 分～16 時 30 分

主会場：静岡県地震防災センター ないふるホール〔静岡市葵区〕

Zoom 配信によるハイブリッド形式で開催

内 容：

第 1 部シンポジウム「富士山と伊豆衝突帯の火山・自然災害研究」

「伊豆弧北端部活火山の噴火史研究」

講師：小林 淳（静岡県富士山世界遺産センター 教授）

「伊豆弧北端部のマグマ研究」

講師：石橋秀巳（静岡大学理学領域准教授）

「1707年宝永噴火の噴煙挙動の精緻化研究」

講師：萬年一剛（神奈川県温泉地学研究所 主任研究員）

「富士山ハザードマップ改訂に向けた火山研究」

講師：吉本充宏（山梨県富士山科学研究所 主幹研究員）

「伊豆衝突帯における自然災害研究」

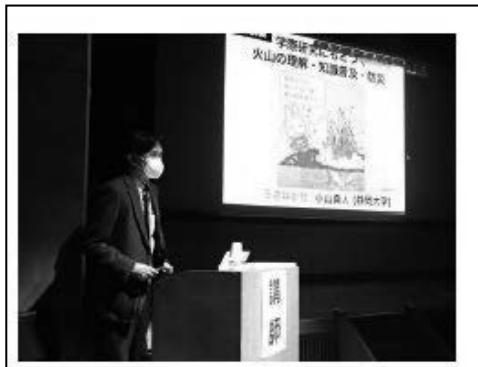
講師：北村晃寿（静岡大学理学領域教授・防災総合センター長）

第 2 部小山真人教授最終講義「学際研究にもとづく火山の理解・知識普及・防災」

参加者：2 6 0 名（県・自治体職員、一般市民、卒業生、学内関係者等）

〔内訳：会場参加 140 名、オンライン視聴 120 名〕

司会進行：延原尊美教授（教育学部）



▲講演する小山真人教授



▲会場の様子

4.6.3 他頁で報告した主催行事の再掲

- ・ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウム→4.1.2
- ・自然災害中部地区研究集会→4.3
- ・東海圏減災研究シンポジウム→4.8

4.7 防災総合センター研究会

防災総合センターに係る全ての教員（専任教員、副担当教員、客員教員）の研究成果発表や情報交換等の場として、2010(平成22)年以降、ほぼ毎年「研究会」を開催している。2020(令和2)年度と2021(令和3)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を見合わせた。

2022(令和4)年度は、2年間研究発表の場が無かったことから、オンラインでの開催とし、以下の研究発表が行われた。

2023(令和5)年度は、5月に同ウイルス感染症が感染法上の5類に移行されたが、8月に市民を対象としたシンポジウムを開催したこと、秋季に同ウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が起きたことから、日程調整が困難となり、開催が見送られた。

【2022（令和4）年】

日時：2022（令4）年9月16日（金）13:00～16:50 Zoom オンライン形式で開催

参加者：30名（うち客員教員16名）

▼プログラム（タイムテーブル）

発表時間は@7分【発表5分以内・質疑応答2分以内】

No.	所 属	氏 名	テーマ・内容
-	センター長・教授	北村晃寿	開会あいさつ・年次報告
1	センター長・教授	北村晃寿	熱海土砂災害の科学研究
2	客員教授	石井輝秋	プテスポートパイプ掘削による新モホール計画：海洋マントル採取
3	副担当・教授	村越 真	自然災害の特性はどう認知されているか：三相因子分析による検討
4	客員教授	石川有三	異常に長期な活動になった能登群発地震を色々な群発地震活動と比べる
5	副担当・教授	小山真人	県内火山の研究と防災に関する最近の進展
6	客員教授	笠原順三	地震学的手法による地熱調査－秋田県大沼、澄川、北海道森、大分県滝上の例－
7	副担当・教授	前田恭伸	市民の社会参加へのコロナ禍の影響
8	客員教授	鈴木清史	パンデミックとマスク定着策－日米比較－
9	副センター長・教授	牛山素行	最近の風水害調査から
10	客員教授	土屋 智	宝永地震時の白鳥山崩壊地の富士川堰止め
11	副担当・講師	秋元菜摘	地域連携を意識した大学の防災教育の向上
12	客員教授	林 拙郎	大規模崩壊に及ぼす地震動の影響
13	副担当・准教授	橋本 岳	高精度画像計測技術の防災研究への応用
14	客員教授	増田俊明	応力場での結晶の核形成
15	副担当・准教授	小杉素子	自然災害とパンデミック：人々の認知と態度
16	客員教授	増澤武弘	西伊豆安良里海岸と袋井海岸の防災・減災林について
17	専任教員・准教授	原田賢治	津波遡上による堆積物形成における数値解析モデルの比較
18	客員教授	森下祐一	防災における地質学：環境アセスの事例から
19	副担当・教授	木村浩之	温泉メタンによるエネルギー生産と災害時のライフライン供給
20	客員教授	渡辺俊樹	地震火山防災を目的として実施した（中の）地震観測と探査の紹介
21	副担当・准教授	生田領野	人工震源装置を用いた地下水変動のモニタリング
22	客員准教授	菅原大助	日本海溝北部・南部の津波堆積物および古津波履歴研究
23	副担当・准教授	石川宏之	伊豆半島ジオパークにおける大学関係者の役割と公学民連携のあり方
24	客員教授	吉田明夫	箱根火山水蒸気噴火の予測
-	副センター長・教授	牛山素行	閉会あいさつ

4.8 東海圏減災研究コンソーシアム

(1) 東海圏減災研究コンソーシアムとは

東海圏減災研究コンソーシアムとは、南海トラフ巨大地震、巨大台風や集中豪雨による風水害、洪水などの災害による被害を最小限に抑えることを目標に掲げ、東海圏に位置する6つの国立大学法人の防災・減災関連センターが協力・協働する場として、2013（平成25）年3月3日に設立されたものである。

（詳細は <http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/consortium/>）

本コンソーシアムに参加する各大学はそれぞれ得意な研究・教育分野をもち、また各大学はそれぞれが位置する地域や市民と密接な関わりをもっている。このような各大学の特質や長所を有機的に連携させ、東海圏全体の防災・減災力を総合的に向上させるため、本コンソーシアムでは各大学の代表者による幹事会、実務委員会に加え、ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成活用専門部会、そして情報基盤整備専門部会の6つの専門部会を設置している。

防災総合センターは、本コンソーシアムに参画し、地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

(2) コンソーシアム参加の各大学のセンター

静岡大学防災総合センター

岐阜大学地域減災研究センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学研究センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

(3) 活動実績

2022－2023（令和4・5）年度の活動としては、幹事会および実務委員会の開催、各専門部会（ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成活用専門部会、情報基盤整備専門部会）の研究会において研究内容や災害事例についての情報交換や連携を行った。また、参加する各大学が主催する報告会を共催として協力した。

2022（令和4）年度のシンポジウムは、輪番により静岡大学が当番大学となり、2023（令和5）年3月18日に、ふじのくに防災フェロー養成講座シンポジウムも兼ねてオンライン形式で開催し、基調講演では北村晃寿センター長が、「臨海地域の環境変動・災害に関する地球科学的研究」と題して講演した。

4.9 防災・減災ワークショップ

本ワークショップは、公益財団法人中部科学技術センターが主体となって行われているもので、2020（令和2）年度の第2回から、静岡大学防災総合センター、静岡県地震防災センター及び東北大学災害科学国際研究所の4機関が主催して毎年夏に開催されている。

夏休み中の小中学生を受講対象とし、毎回保護者を含め70名程度の参加者がある。会場では、静岡大学の学生10名がファシリテーターとして、子供たちを引率するなど、運営をサポートした。

【第4回】

日時：2022（令和4）年7月30日（土）13:15～16:30 会場：静岡県地震防災センター
プログラム

第1部 聞いて学ぼう

「日本や世界で起こっている自然災害のはなし」

東北大学災害科学国際研究所 保田真理プロジェクト講師

「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」

静岡大学防災総合センター 原田賢治准教授

第2部 体験してあそぼう（グループワーク）

静岡県地震防災センターの起震装置等の体験・展示コーナーを巡回

第3部 みんなでシェアしよう

【第5回】

日時：2023（令和5）年7月29日（土）13:15～16:30 会場：静岡県地震防災センター
プログラム

第1部 聞いて学ぼう

「日本や世界で起こっている自然災害のはなし」

東北大学災害科学国際研究所 保田真理プロジェクト講師

「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」

静岡大学防災総合センター 原田賢治准教授

第2部 体験してあそぼう（グループワーク）

静岡県地震防災センターの起震装置等の体験・展示コーナーを巡回

第3部 みんなでシェアしよう



▲講演する原田准教授／令 4.7



▲エムリパージオモデルでの実験に見入る参加者／令 5.7

5 社会的活動

5.1 外部・公開講演会等

秋元菜摘, 浜松光宣言 10 周年記念イベント HAMAMATSU 異分野交流会「太陽（ひかり）ふりそそぐ浜松（まち）ではぐくむ協働と継承—七色の輝き（シーズ）を大樹（みらい）へ」, 浜松ホトニクス, アクトシティ浜松, 2023/11/17. ※静岡大学代表パネリストへの招待とポスター展示の参加

秋元菜摘, 地理情報システム（GIS）で都市・地域を分析する（研究展示）, 静岡大学浜松キャンパス・テクノフェスタ実行委員会, 2023/11/11.

秋元菜摘, 静岡県新技術交流イベント（研究展示）, グランシップ静岡, 2023/10/23-24.

秋元菜摘, 静岡大学土木情報学研究所「スマートシティ・まちづくり DX 交流会〈第 2 回〉」（招待講演・ポスター発表）, 静岡大学浜松キャンパス, 2023/09/14. ※司会・ポスター展示に参画

秋元菜摘, 静大生と WebGIS で弁天島の防災について学ぼう！（2023 はまなこ夏フェスタ）, 舞阪観光協会, 2023/07/16・2023/08/12.

秋元菜摘, スマートシティ・まちづくり DX 交流会（基調講演・ワークショップ・情報交換会など）, 土木情報学研究所, 静岡大学浜松キャンパス, 2022/11/14. ※企画・実行委員長・実施責任者等を担当

秋元菜摘, 都市デザインと GIS（研究展示）, 静岡大学浜松キャンパス・テクノフェスタ実行委員会, 2022/11/12-13.

千木良雅弘, 2023. 高レベル放射性廃棄物地層処分場の立地選定—避けるべき不確実性から見た地質—, 第 9 回高レベル放射性廃棄物地層処分研究連絡会 名古屋大学.

藤井基貴、研修会 静岡県教育委員会主催の安全教育研修、防災教育に関する講演、オンデマンド配信、2024 年 7 月

藤井基貴、研修会 富士地区教育研究協議会、小学校における総合的な学習の時間に関する講演、富士市岩松まちづくりセンター、2024 年 7 月

藤井基貴、講演会 スポーツ健康系学科長協議会での招聘講演、スポーツインテグリティ教育の理論と実践、日本大学（オンライン）、2024 年 6 月

藤井基貴、研修会 吉田町教育委員会の探究研修、探究学習の計画と実践に関するワークショップ等、吉田町役場、2024 年 5 月

藤井基貴、講演会 研究者の責任を考える、研究倫理に関する FD・SD 研修、静岡福祉大学、2024 年 5 月

藤井基貴、講演会 静岡文化芸術大学での FD・SDG 研修、アカデミック・ハラスメントに関する FD・SD 研修、静岡文化芸術大学、2023 年 12 月

藤井基貴、講演会 教職課程における実践的指導力の育成、教職課程における地域連携の課題と可能性について講演、同朋大学（オンライン）教職 FD、2023 年 9 月

藤井基貴、研修会 長田南小・城山中の校内研修、道徳授業の校内研修、静岡市駿河区広野
公民館、2023年8月

藤井基貴、研修会 静岡県教育委員会主催の安全教育研修、防災教育に関する講演、オン
デマンド配信、2023年7月

藤井基貴、研修会 静岡東高校校内研修、「探究」授業の授業開発支援、静岡県立静岡東高
校、2022年12月

藤井基貴、研修会 小山町立北郷中校内研修、道徳授業の校内研修、小山町立北郷中学校、
2022年12月

藤井基貴、講演会 滋賀大学国際セミナー、国際教育に関する研修、滋賀大学オンライン、
2022年12月

藤井基貴、高大連携 高大連携出張講座、「防災道徳」の出前講座、浜松工業高校、2022
年11月

藤井基貴、出張講義 三島南高校、BOSAI ユースアンバサダープログラムの実施、静岡県
立三島南高校、2022年9月 - 2022年10月

藤井基貴、出張講義 駿河総合高校、BOSAI ユースアンバサダープログラムの実施、静岡
県立駿河総合高校、2022年9月 - 2022年10月

藤井基貴、研修会 静岡県教育委員会主催の安全教育研修、防災教育に関する講演、オンデ
マンド配信、2022年7月

藤井基貴、研修会 吉田探究、吉田町教育委員会による吉田探究の検討会への助言指導、吉
田町役場ほか、2022年4月 - 2023年3月

藤井基貴、研修会 清水中校内研修、「p4c」授業の授業開発支援、2022年4月

藤岡換太郎、朝日カルチャーセンター 新宿

2022.0402、2022.0507、2022.0611、2022.0709、2022.0806、2022.091、2022.10.08、
2022.1112、2022.1210、2023.0114、2023.0211、2023.0311、2023.0408、2023.0513、
2023.0610、2023.0708、2023.0819、2023.0909、2023.1014、2023.1111、2023.1211、
2024.0113、2024.0224、2024.0309

藤岡換太郎、朝日カルチャーセンター 横浜

2022.0409、2022.0514、2022.0604、2022.0702、2022.0806、2022.0903、2022.1001、
2022.1105、2022.1203、2023.0107、2023.0204、2023.0304、2023.0401、2023.0506、
2023.0603、2023.0701、2023.0805、2023.0902、2023.1007、2023.1104、2023.1202、
2024.0106、2024.0203、2024.0302.

藤岡換太郎、中日文化センター

2022.0723、2023.0401、2023.0506、2023.0603、2023.0701、2023.0805、2023.0902、
2023.1007、2023.1104、2023.1202、2024.0106、2024.0203、2024.0302

藤岡換太郎、伊豆半島ジオパークジオガイド養成講座、修善寺総合会館、2022.1030

藤岡換太郎、「三つの石で探る地球の成り立ち」日本砕石協会講演、京王プラザホテル新宿、

2023.0608

二川雅登, “農業・防災分野に向けたマルチモーダルセンサ開発と土中水分量・pH センサの計測事例紹介”, スマートセンシングとその社会実装技術分科会、電子情報技術産業協会(JEITA), 2022 年 9 月 2 日, オンライン開催

二川雅登, “土砂災害発生危険度把握のための 2 次元土中水分量計測可能な高機能型センサの開発”, 次世代センサ総合シンポジウム 2022、一般社団法人 次世代センサ協議会, 2022 年 9 月 16 日, オンライン開催

二川雅登, “農業・防災のための土中水分量・pH センサの開発”, 子情報通信学会 2023 年総合大会、電子情報通信学会, 2023 年 3 月 8 日, 芝浦工業大学大宮キャンパス

原田賢治, 第 162 回ふじのくに防災学講座, 令和 6 年能登半島地震の地震・津波災害調査報告, 主催: 静岡県・しずおか防災コンソーシアム, 開催場所: 静岡県地震防災センター, 2024 年 3 月 16 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 4 回意見交換会～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 湖西市西部地域センター, 2023 年 12 月 2 日.

原田賢治, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 伊豆市, 伊豆市土肥支所, 2023 年 10 月 30 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 3 回意見交換会(浸水区域外)～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 湖西市西部地域センター, 2023 年 10 月 28 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 3 回意見交換会(浸水区域内)～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 湖西市南部地区構造改善センター, 2023 年 10 月 14 日.

原田賢治, 令和 5 年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 「津波防災, 静岡県第 4 次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, 静岡県, 静岡県地震防災センター, 2023 年 9 月 23 日.

原田賢治, 令和 5 年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 「津波防災, 静岡県第 4 次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, 静岡県, 静岡県立大学, 2023 年 9 月 14 日.

原田賢治, 第 13 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市, 伊豆市土肥支所, 2023 年 9 月 4 日.

原田賢治, 中部サイエンスネットワーク, 防災・減災ワークショップ 2023, 「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」, 主催: 東北大学災害科学国際研究所・中部科学技術センター・静岡県地震防災センター・静岡大学防災総合センター, 開催場所: 静岡県地震防災センター, 2023 年 7 月 29 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 2 回意見交換会(浸水区域

外) ～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 湖西市西部地域センター, 2023 年 7 月 23 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 2 回意見交換会(浸水区域内) ～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 湖西市南部地区構造改善センター, 2023 年 7 月 9 日.

原田賢治, 下田市事前復興まちづくりシンポジウム, 「災害の想定と防災対策～被災後のまちの姿～」, 主催: 下田市, 開催場所: 下田市市民文化会館, 2023 年 6 月 11 日.

原田賢治, 第 12 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市, 開催場所: 伊豆市土肥支所, 2023 年 5 月 25 日.

原田賢治, 御前崎災害支援ネットワーク年次総会講演会, 「津波の想定とハザードマップの活用について」, 主催: 御前崎災害支援ネットワーク, 御前崎市佐倉地区センター, 2023 年 5 月 27 日.

原田賢治, 湖西市津波防災地域づくり推進計画推進協議会, 第 1 回意見交換会～地域の安全な未来をつくる会～, アドバイザー, 湖西市, 開催場所: 湖西市新居地域センター, 2023 年 5 月 28 日.

原田賢治, 第 11 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市, 開催場所: 伊豆市土肥支所, 2023 年 3 月 1 日.

原田賢治, 令和 4 年度島田市防災講演会, 「風水害や土砂災害に関する災害対策等について」, 主催: 島田市, 開催場所: 島田市民総合施設プラザおおるり, 2023 年 1 月.

原田賢治, 第 10 回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 伊豆市, 開催場所: 伊豆市土肥支所, 2022 年 11 月 28 日.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会(高松地区第 2 回), アドバイザー, 主催: 御前崎市, 開催場所: 御前崎市研修センター, 2022 年 11 月 9 日.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会(池新田地区第 2 回), アドバイザー, 主催: 御前崎市, 開催場所: 御前崎市市民会館, 2022 年 11 月 8 日.

原田賢治, 津波防災地域づくり推進協議会地区ヒアリング, アドバイザー, 主催: 湖西市, 開催場所: 湖西市新居地域センター, 2022 年 11 月 2 日.

原田賢治, 令和 4 年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 「津波防災, 静岡県第 4 次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, 主催: 静岡県, 開催場所: オンライン, 2022 年 10 月 22 日.

原田賢治, 出張講義(静岡県立沼津城北高等学校), 「大学での学びと防災科学技術研究による社会課題への対応」, 主催: 静岡県立沼津城北高等学校, 開催場所: 静岡県立城北高等学校, 2022 年 10 月 19 日.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会(池新田地区

第1回), アドバイザー, 主催: 御前崎市, 開催場所: 御前崎市佐倉地区センター, 2022年10月17日.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会(高松地区第1回), アドバイザー, 主催: 御前崎市, 開催場所: 御前崎市佐倉地区センター, 2022年10月11日.

原田賢治, 第9回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 主催: 伊豆市, 開催場所: 伊豆市土肥支所, 2022年9月26日.

原田賢治, 令和4年度ふじのくに防災士養成講座Aコース, 「津波防災, 静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」, 主催: 静岡県, 開催場所: オンライン, 2022年9月14日.

原田賢治, 令和4年度京都大学津波連携研究ワークショップ, 波源から地域経済評価まで, 「静岡での被害想定と連携」, 主催: 京都大学防災研究所地震津波連携研究ユニット, 開催場所: 京都大学時計台記念館国際ホールIII, 2022年9月5日.

原田賢治, 中部サイエンスネットワーク, 第4回防災・減災ワークショップ, 「静岡県で起こりうる自然災害のはなし」, 主催: 東北大学災害科学国際研究所・中部科学技術センター・静岡県地震防災センター・静岡大学防災総合センター, 開催場所: 静岡県地震防災センター, 2022年7月30日.

原田賢治, 公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部年次大会記念講演, 「持続可能な未来の地域社会に向けた社会インフラのデザイン〜静岡大学「未来の社会インフラデザイン研究所」の設立と展望」, 主催者: 公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県支部, 開催場所: 静岡県男女共同参画センターあざれあ, 2022年6月4日.

原田賢治, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会(市民集会), アドバイザー, 主催: 伊豆市, 開催場所: 旧土肥小学校, 2022年4月26日.

原田賢治, 第8回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会, アドバイザー, 主催: 伊豆市, 開催場所: 伊豆市土肥支所, 2022年4月18日.

橋本 岳, 新技術交流イベント in Shizuoka 2022, 静岡県交通基盤部, 静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ(静岡市), 2022年11月8日.

橋本 岳, 新技術交流イベント in Shizuoka 2023, 静岡県交通基盤部, 静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ(静岡市), 2023年11月24日.

本間基寛, 危機管理産業展2022, 株式会社東京ビッグサイト, 東京都江東区, 2022年10月6日.

本間基寛, 防災気象講演会〜最先端技術を活用した豪雨災害情報の創出 気象災害の軽減をめざして〜, 一般財団法人日本気象協会, 東京都豊島区, 2022年11月30日.

本間基寛, SDGsの視点からロジスティクス高度化をともに考える, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会, 東京都港区, 2023年2月9日.(パネルディスカッションのパネラーとして登壇)

池田恵子, 仙台防災未来フォーラム, ネパールの震災復興, 仙台国際センター 2024 年 3 月 8 日.

池田恵子, 富士市男女共同参画地区推進員研修, 講義: 地域防災とジェンダー, 富士市市民活躍・男女共同参画課, 2024 年 2 月 20 日.

池田恵子, 令和 5 年度男女共同参画ネットワークセミナー実践講座, 講義「災害に強い地域づくりに欠かせない 男女共同参画の視点」, 山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ峡南, 2024 年 2 月 15 日.

池田恵子, 男女共同参画の視点による防災対策に関する自治体首長向け研修, 内閣府男女共同参画局, 2024 年 2 月 6 日, オンライン.

池田恵子, 神奈川大学生涯学習エクステンション講座 「21 世組の複合災害のもとで考える 防災・減災」, 講義「防災・減災と男女共同参画の課題～配慮、参画、安全の視点から～」, 神奈川大学, 2024 年 2 月 3 日.

池田恵子, 令和 5 年度地域で活躍する女性防災リーダー育成講座, 講義「女性も担い手となる地域防災のために」, 静岡県男女共同参画課, 2024 年 1 月 20 日, 川根本町役場.

池田恵子, 講義「男女で取り組む災害に強い地域づくり」, 静岡市しみず女性の会, 2024 年 1 月 19 日, 静岡市清水区江尻生涯学習交流館.

池田恵子, 防災講座: みなさんに知ってほしい防災と災害時のボランティア活動 2023, 講義「男女共同参画の視点からの 防災・復興の取組」, 災害ボランティアコーディネーター三島, 2023 年 12 月 10 日.

池田恵子, 神奈川県令和 5 年度男女共同参画の視点からの防災研修, 講義「男女共同参画の視点からの防災～言葉から実践へ、配慮から参画へ～」, 神奈川県, 2023 年 12 月 7 日.

池田恵子, 袋井東地区「防災講演会」, 講義「女性防災と自治会・自主防災隊の連携」, 袋井東地区まちづくり協議会, 2023 年 12 月 3 日.

池田恵子, 生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2023 シンポジウム「シン・時代を美しく安全に生きる」, 講演「自分らしく災害に備える」, 静岡県立大学, 2023 年 11 月 18 日.

池田恵子, 令和 5 年度出張コミュニティカレッジ in 熱海, 講義「老若男女が担うコミュニティ ～多様な人材を巻き込もう 多様化する課題に柔軟に取り組もう～」, 静岡県コミュニティづくり推進協議会・静岡県, 2023 年 11 月 11 日.

池田恵子, 第 20 期アイセル女性カレッジ J o- Shizu 防災講座, 講義「防災・災害に女性の力を」, 静岡市女性会館, 2023 年 9 月 30 日.

池田恵子, 令和 5 年度静岡県ふじのくに防災士養成講座, 講義「男女共同参画の視点からの防災」, 静岡県危機管理課, A コース: 2023 年 9 月 21 日, 静岡県立大学, B コース: 2023 年 10 月 15 日, 静岡県地震防災センター.

池田恵子, 2023 年度放送大学公開講演会, 講義「地域防災とジェンダーの 10 年～もう一歩先へ～」, 放送大学静岡学習センター, 2023 年 8 月 20 日.

池田恵子, 2023 年度防災と男女共同参画に関する事業推進のための人材育成研修, 講義「基礎知識」、「災害時における女性への暴力防止」、「男女共同参画の視点に立った防災事業・活動の組み立て方を考える」など, 全国女性会館協議会, オンライン, 2023 年 8 月 18-19 日.

池田恵子, 災害支援助産師養成スキルアップ講座, 「防災とジェンダー」の 10 年～近年の災害を踏まえ、もう一歩先へ～, (一社) 静岡県助産師会災害対策委員会, あざれあ静岡県男女共同参画センター, 2023 年 8 月 5 日.

池田恵子, 令和 5 年度ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議, 講義「言葉から実践へ 男女共同参画の視点による防災の現状と課題」, 静岡県暮らし環境部男女共同参画課, あざれあ静岡県男女共同参画センター, 2023 年 8 月 4 日.

池田恵子, 令和 5 年度れんけいこうち防災人づくり塾『災害に強い人』育成講座, 講義「多様性の視点で考え行動しよう! ～自主防災活動と地区防災計画の未来～」, 高知市 総合あんしんセンター, 2023 年 7 月 14 日.

池田恵子, 令和 5 年度 市民防災リーダー育成講座(焼津市), 講義「男女で取組む災害に強い地域づくり」, 焼津市消防防災センター, 2023 年 7 月 22 日.

池田恵子, 佐賀県鹿島市防災まちづくり講演会, 講演「防災に男女共同参画の視点を取り入れよう」, 鹿島市生涯学習センター, 2023 年 2 月 18 日.

池田恵子, 令和 4 年度地域で活躍する女性防災リーダー育成講座 in 裾野, 講義「地域防災への 女性参画の重要性と課題」, 静岡県, 裾野市生涯学習センター, 2023 年 2 月 5 日.

池田恵子, 「男女共同参画・多様な視点で災害に備える」, ウィングス京都, 2023 年 2 月 4 日.

池田恵子, 防災と男女共同参画に関する事業推進のための人材育成研修, 講義「基礎知識」、「災害時における女性への暴力防止」、「女性関連施設の役割」など, 全国女性会館協議会主催, オンライン, 2022 年 12 月 9-10 日.

池田恵子, 国際女性会議 WAW, 分科会 10 女性と防災, 外務省, 2022 年 12 月 3 日.

池田恵子, 令和 4 年度地域防災リーダーフォローアップ講座 (佐賀県唐津市), 講演「男女共同参画の視点を踏まえた防災対策(避難所運営)」, 唐津市, 唐津市文化体育館, 2022 年 11 月 19 日.

池田恵子, 静岡市清水区岡生涯学習交流館防災講座, 「地域社会の諸課題と防災 ～多様な人材を巻き込もう 多様化する課題に柔軟に取り組もう～」, 静岡市清水区岡生涯学習交流館, 2022 年 11 月 8 日.

池田恵子, 令和 4 年度コミュニティカレッジ 地域活動ステップアップ講座, 「老若男女が担うコミュニティ ～多様な人材を巻き込み、多様化する課題をより柔軟に解決していこう～」, 静岡市民会館, 2022 年 10 月 29 日.

池田恵子, 令和 4 年度 「男女共同参画の視点による災害対応研修」, 基調講演「災害対応への男女共同参画の視点の実質的導入に向けて」, 国立女性教育会館, 2022 年 10 月 15 日.

池田恵子, 第 39 回地方自治研究全国集会 第 6 分科会 災害に強いまちづくり, 講演「災害に強いまちづくり～みんなで守る いのちと暮らし～」, 自治労, 静岡県掛川市, 2022

年 10 月 8 日.

池田恵子, 子どもと学ぶ男女共同参画における 防災・減災講座, 講演「男女が共に支え助け合う地域防災の未来」, 御前崎災害支援ネットワーク, 御前崎市研修センター, 2022 年 9 月 25 日.

池田恵子, 令和 4 年度静岡県ふじのくに防災士養成講座, 講義「男女共同参画の視点からの防災」, オンライン, 静岡県危機管理課, A コース:2022 年 9 月 13 日, B コース:2022 年 10 月 16 日.

池田恵子, 令和 4 年度男女共同参画の視点を取り入れた防災リーダー養成講座, 講義「男女共同参画×防災 ～その時、被災地で何が起きたのか～」, 佐賀県立男女共同参画センター, 2022 年 8 月 27 日.

池田恵子, 令和 4 年度パルティ防災フォーラム～みんなにやさしい避難所づくり, 講演「防災になぜ男女共同参画の視点が不可欠なのか」, オンライン, 栃木県立男女共同参画センター, 2022 年 8 月 4 日.

池田恵子, 令和 4 年度市民防災リーダー育成講座(焼津市), 講義「男女で取組む災害に強い地域づくり」, 焼津市消防防災センター, 2022 年 7 月 23 日.

IKEDA, Keiko, JICA Training Course: Water Related Disaster Management (Preparedness, Mitigation and Reconstruction), Gendering Disaster Management: Lessons learned from recent disasters in Japan, JICA, 2022 年 7 月 5 日.

池田恵子, 令和 4 年度湖西市女性防災講座, 講義「男女で取組む災害に強い地域づくり」, 湖西市新居地域センター, 2022 年 6 月 25 日.

池田恵子, 第 16 回かま〜んフェスタ, 講義「災害!『私は大丈夫』なぜ?～“備えるって” ということ?～」, オンライン, 福岡県嘉麻市主催, 2022 年 5 月 15 日.

生田領野, 第 155 回ふじのくに防災学講座, しずおか防災コンソーシアム, 静岡市, 2023 年 7 月 15 日

生田領野, シンポジウム地震火山研究と防災・減災, 名古屋市, 2024 年 3 月 26 日

今泉文寿, 新北市政府 2023 年度台日土砂災害技術交流シンポジウム「熱海土石流災害の対処及未来土砂災害管理対策」2023 年 9 月 14 日, 新北市政府

今泉文寿, GT フレーム講習会「土石流の発生過程の実態—熱海土石流災害を受けて—」, 2023 年 7 月 18 日, 静岡市アザレア

今泉文寿, 日本防災環境「高齢者・障害者施設のための災害リスクマネジメント研修 2022—土砂災害編—」, 2023 年 1 月 11 日, オンライン

今泉文寿, 台湾新北市覚書締結式「2021 年 7 月発生於日本熱海市土石流災害之實態與對策」, 2022 年 10 月 6 日, オンライン

今泉文寿, 静岡大学東部サテライト公開講座「伊豆半島の土砂災害」2022 年 9 月 6 日

今泉文寿, 第四紀学会シンポジウム「静岡県の土石流災害—土石流発生メカニズムから考える—」, 2022 年 8 月 28 日, 静岡県地震防災センター

今泉文寿,砂防学会東海支部「令和3年7月熱海市で発生した土石流災害の実態」, 2022 年 8 月 29 日, オンライン

今泉文寿,中部地盤工学会シンポジウム「土石流はどのようにして発生するのか?一現地観測による発生プロセスの解明」 2022 年 8 月 8 日, 名古屋大学

今泉文寿,静岡県地盤技術講習会「盛土から発生する土石流―熱海土石流災害を受けて―」, 2022 年 7 月 22 日, 静岡市ペガサート

井ノ口宗成: 社会の DX 化を意識した防災・減災の考え方, 日本技術士会 北陸本部, 富山支部会 総会, グランテラスホテル富山, 2022.6.23.

井ノ口宗成: 最近の災害対応支援活動 ～2022 年福島県沖地震における新地町にて～, にいがた GIS 協議会, 2022 年度総会セミナー, オンライン, 2022.6.24.

井ノ口宗成: 情報科学から防災・減災を考える, 放送大学 富山学習センター, 2022 年度 夏のオープンセミナー, 富山市立図書館, 2022.9.3.

井ノ口宗成: 行政の災害対策と危機管理, 日本防災士機構, 石川県自主防災組織リーダー育成講座, 石川県地場産業振興センター他, 2022.9.11, 2022.9.18, 2022.11.5, 2022.11.27, 2022.12.14.

井ノ口宗成: 警報避難 (第 1 期), 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修, オンライン, 2022.9.29.

井ノ口宗成: 気象台の行う地域防災支援に期待すること, 富山地方気象台, 富山地方気象台活性化に係る職員向け講演会, 富山地方気象台・オンライン, 2022.10.12.

井ノ口宗成: 過去災害から学ぶ防災・減災に必要なこと, 北陸三県議会, 北陸三県議長会 講演会, ホテルグランテラス富山, 2022.10.13.

井ノ口宗成: まち: 安全・安心のまちづくり, 富山大学, 富山大学市民講座 2022 人工知能 (AI) で世界を拓く, 富山大学経済学部, 2022.11.26.

井ノ口宗成: 防災対応に必要な情報処理, 公益財団法人 高速道路調査会, 令和 4 年度 防災に関する講習会, 高速道路調査会 会議室, 2023.2.3.

井ノ口宗成: 未曾有の豪雨からの災害に備えて, 関川村, 令和 4 年度 新潟県・関川村 防災講演会, 関川村 村民会館, 2023.2.12.

井ノ口宗成: 防災マップを具体的&実働的なものにしよう, 氷見市社会福祉協議会, 速川地区原子力防災マップ作成事業, 速川公民館, 2023.2.16.

井ノ口宗成: 警報避難 (第 2 期), 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修, オンライン, 2023.2.17.

井ノ口宗成: 風水害・土砂災害への備え, 日本防災士機構, 石川県自主防災組織リーダー育成講座, 小松商工会議所他, 2023.9.3, 2023.9.9, 2023.10.14, 2023.10.21, 2023.11.18, 2023.12.3.

井ノ口宗成: AI と DX を活用した前衛的な防災のための動的シミュレーションの必要性, 日本学術会議, 国際シンポジウム 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

2023『壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革』, 日本学術会議講堂, 2023.9.8.

井ノ口宗成: 被災者支援 (第1期), 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修, 東京湾臨海部基幹的広域防災拠点 (有明の丘施設), 2023.10.6.

井ノ口宗成: 警報避難 (第1期), 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修, 東京湾臨海部基幹的広域防災拠点 (有明の丘施設), 2023.10.11.

井ノ口宗成: 災害時の見通しと戦略的行動指針, 富山県消防学校, 専科教育 自然災害科 (第2期), 富山県消防学校 (富山県広域消防防災センター), 2023.10.24.

井ノ口宗成: 近年の風水害と対策・対応, 日本技術士会 北陸本部, 富山支部会講演会, ホテルグランテラス富山, 2023.11.9.

井ノ口宗成: 近年の被災者生活再建支援の課題と対策, 消防科学センター, 市町村職員防災研修, オンライン, 2023.11.20.

井ノ口宗成: 避難計画と個別避難計画, 富山県 防災・危機管理課, 令和5年度 地域の自主防災組織リーダー研修会, 富山県危機管理センター, 2023.12.2.

井ノ口宗成: 能登半島地震に対する活動支援 ～緊急報告～, 日本技術士会 北陸本部, 能登半島地震 PF 会議, オンライン, 2024.1.5.

井ノ口宗成: 未曾有の豪雨からの災害に備えて ～近年の災害に学ぶ～, 小矢部市消防団, 防災講演会, クロスランドおやべ, 2024.2.11.

井ノ口宗成: 警報避難 (第2期), 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修, 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2024.2.21.

井ノ口宗成: 事業継続のための自然災害への備えや災害後の対応 ～経営者としての危機管理や心構え～, 富山市北商工会, 経営者向け研修会, 富山市水橋会館, 2024.3.19.

石橋秀巳, 小山真人先生退職記念シンポジウム 静岡の火山と防災ーその45年を振り返る, 静岡大学未来社会デザイン機構・防災総合センター, 静岡県地震防災センター, 2024年3月20日

石橋秀巳, サイエンスカフェ静岡, 静岡大学理学部, ペガサート静岡, 2023年7月6日

石橋秀巳, キャンパスミュージアム公開講座, 静岡大学キャンパスミュージアム, 共通C棟, 2023年10月28日

石橋秀巳, 火山学会一般講演会, 日本火山学会, 三島市民生涯学習センター, 2022年11月6日

石橋秀巳, キャンパスミュージアム公開講座, 静岡大学キャンパスミュージアム, 共通C棟, 2022年10月29日

石橋秀巳, 第四紀学会シンポジウム, 第四紀学会, 静岡県地震防災センター, 2022年8月28日

石川有三, 「グローバル研修」講義: 地震活動とテクトニクス, 国立研究開発法人建築研究所国際地震工学部, 2023年2月10日

石川有三, 「グローバル研修」講義: 地震活動とテクトニクス, 国立研究開発法人建築研究所国際地震工学部, 2024年2月8日

岩田孝仁：2022.04.14 静岡県東部生産性本部 ハイブリッド講演 想像力の欠如に陥らない防災（会場 30 名＋オンライン）

岩田孝仁：2022.06.01 さいたま市幹部職員研修 オンデマンド講義 想像力の欠如に陥らない防災

岩田孝仁：2022.06.08 人と防災未来センター災害対策専門研修マネジメントコース エキスパート A 想像力の欠如に陥らない防災（オンライン研修 55 名）

岩田孝仁：2022.07.26 気象庁火山防災対策概論（オンライン研修）

岩田孝仁：2022.10.04 人と防災未来センター災害対策専門研修マネジメントコース エキスパート A 想像力の欠如に陥らない防災（オンライン研修 60 名）

岩田孝仁：2022.10.17 静岡県議会 自然災害対策特別委員会、「想像力の欠如の陥らない防災」（10 名）

岩田孝仁：2022.10.18 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース（オンライン 100 名）

岩田孝仁：2022.10.21 河川情報センター 災害危機管理研修、「想像力の欠如の陥らない防災・危機管理」（オンデマンド講義）

岩田孝仁：2022.11.12 静岡県消防協会防災研修会、「想像力の欠如の陥らない防災・危機管理」（60 名）

岩田孝仁：2022.11.17 館山寺温泉ホテル旅館組合防災研修会、「観光地の防災を考える キーワードは想像力」（15 名）

岩田孝仁：2022.11.22 神奈川県松田町議会研修会、「想像力の欠如に陥らない防災」（12 名）

岩田孝仁：2022.12.05 歴史・防災まちづくりフォーラム（主催：静岡県建築士会）基調講演、「東海地震などの想定被害と事前復興」（ハイブリッド講演、会場 30 名＋オンライン 70 名）

岩田孝仁：2022.12.10 浜松市防災学習センター講座、「被災後の生活復旧につながる準備とは」、60 名

岩田孝仁：2022.12.11 焼津市自衛隊協力会防災講演、「想像力の欠如に陥らない防災」、120 名

岩田孝仁：2022.12.13 静岡県立湖北高等学校 防災授業、「想像力の欠如に陥らない防災」、360 名

岩田孝仁：2022.12.20 沼津市議会勉強会、「想像力の欠如に陥らない防災を目指して」、28 名

岩田孝仁：2023.01.28 令和 4 年度第 49 回静岡県臨床整形外科医会教育研修講演、自然災害に対する整形外科診療所の備え 災害後の地域診療早期再開に向けて」、（ハイブリッド講演、会場 60 名＋オンライン 40 名）

岩田孝仁：2023.02.03 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース（オンライン 60 名）

岩田孝仁：2023.03.02 静岡県警災害対策研修 30 名

岩田孝仁：2023.03.14 静岡地方気象台職員研修 20 名

岩田孝仁：2023.05.09 火山防災協議会新任者グループ会合 講演 火山防災行政について（オンライン 150 人）

岩田孝仁：2023.06.07 人と防災未来センター 防災対策専門研修マネジメントコース 講師 災害対応各論「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 60 人+オンライン)

岩田孝仁：2023.06.15 さいたま市新任幹部職員研修 講師 想像力の欠如に陥らない防災 (ビデオ研修 150 人)

岩田孝仁：2023.06.20 河川財団勉強会 講師 「静岡県の被害想定のかえ方」(会場 10 人+オンライン)

岩田孝仁：2023.06.23 気象庁火山防災担当者研修 講師 「火山防災概論」(オンライン 20 人)

岩田孝仁：2023.08.18 静岡市長田障害学習センター みのり同窓会勉強会 講師 「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 120 人)

岩田孝仁：2023.09.13 静岡市長田障害学習センター 防災講演会 講師 「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 60 人)

岩田孝仁：2023.09.21 屋久島町 口永良部島火山防災 勉強会 5 名

岩田孝仁：2023.10.01～ 河川情報センター「想像力の欠如に陥らない防災・危機管理」(オンライン 570 名)

岩田孝仁：2023.10.17 防災スペシャリスト養成研修 総合監理コース (会場 30 名)

岩田孝仁：2023.10.18 人と防災未来センター 防災対策専門研修マネジメントコース 災害対応各論「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 60 人+オンライン)

岩田孝仁：2023.11.03 川根本町講演会 「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 80 人)

岩田孝仁：2023.11.09 静岡県危険物安全協会研修会 「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 250 人)

岩田孝仁：2023.12.08 静岡銀行焼津支店研修会 「想像力の欠如に陥らない防災」(会場 100 人)

岩田孝仁：240118_産技連_地質地盤情報分科会 発表者 ハザードマップの持つ防災情報性 オンライン

岩田孝仁：2024.02.02 静岡県立大オンライン防災講座 講師 古い地形図から災害リスクを知る オンライン 250 名

岩田孝仁：2024.02.07 静岡県警察学校災害警備専科 講師 60 名

岩田孝仁：2024.02.08 JICA インドネシア研修生 講師 耐震津波地域防災 15 名

岩田孝仁：2024.02.20 イオングループ火山防災研修 講師 オンライン 150 名

岩田孝仁：2024.02.21 島田市自治推進委員連絡会議 講師 想像力の欠如に陥らない防災 70 名

岩田孝仁：2024.03.01 防災スペシャリスト養成研修 (総合監理) コーディネーター 30 名

岩田孝仁：2023.06.11 下田市復興まちづくりシンポジウム パネルディスカッション コーディネーター (会場 130 人)

狩野謙一、ジオ(地形・地質)から見た南アルプスの自然環境の成り立ち、南アルプス自然環境保全活用連絡協議会講演会、静岡市、2022 年 6 月 7 日.

狩野謙一、地形・地質から見た大井川中～下流域の成り立ちと土地利用．島田市教育委員合理科教育研究会講演会，島田市，2023 年 10 月 4 日．

川瀬憲子、(研究報告)「集権型システムと自治体財政—『分権改革』から『地方創生』へ」国家経済研究会、2022 年 10 月 29 日、オンライン

川瀬憲子、(講演)「桜が丘病院移転問題と集約型国土再編・コンパクトシティ構想」2022 年 4 月 26 日、清水テルサ

川瀬憲子、(講演)「『地方創生』と自治体財政の課題—静岡県内自治体の事例」シンポジウム「防災と市民生活からまちづくりを考える」にてゲスト講演、2022 年 5 月 22 日、伊東市観光会館

川瀬憲子、(講座)「人口減少時代の地方財政を考える—『地方創生』政策とデジタル化政策に焦点をあてて」2022 年 12 月 2 日、第 59 回市町村議会議員研修会、オンライン

川瀬憲子、(講演)「国の予算と地方財政の課題—集権型システムを問う」2023 年 2 月 23 日、横浜市従会館。

川瀬憲子、(講演)「地方財政のしくみと課題」第 65 回自治体学校、岡山大会、地方財政講座、2023 年 7 月 23 日、岡山市勤労者福祉センター

川瀬憲子、(講演)「地方財政の基礎知識-地方財政のしくみと課題」那覇市議会 議員研修会、2024 年 1 月 17 日

風間 聡、近年の洪水から予見する将来の洪水被害とその適応策，第 11 回震災対策技術展東北，仙台，2023.4.26. (基調)

風間 聡、近年の河川災害にみる問題点と適応策・対策，地域防災シンポジウム，茨城大学，水戸，2023.3.6. (基調)

風間 聡、気候変動に応じる洪水対策，防災に関するシンポジウム，土木学会東北支部，仙台，2023.1.24. (パネルディスカッションコーディネーター)

風間 聡、異常気象と人口減に対応した住民と考える流域管理，阿武隈川流域水循環計画推進会議，大河原，2022.11.22. (基調)

木村浩之、付加体深部帯水層の微生物群集とメタンに関する基礎研究から社会実装まで～水・ガス・電気・熱を自家供給する地域防災拠点の創成を目指して～，第 142 回ふじのくに防災学講座，静岡県地震防災センター，静岡市，2022 年 3 月 19 日．

北村晃寿、伊豆衝突帯における自然災害研究，シンポジウム『富士山と伊豆衝突帯の火山・自然災害研究』，静岡大学防災総合センター，静岡市地震防災センター，2024 年 3 月 20 日．

北村晃寿、放射性セシウム濃度を用いた自然災害科学研究．日本放射線安全管理学会第 22 回学術大会，静岡市，2023 年 11 月 11 日．

北村晃寿、風 15 号洪水被害と七夕豪雨被害の比較，2022 年 9 月 24 日台風被害に関するシンポジウム，静岡大学防災総合センター，清水，2023 年 8 月 20 日．

北村晃寿、次の南海トラフ巨大地震の描像と浜松周辺の被災状況，～次世代創造医工情報教育センター開設 1 周年事業～第 2 回浜松医科大学医療 DX シンポジウム「救急医療と

- 防災の未来」，浜松医科大学，浜松市，2023 年 7 月 28 日．
- 北村晃寿，熱海の盛土崩落の原因に関する地球科学的研究，防災学術連携体の第 14 回防災学術連携シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化－防災科学の果たす役割－」，防災学術連携体，オンライン，2022 年 10 月 22 日．
- 北村晃寿，大地が伝える津波と地震の記憶～静岡，清水平野の津波堆積物調査から～．高齢者 学級みのり大学，静岡市西奈生涯学習センター．静岡市，2022 年 9 月 14 日．
- 北村晃寿，「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害」の趣旨説明，日本第四紀学会静岡大会，静岡市地震防災センター，2022 年 8 月 28 日．
- 北村晃寿，熱海市伊豆山地区土砂災害に関する科学調査，第 145 回しずおか防災コンソーシアム，静岡県，2022 年 7 月 16 日．
- 北村晃寿，熱海土砂災害の盛土崩落の解明への古生物学研究の適用，防災学術連携体の第 13 回防災学術連携シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」，防災学術連携体，オンライン，2022 年 5 月 9 日．
- 小林 淳，富士山の湧水を科学の目で見ると，岳南地域地下水利用対策協議会，ふじさんめっせ，2022 年 6 月 8 日．
- 小林 淳，富士山の湧水を科学の目で見ると－地下水の道のりとその年代－，富士宮市市政 80 周年記念事業「水の日記念事業」，富士宮市役所，2022 年 8 月 11 日．
- 小林 淳，富士山ハザードマップの読み解き方－富士山噴火の脅威を正しく知るために－，ふじミュ－夏のイベント，ふじのくに地球環境史ミュージアム，2022 年 8 月 20 日．
- 小林 淳，富士山の噴火史と火山防災－富士山ハザードマップの読み解き方－，静岡中央地区安全運転管理協会，静岡県労政会館，2022 年 9 月 14 日．
- 小林 淳，富士山の噴火史と火山防災－火山ハザードマップの改定を受けて－，静岡市三保生涯学習交流館，2022 年 10 月 18 日．
- 小林 淳，首都圏・さいたまにおける火山災害，さいたま市大宮区自治会連合会，静岡県富士山世界遺産センター，2022 年 11 月 24 日．
- 小林 淳，富士山の噴火史と火山防災－富士山ハザードマップの読み解き方－，ふじさんネットワーク（静岡県自然保護課），富士山環境交流プラザ，2022 年 11 月 27 日．
- 小林 淳，富士山の噴火史と火山防災－火山災害とは何か？また、富士山の噴火史の特徴、ハザードマップの読み方について－，令和 4 年度静岡県高等学校理科教育研究会地学部会研修会 兼 東部支部地学部会研修会，静岡県立沼津東高等学校，2022 年 12 月 8 日．
- 小林 淳，富士山の噴火史と火山防災－富士山ハザードマップ（改定版）を読み解く，市民大学講座（御殿場市生涯学習課），御殿場市民交流センター ふじざくら，2022 年 12 月 22 日．
- 小林 淳，静岡県の活火山を比較しよう－静岡の大地の成り立ちと富士山の噴火史－，静岡市歴史博物館，2023 年 2 月 25 日．
- 小林 淳，火山がもたらす災害について－静岡県・富士山の噴火史と火山防災－，県警察学

- 校災害警備専科, 静岡県警察本部, 2023 年 3 月 2 日.
- 小林 淳, 富士山の生い立ちと麓にもたらした湧水の科学的特徴ー富士山の地下水の道のりをさぐるー, 静岡大学東部市民講座 静岡の自然と社会ー県東部にスポットをあてて考える, 2023 年 6 月 24 日.
- 小林 淳, 富士山の成り立ち, サイエンスカフェ (ふじのくに地球環境史ミュージアム), 2023 年 8 月 11 日.
- 小林 淳, 静岡県域の地形特性からみた富士山噴火に対する警戒避難のあり方. 富士山の火山防災・環境研究の最前線, 静岡県立大学グローバル地域センター／静岡県富士山世界遺産センター, 2023 年 8 月 29 日.
- 小林 淳, 富士山を学ぶ 火山・地質・防災から読み解く①: 静岡の大地の成り立ちと富士山の噴火史, 世界文化遺産富士山について学ぶー富士山今昔物語ー: 藤枝地区交流センター西館生涯学習講座, 2023 年 9 月 5 日.
- 小林 淳, 富士山を学ぶ 火山・地質・防災から読み解く①: 富士山の災禍 (災害・防災) と恵み (湧水), 世界文化遺産富士山について学ぶー富士山今昔物語ー: 藤枝地区交流センター西館生涯学習講座, 2023 年 10 月 3 日.
- 小林 淳, 富士山水ヶ塚・太郎坊フィールドワーク, 令和 5 年度 富士地区教育研究集会, 2023 年 10 月 11 日.
- 小林 淳, 富士山の噴火と火山防災ーハザードマップが示す噴火への警戒・避難ー, 静岡市蒲原生涯学習交流館, 2023 年 11 月 18 日.
- 小林 淳, 富士山の生い立ちと麓にもたらされた地下水・湧水の科学的特徴ー富士山の地下水の道のりをさぐるー, 富士山の自然を守る会, 富士宮駅前交流センターきらら集会室, 2023 年 11 月 24 日.
- 小林 淳, 富士山の噴火と火山防災ーハザードマップからみえる警戒・避難のあり方ー, 富士市富士見台 6 丁目自治会, 2023 年 12 月 3 日.
- 小林 淳, 富士山の噴火史ー静岡県 富士山周辺の大地の成り立ちー, (一社) 日本砕石協会 関東地方本部, 2024 年 2 月 7 日.
- 小林 淳 2024. 伊豆弧北端部活火山の噴火史研究. 静岡の火山と防災ーその 45 年を振り返る(静岡大学未来社会デザイン機構・教育学部・防災センター), 静岡県地震防災センター3 月, 2024 年 3 月 20 日.
- 小杉素子, 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会, リスクコミュニケーション委員会企画シンポジウム「ワクチンに関するコミュニケーションについて考える」講演, パシフィコ横浜, 2022 年 06 月
- 小杉素子, 浜松市防災学習センター2023 年度一般向け学習講座「受け手に寄り添う情報提供: 福島県民にとっての放射能リスクを考える」講師, 浜松市防災学習センター, 2023 年 07 月
- 小杉素子, 日本リスク学会第 36 回大会 企画セッション「気候変動にともなう極端気象に

による社会のリスクと適応のためのツール」コメンテーター，北海道大学，2023 年 11 月
 小山真人，ふじのくに防災フェロー講座 2022 年度講義，静岡市，「火山学」（オンライン），
 2022 年 6 月 4 日．
 小山真人，FNN 防災会議 2022，静岡市，「富士山噴火・現状と課題」（現地からオンライン中
 継），2022 年 8 月 26 日．
 小山真人，富士通沼津工場防災会議，沼津市，「富士山の噴火史と防災 ハザードマップから
 読み解く火山防災」（現地からオンライン中継），2022 年 9 月 9 日．
 小山真人，ふじのくに防災フェロー講座 2023 年度講義，静岡市，「火山学」（オンライン），
 2023 年 6 月 17 日．
 小山真人，静岡大学社会教育主事講習，静岡市，「自然災害と防災」，2023 年 8 月 9 日．
 小山真人，小田急グループ応急復旧業務に関する合同研修会，東京都，「富士山・箱根山の
 噴火史と防災」，2023 年 11 月 30 日．
 小山真人，静岡大学主催トップガン講演会，浜松市，「浜松・浜名湖ジオパークがひらく地
 域の未来」，2022 年 4 月 17 日．
 小山真人，静岡大学東部サテライト公開講座：多彩な視点から伊豆を学ぶ，伊豆市，「火山
 がつくった中伊豆の大地」，2022 年 5 月 16 日．
 小山真人，放送大学静岡学習センター：開設 30 周年記念富士山特集第 2 弾公開講演会，静
 岡市，「富士山ハザードマップの読み解き方」，2022 年 8 月 6 日．
 小山真人，2022 年度ふじのくに防災士養成講座 A コース，静岡市（オンライン），「火山災
 害一般と静岡県の活火山」，2022 年 9 月 13 日．
 小山真人，2022 年度ふじのくに防災士養成講座 B コース，静岡市（オンライン），「火山災
 害一般と静岡県の活火山」，2022 年 10 月 9 日．
 小山真人，美しい伊豆創造センター，伊豆市，伊豆半島ジオガイド養成講座「伊豆半島ジオ
 パークの原点とあゆみ」「プレートテクトニクスと伊豆半島」，2022 年 10 月 16 日．
 小山真人，静岡県地質調査業協会主催「ジオフォーラム 2022 in Shizuoka」，静岡市，「ブ
 ラタモリで学ぶ大地の成り立ちとその伝え方」，2022 年 10 月 28 日．
 小山真人，美しい伊豆創造センター，伊豆市，伊豆半島ジオガイド養成講座，「伊豆半島の
 地質と火山」，2022 年 10 月 29 日．
 小山真人，美しい伊豆創造センター，伊豆市，伊豆半島ジオガイド養成講座，「伊豆半島の
 自然災害と防災」，2022 年 10 月 30 日．
 小山真人，日本火山学会 2022 年秋季大会一般公開シンポジウム，「最新科学でさぐる富士
 山の火山学と防災」（趣旨説明とコメンテーター），2022 年 11 月 6 日．
 小山真人，新技術交流イベント in Shizuoka 2022，静岡市，「最先端技術が変える地域の防
 災と未来～点群、フォトグラメトリ、ミュオグラフィ」，2022 年 11 月 8 日．
 小山真人，美しい伊豆創造センター，伊豆市，伊豆半島ジオガイド養成講座，「伊豆半島の
 地質・火山・防災の補講」，2022 年 12 月 4 日．

小山真人, 美しい伊豆創造センター, 伊東市, プリンの不思議に迫る 大室山研究発表会, 「宇宙線で透視する火山の内側」, 2023 年 2 月 23 日.

小山真人, 2030 松崎プロジェクトチーム 3 主催勉強会, 松崎町, ツーリズムにつなげる「松崎町に残された古道と松崎の歴史をめぐる」座談会～地域をむすぶ古道を資源と考える, 「静岡県点群データが描き出す松崎町の歴史文化遺産」, 2023 年 2 月 26 日.

小山真人, NHK 文化センター浜松教室, 浜松市, 「活火山富士山の基礎知識と噴火の歴史」, 2023 年 3 月 25 日.

小山真人, 全国水環境保全市町村連絡協議会 全国大会実行委員会, 三島市・清水町, 名水サミット in みしま・しみず, 「街をつなぐ」湧水とまちづくり～みしま・しみずをつくった大地と水の物語」, 2023 年 8 月 18 日.

小山真人, 静岡大学防災総合センター, 静岡市, 令和 4 年 9 月 24 日台風被害に関するシンポジウム, 「2022 年台風 15 号による静岡県中部巴川下流域の河川氾濫～現地調査と高密度 3 次元点群による分析」, 2023 年 8 月 20 日.

小山真人, 富士宮市, 富士宮市, 富士宮の歴史 自然環境編 発刊記念講演会「富士宮をつくった大地と自然の物語」, 2023 年 9 月 10 日.

小山真人, 2023 年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡市, 「火山災害一般と静岡県の活火山」, 2023 年 9 月 13 日.

小山真人, 2023 年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 静岡市, 「火山災害一般と静岡県の活火山」, 2023 年 9 月 24 日.

小山真人, 沼津高専サイエンステクノ倶楽部 2023 講演会, 沼津市, 「富士山の火山災害予測」, 2023 年 10 月 4 日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド協会主催「日本火山学会 2022 年秋季大会ジオツアー：伊豆半島の採石場と大室山」, 伊豆市・伊東市, 2022 年 10 月 15 日.

小山真人, 浜松市学校生活協同組合主催「学びの遠足 浜名湖ジオツアー2022：中世～近世の浜名湖で何が？」, 浜松市・湖西市, 2022 年 10 月 22 日.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク認定ジオガイド更新講習, 修善寺温泉地区の防災まちあるき, 伊豆市, 2023 年 3 月 1 日.

小山真人, NHK 文化センター浜松教室, 浜松市, 「浜松をつくった地形の秘密」, 2023 年 10 月 28 日.

前田恭伸：リスクマネジメントと防災, 吉田町シニアカレッジ, 吉田町公民館, 2024 年 1 月.

松井 務、医療と介護の総合的な確保に向けてのシンポジウム、医療と介護シンポジウム 開催実行委員会・静岡県、三島市、2022 年 11 月 13 日

三ヶ田均 (2023). 「私の研究と教育と社会貢献」、京都大学桂キャンパス、2023 年 3 月 10 日.

三井雄太, 静岡大学・中日新聞連携講座 2023, 静岡大学浜松キャンパス S-Port, 2023/12/19.

三井雄太, サイエンスカフェ in 静岡 第 158 話, ペガサート, 2022/10/27.

望月美希、静岡大学情報学部テクノフェスタにおける公開講座での講演、「『生きがい』か

ら考えるこころの健康」(2022 年度、静岡大学テレビジョンにて公開)

望月美希、静岡大学防災総合センター「令和 4 年台風 15 号災害シンポジウム」での講演(2023 年 8 月 20 日、静岡市清水区清水テルサホール)

望月美希、浜松市主催「令和 5 年度浜松市市民アカデミー」での講演(2023 年 9 月 6 日、浜松市地域情報センターホール)

村越 真、静岡大学公開講座「子どもの「やってみたい！」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント」、2022 年 6 月 8 日(静岡市)

村越 真、全国遭難対策協議会、スポーツ庁等主催、2022 年 7 月 15 日

村越 真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2022 年 12 月 18 日(東京都)

村越 真、静岡大学公開講座「子どもの「やってみたい！」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント」、2023 年 6 月 7 日(静岡市)

村越 真、全国遭難対策協議会、スポーツ庁等主催、2022 年 7 月 7 日

村越 真、国立登山研修所オンラインセミナー、2023 年 7 月 27 日

村越 真、国立登山研修所オンラインセミナー、2023 年 8 月 31 日

村越 真、国立登山研修所オンラインセミナー高校生登山部、2023 年 11 月 8 日

中川和之、西三河防災減災連携研究会シンポジウムパネルディスカッションコーディネーター、幸田町民会館つばきホール、西三河防災減災連携研究会、2024 年 2 月 2 日

中川和之、愛媛県市町長防災危機管理ラボ「大規模災害と危機管理＝伝え手の経験から自治体トップに求められること」、オンライン、愛媛県、2024 年 1 月 31 日

中川和之、芦屋市防災士養成講座「災害・危機時の情報の受発信＝あなたが伝え手に！」、芦屋市役所、芦屋市、2023 年 11 月 25 日

中川和之、内外情勢調査会春日井支部支部懇談会「災害と危機管理＝いざのために、企業に求められること、企業にできること」、ホテルプラザ勝川、内外情勢調査会春日井支部、2023 年 10 月 23 日

中川和之、愛知県一宮市 iJAMP 無料セミナー「大規模災害と危機管理＝伝え手の経験から自治体に求められること」、一宮市役所、一宮市、2023 年 10 月 23 日

中川和之、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構主催セミナー「35 都道府県 98 人の首長が語った災害時の悔しい思い＝消防庁の事例集取材から伝えたいこと」、香川大学幸町キャンパス、香川大学、2023 年 10 月 10 日

中川和之、ぼうさいこくたい 2023「BOSAI Treasure&Future ～防災の宝物と未来を考える～」パネラー、AI 防災協議会、横浜国立大学、2023 年 9 月 18 日

中川和之、ぼうさいこくたい 2023 地震調査研究推進本部セッション「知ってほしい！活かしてほしい！政府の地震調査研究 ～これからどうする！？」パネラー、文科省・地震調査研究推進本部、横浜国立大学、2023 年 9 月 18 日

中川和之、TEAM 防災ジャパン企画チーム 2023 年度第 1 回学習会「世界のジオパークの運動と防災＝日本が導いた大地とのつきあい方の価値」、TEAM 防災ジャパン、日本ジオパ

ークネットワーク防災 WG 共同企画,オンライン,2023 年 6 月 27 日

中川和之,防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト 第 2 回シンポジウム
「どうする? 南海トラフ地震」総合討論コメンテーター,防災対策に資する南海トラフ研
究プロジェクト,イイノカンファレンスセンター,2023 年 3 月 10 日

中川和之,国家レジリエンス (防災・減災) の強化成果発表シンポジウムパネルディスカッ
ション「SIP が変革した防災・減災～国家レジリエンスの現状と将来」パネラー,内閣府、
防災科学技術研究所,東京国際フォーラム,2023 年 3 月 1 日

中川和之,関東地方整備局広報講習会「災害・危機管理時の情報発信のあり方」,関東地方整
備局,オンライン,2023 年 2 月 27 日

中川和之,島根半島・宍道湖中海ジオパーク防災・減災シンポジウム基調講演「つながる力
で地域防災力向上～ジオパークとの連携術＝地元の大いさと人を愛しみ、心地よく暮らす
ために」,島根半島・宍道湖中海 (国引き) ジオパーク,くにびきメッセ,2022 年 12 月 17 日

中川和之,内外情勢調査会長崎県央支部支部懇談会「災害と危機管理、いざのために、企業
に求められること、企業にできること」,内外情勢調査会,ホテルグランドパレス諫早,2022
年 11 月 15 日

中川和之,内外情勢調査会佐世保支部支部懇談会「災害と危機管理、いざのために、企業に
求められること、企業にできること」,内外情勢調査会,セントラルホテル佐世保,2022 年
11 月 15 日

中川和之,日本火山学会 一般公開シンポジウム「最新科学がさぐる富士山の火山学と防災」
コーディネーター,日本火山学会,三島市民生涯学習センター,2022 年 11 月 6 日

中川和之,ぼうさいこくたい 2022 スペシャルインタビュー齋藤元彦兵庫県知事久元喜造神
戸市長,神戸市,オンライン,2022 年 10 月 22-23 日

中川和之,小田を知る災害を知る「小田を語ろう」,さぬき市,小田ふれあいプラザ,2022 年 10
月 10 日

中川和之,福山市防災に関する幹部研修会「大規模災害と危機管理＝自治体に求められるこ
と」,福山市,福山市役所,2022 年 9 月 1 日

中川和之,令和 4 年度丹波地域ひょうご防災リーダー講座・基礎コース「災害・危機時の情
報の受発信＝あなたが伝え手に!」,兵庫県,やまなみホール,2022 年 8 月 20 日

中川和之,群馬県・市町村防災トップセミナー (群馬県市町村長防災危機管理ラボ)「災害と
危機管理＝伝え手の経験から自治体に求められること」,群馬県,群馬県危機管理センタ
ー,2022 年 7 月 13 日

中川和之,中国地方整備局管理職(副所長)研修「クライシスコミュニケーションの向上」,中
国地方整備局,オンライン,2022 年 6 月 8 日

楠城一嘉,【招待講演】地震学的考察(余震活動について),能登半島地震に関するデータ検
討会,日本地震予知学会,2024 年 3 月 9 日,京都大学東京オフィス大会議室 B,
<https://www.eqpsj.jp/>.

楠城一嘉, 【招待講演】北海道・東北沖の地震のサイズ分布(b 値)の時空間変化, 第 241 回地震予知連絡会, 2023 年 11 月 30 日, 国土地理院関東地方測量部 地震予知連絡会大会議室, <https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/info.html>.

楠城一嘉, 山本揚二郎, 有吉慶介, 堀川博紀, 矢田修一郎, 高橋成美, 【招待講演】DONET データを用いた地殻活動モニタリングと b 値, ワークショップ: 海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望 -第 6 回-, 2023 年 12 月 8 日, 東京大学生産技術研究所, <https://seasat.iis.utokyo.ac.jp/CableWS/WS20231208/index.html>.

楠城一嘉, 【招待講演】静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門の業務活動と研究活動の一例の紹介, 静岡地方気象台談話会, 静岡地方気象台, 2022 年 11 月 28 日.

Nanjo, Kazu Z., Studies to evaluate seismicity using statistical methods, 2022 Electromagnetic Studies of Earthquakes and Volcanoes (EMSEV), August 22-26, 2022, National Central University (Taoyuan, Taiwan), 【基調講演】
<https://irsl.ss.ncu.edu.tw/emsev2022>.

大谷栄治・生田大穰・福井 宏・坂巻竜也・増野いづみ・境 毅・石川大輔・BARON Alfred, 超高压下における X 線非弾性散乱法による鉄合金およびレニウム の音速測定とその地球内部への適用 (招待講演), 第 63 回高压討論会, 日本高压力学会, December 12-15, 2022.

大谷栄治, 三宅賞レクチャー: 地球内部における加水・脱水反応と地球の水素量: 三宅泰雄先生の研究との接点, JpGU2023 Meeting, Makuhari, Japan, May 21-June 26, 2023.

Ohtani, E., The role of Water in the Dynamics of Slabs and surrounding Mantle, Bjorn Mysen's retirement Symposium, Earth and Planetary Laboratory, Carnegie Institution of Washington, DC, November 2nd-3rd, 2023.

佐藤比呂志, 第 19 回 サイエンスカフェ 「地殻構造から見た日本海の地震と津波」, 地震・火山噴火予知研究協議会と地震研究所広報アウトリーチ室, 2023 年 5 月 17 日

佐藤比呂志, 第 53 回 日本地震学会 記者懇談会 「日本海の地震・津波と震源断層モデルー能登半島地震を例として」, 日本地震学会, 幕張メッセ国際会議場, 2023 年 5 月 27 日

佐藤比呂志, ジオパーク地震学習会「日本海形成史から見た日本海側の地震について」, 日本地震学会, オンライン, 2023 年 6 月 20 日

佐藤 健, 令和 4 年度防災主任 1 年目研修会「ハザードマップを活用した災害特性の把握と対応」, 宮城県総合教育センター, 名取市, 2022.5.12

佐藤 健, 日本建築学会東北支部みちのくの風 2022 秋田特別事業「令和 4(2022)年 3 月 16 日福島県沖の地震災害調査報告会」, 日本建築学会東北支部, オンライン, 2022.6.18

佐藤 健, 青森県「命を守る! 防災教育推進事業」先進地視察「学校の災害安全の推進に向けて」, 青森県教育委員会, 仙台市, 2022.7.26

佐藤 健, 令和 4 年度防災スペシャリスト養成研修 「災害への備え」コース, 内閣府, オンラインデマンド, 2022.7.28~2022.10.23

佐藤 健，出前授業 「けせんぬま防災きつずスクール～東北大学災害科学国際研究所の日～」「ぼうさい宝探し～海の子ホヤぼーやからの密命～」，気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館，気仙沼市（ハイブリッド），2022.7.31

佐藤 健，島根県学校学校安全（災害安全）研修（西部会場）『災害安全』の現状と課題～防災管理と防災教育の推進に向けて～，島根県教育委員会，オンライン，2022.8.2

佐藤 健，島根県学校学校安全（災害安全）研修（東部会場）『災害安全』の現状と課題～防災管理と防災教育の推進に向けて～，島根県教育委員会，オンライン，2022.8.3

佐藤 健，山元町防災担当者会研修会（宮城県学校防災アドバイザー派遣）「防災管理の推進に向けて」，山元町立山元中学校，山元町，2022.8.17

佐藤 健，利府町立利府中学校教員研修（宮城県学校防災アドバイザー派遣）「利府中学校の土砂災害に対する避難確保計画の充実化に向けて」，利府町立利府中学校，利府町，2022.8.19

佐藤 健，日本建築学会日本建築学会大会（北海道）災害部門一緊急報告会「令和 4(2022)年 3 月 16 日福島県沖の地震災害調査報告会」，日本建築学会，オンライン，2022.9.8

佐藤 健，日本安全教育学会第 23 回宮城大会シンポジウム「次世代の学校安全の担い手との対話～災害に強い未来社会の創造に向けて～」，日本安全教育学会，仙台市，2022.9.11

佐藤 健，令和 4 年度第 2 回石巻市防災主任研修会「学校区の災害リスクの理解」，石巻市教育委員会，石巻市，2022.9.15

佐藤 健，サロン de 防災「マンションの防災あれやこれや」，NPO 法人防災白熱アカデミー，神戸市（ハイブリッド），2022.9.22

佐藤 健，石巻市立大谷地小学校 6 年生出前授業「北上川のはんらんから命をまもる！～安全なひなん場所をみんなで考えよう～」，石巻市立大谷地小学校，石巻市，2022.10.6

佐藤 健，令和 4 年度安全担当主幹教諭研修会「今 求められる地域と連携した防災体制」，宮城県総合教育センター，オンライン，2022.10.15～2022.12.7

佐藤 健，防災教育チャレンジプラン 2022 年度防災教育交流フォーラム（防災教育交流会）「CP のこれまでの成果とこれから」，内閣府，神戸市（ハイブリッド），2022.10.22

佐藤 健，大阪産業技術研究所研修「東北大学による東日本大震災の経験と災害対策の取組」，地方独立行政法人大阪産業技術研究所，和泉市，2022.10.26

佐藤 健，日本赤十字社宮城県支部研究協力校実践発表会，塩釜市立第二中学校，塩釜市，2022.11.4

佐藤 健，令和 4 年度全国学校保健・安全研究大会課題別研究協議会（第 10 課題）「関係機関等との連携による安全の体制整備～学校と地域、大人と子どもが一緒に活動することによる持続可能性～」，岩手県教育委員会，盛岡市，2022.11.11

佐藤 健，仙台市地域防災リーダー養成講習会「第 2 章 自分の住んでいる地域の特性の理解」，仙台市危機管理局，仙台市，2022.11.12

佐藤 健，仙台市地域防災リーダー養成講習会「第 2 章 自分の住んでいる地域の特性の

理解」，仙台市危機管理局，オンデマンド，2022.11.19

佐藤 健，第 20 回伊達開拓「ふるさと従兄弟（い〜とこ）」まちづくりサミット「多発する地震災害と顔の見える相互支援」，伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会，オンライン，2022.11.21

佐藤 健，令和 4 年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会「講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策」，宮城県教育委員会，多賀城市，2022.12.11

佐藤 健，令和 4 年度女性防災指導員等交流セミナー「つづける・つながる地域防災活動」，宮城県復興・危機管理部防災推進課，仙台市，2022.12.13

佐藤 健，令和 4 年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会，「講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策」，宮城県教育委員会，石巻市，2022.12.17

佐藤 健，宮城県立利府支援学校防災研修（宮城県学校防災アドバイザー派遣）「学校防災マニュアルの見直し」，宮城県立利府支援学校，利府町，2022.12.19

佐藤 健，令和 5 年度防災主任 1 年目研修会「ハザードマップを活用した災害特性の把握」，宮城県総合教育センター，名取市，2023.5.12

佐藤 健，防災講演会「家庭、地域、関係機関等との連携・協働による防災教育の推進」，南三陸町入谷小学校，南三陸町，2023.5.25

佐藤 健，令和 5 年度石巻市管理職対象学校防災主任研修会「避難のタイミングとその判断材料（洪水編）」，石巻市教育委員会，石巻市，2023.6.2

佐藤 健，令和 5 年度石巻市第 1 回防災主任研修会「学校区の災害リスクを踏まえた児童在校時の緊急避難を考える～津波 & 土砂災害編～」，石巻市教育委員会，石巻市，2023.6.15

佐藤 健，令和 5 年度大崎市学校安全担当者研修会「地域と連携した防災教育」，大崎市教育委員会，大崎市，2023.6.16

佐藤 健，校内研修会「洪水を想定した場合の緊急避難場所の考え方」，大崎市立松山小学校，大崎市，2023.7.4

佐藤 健，令和 5 年度石巻市第 2 回防災主任研修会「緊急避難を判断するための情報とその収集方法（洪水編）」，石巻市教育委員会，石巻市，2023.9.14

佐藤 健，防災教育交流会（ぼうさいこくたい 2023）講演「コミュニティ・スクール×防災教育の持続可能性」，防災教育チャレンジプラン実行委員会，横浜市，2023.9.18

佐藤 健，令和 5 年度安全担当主幹教諭研修会「家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築に向けて」，宮城県総合教育センター，名取市，2023.9.20

佐藤 健，研修会「学校における避難確保計画づくりの現状と課題」，仙台管区气象台，仙台市，2023.10.24

佐藤 健，令和 5 年度愛知県防災教育指導者研修会「家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築に向けて」，愛知県教育委員会，名古屋市，2023.10.31

佐藤 健，令和 5 年度防災主任研修会（北部）「北部教育事務所管内を中心とした災害履歴

と防災モデル事業～この 20 年間を振り返る～（地震を中心に）」、宮城県総合教育センター、大崎市、2023.11.21

佐藤 健、令和 5 年度石川県安全・健康教育講習会「家庭や地域と連携・協働した学校の防災体制の構築に向けて」、石川県教育委員会、オンデマンド、2023.10.27～2023.11.10

佐藤 健、令和 5 年度仙台市地域防災リーダー新規養成講習会「自分の住んでいる地域の特性の理解」、仙台市危機管理局、仙台市、2023.11.11～2023.11.12

佐藤 健、第 5 学年総合的な学習の時間「校舎内で自分の身を守るために」、宮城教育大学附属小学校、仙台市、2023.11.15

佐藤 健、令和 5 年度女性防災指導員等交流セミナー、宮城県復興・危機管理部防災推進課、仙台市、2023.12.06

佐藤 健、令和 5 年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会「講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策」、宮城県教育委員会、仙台市、2023.12.16

佐藤 健、令和 5 年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会「講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策」、宮城県教育委員会、大崎市、2023.12.17

菅原大助、東北大学災害科学国際研究所と塩竈市との協定締結式・講演会、塩竈市、ふれあいエスプ塩竈、2023 年 3 月 29 日

菅原大助、防災講演会、社会福祉法人柏木福祉会、杜のみらい保育園、2023 年 9 月 25 日

菅原大助、防災講演会、魚津市防災士会、魚津埋没林博物館、2023 年 12 月 9 日

Tasaka, M., M. E. Zimmerman, D. L. Kohlstedt, 2023, Rheological weakening of olivine + orthopyroxene aggregates due to phase mixing, AGU, Fall Meeting, MR21A-04, Dec. 12 (Invited talk).

Tasaka, M., 2022, Probing the grain-scale processes that drive plate tectonics, JAG-FOS2022, Irvine, USA, Sep. 15-18.

土屋 智、第 63 回 砂防および地すべり防止講習会、全国治水砂防協会、東京、2023 年 2 月

牛山素行、国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修、国土交通大学校、小平市、2022/05.

牛山素行、富士市民大学前期ミニカレッジ、富士市、富士市、2022/05.

牛山素行、静岡県行政職員防災講座(3 科目)、静岡県・静岡大学防災総合センター、オンライン、2022/06.

牛山素行、とよはし防災リーダー養成講座、豊橋市、豊橋市、2022/06.

牛山素行、気象キャスターネットワーク勉強会、NPO 法人気象キャスターネットワーク、オンライン、2022/06.

牛山素行、石川県 市町災害対応力強化研修会、石川県、オンライン、2022/06.

牛山素行、山口大学 防災・減災講演会、山口大学地域防災・減災センター、オンライン、2022/06.

牛山素行、れんけいこうち防災ひとづくり塾、高知市、高知市、2022/07.

牛山素行、日本記者クラブ研究会、日本記者クラブ、オンライン、2022/08.

牛山素行,水工学に関する夏期研修会,土木学会,文京区,2022/09.
 牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,オンライン,2022/09.
 牛山素行,防災スペシャリスト養成研修(4科目),内閣府,オンデマンド,2022/09.
 牛山素行,気象防災アドバイザー育成研修(5科目),気象庁,オンデマンド,2022/09.
 牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井市,2022/09.
 牛山素行,静岡県民生委員児童委員協議会法定地区民児協会長研修会,静岡県民生委員児童委員協議会,静岡市,2022/09.
 牛山素行,消防団員幹部教育指揮幹部科 現場指揮課程,静岡県消防学校,静岡市(オンライン),2022/10.
 牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,オンライン,2022/10.
 牛山素行,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,島根県浜田市,2022/11.
 牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県対馬市,2022/11.
 牛山素行,消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡市,2022/11.
 牛山素行,建設技術講習会,全日本建設技術協会,佐賀市,2022/12.
 牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井県敦賀市,2022/12.
 牛山素行,気象防災アドバイザー育成研修(4科目),気象庁,オンライン,2022/12.
 牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県大村市,2022/12.
 牛山素行,令和4年度研修「事例から学ぶ水災害に備えた市町村の対応」,全国建設研修センター,東京都小平市,2023/01.
 牛山素行,地域防災支援業務研修(5科目),気象庁,オンデマンド,2023/01.
 牛山素行,防災スペシャリスト養成研修(4科目),内閣府,オンデマンド,2023/01.
 牛山素行,東三河地域防災協議会 防災セミナー,東三河地域防災協議会,愛知県蒲郡市,2023/02.
 牛山素行,静岡県行政職員防災講座(フォローアップ),静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2023/02.
 牛山素行,河川災害シンポジウム,土木学会,オンライン,2023/02.
 牛山素行,防災学講座,静岡防災コンソーシアム,静岡市,2023/03.
 牛山素行,陸前高田市防災会議,陸前高田市,2023/03.
 牛山素行,福井県・市町災害時対応力強化研修,福井市,2023/04.
 牛山素行,国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修,国土交通大学校,小平市,2023/05.
 牛山素行,陸前高田市防災マイスター養成講座,陸前高田市,2023/05.
 牛山素行,島田市民生委員児童委員協議会,島田市,2023/05.
 牛山素行,静岡県行政職員防災講座(3科目),静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2023/06.
 牛山素行,日本防災士機構フォローアップ研修,オンライン,2023/06.

牛山素行,静岡防災情報連絡会,静岡市,2023/06.
 牛山素行,日本防災士会 スキルアップ研修 ,オンライン,2023/07.
 牛山素行,おかやま県民防災シンポジウム ,岡山市,2023/07.
 牛山素行,令和 4 年 9 月 24 日台風被害に関するシンポジウム,静岡市,2023/08.
 牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,2023/09.
 牛山素行,防災スペシャリスト養成研修(12 科目),内閣府,オンデマンド,2023/09.
 牛山素行,気象防災アドバイザー育成研修(5 科目),気象庁,オンデマンド,2023/09.
 牛山素行,福井県行政職員防災講座,福井市,2023/09.
 牛山素行,福井県行政職員防災講座,福井市,2023/10.
 牛山素行,富山県消防学校 特別教育 自然災害科,富山市,2023/10.
 牛山素行,気象防災アドバイザー育成研修,気象庁,オンライン,2023/10.
 牛山素行,東京都立大学プレミアム・カレッジ,八王子市,2023/11.
 牛山素行,全国治水砂防促進大会 ,千代田区,2023/11.
 牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井市,2023/12.
 牛山素行,気象防災アドバイザー育成研修,気象庁,オンライン,2023/12.
 牛山素行,静岡防災情報連絡会 ,静岡市,2023/12.
 牛山素行,地域防災支援業務研修(5 科目),気象庁,オンデマンド,2024/01.
 牛山素行,令和 5 年度研修「事例から学ぶ水災害に備えた市町村の対応」,全国建設研修センター,東京都小平市,2024/01.
 牛山素行,建設技術講習会,全日本建設技術協会,大分市,2024/01.
 牛山素行,静岡県行政職員防災講座(フォローアップ),静岡県・静岡大学防災総合センター,オンライン,2024/02.
 牛山素行,気象予報士会関西支部,気象予報士会関西支部,オンライン,2024/02.
 山本裕之.第 60 回全国大学保健管理研究集会(横浜、2022.10) シンポジウム 1ー必ず来るであろう大規模災害に大学保健施設としてどのような準備をしておくべきかー 座長 岐阜大学保健管理センター長 山本眞由美、静岡大学保健センター所長 山本裕之
 山本裕之.令和 4 年度全学一斉地震防災訓練(救急衛生対策訓練)(2022.5.25): 静岡地区(保健センター静岡支援室主導): 応急救護用テント設置+応急手当(外傷)訓練・浜松地区(保健センター浜松支援室主導): トリアージ訓練
 山本裕之.令和 5 年度全学一斉地震防災訓練(救急衛生対策訓練)(2023.5.18): 静岡地区(保健センター静岡支援室主導): 応急救護用テント設置+搬送訓練・浜松地区(保健センター浜松支援室主導): 応急救護用テント設置+トリアージ訓練
 山崎 登,「関東大震災から 100 年 今後の都市・インフラ整備」,国土交通省,2023 年 8 月 28 日.
 山崎 登,「北海道胆振東部地震から 5 年 地震リスクに備える」,日本損害保険協会,2024 年 1 月 27 日.

5.2 マスメディア・新聞等への掲載

秋元菜摘, 日刊工業新聞ニュースイッチ, 浜松光宣言 2023ー浜松を光の「先端都市」にー, 2024/03/04.

秋元菜摘, 浜松商工会議所・浜松 NEWS!!, 弁天島海開き「2023 はまなこ夏フェスタ」開催!, 2023/07/12.

藤井基貴、毎日新聞朝刊 14 面、ぼうさい大賞 IT 使い教材開発、2024 年 1 月 19 日

藤井基貴、毎日新聞朝刊 17 面、静大・藤井研究室に大賞、2023 年 12 月 1 日

藤井基貴、静岡新聞朝刊 11 面、スポーツ倫理教材 エスパルスと開発、2023 年 7 月 17 日

藤井基貴、静岡新聞朝刊 15 面、防災アプリで避難先を確認、2023 年 6 月 20 日

藤井基貴、読売新聞朝刊 13 面、『キャンパス探訪』静岡大学 防災と学校 担い手育成 紙芝居読み聞かせ 対応力養う、2023 年 5 月 23 日

藤井基貴、朝日新聞朝刊デジタル版 19 面、部員に縄跳びの「罰」、静岡で不適切指導 顧問「強化の一環だった」、2023 年 5 月 2 日

藤井基貴、毎日新聞朝刊 15 面、新聞 ぼうさい甲子園 57 校・団体を表彰 静岡大学教育学部藤井基貴研究室 次世代担い手 育成 優秀賞、2023 年 1 月 30 日

藤井基貴、静岡新聞夕刊 3 面、静岡大 慶応大と教育団体法人化 防災に貢献 人材育成 研究室協力 学生が主体 教材提供や出前授業、2022 年 7 月 29 日

原田賢治、新聞、中日新聞朝刊 1 面、津波 危機感共有、2024 年 3 月 11 日.

原田賢治、新聞、朝日新聞朝刊 19 面、「南海トラフの想定に類似」、2024 年 1 月 31 日.

原田賢治、新聞、静岡新聞朝刊 28 面、津波浸水 4 メートル超 能登町で確認、2024 年 1 月 24 日.

原田賢治、新聞、静岡新聞朝刊 18 面、災害復興考える 下田でシンポ、2023 年 6 月 13 日.

原田賢治、新聞、静岡新聞朝刊 14 面、災害支援へ法制度学ぶ、2023 年 6 月 10 日.

本間基寛, NHK, 東北北部 11 日までの 72 時間雨量 “過去最多を大幅超の可能性”, 2022 年 8 月 8 日.

本間基寛, 西日本新聞, あんしん安全 「線状降水帯」「顕著な大雨情報」正しい理解住民の半分程度, 2023 年 6 月 7 日.

本間基寛, NHK, “秋田で記録的な雨量 災害リスク高まるおそれ” 日本気象協会, 2023 年 7 月 14 日.

本間基寛, 西日本新聞, くらし ホテルへの分散避難 27 自治体の補助制度 日本気象協会などが分析, 2023 年 11 月 22 日.

池田恵子, 静岡新聞, 朝刊 27 面, 11 市町「女性ゼロ」ニーズ把握に課題, 2024 年 3 月 8 日.

池田恵子, 産経新聞 Web, 「男性も女性と一緒に性被害を防いで」能登半島地震 避難所への願い, 2024 年 1 月 10 日.

池田恵子, 朝日新聞, 第 2 社会面, 「声の小さな人」取り残さぬよう 避難所の運営には多様な視点を, 2024 年 1 月 9 日.

池田恵子, 日経新聞, 朝刊 35 面, 静岡防災 2024 地域組織 担い手多様化を, 2024 年 1 月 6 日.

池田恵子, 毎日新聞 web, 続く避難所生活 女性や高齢者の声拾う態勢づくりを 静岡大教授, 2024 年 1 月 5 日.

池田恵子, NHK おはよう日本, 能登半島地震から 4 日 災害に便乗した犯罪, 2024 年 1 月 5 日.

池田恵子, 働く女のワーク&ライフマガジン Woman type, 女性ゼロが 6 割の防災分野 「根底にある性別分業意識は、災害後の女性のキャリアも脅かす」, 2023 年 6 月 14 日.

池田恵子, 毎日新聞, 朝刊 27 面, 『声をつないで』インタビュー 防災・災害に女性の力を, 2023 年 3 月 11 日.

池田恵子, NHK, わが子のミルクとおむつはどこに?そして生理が始まった, 2023 年 3 月 9 日.

池田恵子, 北日本新聞, 県内 生理用品・離乳食備蓄に差 阪神大震災から 28 年(富山県内市町の備蓄体制についてコメント), 2023 年 1 月 17 日.

池田恵子, 日経 BP 日経 xwoman オンライン, 性差別的発言、自分と違うジェンダー観…専門家どう対応, 2022 年 12 月 16 日.

池田恵子, 日経 BP 日経 xwoman オンライン, ジェンダー平等の必要性が伝わらない 無理解への対処法, 2022 年 12 月 15 日.

池田恵子, NHK和歌山放送局『ギュギュっと和歌山』, 防災分野における女性職員配置の重要性, 2022 年 12 月 7 日.

池田恵子, ラジオ「ネットワーク 1.17」, 防災分野における女性職員配置の重要性や、配置が進まない背景を解説, MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」第 1363 回 https://www.mbs1179.com/117/c_onair/2022/12/, 2022 年 12 月 4 日.

池田恵子, 静岡新聞, 朝刊 27 面, 「防災に女性の視点を」まずは防災リーダーから 県 マッチング企画 女性の自主防参加道半ば 男性中心「活躍する土台ない」との声も 女性役員 3 割超に, 2022 年 11 月 5 日.

池田恵子, 日経 BP 日経 xwoman オンライン, ジェンダーの視点から考える防災「防災現場に女性不在 平常時の格差は災害時に反映される」, 2022 年 9 月 1 日.

池田恵子, 日経 BP 日経 xwoman オンライン, ジェンダーの視点から考える防災「災害被害にジェンダー課題が密接につながる理由」, 2022 年 8 月 31 日.

池田恵子, 朝日新聞 夕刊 1 面, 防災 女性視点も欲しい, 2022 年 8 月 19 日.

池田恵子, 朝日新聞デジタル女性の仕事は「炊き出しくらい」? 防災からみえるジェンダー格差, <https://digital.asahi.com/articles/ASQ7Y6KFQQ7FULEI008.html>, 2022 年 8 月 6 日.

池田恵子, 中日新聞, 朝刊, 女性の地域防災 積極関与要望 県知事へ要望書提出, 2022 年 6 月 4 日.

池田恵子, NHK総合 たっぷり静岡, 市民団体 知事に要望書提出「自主防災組織に女性参加を」 2022 年 6 月 3 日.

池田恵子, NHK 総合, 災害列島「被災地の若者は今 東日本大震災 12 年 “現役世代” アンケート」調査結果へのコメント,
https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20230310_01.html, 2022 年 5 月 27 日.

池田恵子, NHK 総合, 防災担当者に “女性がゼロ” 全国 6 割の自治体で,
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220527/k10013645881000.html>, 2022 年 5 月 27 日.

池田恵子, 静岡新聞, 夕刊 17 面, 男女共同参画の現状や県の自主防災組織実態調査の評価,
 2022 年 5 月 17 日.

池田恵子, 静岡新聞, 夕刊 1 面, 県内自主防災組織「女性の意見反映」5 割, 2022 年 5 月 17 日.

池田恵子, 静岡新聞, 朝刊 25 面, 『女性も担う静岡地域防災』シンポジウムにて地域防災や
 災害における女性の意識について, 2022 年 4 月 29 日.

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 20 面, 霊峰 多角的に研究 富士学会が秋季学術大会 (2023 年 11
 月 27 日)

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 18 面, 葵区諸子沢 大規模地滑り 調査、対策に半年超見通し
 (2023 年 10 月 19 日)

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 16 面, 安全確保し復旧作業を (2023 年 9 月 12 日)

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 32 面, 『熱海土石流』土砂対策に一定評価 警戒区域解除向け 県
 検討委見解 廃棄物混入の盛り土安定性「議論の対象外」 (2023 年 3 月 24 日)

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 1 面 『熱海土石流』地下水で盛り土軟化 原因 県検証委 締
 め固めも不十分 崩落現場 20 度超の傾斜 (2022 年 9 月 9 日)

今泉文寿, 毎日新聞朝刊 19 面 熱海土石流 長雨で地下水入り崩落 県調査委が最終報告
 書 (2022 年 9 月 9 日)

今泉文寿, 静岡新聞朝刊 29 面, 静岡大に新修士課程 来春 山岳流域研究に特化 (2022 年
 8 月 26 日)

今泉文寿, 毎日新聞朝刊 17 面, 山岳流域研究院を新設 静岡大が来年度 分野横断的に教
 育 (2022 年 8 月 26 日)

今泉文寿, 読売新聞朝刊 29 面, 静大に「山岳流域研究院」 大学院に来春 地域課題 幅
 広く学ぶ (2022 年 8 月 26 日)

今泉文寿, 中日新聞朝刊 28 面, 山岳流域研究院を新設 静大、来年 4 月から (2022 年 8
 月 26 日)

井ノ口宗成, NST 新潟総合テレビ, 大雨被害の村上市・関川村 生活再建へ “り災証明書”
 の交付開始「これからがスタート」, 2022.8.23.

井ノ口宗成, UX 新潟テレビ 21, 【UX 報道スペシャル】 水害から命を守る～新潟北部豪雨
 の教訓～, 2022.9.4.

井ノ口宗成, NHK 新潟放送局, 大雨災害 1 ヶ月, 2022.9.5.

井ノ口宗成, NST 新潟総合テレビ, 〈記録的大雨から 1 カ月〉生活再建に向け「まずは計画」
 受けることができる支援把握を, 2022.9.6.

井ノ口宗成, 北陸中日新聞, 大雨リスク総合判断を, 2023.6.15.

井ノ口宗成, 読売新聞, 防災メール恒常的に遅く 黒部市 消防団員が手入力配, 2023.8.22.

井ノ口 宗成, チューリップテレビ, 自宅が被災したら・・・生活再建のポイント 専門家に聞く「行政と民間企業の支援制度」, 2024.1.5.

井ノ口宗成, 北日本放送, 金曜ジャーナル：検証 能登半島地震 津波避難の課題 後編, 2024.1.12.

井ノ口宗成, 北日本放送, 能登半島地震 支援と今後の備え, 2024.1.12.

井ノ口宗成, KNB ラジオ, とれたてワイド朝生!, 2024.1.16.

井ノ口宗成, チューリップテレビ, 上空からみることで被害の詳細が・・・富山大が氷見市の被災地をドローン調査 り災証明がよりスムーズに, 2024.1.19.

井ノ口宗成, 北日本放送, り災証明交付開始, 2024.1.22.

井ノ口宗成, チューリップテレビ, 生活再建への公的支援 氷見市で「り災証明書」発行始まる, 2024.1.22.

井ノ口宗成, KNB ラジオ, 能登半島地震から 1 か月スペシャル, 2024.2.1.

井ノ口宗成, 能越ケーブルテレビ, 能登半島地震その後～あたり前の毎日を取り戻すために, 2024.2.4.

井ノ口宗成, 北日本新聞, 能登地震「自分ごと」にし続ける 思い出す機会つくる みんなで防災考える日を, 2024.2.5.

井ノ口宗成, 北日本新聞, 施設の高層化有効 「行政の支援が必要」, 2024.2.22.

井ノ口宗成, 北日本新聞, とやま再起動<41> 第 8 章 復興へ歩む (3) 住環境整備, 2024.3.29.

井ノ口宗成, 能越ケーブルテレビ, 能登半島地震 生活再建に向けて, 2024.3.3.

石川有三、テレビ、韓国ソウル放送 (SBS)、富士山噴火の影響について、2022 年 6 月 7 日

石川有三、新聞、読売新聞、トルコ南部の地震について、2023 年 2 月 8 日

石川有三、ネットニュース、毎日新聞、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 2 日

石川有三、ネットニュース、台湾光明日報、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 2 日

石川有三、ネットニュース、台湾 Thenewslens、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 2 日

石川有三、ネットニュース、台湾 Today-line-taiwan、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 2 日

石川有三、ネットニュース、台湾 Todaysline、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 2 日

石川有三、新聞、澳洲新報 (オーストラリア漢字紙)、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 3 日

石川有三、新聞、メルボルン漢字紙、能登半島地震の成因の解説、2024 年 1 月 3 日

岩田孝仁、静岡新聞、未完の大動脈 新東名 10 年 (上) = 災害対応 重要な役割 大震災備え 絶えず強化、2022.4.14

岩田孝仁、静岡新聞、火山灰 12 センチで立ち往生 貴重な基本データ、2022.5.23

岩田孝仁、東京新聞、火山灰 12 センチ 二輪駆動車立ち往生 貴重な基本データ、2022.5.23

岩田孝仁、毎日新聞、火山灰 12 センチ 二輪駆動車動けず 貴重な基本データ、2022.5.24

岩田孝仁、中日新聞、津波避難 対策強化を 244 高齢者施設が浸水想定、2022.6.20

岩田孝仁、静岡新聞、南海トラフ地震臨時情報「1 週間の事前避難」専門家 啓発求める声、2022.7.2

岩田孝仁、静岡新聞、安倍元首相銃撃、静岡県内関係者悲しみ「茫然自失」「模倣怖い」、2022.7.9

岩田孝仁、山形新聞、進む高齢化 防災力低下、2022.7.18

岩田孝仁、福井新聞、高齢化で防災力低下、2022.7.18

岩田孝仁、静岡新聞、富士宮で震度 3 富士川断層帯付近 震源、2022.7.25

岩田孝仁、中部経済新聞、高齢化が避難のネックに、2022.7.28

岩田孝仁、静岡新聞、静岡の大規模自然災害の科学、2022.8.21

岩田孝仁、静岡新聞、南海トラフ地震 臨時情報 国がもっと関与を、2022.8.29

岩田孝仁、河北新報、南海トラフ備える「臨時情報」国は周知努力を、2022.8.29

岩田孝仁、茨城新聞、南海トラフ地震臨時情報 国が出す情報 関与強化必要、2022.8.29

岩田孝仁、神戸新聞、南海トラフ 臨時情報 住民混乱は必至 国がもっと関与すべき、2022.8.29

岩田孝仁、西日本新聞、南海トラフ地震「臨時情報」周知へ国の関与強化を、2022.8.29

岩田孝仁、中日新聞、臨時情報「理解進まず」73% 南海トラフ地震津波 対象自治体調査 国の関与強化を、2022.8.29

岩田孝仁、埼玉新聞、南海トラフ地震「臨時情報」低い認知度、2022.8.29

岩田孝仁、静岡新聞、県総合防災訓練 2022 連携の力①受け入れる意識 醸成へ、2022.9.1

岩田孝仁、静岡新聞、事前避難 57 万人超対象 地域での議論を、2022.9.26

岩田孝仁、静岡新聞、台風 15 号 山間地の被害把握 課題 上空ヘリ偵察/情報連絡員派遣、2022.10.15

岩田孝仁、毎日新聞、南海トラフ「臨時情報」どう動くか議論を、2022.10.16

岩田孝仁、朝日新聞、台風被害への対応 有識者 3 人が意見 県議会特別委 今後提言へ、2022.10.18

岩田孝仁、静岡新聞、静岡大の将来像は 創立 100 周年 OB らが討論、2022.11.20

岩田孝仁、静岡新聞、絶えぬ残土崩落 熱海の教訓から・中・ 函南 見えない盛り土 官民監視へ 早期の公表を、2022.11.20

岩田孝仁、高知新聞、室戸文書は問う 次の南海地震に向けて④「政治的決断だった」、2022.11.20

岩田孝仁、静岡新聞、南海トラフ地震 臨時情報想定 訓練なし 専門家 理解定着へ「工夫を」、2022.12.2

岩田孝仁、静岡新聞、災害前の備え 学ぶ 中区で講座「事前復興」紹介、2022.12.17

岩田孝仁、日本経済新聞、阪神大震災 28 年 姿消す公衆電話 災害時に存在感、2023.1.9

岩田孝仁、読売新聞、災害協定 車提供など成果「定期見直し必要」、2023.1.12

岩田孝仁、静岡新聞、緊急輸送路沿線 耐震化に壁、2023.1.17

岩田孝仁、静岡新聞、熱海土石流 県、不適切盛り土場所黒塗り非公表 公表は是正の促進・誘導につながる、2023.2.17

岩田孝仁、静岡新聞、防災かるた「全県版」完成 しぞ〜かの魅力と備え満載、2023.2.20

岩田孝仁、静岡新聞、東日本大震災 12 年＝宮城・南三陸ルポ 3. 11 伝えたい 忘れた い 犠牲者生んだ防災対策庁舎 保存か、解体か―地域に葛藤、2023.2.28

岩田孝仁、静岡新聞、津波即時避難の意識低下 専門家「コロナ禍で対策停滞」、2023.3.8

岩田孝仁、静岡新聞、今の備えで大切な人を守れますか？データのデジタル化 急務 備えのアップデートを、2023.3.11

岩田孝仁、毎日新聞、人口・歳入減 庁舎耐震化阻む 中学校を代替拠点に、2023.4.13

岩田孝仁、静岡新聞、清水港ヨット協会理事長就任 防災課題 海上から点検、2023.6.3

岩田孝仁、読売新聞、関東大震災 100 年：教訓 兆候発見へ模索続く、2023.6.9

岩田孝仁、静岡新聞、想定犠牲者「8 割減」に疑問符 県地震・津波対策 A P 10 年で「南海トラフ」推計 高齢化や避難路維持…実効性課題、2023.7.16

岩田孝仁、中日新聞、「大動脈」連日 運休、遅れ 静岡大雨で全線ストップなぜ、2023.8.18

岩田孝仁、静岡新聞、体育館 進まぬ冷房導入 県内公立小中 設置率 1.9% 避難所使用时 熱中症懸念も、2023.10.5

岩田孝仁、静岡新聞、災害支援協定 検証の動き 県内企業や団体 実効性課題 台風 15 号で浮き彫り 店舗統廃合後もそのまま「連絡相手の顔浮かばず」、2023.10.25

岩田孝仁、静岡新聞、新会長に静大・岩田氏 日本災害情報学会、2023.11.28

岩田孝仁、静岡新聞、「防災備え 点検を」静岡銀など 焼津でセミナー、2023.12.10

岩田孝仁、静岡新聞、人材育て 防げ災害関連死 内閣府 島田などでモデル研修 避難所生活 環境改善や心情理解、2023.12.30

岩田孝仁、東京新聞、身構える伊豆半島 似た環境で孤立化の恐れ、2024.1.26

岩田孝仁、読売新聞、能登地震 伊豆の備え 対策 不断の見直しを 道路網強化や住宅耐震化、2024.2.3

岩田孝仁、静岡新聞、沿岸密集地 弱点あらわ 輪島朝市周辺 消火活動難しく、2024.2.15

岩田孝仁、中日新聞、孤立予想集落 県公表せず 市町の大半も消極姿勢、2024.2.15

岩田孝仁、静岡新聞、検証 24 年度 県予算案（中）＝高齢化集落の災害時孤立 福祉支援の体制強化を、2024.2.16

岩田孝仁、東京新聞、伊豆半島 13 市町に点在 孤立予想集落 本誌が情報光景請求、2024.2.16

岩田孝仁、静岡新聞、自助共助支える「公助」重要 島田で防災講演会、2024.2.22

岩田孝仁、静岡新聞、都道府県「明日はわが身」能登地震受け防災対策強化 専門家は一過性懸念、2024.3.21

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、チェック防災 専門家の自宅は？岩田家の防災対策、2022.4.5

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、浜松で震度3 県内広い範囲で揺れ 南海トラフとの関連は？、2022.4.7

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強、2022.4.18

岩田孝仁、SBS ラジオ IPPO、富士山が万一噴火した時に避難をどうするか、2022.4.28

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、暑さと大雨時期 早い復旧作業へ 専門家「支援を」、2022.8.17

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、土砂崩落 氾濫の要因か 専門家「小さな河川も危険」、2022.8.18

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、防災ボイス いのちを守る 耐震診断・補強、2022.8.31

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、検証 松崎町の水害はなぜ？、2022.9.1

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか土曜版、台風被害の松崎町 災害発生メカニズムとは？、2022.9.3

岩田孝仁、SBS ラジオ（特）ラジオ防災スペシャル、地域のつながりここから、2022.9.4

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか土曜版、台風15号 県内でも集中豪雨

岩田孝仁、第一テレビ every.しずおか、静岡市清水区で約6万3000世帯 断水から3日目 復旧の見通しは？、2022.9.26

岩田孝仁、静岡第一テレビ 地震・防災チェック、災害に備え ”備え”の再確認を、2022.10.1

岩田孝仁、NHK総合 たっぷり静岡、東静岡 民間アリーナ施設誘致構想で静岡市の検討委が初会合、2022.11.14

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいま！テレビ、地震 震源から遠くで揺れ「異常震域」過去にも発生 南海トラフ「影響なし」、2022.11.15

岩田孝仁、静岡第一テレビ every しずおか年末 SP、台風対応 情報収集・状況把握の遅れ リニア 解決案は田代ダム案？、2022.12.28

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、県民も災害時に備えて自主防災組織や自治体などで被害情報を伝える訓練を、2023.01.17

岩田孝仁、静岡第一テレビ 地震・防災チェック、南海トラフ地震 発生確率引き上げ「60%程度」耐震化の重要性、2023.01.21

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか土曜版、組織検証にはトップの検証も対象 検証結果を全国共有することも非常に重要、2023.2.4

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、静岡アリーナ構想 検討委員会3つの案「民設民営」「負担付寄付」「PFI」、2023.2.15

岩田孝仁、静岡朝日テレビとびっきり！しずおか土曜版、アリーナ誘致検討委員会 球場・図書館・アリーナ どうなる？ハコモノ事業、2023.2.18

岩田孝仁、NHK 総合 NHK スペシャル【第 1 部】、南海トラフ巨大地震 の知られざる脅威と、命を守るための最新対策、2023.3.4

岩田孝仁、NHK 総合 NHK スペシャル【第 2 部】、南海トラフ巨大地震 の知られざる脅威と、命を守るための最新対策、2023.3.5

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、震災 12 年 いま改めて確認したい備え 日頃から避難経路の確認を、2023.3.6

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、わたしの防災「周りもたすけられたら」生活に合わせて備えをアップデートしていくことが必要、2023.3.7

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡+、「迫る 南海トラフ巨大地震～いま私たちができること～」、2023.3.24

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか、石川県で観測“震度 6 強”住宅倒壊 県内でも進む耐震化 補強で違いは、2023.5.8

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、みんなで防災 ハザードマップの確認ポイントは、2023.5.30

岩田孝仁、DaiichiTV every しずおか、台風 2 号接近 静岡県に「線状降水帯」いますべき行動 夜に向け準備を、2023.6.2

岩田孝仁、DaiichiTV every しずおか、度重なる水害にどう備える？「まずは“リスク”の確認」、2023.6.5

岩田孝仁、DaiichiTV 地震防災チェック、県内に記録的な大雨 どう備える？、2023.6.10

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、いのちを守る 防災ボイス ハザードマップでリスクを知り命を守る、2023.8.8

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、いのちを守る防災ボイス 静岡では甚大な被害が想定、2023.11.15

岩田孝仁、SBS テレビ 報道特集、元県庁の防災スペシャリストが会長に 日本災害情報学会、2023.11.25

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいまテレビ、深夜に突然の津波注意報…どうしたらいいの？いざという時 パニックにならないために、2023.12.5

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、能登半島地震 静岡に必要な備えは、2024.1.5

岩田孝仁、DaiichiTV every しずおか、災害の状況から見えることは、2024.1.5

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか土曜版、能登半島地震 死者 94 人 必要な支援・備えは、2024.1.6

岩田孝仁、テレビ静岡 ただいまテレビ、死者 32 万人の被害想定…南海トラフ地震を心配する地域が能登半島地震から学ぶこと、2024.1.10

岩田孝仁、静岡朝日テレビ とびっきり！しずおか土曜版、能登半島地震 大規模な捜索続く 厳しい寒さの中続く避難生活、2024.1.13

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、みんなで防災 能登半島地震 静岡の備え 耐震化、
2024.1.16

岩田孝仁、NHK 総合 たっぷり静岡、いのちを守る防災ボイス 命を守る耐震診断・補強、
2024.1.17

岩田孝仁、静岡朝日テレビ 報道ステーション、震災後に残る問題 防ぐには…能登半島
地震から見えた課題 阪神淡路大震災から 29 年、2024.1.17

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、【わたしの防災】住民を守った入念な事前の備え
「地域のつながりで命を救う」能登半島地震 最北端の町は、2024.1.23

岩田孝仁、NHK 総合 おはよう日本、「災害関連死」防ぐ対策は、2024.2.2

岩田孝仁、NHK 総合 おはよう日本、旧耐震基準の木造住宅 住民の約 7 割 高齢者、
2024.3.4

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、備え続けよ！津波避難を妨げる住宅倒壊「瞬時に
行動できないと命が…」、2024.3.6

岩田孝仁、SBS テレビ LIVE しずおか、備え続けよ！「低い耐震化率」と「高い高齢化
率」能登半島と伊豆半島 同じ課題、2024.3.7

岩田孝仁、SBS テレビ 防災スペシャル、備え続けよ！能登と静岡 地震が語る教訓、
2024.3.11

狩野謙一、NHK ブラタモリ・大井川遍、2023 年 1 月 14 日。

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「石川地震」、2022/6/21

笠原順三、TBS The Time、「地震」コメント、2022/6/27

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「地震」、2022/11/10

笠原順三、フジテレビ めざましテレビ、「北海道で震度 5 弱」、2023/2/27

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「パンケーキクラッシュ」、2023/2/13

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「トルコ地震」、2023/2/15

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「地震」、2023/3/30

笠原順三、フジテレビ 能登半島地震特番、2023/5/05

笠原順三、フジテレビ Live News イット、「石川地震」、2023/05/05

笠原順三、フジテレビ めざまし土曜日、「能登半島で震度 6 強」、2023/5/06

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「石川地震」、2023/5/08

笠原順三、フジテレビ めざましテレビ、「千葉の震度 5 強」、2023/5/11

笠原順三、フジテレビ めざましテレビ、「地震相次ぐ」、2023/5/15

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「トカラ列島震度 5 強」、2023/5/15

笠原順三、フジテレビ めざまし 8、「相次ぐ地震」、2023/5/16

笠原順三、テレビ朝日 グッドモーニング、2023/5/16

笠原順三、フジテレビ Live News、「利島の地震」、2023/05/22

笠原順三、テレビ朝日 グッドモーニング、2023/5/23

笠原順三, フジテレビめざまし, 「利島村で震度 5 弱」, 2023/5/23

笠原順三, フジテレビめざまし 8, 「地震」, 2023/5/23

笠原順三, TBS ひるおび, 2023/5/24

笠原順三, フジテレビめざまし土曜日, 「千葉茨城地震震度 5」, 2023/5/27

笠原順三, フジテレビめざまし 8, 「石川地震」, 2023/6/21

笠原順三, フジテレビ めざまし 8, 「トカラ地震」, 2023/09/11

笠原順三, フジテレビめざましテレ, 「フィリピンで M7.7」, 2023/12/04

笠原順三, フジテレビ Live News イット, 2023/12/04

笠原順三, フジテレビ 特番「能登半島地震」, 2024/01/01

笠原順三, フジテレビ めざましテレビ, 「能登半島沖地震」, 2024/01/04

笠原順三, フジテレビ Live News イット, 「能登半島の地震」, 2024/01/04

笠原順三, フジテレビ めざましテレビ, 「関東神奈川で震度 4」, 2024/01/29

笠原順三, フジテレビ live News イット, 2024/2/29

笠原順三, フジテレビめざまし, 「千葉県沖地震」, 2024/03/01

笠原順三, フジテレビ Live News イット, 2024/03/01

笠原順三, フジテレビめざましテレビ, 「千葉沖地震」, 2024/03/04

笠原順三, フジテレビ LiveNews イット, 「関東で震度 5 弱」, 2024/3/21

笠原順三, フジテレビめざまし 8, 「関東で震度 5 弱」, 2024/3/21

笠原順三, フジテレビ めざまし 8, 「資源大国ロシア」, 2022/4/11

川瀬憲子, 「膨張予算」『朝日新聞』2024 年 3 月 5 日付朝刊・コメント掲載

川瀬憲子, 「地方創生 失われた 10 年とこれから」『秋田さきがけ』2024 年 1 月 30 日付・コメント掲載

木村浩之, 掛川、菊川の廃棄物施設 公設民営 民設より割安, 静岡新聞, 2022 年 4 月 25 日.

木村浩之, 温泉とともに湧出するメタンガス 地産地消活用, 月刊エネルギーフォーラム, 2022 年 6 月 1 日.

木村浩之, 産廃受け入れ方針撤回へ 掛川・菊川の新廃棄物施設 民設民営も見直し, 静岡新聞, 2022 年 7 月 17 日.

木村浩之, 次代を創る学識者, 月刊エネルギーフォーラム, 2023 年 11 月 1 日.

北村晃寿, 静岡朝日テレビ「熱海土石流災害の盛り土の一部は 2011 年 3 月以降盛られたものと判明 静岡大学北村教授の研究」, 2023 年 3 月 17 日.

北村晃寿, 静岡放送(SBS)「周りの地形、人工物…想像して備えを」台風 15 号から半年 ハザードマップの“外”でも浸水被害【わたしの防災】, 2023 年 3 月 14 日.

北村晃寿, 静岡放送(SBS)【静岡豪雨】住宅街の最大浸水 2m6 cmに「ハザードマップより確実なデータになる」静岡大教授の調査で判明, 2022 年 11 月 10 日.

北村晃寿, テレビ静岡 NEWS(Yahoo!ニュース)【熱海土石流】静岡大学の研究チームが 4 つの砂の層を発見 水の通り道が閉塞し複数回の崩落招いたか, 2022 年 9 月 16 日.

北村晃寿, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか 熱海「盛り土は小田原付近の土砂」
 静大教授ら 独自研究で解析, 2022 年 9 月 13 日.

北村晃寿, テレビ静岡 NEWS, 熱海土石流 過去の地すべりが盛り土崩落の引き金か, 2022
 年 7 月 15 日.

北村晃寿, テレビ静岡, 盛り土の最下部が最初に崩落か 水を通しやすい沿岸部の堆積物
 熱海土石流, 2022 年 6 月 24 日.

北村晃寿, テレビ静岡 NEWS, 土石流で崩れ残った盛り土 沿岸部の別の場所からか 静
 岡大学教授が調査, 2022 年 6 月 3 日.

北村晃寿, 静岡朝日テレビ, とびっきり! しずおか 盛り土の土は神奈川小田原市から 専
 門家が新たな研究で「裏付け」, 2022 年 5 月 20 日.

北村晃寿, NHK総合, たっぷり静岡熱海土石流調査の専門家が会見 “盛り土に崩れや
 すい性質か”, 2022 年 5 月 20 日.

北村晃寿, 静岡放送(SBS), LIVE しずおか 熱海の盛り土 専門家「斜面 崩壊しやすい
 性質だった」, 2022 年 5 月 20 日.

北村晃寿, 北陸中日新聞・朝刊 29p, 金沢の住宅 4 棟、土砂ごと崩落 盛り土の液状化 原
 因か, 2024 年 3 月 23 日.

北村晃寿, 朝日新聞朝刊 19p, 「南海トラフの想定に類似」, 2024 年 1 月 31 日.

北村晃寿, 静岡新聞朝刊 28p, 津波浸水 4 メートル超 能登町で確認, 2024 年 1 月 24 日.

北村晃寿, 静岡新聞朝刊 29p, 「遮水壁」設置は困難? 清水区の工場 PFAS 検出で専門家
 指摘, 2023 年 12 月 7 日.

北村晃寿, 静岡新聞朝刊 15p, 「流域治水」に実効性を, 2023 年 9 月 27 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 13p, 海面上昇 半世紀で 30 センチ以上 清水港周辺 近年 高
 まる災害リスク, 2023 年 9 月 22 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 20p, 市民 防災意識高める 復旧支援, 洪水予測…研究者が
 提言 台風 15 号被災 1 年 静岡大シンポ, 2023 年 8 月 21 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 14p, 救急医療 電子化促進 浜松医大シンポ 防災テーマ討論
 も, 2023 年 8 月 8 日.

北村晃寿, 中日新聞・朝刊 10p, しずおか 今年の台風 15 号 清水区被害なぜ? 巴川
 周辺地盤沈下 潮位の変動影響, 2023 年 7 月 23 日.

北村晃寿, 読売新聞・朝刊 22p, 地域 巴川越水「抜本的解決を」, 2023 年 7 月 21 日.

北村晃寿, 静岡新聞, 朝日新聞, 「熱海土石流 起点の盛り土 造成, 福島原発事故以降に
 も 静大・北村教授らグループ研究」の記事が掲載, 2023 年 3 月 18 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 20p, 今の備えで大切な人を守れますか? 2023 年 3 月 11 日.

北村晃寿, 朝日新聞・朝刊 29p, 盛り土どこから? なぜ崩壊, 2023 年 2 月 5 日.

北村晃寿, 静岡新聞・夕刊 3p, 【静岡豪雨】住宅街の最大浸水 2m6 cmに「ハザードマップ
 より確実なデータになる」静岡大教授の調査で判明, 2022 年 9 月 30 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 26p, 『熱海土石流』盛り土「重層的構造」水通す隙間 崩落何
度も誘発か 静大教授 土砂分析, 2022 年 9 月 17 日.

北村晃寿, 読売新聞・朝刊 29p, 排水路塞がり複数回崩落か 熱海土石流 静大教授が仮説,
2022 年 9 月 17 日.

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 21p, 盛り土中の空洞飽和状態で崩落, 2022 年 9 月 17 日.

北村晃寿, 日経新聞・夕刊 7p, 空洞に水流れ崩落か 熱海土石流起点の盛り土 静岡大調
査, 2022 年 9 月 17 日.

北村晃寿, 静岡新聞・夕刊 1p, 『熱海土石流』 静大 独自研究冊子に 「不安定地盤に残
土」など 現地でデータ収集 裁判資料も想定, 2022 年 8 月 22 日.

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 17p, 『熱海土石流』残る盛り土撤去を 県、前所有者に措置命
令 崩落の起点から神奈川の礫検出「軟質泥岩礫」, 2022 年 8 月 2 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 32p, 『熱海土石流』 土砂採取地「有力」神奈川・中村川下流
軟らかい岩石一致, 2022 年 7 月 30 日.

北村晃寿, 朝日新聞・朝刊 29p, 小田原・相模原周辺で採取か 盛り土 静岡大などが調査
結果, 2022 年 7 月 30 日.

北村晃寿, 中日新聞・朝刊 26p, 熱海盛り土 土砂 神奈川で採集か 静大教授が分析結果
公表, 2022 年 7 月 30 日.

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 22p, 『熱海土石流』崩落起点に地滑り跡 盛り土の下 8000
年前と 700～800 年前, 2022 年 7 月 29 日.

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 19p, 『熱海土石流』盛り土に地下水流入 「軟化し崩落」解析
結果公表 粒子粗い礫や砂「水はいりやすい」, 2022 年 7 月 1 日.

北村晃寿, 科学新聞英語電子版 Collapsed black embankment sediments "definitely
originated from elsewhere", 2022 年 6 月 30 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 30p, 『熱海土石流』不適切盛り土 県内 193 ヲ所 8 割東部 県
対策会議発足 「崩落しやすい性質」, 2022 年 6 月 22 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 26p, 落ち残り東側「崩れやすい」神奈川東部から搬入か? 2022
年 6 月 4 日.

北村晃寿, 静岡新聞・朝刊 29p, 搬入県外土砂崩落発端か, 2022 年 5 月 28 日.

北村晃寿, 毎日新聞・朝刊 19p, 崩落土砂に海中の砂, 2022 年 5 月 24 日.

北村晃寿, 朝日新聞・朝刊 35p, 静岡新聞朝刊 30p, 読売新聞朝刊 24p, 中日新聞朝刊 1p, 盛
り土の一部は秩父帯下流から 熱海土石流 静大などが崩落土砂を分析, 2022 年 5 月 21 日.

小林 淳, 静岡新聞, 小山中で防災教室, 2022 年 7 月 12 日.

小林 淳, テレビ東京「よじごじ Days」, 秋の連休に行きたい! 富士の名水スポット, 2022
年 8 月 15 日.

小林 淳, 静岡新聞, 富士山噴出物間近に: 火山学・防災エリア一新, 2022 年 12 月 26 日.

小林 淳, 読売新聞, 宝永噴火伝える火山弾, 2023 年 1 月 7 日.

小林 淳, NHK 静岡 総合テレビ「たっぷり静岡」: チェック防災〜富士山噴火, 2023 年 2 月 21 日.

小林 淳, FM みしま・かなみ「ボイス・キュー」: 富士山からのおくりもの, 2023 年 2 月 23 日.

小林 淳, 東京新聞: 火山模型でハザード実感ー噴火災害の可能性 地形と結び付け理解ー, 2023 年 7 月 2 日.

小林 淳, 中日新聞: 火山模型でハザード実感ー噴火災害の可能性 地形と結び付け理解ー, 2023 年 7 月 3 日.

小林 淳, NHK 静岡「たっぷり静岡」: みんなで防災ー夏休みに! 県内各地の防災施設, 2022 年 7 月 18 日.

小林 淳, 静岡第一テレビ「every. 静岡」: 地層が語る富士山の歴史ー噴火や崩壊繰り返し今の形に一, 2023 年 7 月 25 日.

小林 淳, 静岡第一テレビ「地震・防災チェック」, 2023 年 7 月 28 日.

小林 淳, ラジオエフ「ミュージアムリンク」: 企画展の紹介, 2023 年 8 月 7 日.

小林 淳, シティエフエム静岡「あざラジ! @Morning IRODORI」: 静岡県富士山世界遺産センターの紹介, 2023 年 8 月 16 日.

小林 淳, シティエフエム静岡「あざラジ! @Morning IRODORI」: 企画展の紹介, 2023 年 8 月 23 日.

小林 淳, 東京新聞「首都圏ニュース」: 地層剥ぎ取り資料が語る富士山噴火の歴史 富士宮で企画展, 2023 年 8 月 20 日.

小林 淳, NHK 静岡「おはよう静岡」: 地層から富士山の噴火学ぶ企画展, 2023 年 8 月 21 日.

小林 淳, 中日新聞「地域の話」: 富士山噴火の歴史 富士宮で企画展, 2023 年 8 月 22 日.

小林 淳, NHK 静岡「たっぷり静岡」: 富士山火山防災の研究会, 2023 年 8 月 29 日.

小林 淳 静岡新聞: 富士山噴火の研究共有ー溶岩流避難、地形の特性 鍵ー, 2023 年 8 月 30 日.

小林 淳, 岳南朝日: 富士山の火山防災・環境テーマに各県協力での初の研究発表ー, 2023 年 8 月 31 日.

小林 淳, 静岡新聞: 富士山の歴史 地層に見るー富士宮・世界遺産センターで企画展ー, 2023 年 9 月 1 日.

小林 淳, ラジオエフ「ミュージアムリンク」: 企画展・常設展示物の紹介, 2023 年 9 月 4 日.

小林 淳, 岳南朝日: 富士山の自然や防災を学ぶー富士宮東: 2 年生対象に講演会, 2023 年 9 月 13 日.

小山真人, 静岡新聞 静岡県の自然災害開設 大学・高校生向け出版 楠城県立大特任准教授ら, 2022 年 4 月 12 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆半島題材 防災本を発行 火山・地震の仕組み解説 専門家 8 人が執筆, 2022 年 4 月 19 日.

小山真人, 伊豆新聞 源流を訪ねて 安良里浜川 神洞滝の上流、魅力満載 火山の痕跡
巨岩と滑沢 伊豆有数の落差誇る滝, 2022 年 4 月 21 日.

小山真人, 静岡新聞 伊豆半島の自然解説 小山静大教授が講座 浜松市中区, 2022 年 4 月
26 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 富士山噴火時の避難計画 渋滞回避へ徒歩移動も, 2022 年 4 月
28 日.

小山真人, 伊豆新聞 静大東部サテライトで開始 公開講座に 70 人, 2022 年 5 月 18 日.

小山真人, ニッキン(日本金融通信社) ちょっと一言 美しくも危険な富士山に魅了 住
民の防災意識向上へ一役, 2022 年 6 月 10 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆の低山を歩く ジオてくの楽しみ 79=蔵春院・玲瓏の滝・高塚山
(伊豆の国市), 2022 年 6 月 19 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 信頼性低い噴火警戒レベル 早急な検証と見直しを, 2022 年 6
月 30 日.

小山真人, 信濃毎日新聞 御嶽山訴訟 きょう地裁松本支部判決 警戒レベル どう言及
火山防災の行方 学者ら注視, 2022 年 7 月 13 日.

小山真人, 信濃毎日新聞 焦点 悲劇二度と…重い国の責任 御嶽山訴訟 レベル適切判
断へ人材育成の途上 自治体の主体的対応促す取り組み必要, 2022 年 7 月 14 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 御嶽山訴訟の判決 気象庁の実質的敗訴, 2022 年 8 月 25 日.

小山真人, 伊豆新聞 「現地で知識深めたい」 3 年ぶりジオガイド養成講座 認定目指し
各地から 31 人 美伊豆, 2022 年 10 月 17 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆の低山を歩く ジオてくの楽しみ 82=釜石山・熊野山・世古峡(伊
豆市), 2022 年 11 月 12 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 台風 15 号豪雨災害 巴川被害 分析し対策を, 2022 年 12 月
15 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆ジオ世界再認定 持続可能な発展へ 美伊豆 くす玉割り決意
新た, 2022 年 12 月 23 日.

小山真人, 伊豆新聞 源流を訪ねて 狩野川水系 深沢川 丹那断層の真上に川, 2023 年 1
月 12 日.

小山真人, 伊豆新聞 美伊豆 "ブリンの不思議" 大室山の研究成果 23 日、伊東で発表会,
2023 年 2 月 11 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 点群データ 県が整備 本格利用への方策を, 2023 年 2 月 16
日.

小山真人, 伊豆新聞 「山焼きが緑守る」 美伊豆発表会 伊東・大室山の魅力 東大院研
究員ら解説, 2023 年 2 月 24 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆の低山を歩く ジオてくの楽しみ 84=北野原東火山噴火口跡(伊
豆市), 2023 年 3 月 20 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 富士山火山避難基本計画 多様なシナリオでの訓練を, 2023 年 4 月 12 日.

小山真人, 静岡新聞 静大・小山教授に火山学会賞 大臣表彰も ハザードマップなど評価, 2023 年 5 月 27 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 手薄な県内の防災専門家 組織的な雇用と育成を, 2023 年 6 月 7 日.

小山真人, 静岡新聞 いのち守る 防災しずおか 新島・神津島近海震源 最大震度 5 弱 00 年群発の余震か ひずみ蓄積 警戒必要, 2023 年 6 月 11 日.

小山真人, 読売新聞静岡版 富士山火山防災啓発に尽力 静岡大 小山教授 文科大臣表彰 避難計画策定にも参加, 2023 年 6 月 24 日.

小山真人, 中日新聞 変わる顔 研究続けて 小山真人さん＝静岡大防災総合センター副センター長 <連載・富士山と私ー世界遺産登録 10 年>, 2023 年 6 月 25 日.

小山真人, 日本経済新聞 富士山、5000～4000 年前に 6 回噴火 山中湖湖底に火山灰, 2023 年 6 月 30 日.

小山真人, 静岡新聞 富士山 「未知の噴火」確認 東大など 5000～4000 年前少なくとも 6 回 山中湖地下に火山灰, 2023 年 7 月 1 日.

小山真人, 中日新聞 富士山 5000～4000 年前に 6 回噴火 空白期→活動確認, 2023 年 7 月 1 日.

小山真人, 伊豆新聞 伊豆の低山を歩く ジオてくの楽しみ 86=エサシノ峰火山 (伊豆市), 2023 年 7 月 19 日.

小山真人, 中日新聞 <目耳録>落石事故, 2023 年 7 月 19 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 富士山の溶岩到達範囲 過去の経験に固執 危険, 2023 年 8 月 2 日.

小山真人, 伊豆新聞 源流を訪ねて 狩野川水系 滑沢 最源流は三蓋山へ 滑沢火山がつくった溪谷, 2023 年 8 月 2 日.

小山真人, 静岡新聞 防災功労 総理大臣表彰 静岡大・小山教授らたたえる, 2023 年 9 月 16 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 伊豆東部のマグマ活動 海岸の隆起跡から解明, 2023 年 9 月 27 日.

小山真人, 読売新聞 富士山噴火や被害 解説 小山・静大教授 沼津高専で講演, 2023 年 10 月 5 日.

小山真人, 中日新聞 大室山 内部を解明 火山防災への活用に期待 静岡大, 2023 年 10 月 31 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 鳥島近海「謎の津波」 海底火山噴火が原因か, 2023 年 11 月 29 日.

小山真人, 朝日新聞 (惜別)松田時彦さん 地質学者・東京大名誉教授, 2024 年 2 月 3 日.

小山真人, 静岡新聞 時評 能登で生じた地震隆起 かつて県内も 対策柔軟に, 2024年2月28日.
 小山真人, 西日本新聞 読み解く 九州2原発拭えぬ懸念 伊方原発差し止め認めず 地震、
 噴火「新規制基準」を追認 各地で異なる司法判断, 2024年3月8日.
 小山真人, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか土曜版 富士山噴火の避難計画 中間
 報告, 2022年4月2日.
 小山真人, NHK総合 ブラタモリ #208「伊東〜伊東を人気温泉地にした“海と山の幸”
 とは?〜」, 2022年7月2日.
 小山真人, FMIS 集まれ! 静大三余塾 第3回, 2022年7月19日.
 小山真人, FMIS 集まれ! 静大三余塾 第4回, 2022年8月2日.
 小山真人, MBC 南日本放送 MBC NEWS 桜島最高のレベル5から1か月 火山防災協
 議会・噴火警戒レベルのあり方は, 2022年8月25日.
 小山真人, SBS テレビ 「富士山噴火」過去の痕跡は?…どうする避難計画 沼津市の“深
 謀遠慮”【わたしの防災】, 2023年4月26日.
 小山真人, テレビ朝日タモリステーション「富士山噴火 その時日本は? ~令和最新!生活シミ
 ュレーション~」, 2023年11月25日.
 小山真人, NHK たっぷり静岡 みんなで防災 三島に残る富士山噴火の爪痕は?, 2024
 年3月26日.
 小山真人, テレビ静岡 ただいま! テレビ ただいまプラス 伊豆東部火山群 避難計画
 修正 伊東市民 市外に広域避難へ, 2004年3月27日.
 三ヶ田均, インターネット・ラジオ「まきんこラジオ」, 「資源の減耗により人類社会はど
 う発展の道を探ることができるのか」で45分の対話型講演, 2023年10月11日.
 三井雄太, NHK(静岡), スロースリップ研究の最前線, 2023/12/22.
 三井雄太, 中日新聞, 地殻変動 宇宙から測定, 2023/12/21.
 三井雄太, 静岡放送, プレート境界で何が起きているのか 監視は重要 “スロー地震”に注
 目, 2023/3/10.
 望月美希, 朝日新聞朝刊(紙面・デジタル)、能登半島地震から 避難、ふるさとを離れて、
 2024年3月2日
 望月美希、静岡新聞朝刊、令和4年9月24日台風被害に関するシンポジウムに関する報
 道、2023年8月21日
 村越 真、「認知症世界の歩き方」2022.8.14 NHK 総合TV。
 中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災から12年、関東大震
 災から100年, 2023年3月8日
 中川和之、一般社団法人日本建設業連合会広報誌「ACE 建設業界」座談会シリーズ「建設
 業のミライを共創する」vol.4 ミライにつなぐ事前防災, 2022年10月
 中川和之, 46回ラジオ日本防災キャンペーン横浜防災フェア 2022 特別番組「〜防災をはじ
 めよう!〜」, 2022年9月1日

楠城一嘉, 〈千葉・4日間で16回地震〉SNSには「千葉の地震怖い」偶発する千葉沖地震は巨大地震の前ぶれなのか? 専門家に聞いてみた, 集英社オンライン, 2024年3月2日, <https://shueisha.online/newstopics/199506>.

楠城一嘉, 能登半島西側で余震急減? でも楽観は禁物 今後の地震、専門家は, 毎日新聞, 2024年2月1日, <https://mainichi.jp/articles/20240201/k00/00m/040/103000c>.

楠城一嘉, 震災の教訓と伝えたいこと, うえるかむ(発行元: 復興ボランティア支援センターやまがた), 第165号, 2024年2月21日, <https://tsunagarou.net/welcome/16802/>.

楠城一嘉, 地震防災対策や研究成果紹介 静岡県立大がシンポ 災害情報活用法も議論, 静岡新聞, 2024年1月16日, <https://www.ats.com/news/article/shizuoka/1393787.html>.

楠城一嘉, 「防災レベル高めて」楠城特任教授が講演 吉田町, 静岡新聞, 2023年9月26日, <https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1324062.html>.

楠城一嘉, 大学コンソーシアムの全国大会(第20回全国大学コンソーシム研究交流フォーラム)を静岡県で初開催!, BtoB プラットフォーム業界 Ch, 2023年8月28日, <https://b2bch.infomart.co.jp/news/amp/detail.page?IMNEWS1=4231068>.

楠城一嘉, 富士山の火山活動や噴火時の避難など考える研究会 富士宮市, 静岡 NEWS WEB, 2023年8月29日, <https://www3.nhk.or.jp/lnews/shizuoka/20230829/3030021362.html>.

楠城一嘉, 富士山噴火の研究共有 溶岩流避難、地形の特性 鍵 富士宮で報告, 静岡新聞, 2023年8月30日, <https://www.ats.com/news/article/shizuoka/1307046.html>.

楠城一嘉, 富士山のマグマ活動監視で新手法 県立大学などの研究グループ 2023年7月31日, NHK, <https://www3.nhk.or.jp/lnews/shizuoka/20230731/3030021029.html>.

楠城一嘉, 富士山マグマ監視に新手法 県立大・楠城特任教授ら/低周波地震検知、変化見逃さず, 2023年7月28日, 中日新聞, <https://www.chunichi.co.jp/article/737489>.

楠城一嘉, 富士山直下で起きる地震のデータ処理に基づきマグマ活動を監視する新手法を開発, Tii 技術情報, 2023年7月10日, <https://tiisys.com/blog/2023/07/11/post-124153/>.

楠城一嘉, 自由研究の参考書にこちらの本はいかがでしょうか?, 防災アワー, 2022年7月24日, <https://www.joqr.co.jp/qr/article/59509/>.

楠城一嘉, 【技術・仕組】富士山噴火に備えたマグマ活動監視に新手法が開発されました - 静岡県立大学, TEAM 防災ジャパン, 2023年7月12日, <https://bosaijapan.jp/news/> 【技術・仕組】富士山噴火に備えたマグマ活動監.

楠城一嘉, 千葉で最大震度5強 相次ぐ地震 南海トラフ巨大地震に影響は?, 静岡朝日テレビ とびっきり! しずおか, 2023年5月11日.

楠城一嘉, 「島とか向こうの方だけど心配」伊豆半島で地震相次ぐ“海底噴火”に懸念の声も…専門家は「関係性なし」, 2023年5月15日, <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/487002?display=1&mwplay=1>.

楠城一嘉, 千葉で震度5強…南海トラフ地震との関連は? 専門家「全く違うもの」も対策は

不可欠, SBS, 2023 年 5 月 11 日, <https://newsdig.tbs.co.jp/articles//481470?display=1>,
https://www.youtube.com/watch?v=F_XV4UW23ok.

楠城一嘉, トルコ大地震について, TRT World (television) in Istanbul, 2023 年 2 月 14 日.

楠城一嘉, 防災・復興 明日をまもるナビ (71), NHK, 2023 年 1 月 29 日.

楠城一嘉, 阪神大震災から 28 年 南海トラフへの備え, とびっきり! しずおか, 2023 年 1 月 17 日, <https://www.nhk.or.jp/ashitanavi/>.

楠城一嘉, 温泉から伊豆の資源理解 県内高校生大学生 専門家講義や現地視察, 伊豆日日新聞, 2022 年 11 月 9 日.

楠城一嘉, 伊豆の地域資源 大学生ら学ぶ, 読売新聞, 2022 年 11 月 9 日.

楠城一嘉, SDGs に関する高校生国際会議への教員派遣, 2022 年 7 月 29 日, <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/sdgs/highschool/20220729b/>.

楠城一嘉, 県東部で地震相次ぐ 巨大地震・富士山噴火との関連は?, とびっきり! しずおか 土曜版, 静岡朝日テレビ, 2022 年 7 月 30 日.

楠城一嘉, 頻発する地震 富士山噴火との関連は?, LIVE Q(ライブキュー), LIVE しずおか, SBS テレビ, 2022 年 7 月 26 日, <https://news.yahoo.co.jp/articles/89822ec7b390af9fcac3c54c604e196a9a6bb61e>,
<https://www.youtube.com/watch?v=r-YVK9BbDD0>

楠城一嘉, 原子力の安全利用へ 研究者が成果を発表 静岡・御前崎市, テレビ静岡, 2022 年 7 月 23 日, <https://www.sut-tv.com/news/indiv/17233/>.

楠城一嘉, 原子力の安全に関する研究成果の発表会 中部電力, まおまお chNEWS, 御前崎 ケーブルテレビ, 2022 年 7 月 29 日.

楠城一嘉, 親子で学ぶ! こども防災講座, 地震防災チェック, 静岡第一テレビ, 2022 年 7 月 16 日.

楠城一嘉, 11 am 備えるクラブ, RADIO-F844, 2022 年 7 月 12 日, 26 日.

楠城一嘉, 大学生・高校生向け読み物「地震と火山と防災のはなし」を刊行, 静岡県立大学 はばたき, 145 号, 8 ページ, <https://www.u-shizuokaken.ac.jp/media/habataki145.pdf>.

楠城一嘉, 書評 楠城一嘉 編著 地震と火山と防災のはなし, 日本地震学会ニュースレター, 第 75 巻, NL2 号, 17-18, 2022 年 7 月 10 日, <https://www.zisin.jp/publications/pdf/newsletter/75NL2.pdf>.

楠城一嘉, とっても分かりやすい 防災の本, 2022 FM いずのくに発行「クラブ いずのくに マガジン」, vol.36, 7・8・9 月, 2022 年 7 月 1 日.

楠城一嘉, 巨大地震と富士山噴火 私たちにできる備えは?, とびっきり! しずおか土曜版, 静岡朝日テレビ, 2022 年 6 月 4 日.

楠城一嘉, 書評 地震と火山と防災のはなし 楠城一嘉編著, 東日新聞, 2022 年 5 月 17 日.

楠城一嘉, 地震火山の仕組み解説 伊豆半島題材 防災本を発行 専門家 8 人が執筆, 伊豆新聞, 2022 年 4 月 19 日.

楠城一嘉, 静岡県の自然災害解説 大学・高校生向け出版 楠城県立大特任准教授ら, 静岡新聞, 2022 年 4 月 12 日.

楠城一嘉, 中部電力公募 研究 10 件採択 原子力関連, 静岡新聞, 2022 年 4 月 7 日.

楠城一嘉, 原子力公募研究 22 年度分に 10 件 中部電力が採択, 電気新聞, 2022 年 4 月 7 日.

楠城一嘉, 頻発する地震、これって何なの?, LIVE Q(ライブキュー), LIVE しずおか, SBS テレビ, 2022 年 4 月 5 日 18:15-19:00, (1 日に震度 3 以上を 4 回観測 今後への影響は?, <https://news.yahoo.co.jp/articles/9c754c7159bee7b6c6b1fd4fa990765de618ac45>).

Ohtani, E.: EurekAlert, Diamonds and X-ray open the into the Earth's inner core. Nov 28, 2022.

Ohtani, E.: SciTechDaily, Redefining Earth's Core: Synchrotron Reveals Hidden Light Material, Sept 11, 2023.

佐藤比呂志, 東京予測首都直下 7 級地震六千人死亡, 香港フェニックステレビ, 2022 年 6 月 6 日.

佐藤比呂志, Japan's larger than expected new year's day earthquake, The Super Radio Network News, Sydney, Australia, January 10, 2024.

佐藤比呂志, 新潟日報, 佐渡沖に「割れ残り」断層 M7 級地震で津波 3 メートル、防災計画更新を, 2024 年 1 月 27 日

佐藤比呂志, 能登半島の発生前 地下で何が 日本列島誕生にかかわる多数の逆断層 活動, 朝日新聞朝刊, 2024 年 3 月 8 日.

佐藤比呂志, 新潟日報, 能登の警鐘 地震と防災, 2024 年 3 月 21 日

佐藤 健, 河北新報, 「学校防災向上へ情報交換 石巻推進会議が本年度初会合」, 2022.7.7

佐藤 健・桜井愛子, 石巻日日新聞, 「『柔軟対応と日頃の情報共有』災害研究のプロ助言 鹿妻小・防災会議 校舎以外の津波避難先検討」, 2022.9.14

佐藤 健, 河北新報, 「新津波想定 備え万全に 専門家交え学校防災推進会議」, 2022.9.23

佐藤 健, 石巻かほく, 「命守る行動 意見交換 6 年生 地区の災害特性学ぶ」, 2022.10.20

佐藤 健, 河北新報, 「防災意識 発表で高める 塩釜二中パネル討論に 100 人」, 2022.11.16

佐藤 健, 河北新報, 「仙台藩亙理領藩士の北海道開拓が縁 5 市町 地域防災対応学ぶ」, 2022.12.5

佐藤 健, 河北新報, 「高校生 防災の基礎学ぶ 50 人ジュニアリーダー認定 石巻で研修会」, 2022.12.25

佐藤 健, 河北新報, 「次世代の防災担い手に 石巻でジュニアリーダー養成研修会」, 2022.12.27

佐藤 健, 石巻日日新聞, 「復興・防災マップコンクール 記事に住民の声も反映」, 2023.1.24

佐藤 健, 河北新報, 「中高生 防災の輪広げる 多賀城高でワークショップ」, 2023.1.28

佐藤 健, 石巻かほく, 「石巻市復興・防災マップコンクール 小中学生「命守る」に高い関心」, 2023.1.31

佐藤 健, 読売新聞, 「学校の防災 教員ら学ぶ 岩沼でフォーラム」, 2023.1.31

佐藤 健, 河北新報, 「岩沼で安全フォーラム「地域との連携実感」」, 2023.2.3

佐藤 健, 石巻かほく, 「震災を知らない世代へ 命守る学習、模索 石巻地方」, 2023.3.11

佐藤 健, 河北新報, 「学校避難先 見直しの動き」, 2023.4.24

佐藤 健, 河北新報, 「石巻の復興 本音で語る」, 2023.5.9

佐藤 健, 河北新報, 「命守る取り組み確認」, 2023.5.26

佐藤 健, TBC ラジオ, 「3.11 みやぎホットライン宮城沖地震から 45 年」, 2023.6.12

佐藤 健, 河北新報, 「防災の取り組み市民共有」, 2024.2.3

佐藤 健, 河北新報, 「津波避難 教職員考える」, 2024.2.27

佐藤 健, 読売新聞, 「集団避難 学習継続の意義」, 2024.3.7

田阪美樹, 河合塾みらいぶっく (2024 年 3 月) <https://miraibook.jp/researcher/k23031>

牛山素行, SBS テレビ, 土砂崩れの予兆? 住民から不安の声 いま取るべき対策は, 2022/04/14.

牛山素行, RCC 中国放送, 去年 8 月の大雨 「分散避難」の意識高まる 親戚の家やホテルなど 広島県アンケート, 2022/05/13.

牛山素行, 読売新聞, 家族同意で災害時氏名公表 死者・行方不明者 県が方針策定＝鹿児島, 2022/05/19.

牛山素行, 岩手日報, 全員避難 浸透せず 「指示」一本化から 1 年 豪雨に備え周知課題, 2022/05/19.

牛山素行, 秋田魁新報, 「避難指示」一本化から 1 年 全員避難 浸透せず 発令判断にも課題残る, 2022/05/19.

牛山素行, 河北新報, 「全員逃げる」 浸透遠く／避難情報の「指示」一本化 1 年／豪雨の季節目前 周知急務, 2022/05/20.

牛山素行, 長崎新聞, 避難指示一本化から 1 年／全員避難 住民に浸透せず／豪雨の季節目前 周知課題, 2022/05/20.

牛山素行, 中国新聞, 「避難指示」浸透せず 「勧告」と一本化 1 年 実績低調 悩む自治体, 2022/05/20.

牛山素行, 京都新聞, 防災を考える 大雨 “全員避難” 浸透せず 自治体の「勧告」→「指示」一本化から 1 年, 2022/05/24.

牛山素行, 熊本日日新聞, 「全員避難」も行動鈍く 災害時「指示」一本化浸透せず 危険周知発令判断に課題, 2022/05/24.

牛山素行, 静岡朝日テレビ, あすから ”線状降水帯”の予測発表 専門家「雨が降るかどうかに注目を」, 2022/05/31.

牛山素行, NHK, 予測技術で早期避難は果たせるか, 2022/06/03.

牛山素行, 静岡新聞朝刊 26 面, 『時評』土砂災害警戒区域 住家ない場所 注意必要, 2022/06/08.

牛山素行,SBS(静岡放送)ラジオ「IPPO」,土砂災害の備え,2022/06/08.

牛山素行,静岡新聞朝刊 29 面,線状降水帯の留意点紹介,2022/06/16.

牛山素行,愛媛新聞,豪雨備え情報活用を 「紫色」で全員避難必要 気象庁サイト「キキクル」 危険度 地図上に色分け,2022/06/19.

牛山素行,NHK ラジオ,マイあさ!「水害から命と暮らしを守る」(3) いつ逃げる? どう逃げる?,2022/06/23.

牛山素行,NK ラジオ「ジャーナルクロス」,水害からどう身を守る?,2022/06/24.

牛山素行,RCC 中国放送,大雨ハザードマップの盲点〜「色が塗られていない=安全」ではない〜,2022/06/24.

牛山素行,佐賀新聞,備え 防災さが= 紫になったら「全員避難」 気象庁サイト「キキクル」 30 日から 大雨危険度地図上で色分け,2022/06/25.

牛山素行,長崎新聞,特集 豪雨に備える/情報活用で命を守る/気象庁サイト「キキクル」/ 地図「紫色」なら全員避難,2022/06/28.

牛山素行,ニッポン放送「辛坊治郎 ズーム そこまで言うか!」,乱立する気象警報 避難情報 災害情報のあり方とは,2022/06/28.

牛山素行,河北新報,ズームアップ/豪雨に備える/「キキクル」情報活用を,2022/06/29.

牛山素行,読売新聞,災害不明者公表 迅速な救助へ直結 「熱海」経て 理解浸透,2022/07/01.

牛山素行,神奈川新聞,牛山素行・静岡大防災総合センター教授(災害情報学)の話/気象庁ウェブサイト「キキクル」,2022/07/03.

牛山素行,静岡朝日テレビ,報道特別番組 7月3日 熱海土石流から1年,2022/07/03.

牛山素行,NHK,WEB特集 何が生死を分けるのか 首都圏の大雨被害で見えたポイントは,2022/07/13.

牛山素行,NHK,何が生死を分けるのか 首都圏の大雨被害で見えたポイントは,2022/07/13.

牛山素行,NHK,埼玉 記録的大雨から1週間 見えてきた命を守るポイントは?,2022/07/20.

牛山素行,NHK,各地で猛烈な雨 埼玉などで道路冠水相次ぐ 専門家「冠水道路無理に通りは抜けないで」,2022/07/28.

牛山素行,NHK,埼玉 山梨で猛烈な雨 浸水や川の増水・土砂災害に厳重に警戒,2022/07/28.

牛山素行,NHK,WEB特集 『まさかここで』の土砂災害はどこで?…全国調査しました,2022/07/29.

牛山素行,NHK,「まさかここで」の土砂災害はどこで?…全国調査しました,2022/07/29.

牛山素行,静岡新聞朝刊 24 面,『時評』災害時の避難行動 成功例より基礎固めを,2022/08/03.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,東北地方の大雨関係,2022/08/04.

牛山素行,テレビ朝日「サタデーステーション」,台風 8 号災害関係,2022/08/13.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,台風 8 号災害関係,2022/08/13.

牛山素行,NHK(秋田),大雨で氾濫した7河川 浸水範囲・深さの想定なし,2022/08/15.

牛山素行,京都新聞,災害不明者公表 家族同意は? 心情配慮のため必要/迅速救助へ必要なし 割れる自治体 京都府「検討中」滋賀県「事前同意努める」,2022/08/22.

牛山素行,日本農業新聞,〔論説〕 猛烈台風11号 流れる水には近づくな,2022/09/01.

牛山素行,日経コンストラクション,特集2 データ時代にのまれるな~データ活用社会の岐路,2022/09/01.

牛山素行,日経コンストラクション,行政に立ち塞がる膨大なデータの壁,2022/09/01.

牛山素行,CBC ラジオ「北野誠のズバリサタデー」,「災害の起こる場所とは?」,2022/09/03.

牛山素行,NHK,台風14号 専門家「ふだん安全な場所も危険 遠くの移動避けて」,2022/09/18.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,台風14号災害関係,2022/09/19.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session」,台風14号日本列島を北上中,2022/09/19.

牛山素行,静岡新聞朝刊 27面,七夕豪雨の恐怖再び 人為的盛り土 被害拡大も 県内一 夜明け爪痕あらわに 急激な変化予想難しく,2022/09/25.

牛山素行,岩手日報,★特集★ 増える土砂災害 対策は,2022/09/25.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,台風15号災害関係,2022/09/26.

牛山素行,静岡新聞朝刊 24面,『時評』 台風15号による記録的豪雨 地形の危険性 把握重要,2022/09/28.

牛山素行,テレビ静岡,台風15号災害関係,2022/09/29.

牛山素行,テレビ静岡,台風15号災害関係,2022/09/30.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」,台風15号災害関係,2022/09/30.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,台風15号災害関係,2022/10/01.

牛山素行,静岡新聞朝刊 26面,台風15号 浸水推定図作らず 県内職者「重要な資料、作成の体制構築を」,2022/10/08.

牛山素行,西日本新聞,土砂災害 40年間で約1.6倍に 最多は2018年3459件 九州でも頻発 短時間強雨の増加や台風の大型化が原因/あんしん安全,2022/10/12.

牛山素行,長崎新聞,特集 土砂災害/40年間で1.6倍に/短時間強雨増加 台風大型化/温暖化影響 最多は2018年 3459件,2022/10/16.

牛山素行,読売新聞,〔防災ニッポン〕 土砂災害への備え シナリオ 大雨 都市部にも避難指示,2022/10/17.

牛山素行,NHK,WEB特集 2人が亡くなった町 大雨で田んぼを見に行く農家の本音とは,2022/10/21.

牛山素行,NHK,2人が亡くなった町 大雨で田んぼを見に行く農家の本音とは,2022/10/21.

牛山素行,中日新聞, 避難ごく少数でも 緊急メール 自助意識を喚起 浜松市「空振り恐れず」,2022/11/07.

牛山素行,岩手日報,★転換 津波防災 県最大クラス想定★(下) 逃げ遅れを防ぐ 現実

的な避難計画を,2022/11/18.

牛山素行,静岡新聞朝刊 30 面,『時評』「緊急安全確保」の意味 避難所より次善の行動,2022/11/23.

牛山素行,静岡新聞朝刊 29 面,『ニュース BOX』 複雑な防災気象情報 整理に本腰 気象庁 来年度内に新枠組み 専門家「改善へ継続を」,2022/12/14.

牛山素行,河北新報,警報など約 40 種乱立「分かりづらい」／防災気象情報 整理に本腰／気象庁,2022/12/14.

牛山素行,東奥日報,分かりづらい防災情報 整理 気象庁 23 年度内に新枠組み,2022/12/14.

牛山素行,神戸新聞,防災気象情報 増え続け 40 種類 特別警報 記録的短時間大雨 避難警戒レベルとの関係 「分かりづらい」 自治体指摘 気象庁改善へ,2022/12/14.

牛山素行,長崎新聞,乱立する防災情報／気象庁 警報など整理へ／警戒レベルとの関係 自治体「分かりづらい」,2022/12/14.

牛山素行,佐賀新聞,多過ぎる防災情報 気象庁が整理へ 警報乱立 自治体「分かりづらい」,2022/12/14.

牛山素行,宮崎日日新聞,気象庁／警報 記録的短時間大雨…乱立／防災情報整理に本腰／「分かりづらい」指摘受け,2022/12/14.

牛山素行,山陽新聞,防災情報整理に本腰 気象庁 23 年度新枠組み 乱立し複雑 「分かりづらい」指摘,2022/12/14.

牛山素行,東京新聞,防災気象情報 整理に本腰 似通った種類が乱立「分かりづらい」 気象庁に検討会「継続して検証 制度必要」,2023/01/06.

牛山素行,中日新聞社,防災気象情報 整理に本腰 似通った種類が乱立「分かりづらい」 気象庁に検討会「継続して検証 制度必要」,2023/01/06.

牛山素行,静岡新聞朝刊 28 面,『時評』災害情報の要約 「分かりやすさ」弊害も,2023/01/25.

牛山素行,読売新聞,災害時「警察官も避難」 県警 ポスターに文言 周知へ＝静岡,2023/01/28.

牛山素行,岩手日報,★次への備え 大震災から 12 年★ 警報時「車で避難」 51% 遺族不明者家族アンケート 地域や対象限り容認 45%,2023/03/06.

牛山素行,中国新聞,不明者名公表案 評価の声 災害時指針 国が近くまとめる 円滑運用への懸念も,2023/03/09.

牛山素行,静岡新聞朝刊 25 面,災害リスク事前確認を 防災学講座 牛山静岡大教授が講演,2023/03/19.

牛山素行,静岡新聞朝刊 21 面,『時評』自然災害の「教訓」 基礎知識が対応力育む,2023/03/22.

牛山素行,静岡新聞朝刊 27 面,昨年の台風 15 号住家被害 消防庁に報告 静岡市 6700 棟重複計上 床上？半壊？定義で混乱 教訓として社会的議論を,2023/04/14.

牛山素行,信濃毎日新聞,南海トラフ地震 災害廃棄物対策強化、計画策定状況を報告 中部

圏戦略会議,2023/05/16.

牛山素行,静岡新聞朝刊 6 面,『時評』県警の津波避難ポスター 警察官も安全確保第一,2023/05/17.

牛山素行,岩手日報社,★フロントライン いわて2023★ 災害死者の氏名 原則公表へ国基準を,2023/05/21.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Sessino」,台風・大雨関係,2023/06/01.

牛山素行,"岩手日報社.

",防災マイスター結末の輪 陸前高田 講座認定者有志で新組織 地域の備え向上目指す,2023/06/01.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり静岡」,大雨関係,2023/06/02.

牛山素行,NHK ニュース,東海地方や長野で最多雨量超の大雨になるか 日本気象協会推計,2023/06/02.

牛山素行,テレビ静岡,「線状降水帯」発生情報が出たらどうする? 静岡県で4回…大きな被害 災害専門家に聞く,2023/06/05.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり静岡」,大雨関係,2023/06/05.

牛山素行,NHK ニュース,先週末の大雨100年に1度より頻度が低い「まれな雨」,2023/06/06.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版」,再び決壊した敷地川を防災の専門家と現地リポート,2023/06/09.

牛山素行,NHK 和歌山県のニュース,真国川 流された2人 当時の状況は,2023/06/12.

牛山素行,NHK 和歌山県のニュース,記録の大雨 男女2人流された真国川流域で専門家が現地調査,2023/06/13.

牛山素行,NHK ニュース,浸水想定未公表の川で氾濫相次ぐ 和歌山の記録的な大雨を検証 教訓は ,2023/06/14.

牛山素行,NHK ラジオ #ジャーナルクロス,「水害からどう身を守る?」,2023/06/18.

牛山素行,広島テレビ,【いま動こう、みんなで防災プロジェクト】大雨災害の危険,2023/06/21.

牛山素行,NHK 香川局「ゆう6かがわ」,中小河川の注意点,2023/06/22.

牛山素行,読売新聞社,学校の水害対策 実効性優先 初の手引 文科省が作成,2023/06/28.

牛山素行,NHK ラジオ #マイあさ ,けさの“聞きたい”「水害の最新死亡事例 分析からみえること」,2023/06/29.

牛山素行,NHK 首都圏ネットワーク,地的大雨 避難体制確保の難しさ,2023/07/03.

牛山素行,NHK 埼玉 NEWS,越谷 浸水被害時の避難所開設に4時間以上 対策検討へ,2023/07/03.

牛山素行,NHK 岩手県のニュース,津波避難計画を策定 車による避難ルールづくりの論点整理,2023/07/05.

牛山素行,テレビ静岡 NEWS,静岡県で突風被害…竜巻注意情報が出たらどうしたらいい

の？ 防災専門家に聞く,2023/07/05.

牛山素行,読売新聞社,津波避難新計画 有識者と 陸前高田市 自動車避難など検討＝岩手,2023/07/06.

牛山素行,岩手日報社,★次への備え★ 復興のまち陸前高田 最大津波想定 命守る有識者組織 車避難など検討 24年度末計画策定へ,2023/07/06.

牛山素行,山陽新聞,西日本豪雨5年 水害経験どう生かす 岡山で30日、防災シンポ,2023/07/06.

牛山素行,NHK ニュース「おはよう日本」,災害「共助」活動での死亡 20年余で11人 “慎重に考えるべき” ,2023/07/07.

牛山素行,毎日新聞社,津波避難計画：津波避難計画で専門家が初会合 陸前高田 ／岩手,2023/07/07.

牛山素行,MBS ラジオ,豪雨の際に屋外に出る危険,2023/07/09.

牛山素行,NHK ニュースウォッチ 9,久留米市土砂災害関係,2023/07/11.

牛山素行,静岡新聞朝刊 6面,『時評』風水害での安全確保 目標は避難不要の生活,2023/07/12.

牛山素行,日経新聞朝刊 35面,夜間「避難指示」難しさ露呈,2023/07/12.

牛山素行,日本経済新聞,夜間「避難指示」難しさ露呈、九州大雨、発令前に土砂災害も 防災人材の育成重要に,2023/07/12.

牛山素行,朝日新聞社,豪雨時の休校判断、悩む現場 避難指示の前か後か、全域か一部か 福岡、対応分かれる,2023/07/14.

牛山素行,NHK ニュース,東北 16日にかけて大雨のおそれ 北陸・新潟も土砂災害に警戒を,2023/07/15.

牛山素行,西日本新聞社,土石流が起きた久留米市田主丸 当地の「過去最大降雨」が集中研究者 「特徴的な危険な降り方」／あんしん安全,2023/07/19.

牛山素行,NHK ニュース 7,秋田 八郎潟町 浸水の車中で男性が死亡した現場 専門家が調査,2023/07/20.

牛山素行,読売新聞社,大雨1週間 秋田 避難、断水続く 水位急変「都市型災害」,2023/07/23.

牛山素行,秋田魁新報社,<県内記録的大雨>浸水の爪痕（上） [秋田市・時機逸した避難指示] 地区の細分化、あだに 識者「住民、主体的に判断を」,2023/07/23.

牛山素行,山陽新聞,西日本豪雨5年 地域の防災力高めて 被災住民、専門家訴え 岡山でシンポ,2023/07/31.

牛山素行,山陽新聞社,滴一滴 災害リスクを知っておく,2023/08/05.

牛山素行,北海道新聞社,<風・論説委員会から>相内亮*見過ごせない共助死,2023/08/06.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Sessino」,台風への備え,2023/08/09.

牛山素行,NHK ニュース,台風7号最新情報 暴風域伴い北上 来週 強い勢力で東・西日本

へ,2023/08/10.

牛山素行,静岡朝日テレビ とびっきり しずおか,台風関係,2023/08/15.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Sessino」,台風への備え,2023/08/16.

牛山素行,SBS テレビ LIVE しずおか,,2023/08/16.

牛山素行,読売新聞社,[検証 大雨1か月](上)中心部浸水 江戸期も 秋田駅周辺 昔は沼地=秋田,2023/08/18.

牛山素行,テレビ静岡,台風15号の教訓学ぶシンポジウム「台風の中心にばかり目を向けないで」,2023/08/20.

牛山素行,NHK おはよう日本,「特別警報」運用10年 “大雨”では発表の9割余のケースで被害,2023/08/30.

牛山素行,東奥日報社,特別警報10年 伝え方改善 25回発表 情報定着も精度検証不十分,2023/08/31.

牛山素行,京都新聞社,特別警報10年 発表は25回 情報定着も被害検証不十分,2023/08/31.

牛山素行,琉球新報社,「特別警報」開始10年/災害危険 伝え方模索/被害検証に課題も,2023/08/31.

牛山素行,山陽新聞社,「特別警報」改善の10年 気象庁 西日本豪雨など25回発表 どんな被害出たか 「検証不十分」指摘も,2023/08/31.

牛山素行,山陽新聞社,「特別警報」改善の10年 気象庁 西日本豪雨など25回発表 どんな被害出たか 「検証不十分」指摘も,2023/08/31.

牛山素行,読売新聞社,高齢化 避難「共助」に影 南海トラフ地震 「個別計画」実効性乏しく,2023/09/01.

牛山素行,読売新聞社,南海トラフ地震 津波避難 高齢化の壁 住民の高台移転 進まず,2023/09/01.

牛山素行,信濃毎日新聞社,特別警報、被害検証は途上 気象庁が運用10年、精度向上し定着の一方で 専門家「過去データ基に危険性伝えて」,2023/09/01.

牛山素行,中国新聞社,「特別警報」徐々に定着 運用開始10年 伝え方改善続く 専門家「精度の検証不十分」,2023/09/01.

牛山素行,佐賀新聞,「特別警報」運用10年 伝え方改善を重ね定着 「精度の検証不十分」指摘も,2023/09/02.

牛山素行,岩手日報社,特別警報 改善重ね10年 気象分野で25回発表、検証に課題も,2023/09/04.

牛山素行,中日新聞社,気象の特別警報 被害検証に課題 10年で25回発表 伝達表現改善,2023/09/04.

牛山素行,静岡新聞朝刊6面,「時評」 具体的な危険性 例示を,2023/09/05.

牛山素行,福島民友新聞,「線状降水帯」で危険度が急変、いわき市内、発生場所想定でき

ず,2023/09/12.

牛山素行,NHK ニュースウォッチ 9,水害時の避難,2023/09/14.

牛山素行,日経新聞夕刊 9 面,特別警報、伝え方改善探る,2023/09/15.

牛山素行,日本経済新聞,特別警報、伝え方改善探る 運用 10 年で 25 回発表,2023/09/15.

牛山素行,静岡新聞朝刊 27 面,災害時の避難誘導や救助、見回りで被害 共助死に警鐘,2023/10/06.

牛山素行,読売新聞社,災害死 氏名基本公表へ 県 遺族の同意など条件付き＝大分,2023/10/14.

牛山素行,静岡新聞朝刊 6 面,『時評』 「内水氾濫」への誤解 耳慣れぬ言葉 冷静に議論,2023/10/31.

牛山素行,NHK 首都圏ネットワーク,ドラレコ映像から見た大雨時運転の落とし穴,2023/11/08.

牛山素行,MBS ラジオ , 「救助で命を落とさないために」,2023/11/12.

牛山素行,西日本新聞社,ホテルへの分散避難 台風接近、大雨予報… 警戒レベル 3 で要配慮者に 27 自治体の補助制度 日本気象協会などが分析／あんしん安全,2023/11/22.

牛山素行,NHK ニュース,防災気象情報改善案 検討会の専門部会座長 「住民啓発とともに市町村支援も必要」,2023/12/06.

牛山素行,日テレ NEWS, “わかりにくい” 防災気象情報 名称・発表基準を統一へ見直し進む,2023/12/07.

牛山素行,SBS テレビ LIVE しずおか,【わたしの防災】自分の命が… “共助” のリスク 「危険性の見極め」が必要に,2023/12/12.

牛山素行,静岡新聞朝刊 23 面,交通網寸断 「陸の孤島」,2024/01/05.

牛山素行,北海道新聞,道路寸断 救援に壁＊能登地震 7 2 時間＊「陸の孤島」全容見えず＊不明者公表 捜索急ぐ,2024/01/05.

牛山素行,岩手日報,交通網寸断「陸の孤島」 能登半島地震 通行止めに渋滞… 安否確認、物資輸送難しく,2024/01/05.

牛山素行,東奥日報,能登半島地震 交通網寸断「陸の孤島」に 全容見えず募る不安,2024/01/05.

牛山素行,下野新聞,表層深層／能登半島地震／被災地「陸の孤島」に／道路損壊、電波状況も悪化…,2024/01/05.

牛山素行,東京新聞,核心 能登半島地震 「陸の孤島」いまだ全容不明 交通網寸断 救援本格化阻む 安否確認も困難 石川県、不明者公表し対応,2024/01/05.

牛山素行,信濃毎日新聞,焦点＝足りぬ、届かぬ、奥能登 交通網大打撃「陸の孤島」化,2024/01/05.

牛山素行,京都新聞,表層深層 交通網寸断 「陸の孤島」に 能登地震 被害全容見通せず 被災者悲痛「物資足りない」,2024/01/05.

牛山素行,神戸新聞,能登半島地震 「陸の孤島」滞る救助 港湾や空港損壊、道路渋滞,2024/01/05.

牛山素行,中国新聞,表層深層 交通網寸断 募る不安 能登半島地震 輪島や珠洲 780人孤立,2024/01/05.

牛山素行,愛媛新聞,交通寸断 陸の孤島 能登半島地震 救援困難 医療にも影響,2024/01/05.

牛山素行,西日本新聞,能登地震 安否不明179人 72時間 被害全容見えぬまま 交通網寸断 安否確認難航,2024/01/05.

牛山素行,熊本日日新聞,表層深層＝交通網寸断「陸の孤島」に 能登地震 人命救助へ不明者氏名公表 ,2024/01/05.

牛山素行,佐賀新聞,＝表層深層＝ 交通網寸断、陸の孤島 能登半島地震 被害全容見通せず、募る不安,2024/01/05.

牛山素行,沖縄タイムス,〔表層深層〕「陸の孤島」 救援難航／患者搬送 車で7時間／土砂崩れや陥没 道路寸断／能登半島地震,2024/01/05.

牛山素行,琉球新報,<表層深層>能登半島地震／交通網寸断「陸の孤島」に／発生72時間超 被災者不安募る,2024/01/05.

牛山素行,山陽新聞,表層深層 能登半島地震 道路寸断「陸の孤島」 海上から重機 自衛隊投入 被害全容見通せず,2024/01/05.

牛山素行,四国新聞,表層深層＝能登半島地震 交通網寸断、陸の孤島に 救援本格化も全容見えず,2024/01/05.

牛山素行,神奈川新聞,能登半島地震／交通網寸断「陸の孤島」／募る不安、被害の全容見通せず,2024/01/05.

牛山素行,時事通信,不明者公表で救助加速へ＝専門家「ためらわず出して」－能登地震,2024/01/07.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Sessino」,能登半島地震での土砂災害,2024/01/10.

牛山素行,静岡新聞朝刊 18面,いのち守る 防災静岡 死者氏名も情報として重要,2024/01/14.

牛山素行,産経新聞,【花田紀凱の週刊誌ウォッチング】(958),2024/01/14.

牛山素行,産経新聞,【論点】能登地震2週間 安否不明公表 氏名は人間が存在したという情報,2024/01/15.

牛山素行,岩手日報,氏名の公表 分かれる判断 石川県が犠牲者23人分初公表 能登半島地震 「遺族同意」条件の自治体増える,2024/01/16.

牛山素行,東奥日報,死者名初公表 馳知事「公益性ある」 23人中18人は家屋倒壊,2024/01/16.

牛山素行,信濃毎日新聞,能登地震の犠牲者氏名公表 牛山素行教授に聞く 災害対策の上でも重要情報,2024/01/16.

牛山素行,中日新聞,能登半島地震 地震犠牲者の氏名公表 石川県 遺族同意の23人,2024/01/16.

牛山素行,京都新聞,能登地震 犠牲者氏名 23人初公表 石川知事「公益性ある」,2024/01/16.

牛山素行,神戸新聞,能登半島地震 死者の氏名公表、割れる判断 「遺族同意」の条件 増加傾向,2024/01/16.

牛山素行,週刊新潮,孤絶「震源地」徹底取材「能登大地震」の“生と死”,2024/01/18.

牛山素行,NHK「ニュース 7」など,能登半島地震 土砂被害の建物 少なくとも34か所 8割超は警戒区域内 専門家調査,2024/01/22.

牛山素行,静岡新聞朝刊 6面,『時評』 能登半島地震 多様な現象が全て発生,2024/01/24.

牛山素行,テレビ朝日 news,混乱のなか「安否不明者」をどう確認? 専門家は県の対応を評価,2024/01/30.

牛山素行,新聞協會報,災害犠牲者の氏名公表 能登半島地震で石川県,2024/01/30.

牛山素行,毎日新聞,追跡: 能登半島地震 安否不明者、増減なぜ 住基台帳と照合、手が回らず,2024/02/03.

牛山素行,中日新聞,巨大地震 津波災害警戒区域 掛川市、指定に同意 県連絡会,2024/02/15.

牛山素行,NHK ラジオ,なぜ命を守れなかったのか?～能登半島地震から2か月～,2024/03/01.

牛山素行,日本経済新聞,豪雨危険地域に8割集中、能登地震で発生 of 土砂災害、専門家調査「揺れで崩落備えを」,2024/03/02.

牛山素行,SBS ラジオ「IPPO」,津波防災とハザードマップについて,2024/03/07.

牛山素行,岩手日報,★東日本大震災13年★ 「すぐ避難」増 46.9% 浸水域内での震度5強地震時 遺族・不明者家族本紙アンケート 近年低下傾向 一転8.6ポイント上昇(前年度比) 能登地震で意識変化か,2024/03/10.

牛山素行,毎日新聞,人生100年クラブ: 公助補完に「避難保険」 災害発生! 高齢者宅にタクシー差し向け,2024/03/11.

牛山素行,読売新聞,最大級の津波 想定実験へ 陸前高田市 新避難計画策定へ方針=岩手,2024/03/29.

牛山素行,岩手日報,陸前高田 津波避難シミュレーションへ 市有識者会議 県の最大浸水想定で 25年計画策定目指す,2024/03/31.

牛山素行,静岡新聞朝刊 6面,『時評』 防災の数値情報の捉え方 細かく読まず大まかに,2024/04/18.

牛山素行,日経新聞朝刊 34面,迅速避難へ周知課題,2024/06/19.

渡辺俊樹, まるごと大図解”地球のお医者さん”のすごワザ「物理探査」, 中日新聞社中日こども WEEKLY, 2022.12

吉田明夫,静岡新聞,提言減災:”想定外“が被害大きく(2022年5月8日)

吉田明夫,静岡新聞,「予知」困難な理由は(2022年10月9日)

吉田明夫,静岡新聞,大災害の風土 自覚して(2023年3月12日)

吉田明夫,静岡新聞,自然壊し大災害「人災」(2023年10月8日)

5.3 公的な委員会等

秋元菜摘,土木情報学研究所,静岡県議員建設委員会による視察への対応,2022/07.

藤井基貴、フェロー(2024年4月～)[団体名]サントリーグループ「次世代エンパワメント活動」

藤井基貴、客員研究員(2024年4月～)[団体名]広島大学高等教育研究開発センター

藤井基貴、強化委員(医・科学スタッフ)(2023年4月～)[団体名]日本オリンピック協会

藤井基貴、公益財団法人日本卓球協会スポーツ医・科学委員会・委員(2022年4月～)

藤岡換太郎,海洋情報部海底地形名委員会委員,2022-2022.

藤岡換太郎,海洋情報部海底地形名委員会委員,2023-2023.

二川雅登,電気学会 第39回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会(ケミカルセンサ部門)委員(2022年1月19日～2022年12月31日)

二川雅登,電気学会 第40回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会(ケミカルセンサ部門)委員(2023年1月1日～2023年12月31日)

二川雅登,電気学会 ケミカルセンサ(CHS)技術委員会 幹事(2021年4月～2024年3月)

二川雅登,電気学会 令和6年度E部門総合研究会実行委員会 副委員長(2024年1月18日～2024年9月30日)

原田賢治,静岡県交通基盤部,津波防災地域づくり推進連絡会,アドバイザー,2024年1月-2025年3月.

原田賢治,静岡県交通基盤部,社会資本総合整備計画等評価アドバイザー,2023年11月-2025年5月.

原田賢治,環境省,令和5年度災害廃棄物対策推進検討会・地域間協調ワーキンググループ,委員,2023年11月-2024年3月.

原田賢治,松崎町,津波防災地域づくり推進協議会,会長,2023年10月-2025年11月.

原田賢治,静岡県交通基盤部,美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議,委員,2023年6月-2025年5月.

原田賢治,湖西市,湖西市津波防災地域づくり推進協議会,副会長,2022年9月-2024年3月.

原田賢治,環境省,令和4年度災害廃棄物対策推進検討会・地域間協調ワーキンググループ,委員,2022年9月-2023年3月.

原田賢治,国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所,駿河海岸保全検討委員会,委員,2022年4月-2024年3月.

原田賢治, 静岡県, 静岡県防災・原子力学術会議・津波対策分科会, 委員, 2022 年 4 月-2024 年 3 月.

原田賢治, 静岡市, 静岡市水防協議会, 委員, 2022 年 4 月-2024 年 3 月.

原田賢治, 静岡県交通基盤部, 社会資本総合整備計画等評価アドバイザー, 2022 年 1 月-2023 年 5 月.

原田賢治, 静岡県交通基盤部, 津波防災地域づくり推進連絡会、アドバイザー, 2021 年 12 月-2023 年 3 月.

原田賢治, 静岡県交通基盤部, 美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議, 委員, 2021 年 6 月-2023 年 5 月.

本間基寛, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 調査研究委員会委員, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.

本間基寛, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス分野における SDGs 推進検討WG 委員, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.

池田恵子, 滋賀県防災会議委員 (2023 年 10 月 - 2025 年 10 月) .

池田恵子, 滋賀県国民保護協議会委員 (2023 年 10 月 - 2025 年 10 月) .

池田恵子, 日本学術会議 第 26 期連携会員 (2023 年 10 月-2026 年 9 月) .

池田恵子, 静岡市社会の大きな力と知を活かした根拠と共感に基づく市政変革研究会委員 (2023 年 7 月 - 2025 年 3 月) .

池田恵子, 富山県国民保護協議会委員 (2023 年 6 月 - 2025 年 5 月) .

池田恵子, 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム事業審査分科会委員 (2023 年 5 月 - 2025 年 3 月) .

池田恵子, 富山県防災会議委員 (2023 年 3 月 - 2025 年 2 月) .

池田恵子, 国立女性教育会館「男女共同参画の視点による災害対応研修」企画委員 (2022 年 6 月 - 2023 年 12 月) .

池田恵子, 静岡県コミュニティづくり推進協議会 推進委員 (2022 年 4 月-2023 年 3 月) .

池田恵子, 日本学術会議 第 25 期連携会員 (2020 年 10 月-2023 年 9 月) .

池田恵子, 静岡県社会福祉協議会地域づくり推進委員会 委員長(2022 年 6 月-2024 年 3 月) .

池田恵子, 女性・平和・安全保障に関する行動計画 評価委員 (2022 年 5 月-2024 年 3 月)

池田恵子, 静岡県掛川市防災会議 委員 (2013 年 2 月 - 2025 年 3 月) .

井ノ口宗成, にいがた GIS 協議会 アドバイザー, 2015.12～現在.

井ノ口宗成, 内閣府 (防災担当)「防災スペシャリスト養成企画検討会」委員, 2016.8～現在.

井ノ口宗成, 内閣府 (防災担当) 防災研修 コーディネーター, 2016.8～現在.

井ノ口宗成, 静岡県 静岡県国民保護協議会」 委員, 2017.4～現在.

井ノ口宗成, 一般財団法人 日本規格協会, ISO/TC292/SG2 国内委員会委員, 2020.12～現在.

井ノ口宗成, 北陸地方整備局 富山河川国道事務所 「庄川水系流域委員会」 委員, 2022.4～2024.3.

井ノ口宗成, 北陸地方整備局 富山河川国道事務所 「神通川水系流域委員会」 委員, 2022.4～2024.3.

井ノ口宗成, 日本技術士会 北陸本部 防災委員会 顧問, 2022.8～現在.

井ノ口宗成, 北陸地方整備局 富山河川国道事務所 「常願寺川水系流域委員会」 委員, 2023.6～現在.

井ノ口宗成, 国土技術政策総合研究所 国土技術政策総合研究所 「委託研究アドバイザー会議」 委員, 2023.10～現在.

井ノ口宗成, 氷見市 「氷見市立地適正化計画改定検討委員会」 委員, 2023.11～現在.

井ノ口宗成, 岩手県 巨大地震・津波対策連絡会議 アドバイザー, 2024.1～現在.

井ノ口宗成, 国土技術政策総合研究所 「流域デジタルツインにおけるデータ連携技術に関する研究開発に関するアドバイザー会議」 委員, 2024.3～現在.

井ノ口宗成, 富山市 「避難所配置運営検討会」 委員, 2023.5～2024.3.

井ノ口宗成, 小千谷市防災センター設計競技審査委員会 委員, 2023.6～2024.3.

石川宏之, 静岡市都市再生整備計画事業評価委員, 2021 年 10 月～2024 年 3 月

石川宏之, 静岡市環境影響評価審査会委員, 2017 年 8 月～2025 年 8 月

石川宏之, 富士市建築審査会委員, 2020 年 4 月～2024 年 3 月

石川宏之, 八戸市埋蔵文化センター是川縄文館運営協議会委員, 2013 年 2 月～2024 年 3 月

伊藤谷生, 文部科学省地震調査員会長期評価部会活断層分科会委員.

岩田孝仁, 内閣府 火山防災エキスパート, 2009～

岩田孝仁, 内閣府 防災スペシャリスト企画検討会委員 2013～2023.03

岩田孝仁, 内閣府 防災スペシャリスト研修コーディネーター 2016～

岩田孝仁, 静岡県災害ボランティア活動ファンド運営委員会 委員長 2015.06～

岩田孝仁, 静岡県ボランティア協会 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会 委員長 2015.06～

岩田孝仁, 内閣府 政府業務継続に関する評価等有識者会議委員 2016.07～

岩田孝仁, 文部科学省 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト総合協議会委員 2016.09～

岩田孝仁, 静岡県 静岡県防災会議 専門委員 2018.03～

岩田孝仁, 静岡県 静岡県防災会議専門部会 部会長 2018.03～

岩田孝仁, 島田市 都市計画マスタープラン等アドバイザー会議 委員 2018.07～2022.3

岩田孝仁, 科学技術振興機構 SDGs の達成に向けた協創的研究開発プログラム プログラムアドバイザー 2019.07～

岩田孝仁, 国土交通省中部地方整備局 天竜川水系流域委員会 委員 2020.03～

岩田孝仁, 文部科学省 「防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」に関する公募選定に係る審査 委員 2020.04

岩田孝仁, 名古屋大学 「屏風山・恵那山断層帯における重点的な調査観測」 外部評価委

員会 委員 2020.09～2023.03.

岩田孝仁, 国土交通省 静岡県災害時交通マネジメント検討会 会長 2020.09～

岩田孝仁, 静岡県・神奈川県 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）に関する委員会 委員 2020.12～

岩田孝仁, 公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター 上級研究員 2021.04～2024.03.

岩田孝仁, 静岡市 静岡市アリーナ誘致検討委員会 委員 2022.11～2023.03

岩田孝仁, 環境省.令和 5 年度熱中症新制度の施行のための調査検討 指定暑熱避難施設に関する WG 委員（座長）.2023.06～2024.03.

岩田孝仁, 東京都 東京都防災情報システム将来構想に係る検討会 委員.2023.06～10.

川瀬憲子, 静岡市学校給食会給食費検討委員会委員長（2023 年）

川瀬憲子, 静岡県史編さん委員(継続中)

風間 聡, 仙台市環境審議会会長

風間 聡, 最上川水系流域委員会委員長

風間 聡, 東北地方整備局総合評価委員会河川部会長

風間 聡, 内閣官房水循環政策本部水循環アドバイザー

風間 聡, 気候変動適応東北広域協議会座長

風間 聡, 日本ユネスコ国内委員会科学小委員会調査委員

木村浩之, 静岡県環境審議会委員, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 静岡県環境審議会温泉部会副部会長, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 静岡県環境審議会自然公園部会部会長, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 静岡市環境審議会委員, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 静岡市水素エネルギー利活用促進協議会委員, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 島田市環境審議会副会長, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 牧之原市環境審議会委員, 2022 年 4 月～2024 年 3 月.

木村浩之, 西伊豆町再エネ導入戦略策定委員会委員, 2023 年 9 月～2024 年 1 月.

木村浩之, 掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会委員, 2022 年 3 月～2022 年 6 月.

北村晃寿, ふじのくに環境史ミュージアム整備アドバイザー（2015 年 8 月～）

小林 淳, 次世代火山研究 PJ データ利活用推進タスクフォース：降灰チーム委員

小林 淳, 山梨県・静岡県・神奈川県：富士山火山防災対策協議会 火山専門家, 2023 年度

小林 淳, 富士宮市：特別天然記念物「湧玉池」調査検討のための会議 委員

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問, 2011 年 4 月～2022 年 3 月.

小山真人, 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会委員, 2018 年 1 月～2022 年 3 月.

小山真人, 史跡蜷塚遺跡保存活用計画検討会委員, 2021 年 3 月～2022 年 3 月.

小山真人, 名勝伊豆西南海岸保存活用計画策定委員会委員（副委員長）, 2021 年 5 月～2022 年 3 月.

小山真人, 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)に関する外部評価委員会委員, 2022年1月～9月.

小山真人, 富士山火山広域避難計画検討委員会委員(副委員長), 2021年9月～2023年3月.

小山真人, 富士山火山砂防計画検討委員会委員, 2005年3月～.

小山真人, 中部圏開発整備地方協議会委員, 2009年10月～.

小山真人, 伊豆東部火山群防災協議会委員, 2012年3月～.

小山真人, 静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会委員, 2012年5月～.

小山真人, 富士山火山防災対策協議会委員, 2012年6月～.

小山真人, 静岡県史編さん特別調査委員, 2014年2月～.

小山真人, 富士山火山防災対策協議会作業部会委員, 2018年7月～.

小山真人, 富士宮市史編さん委員会委員, 2020年2月～.

小山真人, 日本火山学会大会委員(2022年秋季大会実行委員長), 2021年7月～.

小山真人, 一般社団法人美しい伊豆創造センター理事, ジオパーク委員会顧問, 2022年4月～.

小山真人, 史跡蜷塚遺跡整備検討会委員, 2022年10月～.

小山真人, 火山噴火予知連絡会委員(専門委員:東京地区), 2023年4月～.

小山真人, 箱根山ハザードマップ検討部会委員, 2023年4月～.

前田恭伸: 静岡市社会福祉協議会 苦情解決委員会委員, 2018年10月～現在

前田恭伸: 静岡市社会福祉協議会 リスクマネジメント委員会委員, 2019年4月～現在

前田恭伸: 静岡市社会福祉協議会 虐待防止委員会委員, 2024年1月～現在

前田恭伸: 静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会委員, 2019年4月～現在

増田俊明, 静岡県総合計画審議会委員, 2022～2023

望月美希、浜松防潮堤みらい懇話会委員(2024年1月～現在)(静岡県)

森下祐一, 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 地質構造・水資源部会専門部会長, 2018年～継続中

森下祐一, 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 生物多様性部会専門部会委員, 2021年～継続中

森下祐一, 静岡県環境影響評価審査会 委員, 2017年～継続中

森下祐一, 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 湿式製錬技術開発委員会委員 2011～2023年

森下祐一, 日本学術振興会 R026 先端計測技術の将来設計委員会委員 2020年～継続中

村越 真、国立登山研修所専門調査委員、2006年度～現在

村越 真、(公社)日本オリエンテーリング協会副会長、2023年度～現在

中川和之、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構研究セグメントⅣ検討会 外部ピアレビューア, 2021～継続中

中川和之、幸田町安全テラスセンターアドバイザー, 2021～継続中

中川和之、地震調査研究推進本部政策委員会広報検討部会委員, 2020～継続中

中川和之,内閣府 TEAM 防災ジャパン アドバイザー,2018～継続中

中川和之,南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会委員, 2017～継続中

中川和之,文部科学省「国立研究開発法人審議会」 委員・会長代理、防災科学技術研究所部会部会長,2015～継続中

中川和之,宮城県「みやぎ景観アドバイザー」,2013～継続中

中川和之,京都府「危機管理アドバイザー」,2009～継続中

中川和之,気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」 委員,2007～継続中

中川和之,国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター「国際地震工学研修・普及会議」 委員,2007～継続中

中川和之,内閣府「防災教育チャレンジプラン」 実行委員会委員,2007～継続中

中西利典, 文部科学省「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」に協力, 活断層の活動区間等に関する調査を分担 (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

中西利典, 文部科学省「森本・富樫断層帯における重点的な調査観測」に協力, 活断層の活動区間等に関する調査を分担 (2022 年 4 月～2025 年 3 月)

楠城一嘉, 科学技術予測センター専門調査員, 2018-2024 年

楠城一嘉, 北上しらゆり大使, 2020 年-現在

楠城一嘉, 認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会理事, 2021 年-現在

楠城一嘉, 静岡県立青少年教育施設指定管理者外部評価委員会委員, 2023 年-現在

大谷栄治, JAXA キュレーション専門委員会, サンプルリターン試料のキュレーションの運営及びキュレーションに関する研究計画の立案, その他専門的事項の審議を行う,2022-2025

大谷栄治: 日本学術会議連携会員(25 期, 26 期) 2008-現在

大谷栄治: 日本学術会議 25, 26 期地球惑星科学委員会地球惑星圏分科会委員

大谷栄治: 同分科会, 学術データ共有小委員会委員, 2020.10~2025.9

大谷栄治: 日本学術会議「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議委員, 2021. 11. 22~ 2023.12.31

大谷栄治: 日本学術会議 25,26 期地球惑星科学委員会国際連携分科会 IMA 小委員会委員,2020-現在

大谷栄治: 日本学術会議 25 期地球惑星科学委員会人材育成分科会委員,2020.10~2025.9.

大谷栄治, 仙台天文台ブレインサポーター (アドバイザー) ,2018.4~2025.3

大谷栄治, 宇宙科学研究所はやぶさ II キュレーション専門委員会委員,2018.4~2022.3.

大谷栄治, 宇宙科学研究所はやぶさ II 定常運用終了審査会委員,2022.2.22.

大谷栄治, 台湾中央研究特別院客座教授,2018.3.1- 2020. 2.29, 2020.2.30-2022.2.28

佐藤比呂志, 地震調査研究推進本部地震調査委員会 長期評価部会 活断層分科会 委員, 2010 年～

佐藤 健, 防災教育チャレンジプラン実行委員会, 委員, 2015.6～継続中

佐藤 健, 石巻市学校防災推進会議, 委員長, 2013.5～継続中

佐藤 健, NPO 法人防災白熱アカデミィ, 理事, 2012.9～継続中

佐藤 健, 宮城県行政評価委員会, 委員, 2017.4～継続中

佐藤 健, 宮城県行政評価委員会政策評価部会, 部会長, 2018.4～継続中

佐藤 健, 宮城県地域連携型学校防災体制等構築推進事業, 学校防災アドバイザー, 2021.4～継続中

佐藤 健, 宮城県多賀城高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会, 委員長, 2018～継続中

佐藤 健, 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター, 共同研究員, 2012～継続中

佐藤 健, 宮城県学校安全フォーラム実行委員会, 委員, 2021.6～継続中

佐藤 健, 宮城県「学校安全総合支援事業」推進委員会, 委員, 2021.7～継続中

佐藤 健, 宮城県みやぎ安全教育総合推進ネットワーク会議幹事会, 委員, 2022.1～継続中

佐藤 健, 仙台市福祉整備審議会, 委員, 2020.9～継続中

佐藤 健, 宮城県教育振興審議会, 委員, 2023.1～2024.3

佐藤 健, 文部科学省学校施設等の防災・減災対策の推進に関する調査研究協力者会議, 委員, 2021.12～2024.3

佐藤 健, 文部科学省学校安全総合支援事業（学校安全に係る専門性向上支援事業）有識者会議, 委員, 2023.5～継続中

佐藤 健, 第 17 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会, 委員, 2022.9～2023.3

佐藤 健, 第 18 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会, 委員, 2023.10～2024.3

土屋 智, 大井川流域委員会（中部地方整備局静岡河川事務所）, 委員長、令和 4・5 年

土屋 智, 箱根山火山防災協議会（神奈川県）, 委員、令和 4・5 年

牛山素行, 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議 委員; 2011/10～.

牛山素行, 岩手河川国道事務所 災害情報協議会 委員(アドバイザー); 2005/07～.

牛山素行, 防災会議委員; 陸前高田市, 2018/04～.

牛山素行, 防災研修コーディネーター; 内閣府, 2019/05～.

牛山素行, 津波防災地域づくり推進アドバイザー; 静岡県, 2022/01～.

牛山素行, 「防災気象情報に関する検討会」委員; 気象庁大気海洋部気象リスク対策課, 2022/06～2023/03.

牛山素行, 「防災気象情報に関する検討会」サブワーキンググループ委員; 気象庁, 2022/11～

牛山素行, 「防災気象情報に関する検討会」サブワーキンググループ委員; 気象庁, 2023/05～2023/06.

牛山素行, 津波避難計画策定アドバイザー会議委員長; 陸前高田市, 2023/07～2025/07.

牛山素行,「気象防災アドバイザー育成研修」研修コーディネーター;気象庁,2023/08～2024/03.

牛山素行,「防災気象情報に関する検討会」委員・副座長;気象庁,2023/11～2024/03.

牛山素行,「二級河川巴川流域水位・氾濫域予測システム構築検討業務」の研究会委員;静岡市,2023/11～.

渡辺俊樹, 科学技術・学術審議会学術分科会, 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会専門委員会, 専門委員, 2021 年 5 月～2023 年 3 月.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所, 地震・火山噴火予知研究協議会, 一号委員, 2017 年 4 月～現在.

渡辺俊樹, 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (エネルギー・金属鉱物資源機構, 2022.11～), 石油天然ガス技術評価部会, 委員, 2018 年 4 月～現在.

渡辺俊樹, 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構, 宇宙探査イノベーションハブアドバイザーボード専門委員, 2022 年 11 月～2023 年 3 月.

渡辺俊樹, (一財)地球システム総合研究所, 評議員, 2017 年 4 月～現在.

山崎 登,研究外部評価委員 (国立 防災科学技術研究所), 2016 年 4 月～2023 年 3 月.

山崎 登,東京都「耐震化推進委員会」委員,2016 年 8 月～現在.

山崎 登,復興庁「東日本大震災 復興推進委員会」委員,2020 年 3 月～現在.

吉田明夫,東京地学協会, 研究及び国際研究集会助成対象者選考委員会委員, 2017 年～2023 年.

5.4 学会活動

Akimoto Natsumi, Urban Geography Commission (International Geographical Union), Committee for early career scholars, 2019.08-(continued)

秋元菜摘, 土木情報学研究所, 土木情報学研究所拠点の修繕・整備・管理, 2022/07-2024/03.

藤井基貴、中部教育学会 理事

二川雅登,電気学会 バイオ・マイクロシステム (BMS) 技術委員会 1 号委員 (2015 年 9 月～2022 年 3 月)

二川雅登,電気学会 論文委員 (2012 年 4 月～現在)

二川雅登,電気学会 E 部門誌編集委員会 (2019 年 10 月～現在)

二川雅登,電気学会 ケミカルセンサ技術委員会 幹事 (2021 年 04 月 01 日～2024 年 03 月 01 日)

二川雅登,日本鉄鋼協会 高温プロセス部会／計測・制御・システム工学部会, 委員 (2022 年 1 月～現在)

二川雅登,一般財団法人 総合研究奨励会, 未来のくらしと水の科学研究会, 運営委員 (2021 年 9 月～現在)

二川雅登,日本鉄鋼協会 高温プロセス部会／計測・制御・システム工学部会 委員 (2022 年 1 月～現在)

二川雅登,電子情報通信学会 集積回路研究専門委員会(ICD) 専門委員 (2023 年 4 月～現在)

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 地震工学論文編集小委員会, 委員, 2023 年 7 月-2025 年 3 月.

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 委員兼幹事, 2023 年 4 月-2025 年 3 月.

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 地震工学論文編集小委員会, 幹事長, 2021 年 4 月-2023 年 3 月.

原田賢治, 土木学会地震工学委員会, 委員兼幹事, 2021 年 4 月-2023 年 3 月.

林 能成,公益社団法人日本地震学会, 代議員(2006-)

本間基寛, 日本自然災害学会, 企画委員会委員, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.

本間基寛, 日本自然災害学会 学術講演会部会, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.

本間基寛, 日本災害情報学会 学会誌編集委員, 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.

生田領野, 日本地震学会広報委員, 2014 年 4 月～

今泉文寿,中部森林学会理事 (2023 年 4 月～)

今泉文寿,中部森林学会編集員 (2023 年 10 月～)

今泉文寿,砂防学会東海支部長 (2023 年 4 月～)

今泉文寿,砂防学会気候変動研究小委員会委員 (2022 年 3 月～)

今泉文寿,日本地形学連合 総務幹事 (2015 年 6 月～)

今泉文寿,日本地すべり学会監事 (2020 年 6 月～2024 年 6 月)

井ノ口宗成, 電子情報通信学会 安全・安心な社会と ICT 研究会 副委員長, 2020.6～現在.

石橋秀巳, 日本鉱物科学会 広報委員, 2022 年 9 月-2024 年 8 月

石橋秀巳, 日本火山学会 「火山」編集委員, 2022 年 7 月-2024 年 6 月

石川有三、日本情報地質学会、評議員、2022 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日

石川有三、公益社団法人日本地震学会、広報委員、2022 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日

岩田孝仁, 日本災害情報学会 理事・予算委員長(2015.10～2021.09)・副会長(2021.10～2023.10)・会長会長 (2023.11～).

岩田孝仁, 日本災害復興学会 理事, 2014.06～2023.01.

岩田孝仁, 地域安全学会 理事 (1996.06～2016.05), 参与 (2016.06～).

狩野謙一,公益社団法人 東京地学協会 総務委員 (2022～2023)

川瀬憲子、日本地方財政学会常任理事 (国際交流担当) 2023 年度～

川瀬憲子、日本地方自治学会理事

風間 聡, 土木学会地球環境委員会委員長

風間 聡, 土木学会水工学委員会水理・水文統計解析研究小委員会委員長

風間 聡, 土木学会東北支部商議員

風間 聡, 水文・水資源学会理事

吉川肇子, 日本シミュレーション&ゲーミング学会理事

吉川肇子, 日本シミュレーション&ゲーミング学会会長代行 (2023 年 5 月まで)

Kikkawa, T., *International Journal of Simulation & Gaming*, Co-Editor-in-Chief

木村浩之, 日本微生物生態学会第 36 回浜松大会実行委員会委員, 2023 年 11 月.

木村浩之, 日本微生物生態学会第 20 期評議員, 2023 年 1 月～2023 年 11 月.

木村浩之, 日本微生物生態学会第 19 期評議員, 2022 年 4 月～2022 年 12 月.

北村晃寿, 日本古生物学会・会長 (2023 年 6 月～)

北村晃寿, 日本古生物学会・常務委員 (2011 年 7 月～2023 年 6 月)

北村晃寿, *Paleontological Research* Editor in Chief (2019 年～2023 年)

北村晃寿, 日本第四紀学会副会長(2021 年 8 月～)

北村晃寿, 日本第四紀学会静岡大会の開催・実行委員長, 静岡市地震防災センター, 2022 年 8 月 26 日～29 日

小林 淳, 日本火山学会:2022 年度秋季大会 (三島) 実行委員会・公開講座実行委員会:委員

小林 淳, 日本火山学会:2022 年度秋季大会 (三島) 現地討論会「富士山」:案内者 (分担)

小林朋子 日本カウンセリング学会 1999 年 4 月～ (編集委員:2009 年 6 月～ カウンセリング研究常任編集委員:2022 年～)

小林朋子 日本教育心理学会 2000 年 1 月～ (総会企画委員会委員:2019 年 7 月～ 教育心理学研究編集委員:2022 年 1 月～)

小林朋子 日本心理臨床学会 2000 年 10 月～

小林朋子 日本学校心理学会 2001 年 4 月～ (編集協力者:2007 年 5 月～)

小林朋子 アジア障害社会学会 2002 年 2 月～ (編集委員:2002 年 2 月～)

小林朋子 日本トラウマティックストレス学会 2009 年 6 月～

小林朋子 日本 EMDR 学会 2008 年～

小林朋子 日本発達心理学会 2014 年 5 月～

小林朋子 日本学校保健学会 2014 年 5 月～

小林朋子 日本心理学会 2015 年 4 月～

小林朋子 日本教育工学会 2022 年 11 月～

小杉素子, 日本リスク学会誌 編集委員, 2014 年～

小山真人, 維持会員:日本火山学会

小山真人, 一般会員:日本地震学会, 日本災害情報学会, 日本地球惑星科学連合, 東京地学協会, *International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior* (国際火山学・地球内部化学会), *American Geophysical Union* (アメリカ地球物理学連合), 歴史地震研究会

前田恭伸, 環境情報科学センター審議員, 2017 年 6 月～現在

前田恭伸, 環境情報科学センター企画委員会, 2023 年 7 月～現在

前田恭伸, 環境情報科学センター特別委員会, 2022 年 4 月～2023 年 3 月

前田恭伸, 環境情報科学センター賞選考委員会, 2021 年 7 月～現在

前田恭伸, 日本リスク学会国際委員会, 2020 年 6 月～現在

前田恭伸, 日本リスク学会選挙管理委員会委員長, 2022 年 2 月～2022 年 6 月

Maeda, Y., Executive Committee, Society for Risk Analysis, Asia, 2020 年 3 月～現在

Maeda, Y., President-elect, Society for Risk Analysis, Asia, 2022 年 11 月～現在

Maeda, Y., International Committee, SRA Asia 2022 conference, 2021 年 11 月～2022 年 11 月

Maeda, Y., Symposium: Climate Change Countermeasures and Risk, in Society for Risk Analysis 2023 Annual Meeting, 2023 年 12 月.

増田俊明, 静岡県地学会会長, 2023～

Mikada, H., The Society of Exploration Geophysicists (米国物理探査学会) Program Committee member: Seventh International Conference on Engineering Geophysics, Al Ain, UAE, 16-19 October 2023.

Mikada, H., The Society of Exploration Geophysicists (米国物理探査学会) Program Committee member: Eighth International Conference on Engineering Geophysics, Al Ain, UAE, 2025.

Mikada, H., The Society of Exploration Geophysicists (米国物理探査学会) Program Committee member: SPE Symposium and Exhibition: Production Enhancement and Cost Optimisation, 3-4 September 2024 | Kuala Lumpur, Malaysia. (委員会結成は 2023 年)

Mikada, H., European Association of Geoscientists and Engineers (欧州物理探査学会) Member of Publication Committee for Books.

Mikada, H., European Association of Geoscientists and Engineers (欧州物理探査学会) Member of Committee on Membership and Cooperation.

三井雄太, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会・2023 年大会プログラム委員, 2021/9～2023/5.

三井雄太, 日本測地学会 測地学会誌編集委員, 2021/6～2024/5.

三井雄太, 日本測地学会 EPS 運営委員, 2021/4～2023/3.

三井雄太, 日本測地学会 評議員, 2023/6～2025/5.

三井雄太, 日本地震学会 役員代議員(理事), 2022/4～2024/3.

三井雄太, 日本地震学会 「地震」編集委員長, 2022/4～2024/3.

望月美希、地域社会学会、理事、(2022 年 5 月～現在)

望月美希、地域社会学会、編集委員会、(2022 年 5 月～現在)

望月美希、日本村落研究学会、理事 (2021 年 11 月～2023 年 11 月)

望月美希、日本村落研究学会、ジャーナル編集委員会委員 (2023 年 12 月～現在)

森下祐一, 資源地質学会 監事, 2020 年～2022 年

森下祐一, Resource Geology 編集委員, 1994 年～継続中

村越 真, 日本認知科学会 (1989 年度～現在)

村越 真,日本地図学会 (2005— 評議員)
 村越 真,日本安全教育学会 (2013 年～現在)
 村越 真,日本野外教育学会 (2014～2024)
 村越 真,登山医学会 (2017～評議員)
 中川和之,日本ジオパーク学術支援連合委員,2021～継続中
 中川和之, 日本地球惑星科学連合代議員,2018～2023
 中川和之,日本地震学会ジオパーク支援委員会委員,2017～継続中
 中川和之,日本地震学会理事,2014～継続中
 中川和之,日本地震学会地震学を社会に伝える連絡会議委員,2014～継続中
 中川和之,日本地震学会普及行事委員会委員,2003～継続中
 中川和之,日本地震学会広報委員会「ないふるメーリングリスト」世話人,1999～継続中
 中川和之,日本災害情報学会広報委員会副委員長,2013～継続中
 中西利典, 日本第四紀学会 2022 年大会実行委員 (2022 年 8 月 26 日～29 日: 令和 4 年 8 月 26 日～29 日)
 楠城一嘉, 日本地震学会・企画委員会委員, 2021 年 4 月-2023 年 3 月
 大谷栄治: 日本地球惑星科学連合, 評議員, 2022-2024, 2024-2026
 大谷栄治: 日本地球惑星科学連合, 固体地球科学セクション, セクションボード委員,2020-現在
 大谷栄治: 日本地球惑星科学連合雑誌 Progress in Earth and Planetary Science, 総編集長, 2022 年, セクション (固体地球科学分野) 編集長, 2023 年
 大谷栄治: 日本鉱物科学会雑誌 Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 編集委員, 2008-現在
 大谷栄治: 国際鉱物学連合(IMA)・鉱物の物理学コミッション委員,2012-現在
 大谷栄治: 国際鉱物学連合(IMA)・第一副会長, 2022.8-2024.8
 大谷栄治, SFMC (フランス鉱物結晶学会) 優秀賞選考委員会委員, 2021.4～2023.3
 Sato, H.:International Lithosphere Program,Member of advisory committee,2019.1-現在
 佐藤比呂志: 東京地学協会, アドバイザー, 2019.10-現在
 佐藤 健, 日本安全教育学会・常任理事, 2017～継続中
 佐藤 健, 日本建築学会東北支部災害調査連絡会・委員長, 2017～継続中
 佐藤 健, 日本建築学会東北支部第 43 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2022
 佐藤 健, 日本建築学会東北支部第 44 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2023
 佐藤 健, 日本自然災害学会・評議員, 2020.4～2023.3
 佐藤 健, 日本安全教育学会第 23 回宮城大会実行委員会 委員, 2022.4～2023.3
 佐藤 健, 日本自然災害学会 「ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ」企画担当, 2023.4～継続中
 田阪美樹,日本鉱物科学会賞選考委員会委員 (2023 年 12 月 - 2024 年 9 月) [団体名] 日本鉱物科学会

田阪美樹,学術戦略 WG (2023 年 1 月 ～) [団体名] 日本地質学会

田阪美樹,地球惑星科学連合広報普及委員会(2022 年 12 月～) [団体名] 地球惑星科学連合

田阪美樹,固体地球科学セクションボードメンバー(2022 年 5 月～) [団体名] 地球惑星科学
連合大会

田阪美樹,地球惑星科学連合大会代議員 (固体地球科学) (2022 年 5 月～) [団体名] 地球惑星
科学連合

牛山素行,日本自然災害学会,理事;,2014/04～.

牛山素行,副会長;日本自然災害学会,2023/04～2026/03.

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 理事, 2012 年 6 月～現在.

渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 会長, 2020 年 6 月～2022 年 5 月.

渡辺俊樹, (公社) 日本地震学会, 代議員, 2018 年 5 月～2022 年 5 月.

静岡大学防災総合センター年報 第 8 号 2022.4-2024.3

2024 年 9 月発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

URL：<https://www.cnh.shizuoka.ac.jp/>

